

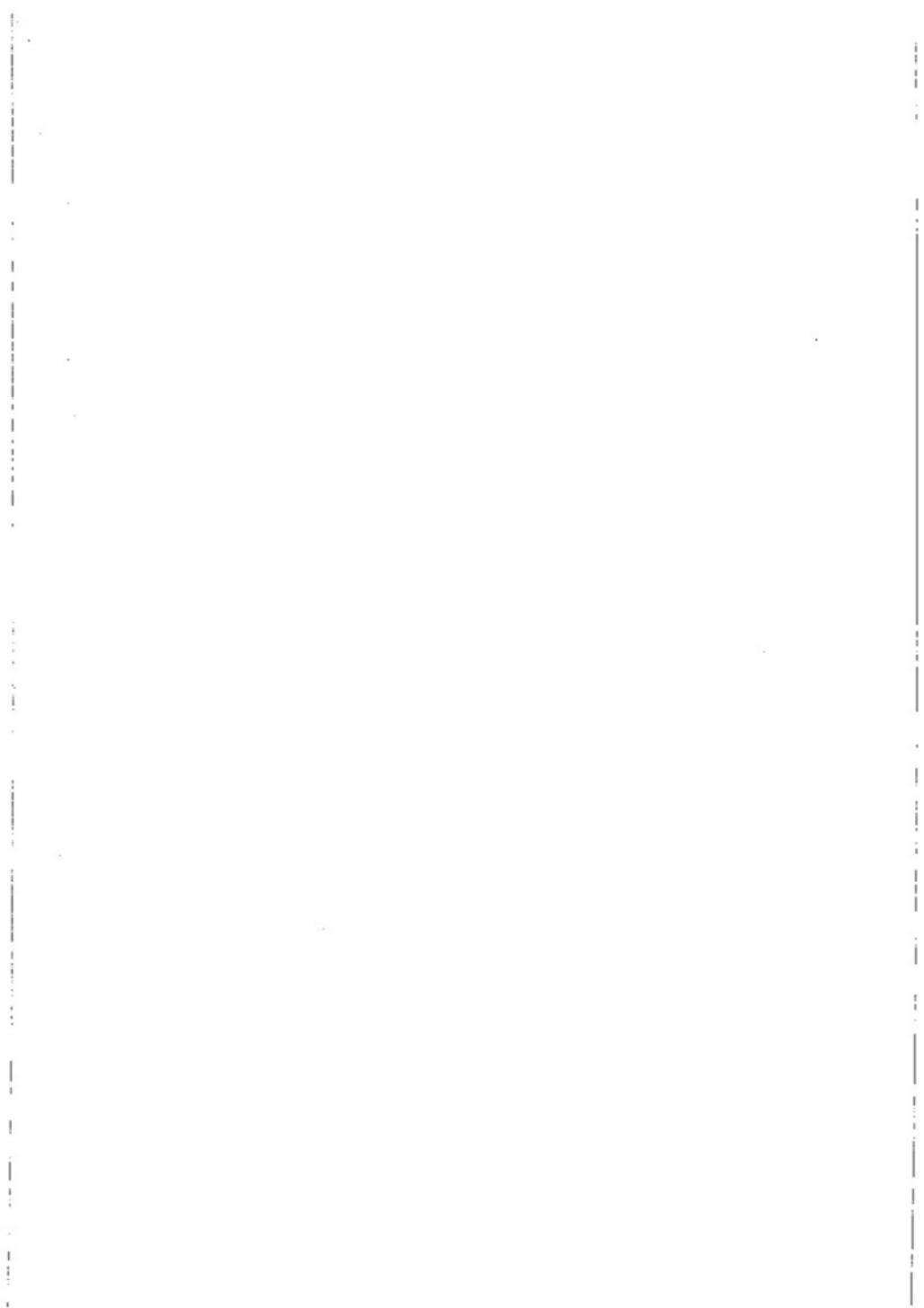
ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ

—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

美 沢 15 遺 跡

平成6年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



ベンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ（北垣調報95）

正誤表

例言・目次1

頁	行	誤	正
例 言	3	(調査第3課)	(調査第1課)
	11	指導を受けた。	指導のもとに岡本育子が同定した。
	16	豊田宏之	豊田宏良
	17	宮部泰夫	宮夫増夫
	21	D.グッドマン	石川県中島町 飛田耕児
目 次	13	Ⅲ 第Ⅰ黒色土層の調査	Ⅲ 第Ⅰ黒色土層の遺構と遺物
	19	4 まとめ	削 除
	20	Ⅳ 第Ⅱ黒色土層の調査	Ⅳ 第Ⅱ黒色土層の遺構と遺物
	26	(2) 石器……………	(2) 石器・石製品・土製品……………
	29	美沢15遺跡出土の動物遺存体	付篇1 美沢15遺跡出土の動物遺存体
	30	黒曜石の産地推定について	付篇2 美沢15遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地物分析
	31	樹種同定 平川 泰彦……………	樹種同定 (ⅡH-5)……………
挿図目次	1頁 10	……………18	……………17
	1頁 11	遺構位置図……………	遺構位置図(等高線はTa-d上面)…
	1頁 22	図Ⅳ-12 ⅡH-2 出土遺物……………	削 除
	1頁 29	図Ⅳ-19 ⅡH-3 ……………	図Ⅳ-19 ⅡH-3 出土遺物の位置…
	2頁 13	包含層の石器(13)……………	包含層の石器(13)・土製品・石製品
表 目 次	16	Ⅱ黒層掲載石器一覧……………	Ⅱ黒層掲載石器・土製品・石製品一覧…
	17	遺構別出土石器一覧(1)……………	遺構別出土石器・石製品一覧(1)
	18	遺構別出土石器一覧(2)……………	遺構別出土石器・石製品一覧(2)
	19	遺構別出土石器一覧(3)……………	遺構別出土石器・石製品一覧(3)
	20	遺構別出土石器一覧(4)……………	遺構別出土石器・石製品一覧(4)
写真図版目次		写真図版	写真図版目次
	1頁 5	(1: I P-1, 2: I P-2)	(1: I P-1, 2: I P-2)
	1頁 10	1 遺構調査状況 全景	1 晩期土城群
	1頁 11	2 土城群 全景	2 調査区南側全景
	1頁 15	2 ⅡH-1 HF ₁	2 ⅡH-1 HF ₂
	1頁 16	3 ⅡH-1 HF ₁ セクション	3 ⅡH-1 HF ₁ ・2セクション
	1頁 33	4 ⅡH-16	4 ⅡH-10
	1頁 34	5 ⅡH-20	5 ⅡH-16
	1頁 29	1 ⅡH-4 出土石器	1 ⅡH-4 出土石器
	2頁 8	2 ⅡH-11 出土石器	2 ⅡH-11 出土石器
	3頁 39	3 ⅡH-20 出土石器	3 ⅡH-21 出土石器
	3頁 40	4 ⅡH-20 出土石器	4 ⅡH-21 出土石器
	3頁 30	(Ⅲb-2)	(Ⅲb-2、A・B類)
	4頁 31	(Ⅲb-2)	(Ⅲb-2、B・C・D・E類)

例言・目次分2

頁	行	誤	正
4頁	32	(III b-3)	(III b-3, E類)
4頁	33	(III b-3)	(III b-3, E類)
4頁	37	(III b-3, F類)	(III b-3, F・G類)
4頁	38	図版IV-62 包含層出土の土器	左記に替え、以下を追記 図版IV-62-1、包含層出土の土器 (III b-3, H類) ……350 図版IV-62-2、包含層出土の土器 (III b-3, H類) ……350 図版IV-62-3、包含層出土の土器 (III b-3, H類) ……350 図版IV-62-4、包含層出土の土器 (IV c) ……350 図版IV-62-5、包含層出土の土器 (III b-3, F類) ……350
4頁	39	(III b-3)	(III b-3, H類)
4頁	40	(III b-3)	(III b-3, H類)
5頁	1	(III b-3)	(III b-3, H類)

本 文

頁	行	誤	正
10	5	Ta-c ₁ -d	Ta-c ₁ -d
13	観出	Ⅲ 第I黒色土層の遺構とその遺物	Ⅲ 第I黒色土層の遺構と遺物
35		図IV-11に19の小玉が欠落。	別紙にある19の図を貼り込み。
36	38	……つく。地文を施文後に……	……つく。地文は施文後に……
45	26	……認めれる。	……認められる。
	39	…… <u>接合する関係のある遺跡が</u> ……	…… <u>接合関係のある遺物が</u> ……
50	10	文章欠落	(佐藤)を挿入
57		図IV-25 II H-4 出土遺物	下段のキャプションを削除。
64	8	出入り口想定……	出入り口と想定……
74	8	掘り込み開始面	掘り込み面
77		図IV-38に7の垂飾が欠落。	別紙にある7の図を貼り込み。
79	11	文章欠落。	4は石鏃、5はスクレイパーの破片、6はポイントまたはナイフ、7は石斧の未製品である。
80	30	文章欠落。	21・22は泥岩製の石のみ、23は橄欖岩製の垂飾である。
83		図IV-43に23の垂飾が欠落。	別紙にある23の図を貼り込み。
91	25	文章欠落。	12は石鏃、13・14はスクレイパー、15はボ

91	25		イント片である。16は片岩製の石斧破片である。
92		<u>図IV-47 II H-12 出土遺物</u>	<u>図IV-47 II H-12</u>
101	12	<u>調査のけっか、南西側に……</u>	<u>調査の結果、南西側に……</u>
109		<u>図IV-59 II H-14 遺物分布</u>	<u>図IV-59 II H-14 出土遺物</u>
110		<u>図IV-60 II H-14 遺物分布</u>	<u>図IV-60 II H-14 出土遺物</u>
117	21	文章欠落。	8は有茎の石鏃である。9はポイントまたはナイフである。10は縦長剥片を素材としたナイフである。二次加工が両面に施されている。11は珪質頁岩製のスクレイパーである。横長剥片を素材としている。8~10の石材は黒曜石である。
121		図IV-69の遺物番号が欠落。	別紙図版2を参照。
126		<u>図IV-72 II H-17 出土遺物</u>	削 除
153		<u>図IV-91 II H-26</u>	<u>II H-26 出土遺物</u>
182	25	<u>下層II H-</u>	削 除
183		<u>図IV-113 II H-36と出土遺物</u>	<u>図IV-113 II H-36 出土遺物</u>
195	22	出土はしていない。	出土していない。
	29	出土はしていない。	出土していない。
197	7	出土はしていない。	出土していない。
199	7	<u>遺物の出土は見られなかった。</u>	出土していない。
200	1	<u>II P-1~II P-63までの土壌説明の文章全部</u>	<u>別紙<差し替え文章>と差し替え</u>
220			
205		図版中 <u>II P-22</u> <u>図IV-127 II P-20・22・23</u>	<u>II P-21・22</u> <u>図IV-127 II P-20・21・22・23</u>
221	2	TP-1 (図IV-140)	TP-1 (図IV-136)
	9	TP-2 (図IV-140)	TP-2 (図IV-136)
	16	TP-3 (図IV-141)	TP-3 (図IV-137)
224	2	II S-1 (図IV-142)	II S-1 (図IV-138)
	6	II F-1 (図IV-142)	II F-1 (図IV-138)
	9	II F-2 (図IV-142)	II F-2 (図IV-138)
	12	II F-3 (図IV-142)	II F-3 (図IV-138)
	15	II F-4 (図IV-142)	II F-4 (図IV-138)
	18	II F-5 (図IV-142)	II F-5 (図IV-138)
	21	II F-6 (図IV-142)	II F-6 (図IV-138)
225	1	II F-7 (図IV-143)	II F-7 (図IV-139)
	4	II F-8 (図IV-143)	II F-8 (図IV-139)
	7	II F-9 (図IV-143)	II F-9 (図IV-139)
	10	II F-10 (図IV-143)	II F-10 (図IV-139)

	13	II F-11(図IV-143)	II F-11(図IV-139)
2 2 5	16	II F-12(図IV-143)	II F-12(図IV-139)
	19	II F-13(図IV-143)	II F-13(図IV-139)
	22	II F-14(図IV-143)	II F-14(図IV-139)
2 2 6	1	II F-15(図IV-143)	II F-15(図IV-139)
	4	II F-16(図IV-143)	II F-16(図IV-139)
	7	II F-17(図IV-143)	II F-17(図IV-139)
2 2 9	1	土壌・Tピットの遺物	(図IV-140~143)
	29	遺物 31は……	遺物 22は……
2 3 0	11	遺物 7・8は……	遺物 37・38は……
	16	ある。65は石楯である。	ある。39・65は石楯である。
	30	S-1	II S-1
2 3 5	2	出土点数 点(図1-10・図版IV-57)	出土点数466点(1~10・図版IV-57-2)
	10	Ⅲ群 a-1類土器 出土点数 点(図IV-11)	Ⅲ群 a-1類土器 出土点数11点(11)
	12	出土点数 点(図IV-12~15・ 図版IV-58)	出土点数9点(12~15・図版IV-58-1)
	19	出土点数 点(図IV-16~44・ 図版IV-58・59)	出土点数212点(16~44・図版IV-58-1・図 版IV-59-2・3)
	22	A類(図IV-16~30・図版IV-58)	A類(16~30・図版IV-58-2)
	23	B類(図IV-31~34・図版IV-58・59)	B類(31~34・図版IV-58-2・59-1)
	24	C類(図IV-35~37・図版IV-59)	C類(35~37・図版IV-59-1)
	25	D類(図IV-38~40・図版IV-59)	D類(38~40・図版IV-59-1)
	27	E類(図IV-41~44・図版IV-59)	E類(41~44・図版IV-59-1)
	29	出土点数 点(図IV-45~75・ 図版IV-59~64)	出土点数16,402点(45~75・図版IV-59 -2~64-2)
	36	B類(図IV-47~48・図版IV-60)	B類(47~48・図版IV-60-1)
	37	C類(図IV-49~57・図版IV-60)	C類(49~57・図版IV-60-1)
	38	D類(図IV-58・59・図版IV-60)	D類(58・59・図版IV-60-1)
	39	E類(図IV-45・図版IV-59・61)	E類(45・46・図版IV-59-2・3・60-2・61 -1)
	40	F類(図IV-60~68・図版IV-61)	F類(60~68・図版IV-61-2)
2 4 0	1	H類(図IV-73~75・図版IV-62 ~64)	H類(73~75・図版IV-62~64)
	2	G類(図IV-69~72・図版IV-62)	G類(69~72・図版IV-62)
	3	出土点数 点(図IV-76~88・ 図版IV-65)	出土点数213点(76~88・図版IV-65)
2 4 0	9	出土点数 点(図IV-89・図版IV -62)	出土点数48点(89・図版IV-62-4)

241	1	(2) 石器 (図IV-148~160-1~169)	(2) 石器類 (図IV-148~160-1~167)
241	15	、118・121・26は……	、118・121・126は……
254		スケールの位置間違。 図IV-160に169の垂飾未製品欠落 図IV-160 包含層の石器(13)	159~167が1/3サイズ 別紙図版1に169の垂飾未製品を貼り込み。 図IV-160 包含層の石器(13)と土製品・石製品
259	表	表2段目 L41 II H-11 図IV-45-21 III b-3 覆土 表2段目 L55 II H-12 図IV-45-11 III b-3 覆土3	削除 図IV-49-11 III b-3 覆土3
260	表	表2段目 L13 II H-21 8 土製品 覆土	削除
261	表	表中の図版番号変更 II P-1~II P-31までの 図IV-136を変更 II P-33~II P-45までの 図IV-137を変更 II P-50~II P-51までの 図IV-138を変更 II P-58~TP-3までの 図IV-139を変更 S-1 図IV-142-1	図IV-140とする。 図IV-141とする。 図IV-142とする。 図IV-143とする。
262	表	S-1 図IV-142-1 IV-144-11 III a IV-146-49 III b3c IV-147-71~75 III B-3 IV-147-76 IV a 以降	II S-1 図IV-138-1 IV-144-11 II a IV-146-49 III b-3 C IV-146-71~75 III b-3 IV-147-76 IV a 以降
263	表	IV-89-1 II H-25 覆土……	削除
264	表	IV-136-7~IV-137-39までを IV-138-47~IV-138-61までを IV-139-65~IV-139-76までを 表IV-10 II 黒層掲載石器一覽	IV-140とする。 IV-142とする。 IV-143とする。 表IV-10 II 黒層掲載石器・土製品・石製品一覽
265	表	表IV-11 遺構別出土石器一覽(1)	表IV-11 遺構別出土石器・石製品一覽(1)
266	表	表IV-12 遺構別出土石器一覽(2)	表IV-12 遺構別出土石器・石製品一覽(2)
267	表	表IV-13 遺構別出土石器一覽(3)	表IV-13 遺構別出土石器・石製品一覽(3)
268	表	表IV-14 遺構別出土石器一覽(4)	表IV-13 遺構別出土石器・石製品一覽(4)
284	表	らせん肥厚上の針・広葉樹 凡例を追記	削除 環=環孔材、同=同性、広=広放射組織 単=単穿孔、数字=列数

284	写真	三段目	3 ニレ属
287	図版	(1: IP-1・2: IP-2)	(1: IP-1_2: IP-2)
288		3 包含層出土土器 (Vc)	3 包含層出土土器 (Vc)
289		1 遺構調査状況 全景	1 晩期土城群
		2 土城群 全景	2 調査区南側全景
291		2 IIH-1 HF1	2 IIH-1 HF2
		3 IIH-1 HF1セクション	3 IIH-11 HF1・2セクション
296		4 IIH-16	4 IIH-10
		5 IIH-20	5 IIH-16
308		1 IIH-3 出土土器	__ IIH-3 出土土器
312		1 IIH-6 出土土器	__ IIH-6 出土土器
317		1 IIH-11 出土土器	__ IIH-11 出土土器
330		3 IIH-20 出土土器	3 IIH-21 出土土器
		4 IIH-20 出土土器	4 IIH-21 出土土器
336		1 IIH-28 出土土器	__ IIH-28 出土土器
337		1 IIH-28・29・30・31 出土石器	__ IIH-28・29・30・31 出土石器
342		1 土城出土土器	__ 土城出土土器
344		1 土城出土の土器・土製品	__ 土城出土の土器・土製品
346		2 包含層出土の土器 (III b-2)	2 包含層出土の土器 (III b-2, A類, B類)
347		1 包含層出土の土器 (III b-2)	1 包含層出土の土器 (III b-2, B, C, D, E類)
		2 包含層出土の土器 (III b-3)	2 包含層出土の土器 (III b-3, E類)
		3 包含層出土の土器 (III b-3)	3 包含層出土の土器 (III b-3, E類)
349		2 包含層出土の土器 (III b-3, F類)	2 包含層出土の土器 (III b-3, F・G類)
350		1 III b-3	1 III b-3, H類
		2 III b-3	2 III b-3, H類
		3 III b-3	3 III b-3, H類
		4 IVc	4 IVc
		5 III b-3	5 III b-3, F類
351		1 包含層出土の土器 (III b-3)	1 包含層出土の土器 (III b-3, H類)
		2 包含層出土の土器 (III b-3)	2 包含層出土の土器 (III b-3, H類)
352		1 包含層出土の土器 (III b-3)	1 包含層出土の土器 (III b-3, H類)
353		1 包含層出土の土器 (IV a)	__ 包含層出土の土器 (IV a)

<差し替え文章>

IV 第Ⅱ黒色土層の遺構と遺物

200頁分

ⅡP-1(図IV-125)

位置 d-109-93・94・c-109-03-04 規模 1.13/0.64×0.29/0.20×0.53m

特徴 ⅡH-2、6の掘り下げの際に確認した。南北のベルトに沿って掘り下げたところ、ⅡH-6の覆土を底面にする掘り込みを確認することができた。土層の堆積は複雑で、底面にはビット状の径30cm、深さ10cmの落ち込みが見られた。立ち上がりは一部をのぞいてゆるやかである。掘り込み面はⅡB層の上層である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が4点、Ⅰ群b-4類の土器が2点出土している。

時期 ⅡH-2、6の覆土を掘り込んでいることから、これらよりも新しいものである。覆土の遺物から縄文時代早期後半の可能性が考えられる。

ⅡP-2(図IV-125)

位置 d-109-84 規模 3.28/2.31×2.08/1.31×0.78m

特徴 ⅡH-1の南側に位置する。平面形は隅丸方形である。断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭な部分がある。覆土は1~3が流れ込み、4~6は埋め戻しである。このうち3層はⅡH-1の掘上げ土である。掘り込み面はⅡB層の下部である。土壌のほぼ中央、3層の上部からspflが検出された。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 ⅡH-1の覆土に覆われていることからみて、ⅡH-1の構築時期(縄文時代中期末)より古い。

ⅡP-7(図IV-125)

位置 d-109-92 規模 1.36/1.17×0.25/0.20×0.46m

特徴 ⅡH-7を掘り下げる際に確認した。南北のベルトに沿って掘り下げたところ、ⅡH-7の床面からTa-d₂層に到る掘り込みを確認した。平面形は不整形で、断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭な部分がある。覆土の堆積は単純で2層が確認されている。掘り込み面はⅡB層の上部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 ⅡH-7の覆土を掘り込んでいることから、ⅡH-7の構築時期(縄文時代中期末)よりも新しい。

202頁分

ⅡP-17(図IV-126)

位置 d-109-04 規模 0.68/0.56×0.51/0.42×0.10m

特徴 ⅡH-6を掘り下げる際に確認した。東西のベルトに沿って掘り下げたところ、ⅡH-7の床面からTa-d₂層に到る掘り込みを確認した。平面形は円形で、断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭である。覆土の堆積は1層が確認されている。掘り込み面は不明である。

遺物 遺物の出土は見られていない。

時期 II H-6の覆土を掘り込んでいることから、II H-6の構築時期（縄文時代中期末）よりも新しい。

II P-19 (図IV-126)

位置 c-109-02-12 規模 2.42/2.22×1.95/1.71×0.56m

特徴 Ta-c層を除去した後、円形の回みを確認した。II H-2～5に囲まれたほぼ中心に位置する。22.00の等高線上にある。II P-33を切って構築されている。平面形は円形である。墳底は、Ta-dとII P-33の覆土中に作られており、壁との境は明瞭である。覆土はII B層とTa-dが混入した埋め戻しである。掘り込み面はII B層の中部である。

遺物 等頭大の礫が東側の壁際で出土している。覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

II P-20(図IV-127)

位置 c-109-04 規模 1.88/1.18×1.21/0.74×0.43m

特徴 II H-6を掘り下げる際に確認した。東西のベルトに沿って掘り下げたところ、II H-2の覆土を底面とする掘り込みを確認した。平面形は隅丸方形で、断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭である。覆土の堆積は2層が確認されている。掘り込み面は不明である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 II H-2の覆土を掘り込んでいることから、II H-2の構築時期（縄文時代中期末）よりも新しい。

204頁分

II P-21(図IV-127)

位置 d-109-94 規模 1.93/1.48×1.36/1.01×0.61m

特徴 II P-22に隣接する土壌である。II H-6のトレンチによって検出された。II H-6の覆土とII H-2の掘り上げ土から掘り込まれており、両側は一部Ta-dまで掘り込んである。土層観察の結果、II H-1より古くII H-6より新しい土壌であることが確認されている。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

II P-22(図IV-127)

位置 d-109-94 規模 1.33/0.99×0.87/0.64×0.54m

特徴 II H-6の立ち上がりを検出作業に見いだされた遺構である。覆土はII H-6と見分けがつかず、II H-6を平面的に掘り下げる調査においては発見することができなかった。墳底はほぼ平坦に近く、構築面はII B上面で確認されなかったことから、II H-6に前後するII H-6に前後する位の時期と考えられる。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

ⅡP-23(図Ⅳ-127)

位置 d-109-69 規模 1.58/1.27×1.11/0.94×0.22m

特徴 調査区南側の斜面部において、d-109-69区域のグリッドをTa-d₁層まで掘り下げた段階で黒い落ち込みとして確認された。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂を15cmほど掘り込んでいた。土層の堆積は単純で、覆土は3層が主体的に認められる。平面形は不整形である。断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と石斧が1点出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-24(図Ⅳ-128)

位置 d-109-51・52・61・62 規模 0.36/0.28×0.28/0.21×0.42m

特徴 ⅡH-1の東側に位置する。ⅡH-9・ⅡP-28を切って構築されている。平面形は卵形である。長径が約4mの大型土壇である。墳底はTa-d₂を掘り込んで作られており、壁との境は一部不明である。覆土は流れ込みである。掘込み面はⅡB層の上部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と石鏃、ポイント、石斧、フレイク、チップなどの石器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。また、重複関係から、ⅡH-9、ⅡP-28よりも新しい。

206頁分

ⅡP-25(図Ⅳ-128)

位置 c-109-05 規模 1.18/(0.33)×0.50/0.40×0.63m

特徴 ⅡH-6の壁面を検出する際に確認された遺構である。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、北壁はすでに失われたものの、円形のプランが確認できた。墳底はTa-d₂を掘り込んで作られており、壁の立ち上がりは急で、壁との境は明瞭である。覆土は3層が認められた。掘り込み面はⅡB層の上部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と石斧が1点出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-27(図Ⅳ-129)

位置 d-109-81 規模 1.35/1.11×0.90/0.69×0.42m

特徴 Ta-c層を除去した後、ⅡB層の上面で円形の凹みを確認した。ⅡH-1と5に囲まれたほぼ中心に位置する。東西にベルトを設定して、掘り下げたところTa-d₂層に到る掘り込みを確認した。重複する遺構はなく、ⅡH-1の掘り上げ土を掘り込んでいた。平面形は楕円形である。墳底は、Ta-d₂に作られており、壁との境は明瞭である。覆土はⅡB層の下に3枚の堆積が確認できた。掘り込み面はⅡH-1の掘り上げ土上面である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と鏃、フレイクチップが出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-28 (図Ⅳ-129)

位置 d-109-61・62 規模 1.20/(0.81)×1.03/(0.50)×0.51m

特徴 ⅡH-9・ⅡP-28と重複している遺構である。平面形はⅡP-28に切られているため不明である。墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘り込み面はⅡB層の中部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-29 (図Ⅳ-129)

位置 d-109-80・81 規模 1.60/1.43×1.17/0.94×0.60m

特徴 Ta-c層を除去した後、ⅡB層の上面で円形の凹みを確認した。ⅡH-1の北側に位置する。南北にベルトを設定して、掘り下げたところTa-d₂層に到る掘り込みを確認した。重複する遺構はなく、平面形は円形である。墳底はTa-d₂に作られており、壁との境は明瞭である。覆土は3層の堆積が確認できた。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器とフレイクチップが出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

208頁分

ⅡP-30 (図Ⅳ-129)

位置 d-109-61・62 規模 1.41/1.06×0.89/0.86×0.58m

特徴 ⅡH-9・ⅡP-28と重複している遺構である。平面形はⅡP-28に切られているため不明。墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘り込み面はⅡB層の中部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-33 (図Ⅳ-130)

位置 c-109-12 規模 1.60/1.22×1.35/0.92×0.48m

特徴 ⅡP-19と重複している遺構である。平面形は楕円形である。墳底はTa-d₂層を掘り込んで作られている。中央部がやや凹む。壁の一部はⅡP-19に切られているが他の壁は立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘り込み面はⅡB層の中部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-36 (図Ⅳ-130)

位置 c-109-12 規模 0.86//0.69×0.35/0.32×0.48m

特徴 ⅡP-37と重複して出土した遺構である。平面形はⅡP-37に切られているが、ほぼ円形である。墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで、平坦である。壁の立ち上がりは急であり、覆土は4層を確認した。掘り込み面はⅡB層の上部である。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器と石鏃が一点出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

Ⅱ P-37 (図IV-131)

位置 c-109-12 規模 0.98/0.90×0.27/0.22×0.47m

特徴 Ⅱ P-19、Ⅱ P-36と重複して出土した遺構である。Ⅱ P-19に切られ、Ⅱ P-36を切っているが、平面形は楕円形を呈している。壊底はTa-d₂層を掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は2層を確認した。掘り込み面はⅡ B層の上部と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器が一点出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

Ⅱ P-38 (図IV-131)

位置 d-109-93 規模 1.23/0.44×0.95/0.31×0.50m

特徴 Ⅱ H-6を掘り下げ途中で確認された遺構である。平面形はⅡ H-6に切られているが、楕円形を呈しているものと考えられる。壁の立ち上がりは急である。覆土は2層を確認した。掘り込み面はⅡ H-2の掘り上げ土中と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器が一点出土している。

時期 壊底出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

210頁分

Ⅱ P-39 (図IV-131)

位置 d-109-92・93 規模 1.88/(0.87)×0.27/0.22×0.67m

特徴 Ⅱ H-7を掘り下げ途中に出土した遺構である。平面形はⅡ H-7に切られているものの、楕円形を呈していると考えられる。中央がやや凹んだ壊底はTa-d₂層を掘り込んで作られており、壁の立ち上がりは急である。覆土は5層を確認した。掘り込み面はⅡ B層上部と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類土器と砥石、スクレイパー、石斧片などの石器が出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

Ⅱ P-40 (図IV-132)

位置 c-109-04 規模 0.80/0.40×(0.38)/(0.24)×0.40m

特徴 Ⅱ H-6を掘り下げ途中で出土した遺構である。平面形はⅡ H-6に切られているものの、長円形を呈していると考えられる。壊底はTa-d₁層を掘り込んでつくられ、わずかな平坦面をなしている。壁の立ち上がりは急で、覆土は5層を確認した。掘り込み面はⅡ H-2の掘り上げ土中と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器と礫片、フレイクが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

Ⅱ P-41 (図IV-132)

位置 d-109-93-94 規模 0.92/0.62×0.61/0.38×0.48m

特徴 II H-6を掘り下げ途中に出土した遺構である。平面形はII H-6に切られているものの、長楕円を呈していると考えられる。墳底はTa-d₁層を掘り込んでつくられ、平坦面をなしている。壁の立ち上がりは急で、覆土は6層を確認した。掘り込み面はII H-2の掘り上げ土中と考えられる。

遺物 遺物は礫片、フレイクが出土している。

時期 遺構の重複関係からみて縄文時代中期頃と考えられる。

II P-42 (図IV-132)

位置 c-108-03 規模 1.00/0.20×(0.20)/(0.10)×0.40m

特徴 II H-14を掘り下げ途中に出土した遺構である。II H-14の覆土を掘り込んで底面をなしている。平面形は長楕円形をなしていて、壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は1層を確認した。掘り込み面はII B層の上部と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器とフレイクが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

212頁分

II P-43 (図IV-132)

位置 c-108-14-24 規模 1.50/0.70×1.40/0.60×0.60m

特徴 II H-37と重複して出土した遺構である。II H-37の覆土を掘り込んで、Ta-d₂層を底面となしている。平面形はほぼ円形をなしていて、壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は3層を確認した。掘り込み面はII B層の上部と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と石斧片、礫片、フレイクなどが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

II P-44 (図IV-132)

位置 c-108-04 規模 1.60/1.00×1.20/0.70×0.50m

特徴 II H-12のトレンチを掘り下げた際に確認した遺構で、重複する遺構はない。Ta-d₁層を掘り込んで床面をなしている。中央に小ピットを有する墳底は比較的平坦である。平面形はほぼ円形で、壁の立ち上がりはゆるやかである。覆土は4層を確認した。掘り込み面はII B層の下部と考えられる。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と礫片、フレイクなどが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

II P-45 (図IV-132)

位置 c-108-15-16 規模 0.87/0.53×0.84/0.47×0.48m

特徴 II H-10の掘り下げ途中に確認された。平面形は円形である。断面形は椀状で壁と床との境が不明瞭である。覆土はII B層・Ta-d₁・骨片が混入した埋め戻しである。掘り込み面はII B層の中部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と礫片、フレイクなどが出土している。

時期 墳底出土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

Ⅱ P-48 (図Ⅳ-133)

位置 c-108-15・16 規模 1.06/0.84×0.68/0.50×0.10m

特徴 Ⅱ H-13の掘り下げ途中に確認された。Ta-d₂層を掘り込んで床面をなしており、掘り込み面はⅡ H-13の覆土中であつたものと思われる。隣接するⅡ P-49を切っていて、平面形は楕円形である。断面形は椀状で壁と床との境が不明瞭である。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器とフレイクなどが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

214頁分

Ⅱ P-49 (図Ⅳ-133)

位置 c-108-15・16 規模 1.18/1.00×(0.50)/(0.40)×0.10m

特徴 Ⅱ H-13の掘り下げ途中に確認された。Ta-d₂層を掘り込んで床面をなしており、掘り込み面はⅡ H-13の覆土中であつたものと思われる。隣接するⅡ P-48に切られていて、平面形は楕円形である。断面形は椀状で壁と床との境が不明瞭である。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺構の重複関係からみて縄文時代中期頃と考えられる。

Ⅱ P-50 (図Ⅳ-133)

位置 c-108-13・14 規模 1.60/1.36×1.38/1.08/0.62m

特徴 Ⅱ H-13と重複している遺構である。平面形は円形である。墳底はTa-d₂層を掘り込んで作られている。壁は立ち上がり急であるが南側はⅡ H-19に切られているため不明である。西側の床面に小ピットが一個確認された。断面形は先が細くなる杖状をなしている。用途は不明である。覆土はⅡ B層・Ta-dが混入した埋め戻しである。掘り込み面はⅡ B層の中部である。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器と石鏃、ポイント、台石、軽石、フレイクなどが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

Ⅱ P-51 (図Ⅳ-133)

位置 c-108-05-06 規模 2.61/2.19×0.65/0.59×0.57m

特徴 Ⅱ H-11、Ⅱ H-26と重複して出土した遺構である。Ⅱ H-26との切り合いは不明であるが、Ⅱ H-11には切られている。Ta-d₂層を底面として、中央に緩やかにくぼみを有している。平面形は円形で、壁の立ち上がりは急である。覆土は3層を確認した。掘り込み面はⅡ B層の上部である。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器と石鏃、礫片、フレイクなどが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

Ⅱ P-52 (図Ⅳ-133)

位置 c-108-05-06 規模 1.06/0.76×0.65/0.42×0.44m

特徴 Ⅱ H-14の掘り下げ途中で確認された遺構である。Ⅱ H-14に切られているが平面形はほぼ円形と考えられる。底面はTa-d₂層に到っており、平坦である。壁の立ち上がりは急であり、覆土は3層を確認した。掘り込み面はⅡ B層の上部である。

遺物 遺物はスクレイパー、石斧片、フレイクなどが出土している。

時期 遺構の重複関係からみて縄文時代中期頃と考えられる。

Ⅱ P-53 (図IV-134)

位置 d-109-62 規模 1.74/0.98×1.45/0.69×0.41m

特徴 Ⅱ H-1、Ⅱ P-31と重複して出土した遺構である。Ⅱ P-1、Ⅱ P-31に切られてはいるものの、平面形は楕円形を呈している。Ta-d₂層を底面にしており、平坦である。壁の立ち上がりは緩やかで、覆土は2層を確認した。掘り込み面はⅡ H-1の掘り上げ土上のⅡ B層中と思われる。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器と石鏃、フレイクなどが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

216頁分

Ⅱ P-55 (図IV-134)

位置 d-108-91-92 規模 1.56/1.04×1.20/0.76×0.23m

特徴 Ⅱ H-14を掘り下げた後に確認された遺構である。Ⅱ H-14の床面を掘り下げてつくられた遺構で、Ta-d₂層を底面としている。平坦である。壁の立ち上がりは急である。覆土は1層を確認した。

遺物 遺物はⅢ群 b-2類の土器と礫片が出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-2類土器の時期(縄文時代中期)と考えられる。

Ⅱ P-56 (図IV-134)

位置 c-108-22-23 規模 1.08/0.85×0.79/0.65×0.46m

特徴 c-108-22-23グリッドを掘り下げた時に確認された遺構である。本来の掘り込み面はⅡ B層上部であったと思われるが、検出されたのはTa-d₁層以下であった。Ta-d₂層を床面にしており、平坦面をなしている。覆土は四層が確認された。壁の立ち上がりは急である。平面形はほぼ円形を呈している。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器1点と礫片、フレイクが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

Ⅱ P-57 (図IV-134)

位置 c-109-05-15 規模 1.07/0.92×0.66/0.49×0.32m

特徴 Ⅱ H-6の南側で確認された遺構である。Ⅱ H-6の掘り上げ土を掘り下げてつくられた遺構で、Ta-d₁層を掘り込んで底面をなしている。底面は平坦である。平面形は円形で、覆土は5層確認した。壁の立ち上がりは急である。掘り込み面はⅡ B層の下部と思われる。

遺物 遺物はⅢ群 b-3類の土器が出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群 b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-58 (図Ⅳ-134)

位置 c-109-05 規模 2.26/1.42×1.08/0.66×0.33m

特徴 ⅡH-6の南側、c-109-05グリッドを掘り下げた際に確認した遺構である。本来の掘り込み面はⅡB層の下部であったと思われる。平面形は楕円形で、底面はTa-d₂層につくられている。壁の立ち上がりは緩やかで、覆土は3層確認された。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器1点と礫片、フレイクが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

ⅡP-59 (図Ⅳ-134)

位置 c-108-09 規模 1.59/1.07×1.06/0.60×0.80m

特徴 ⅡH-30の検出作業中に確認された遺構である。ⅡH-30の覆土から床面を切るかたちで確認された。掘り込み面はⅡB層中部で、墳底は平坦である。壁の立ち上がりは急で、覆土は6層確認された。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)のものと思われる。

ⅡP-60 (図Ⅳ-135)

位置 c-108-17 規模 (1.84)/(1.01)×(0.99)/0.84×0.49m

特徴 ⅡH-27の検出作業中に確認された遺構である。隣接するⅡP-60に切られたかたちで確認した。ⅡH-27の覆土下に掘り込み面が認められた。墳底は平坦で、壁の立ち上がりは急である。覆土は2層確認された。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器、土製品、フレイクが出土している。

時期 覆土の遺物から縄文時代中期末頃のものと思われる。

ⅡP-61 (図Ⅳ-135)

位置 c-108-17 規模 (1.03)/(0.75)×(0.35)/(0.32)×0.42m

特徴 ⅡH-27の検出作業中に確認された遺構である。隣接するⅡP-60を切るかたちで重複関係がある。ⅡH-27の覆土下に掘り込み面が認められた。覆土は1層が確認された。底面がわずかに残り、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 覆土の遺物から縄文時代中期末頃のものと思われる。

ⅡP-62 (図Ⅳ-135)

位置 c-108-07-08 規模 1.81/1.41×0.89/0.46×0.20m

特徴 ⅡH-29とⅡH-27の間に浅いくぼみを確認した。全体を掘り下げたときに覆土上部は失われて、底面を残すのみとなった。平面形は不整形形で壁の立ち上がりも緩やかである。掘り込み面はⅡB層の中部であると思われる。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 覆土中の遺物から縄文時代中期末頃のものと思われる。

220頁分

ⅡP-63 (図Ⅳ-135)

位置 c-108-27 規模 1.32/1.09×1.17/0.92×0.16m

特徴 ⅡH-28と隣接している遺構である。ⅡH-28の検出作業中に確認された。検出面からの掘り込みは浅く、壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は1層を確認した。掘り込み面はⅡB層の中部であると思われる。

遺物 出土していない

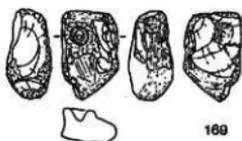
時期 出土遺物、重複関係がないため、不明である。



図IV-38 II H-7 出土遺物



図IV-43 II H-10 出土遺物



図IV-100 包舎層の石鏡03



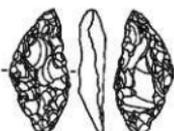
図IV-11 II H-1 出土遺物



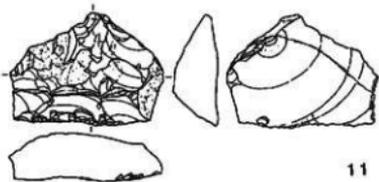
0 10cm



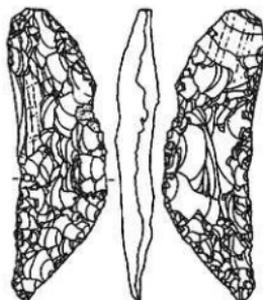
8



9



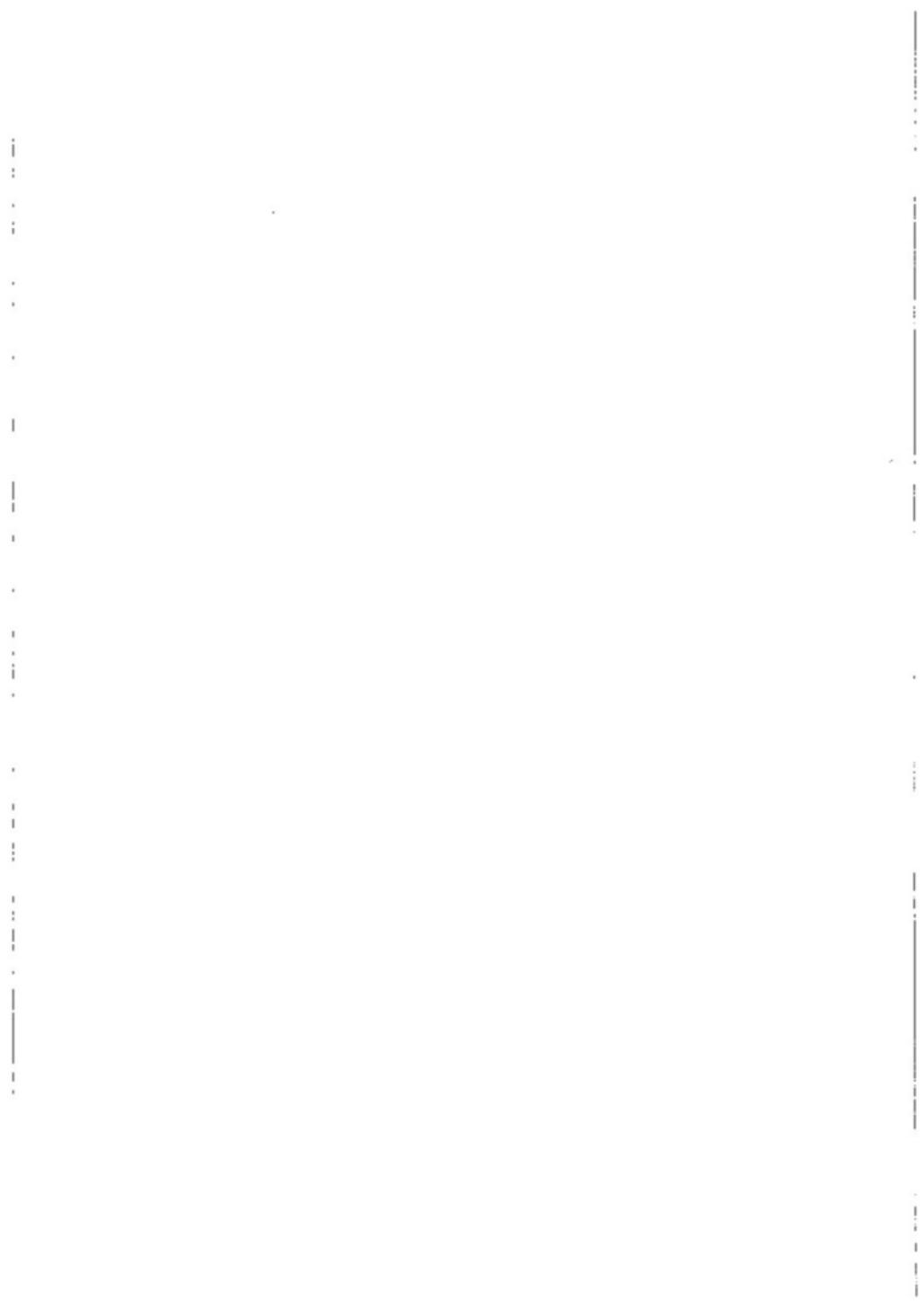
11



10

0 5cm

图IV-69 II H-16 出土遺物



ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ

—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

美 沢 15 遺 跡

平成 6 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



例 言

1. 本書は平成6年度に当センターが実施した新千歳空港建設用地内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告である。
2. 本書の執筆は、Ⅰ：佐藤和雄、Ⅱ：藤井 浩、花岡正光（調査第3課）Ⅲ：佐藤和雄・田口 尚・藤井 浩、Ⅳ：佐藤和雄・田口 尚・越田雅司・藤井 浩が担当した。
3. 各種測定、同定、分析等は下記に依頼した。

放射性炭素	京都産業大学	山田 治氏
黒曜石産地同定	産地分析の会	藁科哲男氏
炭化種子同定	北海道大学	吉崎昌一氏
動物遺存体	千歳市教育委員会	高橋 理氏
4. 石材鑑定は調査第1課 花岡正光による。
樹種同定にあたっては森林総合研究所、平川泰彦氏の指導を受けた。
5. 調査報告終了後の出土遺物および記録類については北海道教育委員会が保管する。
6. 調査にあたっては下記の諸機関、各氏からご指導ご協力をいただいた。
文化庁、北海道教育委員会、千歳市教育委員会、北海道開発局札幌開発建設部新千歳空港建設事業所、渡辺重建工業株式会社
北海道開拓記念館 平川善祥、千歳市教育委員会 田村俊之・豊田宏之・松田淳子、苫小牧市埋蔵文化財調査センター 宮部泰夫・渡辺俊一・二階堂啓也・兵藤千秋・赤石慎三、札幌市埋蔵文化財センター 加藤邦雄、佐藤紀子、恵庭市郷土資料館 上屋真一・松谷純一、平取町二風谷アイヌ文化博物館 森岡健治、八雲町教育委員会 三浦孝一・柴田信一、南茅部町教育委員会 阿部千春・福田裕二・小林賢、奈良国立文化財研究所 西村康、兵庫県教育委員会 西口和彦、マイアミ大学地球物理応用考古学探査研究所 D. グッドマン

記号等の説明

1. 遺構の表記は以下に示す記号を用い、原則として発掘調査順に番号を付した。
H:住居跡 P:土壌 TP:Tピット F:焼土 S:屋外炉 HP:住居跡の付属ピット
遺構記号の頭にはI・IIのように層を表示してある。
2. 遺構図の数値は標高(単位m)である。
3. 遺構の規模は「確認面での長軸長×短軸長/床(底)面での長軸長×短軸長/確認面からの最大深」の順で記した。一部破壊されているものは現存長を()で示し、不明のものは-で示した。
4. 石器、石製品、の大きさについては最大長、最大幅、最大厚の順で記した。
5. 土層名は下記の略号、略称を用いた場合がある。

樽前a降下軽石層:Ta-a層(a)	第0黒色土層:0黒層(0黒または0B)
樽前b降下軽石層:Ta-b層(b)	第I黒色土層:I黒層(I黒またはIB)
有珠山b ₁ 火山灰層:Us-b ₁ 層	第II黒色土層:II黒層(II黒またはIIB)
苫小牧火山灰層:Tm層	第III黒色土層:III黒層(III黒またはIIIB)
樽前c ₁ 降下軽石層:Ta-c ₁ 層(c ₁)	恵庭aローム層:En-aローム層(En-L)
樽前c ₂ 降下岩片層:Ta-c ₂ 層(c ₂)	恵庭a降下軽石層:En-a層(En-P)
樽前d ₁ 降下岩片層:Ta-d ₁ 層(d ₁)	支笏軽石流堆積物:Spfl層(Spfl)
樽前d ₂ 降下スコリア層:Ta-d ₂ 層(d ₂)	粒の明瞭なスコリアはd ₂ S、ローム状のスコリアはd ₂ L)

*火山灰の層名・略号は下記による。()内はそれをさらに簡略化したものである。

横山 泉・勝井義雄・大場与志男・江原幸雄(1973)『有珠山』
曾屋龍典・佐藤博之(1980)『千歳地域の地質』
北海道火山灰命名委員会(1982)『北海道の火山灰』
6. 土層の混在状態は上記の略号などを用いて下記のように表してある。

A+B:AとBがほぼ同量に混じる。
A>B:AにBが少量混じる。
A>>B:AにBが微量混じる。

目 次

例言	
記号等の説明	
I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	1
4 調査結果の概要	3
5 遺物の分類	3
II 遺跡の概要	5
1 遺跡の位置・立地	5
2 遺跡の環境	5
3 遺跡の土層	8
III 第I黒色土層の調査	13
1 調査の概要	13
2 遺構	13
(1) 土壇	13
(2) 遺物集中	17
3 遺物	17
4 まとめ	18
IV 第II黒色土層の調査	19
1 調査の概要	19
2 遺構	21
(1) 住居跡	21
(2) 土壇	189
(3) Tピット	221
(4) 屋外炉・焼土	224
3 遺物	235
(1) 土器	235
(2) 石器	241
引用参考文献	269
付篇	
美沢15遺跡出土の動物遺存体	高橋 理 271
黒曜石の産地推定について	藁科 哲男 277
樹種同定	平川 泰彦 284
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

図 I-1	発掘区の呼称	4
図 II-1	遺跡の位置	6
図 II-2	遺跡周辺の地形環境	7
図 II-3	美沢15遺跡における地質柱状図	9
図 II-4	軽石・岩片の電子顕微鏡写真	12
図 III-1	I 黒層の遺構位置図	13
図 III-2	I P-1・2	15
図 III-3	I P-3・4・5・6	16
図 III-4	遺物集中	17
図 III-5	包含層の土器	18
図 IV-1	II 黒層の遺構位置図	20
図 IV-2	II H-1 上面の地形(等高線は II 黒上面)	22
図 IV-3	II H-1	23
図 IV-4	II H-1	25
図 IV-5	II H-1	27
図 IV-6	II H-1	28
図 IV-7	II H-1 出土遺物の位置	29
図 IV-8	II H-1 出土遺物	32
図 IV-9	II H-1 出土遺物	33
図 IV-10	II H-1 出土遺物	34
図 IV-11	II H-1 出土遺物	35
図 IV-12	II H-2 出土遺物	39
図 IV-13	II H-2 出土遺物の位置	41
図 IV-14	II H-2 出土遺物	43
図 IV-15	II H-2 出土遺物	44
図 IV-16	II H-3	46
図 IV-17	II H-3	47
図 IV-18	II H-3	48
図 IV-19	II H-3	49
図 IV-20	II H-3 出土遺物	51
図 IV-21	II H-3 出土遺物	52
図 IV-22	II H-4	54
図 IV-23	II H-4	55
図 IV-24	II H-4 出土遺物の位置	56
図 IV-25	II H-4 出土遺物	57
図 IV-26	II H-4 出土遺物	58
図 IV-27	II H-5 出土遺物の位置	60

図IV-28	II H-5	61
図IV-29	II H-5	出土遺物	63
図IV-30	II H-6	65
図IV-31	II H-6	67
図IV-32	II H-6	出土遺物の位置	69
図IV-33	II H-6	出土遺物	71
図IV-34	II H-6	出土遺物	72
図IV-35	II H-6	出土遺物	73
図IV-36	II H-7	75
図IV-37	II H-7	出土遺物の位置	76
図IV-38	II H-7	出土遺物	77
図IV-39	II H-9	78
図IV-40	II H-9	出土遺物	79
図IV-41	II H-10	81
図IV-42	II H-10	82
図IV-43	II H-10	出土遺物	83
図IV-44	II H-11	87
図IV-45	II H-11	出土遺物	89
図IV-46	II H-11	出土遺物	90
図IV-47	II H-12	92
図IV-48	II H-12	出土遺物の位置	93
図IV-49	II H-12	出土遺物	94
図IV-50	II H-13	96
図IV-51	II H-13	97
図IV-52	II H-13	出土遺物	98
図IV-53	II H-13	出土遺物	99
図IV-54	II H-13	出土遺物	100
図IV-55	II H-14	102
図IV-56	II H-14	103
図IV-57	II H-14	105
図IV-58	II H-14	出土遺物の位置	107
図IV-59	II H-14	出土遺物	109
図IV-60	II H-14	出土遺物	110
図IV-61	II H-15	112
図IV-62	II H-15	出土遺物の位置	113
図IV-63	II H-15	出土遺物	114
図IV-64	II H-15	出土遺物	115
図IV-65	II H-15	出土遺物	116
図IV-66	II H-16	118
図IV-67	II H-16	119

図IV-68	ⅡH-16	出土遺物の位置	120
図IV-69	ⅡH-16	出土遺物	121
図IV-70	ⅡH-17		123
図IV-71	ⅡH-17	出土遺物の位置	125
図IV-72	ⅡH-17	出土遺物	126
図IV-73	ⅡH-18		128
図IV-74	ⅡH-18	柱穴と出土遺物	129
図IV-75	ⅡH-19		131
図IV-76	ⅡH-20		134
図IV-77	ⅡH-20		135
図IV-78	ⅡH-20	出土遺物	135
図IV-79	ⅡH-21		137
図IV-80	ⅡH-21		138
図IV-81	ⅡH-21	出土遺物	139
図IV-82	ⅡH-22		141
図IV-83	ⅡH-22	出土遺物の位置	142
図IV-84	ⅡH-22	出土遺物	143
図IV-85	ⅡH-23		145
図IV-86	ⅡH-24		147
図IV-87	ⅡH-25		149
図IV-88	ⅡH-25	出土遺物	150
図IV-89	ⅡH-25	出土遺物	151
図IV-90	ⅡH-26		152
図IV-91	ⅡH-26	出土遺物	153
図IV-92	ⅡH-27		155
図IV-93	ⅡH-27	出土遺物の位置	157
図IV-94	ⅡH-27		159
図IV-95	ⅡH-27	出土遺物	160
図IV-96	ⅡH-27	出土遺物	161
図IV-97	ⅡH-28		163
図IV-98	ⅡH-28		164
図IV-99	ⅡH-28	出土遺物	165
図IV-100	ⅡH-28	出土遺物	166
図IV-101	ⅡH-29		167
図IV-102	ⅡH-29	出土遺物	168
図IV-103	ⅡH-30		170
図IV-104	ⅡH-30	出土遺物	171
図IV-105	ⅡH-31		173
図IV-106	ⅡH-31	出土遺物	174
図IV-107	ⅡH-32	と出土遺物	175

図IV-108	II H-33	177
図IV-109	II H-33 出土遺物	178
図IV-110	II H-34	179
図IV-111	II H-34 出土遺物	180
図IV-112	II H-35と出土遺物	181
図IV-113	II H-36と出土遺物	183
図IV-114	II H-37	185
図IV-115	II H-37	186
図IV-116	II H-38	188
図IV-117	土墳群の位置	189
図IV-118	II P-3・4	191
図IV-119	II P-5・6	192
図IV-120	II P-8・9	193
図IV-121	II P-10・11・12	194
図IV-122	II P-13・14	196
図IV-123	II P-15・16	198
図IV-124	II P-18	199
図IV-125	II P-1・2・7	201
図IV-126	II P-17・19	203
図IV-127	II P-20・22・23	205
図IV-128	II P-24・25	207
図IV-129	II P-27・28・29・30	209
図IV-130	II P-33・36	211
図IV-131	II P-37・38・39	213
図IV-132	II P-40・41・42・43・44・45	215
図IV-133	II P-48・49・50・51・52	217
図IV-134	II P-53・55・56・57・58・59	219
図IV-135	II P-60・61・62・63	220
図IV-136	TP-1・2	222
図IV-137	TP-3	223
図IV-138	焼土(1)	227
図IV-139	焼土(2)	228
図IV-140	土墳・Tピット出土の遺物(1)	231
図IV-141	土墳・Tピット出土の遺物(2)	232
図IV-142	土墳・Tピット出土の遺物(3)	233
図IV-143	土墳・Tピット出土の遺物(4)	234
図IV-144	包含層の土器(1)	236
図IV-145	包含層の土器(2)	237
図IV-146	包含層の土器(3)	238
図IV-147	包含層の土器(4)	239

図IV-148	包含層の石器(1)	242
図IV-149	包含層の石器(2)	243
図IV-150	包含層の石器(3)	244
図IV-151	包含層の石器(4)	245
図IV-152	包含層の石器(5)	246
図IV-153	包含層の石器(6)	247
図IV-154	包含層の石器(7)	248
図IV-155	包含層の石器(8)	249
図IV-156	包含層の石器(9)	250
図IV-157	包含層の石器(10)	251
図IV-158	包含層の石器(11)	252
図IV-159	包含層の石器(12)	253
図IV-160	包含層の石器(13)	254

表 目 次

表 I - 1	美沢川・ベンケナイ川流域の遺跡群の年度別調査面積	2
表 III - 1	I 黒層の遺構一覽	18
表 III - 2	遺構出土遺物一覽	18
表 III - 3	包含層出土遺物一覽	18
表 III - 4	遺構掲載土器一覽	18
表 III - 5	I 黒層掲載土器一覽	18
表 IV - 1	II 黒層の遺構一覽(1)	255
表 IV - 2	II 黒層の遺構一覽(2)	256
表 IV - 3	出土遺物一覽	257
表 IV - 4	遺構掲載土器一覽(1)	258
表 IV - 5	遺構掲載土器一覽(2)	259
表 IV - 6	遺構掲載土器一覽(3)	260
表 IV - 7	遺構掲載土器一覽(4)	261
表 IV - 8	II 黒層掲載土器一覽	262
表 IV - 9	遺構掲載石器一覽	263
表 IV - 10	II 黒層掲載石器一覽	264
表 IV - 11	遺構別出土石器一覽(1)	265
表 IV - 12	遺構別出土石器一覽(2)	266
表 IV - 13	遺構別出土石器一覽(3)	267
表 IV - 14	遺構別出土石器一覽(4)	268

写 真 図 版

図版Ⅲ-1-1	IP-1	全景	287
図版Ⅲ-1-2	IP-2	全景	287
図版Ⅲ-1-3	IP-1	遺物出土状況	287
図版Ⅲ-1-4	IP-2	遺物出土状況	287
図版Ⅲ-1-5	IP-1・2	出土刀子 (1:IP-1・2:IP-2)	287
図版Ⅲ-2-1	IP-2	出土土器 (VII)	288
図版Ⅲ-2-2	IP-2	出土土器 (VII)	288
図版Ⅲ-2-3		包含層出土土器 (Vc)	288
図版Ⅲ-2-4		包含層出土土器 (VI)	288
図版Ⅳ-1-1		遺構調査状況 全景	289
図版Ⅳ-1-2		土壇群 全景	289
図版Ⅳ-2-1	IIH-1	全景	290
図版Ⅳ-2-2	IIH-1	調査風景	290
図版Ⅳ-3-1	IIH-1	HF1	291
図版Ⅳ-3-2	IIH-1	HF1	291
図版Ⅳ-3-3	IIH-1	HF1セクション	291
図版Ⅳ-3-4	IIH-1	遺物出土状況	291
図版Ⅳ-3-5	IIH-3	全景	291
図版Ⅳ-4-1	IIH-2	全景	292
図版Ⅳ-4-2	IIH-2・6	全景	292
図版Ⅳ-5-1	IIH-4	全景	293
図版Ⅳ-5-2	IIH-5	全景	293
図版Ⅳ-6-1	IIH-7	全景	294
図版Ⅳ-6-2	IIH-11	全景	294
図版Ⅳ-7-1	IIH-13	土器出土状況	295
図版Ⅳ-7-2	IIH-13	土器出土状況	295
図版Ⅳ-7-3	IIH-15	柱穴	295
図版Ⅳ-7-4	IIH-15	セクション	295
図版Ⅳ-7-5	IIH-15	砥石出土状況	295
図版Ⅳ-8-1	IIH-11	遺物出土状況	296
図版Ⅳ-8-2	IIH-15	遺物出土状況	296
図版Ⅳ-8-3	IIH-10・16	全景	296
図版Ⅳ-8-4	IIH-16	遺物出土状況	296
図版Ⅳ-8-5	IIH-20	土器囲炉	296
図版Ⅳ-9-1	IIH-26	全景	297
図版Ⅳ-9-2	IIH-27	調査風景	297
図版Ⅳ-9-3	IIH-27	遺物出土状況	297

図版IV-10-1	II P-9	全景	298
図版IV-10-2	II P-15	全景	298
図版IV-10-3	II P-16	セクション	298
図版IV-10-4	II P-20	全景	298
図版IV-10-5	II P-26	全景	298
図版IV-10-6	II P-39	全景	298
図版IV-11-1	TP-1	全景	299
図版IV-11-2	TP-2	全景	299
図版IV-11-3	TP-3	全景	299
図版IV-11-4	HS-1	全景	299
図版IV-12	II H-1	出土土器	300
図版IV-13	II H-1	出土土器	301
図版IV-14-1	II H-1	出土土器	302
図版IV-14-2	II H-1	出土土器	302
図版IV-15-1	II H-1	出土土器	303
図版IV-15-2	II H-1	出土土器	303
図版IV-16-1	II H-1	出土土器	304
図版IV-16-2	II H-1	出土土器	304
図版IV-17	II H-2	出土土器	305
図版IV-18-1	II H-2	出土土器	306
図版IV-18-2	II H-2	出土土器	306
図版IV-19-1	II H-3	出土土器	307
図版IV-19-2	II H-3	出土剣片石器	307
図版IV-19-3	II H-3	出土礫石器	307
図版IV-20	II H-3	出土土器	308
図版IV-21-1	II H-4	出土土器	309
図版IV-21-2	II H-4	出土土器	309
図版IV-21-3	II H-4	出土土器	309
図版IV-22-1	II H-4	出土土器	310
図版IV-22-2	II H-4	出土礫石器	310
図版IV-22-3	II H-5	出土土器	310
図版IV-23-1	II H-5	出土土器	311
図版IV-23-2	II H-6	出土土器	311
図版IV-23-3	II H-6	出土土器	311
図版IV-23-4	II H-6	出土土器	311
図版IV-24	II H-6	出土土器	312
図版IV-25-1	II H-6	出土剣片石器	313
図版IV-25-2	II H-6	出土礫石器	313
図版IV-26-1	II H-7	出土土器	314
図版IV-26-2	II H-7	出土土器	314

图版IV-26-3	IIH-7·9	出土土器	314
图版IV-27-1	IIH-9·10	出土石器	315
图版IV-27-2	IIH-10	出土土器	315
图版IV-28-1	IIH-10	出土土器	316
图版IV-28-2	IIH-11	出土土器	316
图版IV-29	IIH-11	出土土器	317
图版IV-30-1	IIH-11	出土土器	318
图版IV-30-2	IIH-11	出土土器	318
图版IV-31-1	IIH-12	出土土器	319
图版IV-31-2	IIH-13	出土土器	319
图版IV-31-3	IIH-12	出土土器	319
图版IV-32-1	IIH-12·13	出土铜片石器	320
图版IV-32-2	IIH-12·13	出土礫石器	320
图版IV-33-1	IIH-13	出土土器	321
图版IV-33-2	IIH-13	出土土器	321
图版IV-34-1	IIH-13	出土土器	322
图版IV-34-2	IIH-13	出土土器	322
图版IV-35-1	IIH-14	出土土器	323
图版IV-35-2	IIH-14	出土土器	323
图版IV-36-1	IIH-14	出土土器	324
图版IV-36-2	IIH-14	出土石器	324
图版IV-36-3	IIH-15	出土土器	324
图版IV-36-4	IIH-15	出土土器	324
图版IV-37-1	IIH-15	出土土器	325
图版IV-37-2	IIH-15	出土土器	325
图版IV-38-1	IIH-15	出土石器	326
图版IV-38-2	IIH-15	出土石器	326
图版IV-38-3	IIH-15	出土土製品	326
图版IV-39-1	IIH-16	出土土器	327
图版IV-39-2	IIH-16	出土土器	327
图版IV-39-3	IIH-16	出土石器	327
图版IV-40-1	IIH-17	出土土器	328
图版IV-40-2	IIH-17	出土铜片石器	328
图版IV-40-3	IIH-17	出土土器	328
图版IV-41-1	IIH-18	出土土器	329
图版IV-41-2	IIH-19·20	出土土器	329
图版IV-42-1	IIH-20	出土土器	330
图版IV-42-2	IIH-21	出土土器	330
图版IV-42-3	IIH-20	出土土器	330
图版IV-42-4	IIH-20	出土土器	330

図版IV-43-1	IIH-22	出土遺物	331
図版IV-43-2	IIH-25	出土土器	331
図版IV-44-1	IIH-25	出土土器	332
図版IV-44-2	IIH-25	出土土器	332
図版IV-45-1	IIH-26	出土土器	333
図版IV-45-2	IIH-27	出土土器	333
図版IV-45-3	IIH-27	出土土器	333
図版IV-45-4	IIH-27	出土土器	333
図版IV-46-1	IIH-27	出土土器	334
図版IV-46-2	IIH-27	出土土器	334
図版IV-47-1	IIH-26・27	出土石器	335
図版IV-47-2	IIH-28	出土土器	335
図版IV-48	IIH-28	出土土器	336
図版IV-49	IIH-28・29・30・31	出土石器	337
図版IV-50-1	IIH-30	出土土器	338
図版IV-50-2	IIH-31	出土土器	338
図版IV-51-1	IIH-31・32	出土土器	339
図版IV-51-2	IIH-33	出土土器	339
図版IV-52-1	IIH-33	出土土器	340
図版IV-52-2	IIH-34	出土土器	340
図版IV-53-1	IIH-35・36	出土土器	341
図版IV-53-2		土壇出土土器	341
図版IV-54		土壇出土土器	342
図版IV-55-1	IIP-50	出土土器	343
図版IV-55-2	IIP-51	出土土器	343
図版IV-56		土壇出土の土器・土製品	344
図版IV-57-1		土壇出土の石器	345
図版IV-57-2		包含層出土の土器 (I b-4、III a)	345
図版IV-58-1		包含層出土の土器 (III b-1)	346
図版IV-58-2		包含層出土の土器 (III b-2)	346
図版IV-59-1		包含層出土の土器 (III b-2)	347
図版IV-59-2		包含層出土の土器 (III b-3)	347
図版IV-59-3		包含層出土の土器 (III b-3)	347
図版IV-60-1		包含層出土の土器 (III b-3、B・C・D類)	348
図版IV-60-2		包含層出土の土器 (III b-3、E類)	348
図版IV-61-1		包含層出土の土器 (III b-3、E類)	349
図版IV-61-2		包含層出土の土器 (III b-3、F類)	349
図版IV-62		包含層出土の土器	350
図版IV-63-1		包含層出土の土器 (III b-3)	351
図版IV-63-2		包含層出土の土器 (III b-3)	351

図版IV-64-1 包含層出土の土器 (III b-3)	352
図版IV-64-2 包含層出土の土器 (III b-3)	352
図版IV-65 包含層出土の土器 (IV a)	353

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道開発局札幌開発建設部

受託期間：平成6年4月12日～平成7年3月24日

発掘期間：平成6年5月9日～平成6年10月29日

調査遺跡（北海道教育委員会登録番号）・所在地・調査面積

美沢15遺跡（J-02-233）苫小牧市美沢185ほか 3,600㎡

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 阿部 茂（平成6年5月31日まで）

理事長 伊藤一夫（平成6年6月1日から）

専務理事 永田春男（平成6年5月31日まで）

専務理事 佐藤哲人（平成6年6月1日から）

常務理事 中村福彦

業務部長 中野眞吾

調査部長 森田知忠

調査第3課長 千葉英一

主任 佐藤和雄（発掘担当者）

主任 田口 尚

文化財保護主事 越田雅司（発掘担当者）

文化財保護主事 藤井 浩

3 調査の経緯

新千歳空港建設に伴う美沢川流域の遺跡群の発掘調査は、昭和51年度から北海道教育委員会によって始められたが、昭和54年9月からは当センターの設立にともなって引き継がれており、今年度で19年目である。この間、表I-1に示すとおり17遺跡、約28万㎡について発掘調査が行われた。

今年度はB滑走路の進入灯にかかる美沢15遺跡と、管理用道路にかかる美々4遺跡（報告は来年度の予定）の発掘調査を行った。

表 I-1 美沢川・ペンケナイ川流域の選跡群の年度別調査面積 (単位:㎡)

選跡	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	5年	2年	3年	4年	5年	6年	計
選跡2									19,406	5,800*										10,300*
3										4,585	4,585				8,808	9,226*	2,075			11,415*
4	1,169		香口*		7,150		6,475	6,188	5,859											26,864
5	303		6,828	752	8,450				5,544											22,874
6			5,888		2,458															8,450
7			5,009		2,408															11,279
8						11,930	3,872			1,828		11,112		4,182	215*	5,161	10,789	5,937		54,557*
9								5,090												5,090
選跡1	790	7,449	11,320		2,240															22,300
2		10,540																		10,540
3	1,756				2,480								17,484	5,478*	7,159				6,240	40,854
13												2,185								2,185
4																				23,780
5																				7,460
10																				40,377
11																				72,60
15																				3,680
計	4,000	14,410	27,924	31,312	27,270	11,938	3,872	11,475	23,438	7,727*	16,822	19,007	17,484	14,652*	12,004	8,609*	12,315	11,937	3,680	277,992

* 選跡2選跡の60年度5,000㎡、選跡3選跡の元年度のうち978㎡、選跡4選跡の2年度のうち4,500㎡、選跡5選跡の2年度のうち850㎡については、口黒層の調査のみで、それぞれ前年度の口黒層の面積に計上されているので、面積集計から除外してある。また、選跡8選跡の2年度のうち82㎡は前年度の7位（水付き部分）の調査なので、同時に面積集計から除外してある。* 選跡10選跡を調査。面積集計から除外。

4 調査結果の概要

(1) 美沢15遺跡

遺跡は、ベンケナイ川の左岸、標高約20m²の台地上に位置する。発掘調査はⅠ・Ⅱ黒層を対象に行った。

Ⅰ黒層で検出された遺構は基壇2基、土壇4基、遺物集1ヵ所である。このうち基壇は刀子・鏢を伴うアイヌ文化期のものと思われる基と、刀子・擦文土器を伴う擦文期の墓である。遺物は土器4点、フレイク・チップ・鏢・鏢片約650点が出土した。

Ⅱ黒層で検出された遺構は住居跡38軒、土壇59基、Tピット3基、屋外炉1基、焼土6ヵ所である。住居跡は伴出した遺物からみて、縄文時代中期後半～後期初頭のものと考えられる。平面形は円形、楕円形、卵形、隅丸方形、長円形である。このうちⅡH-1は長軸約13m、短軸約7mの長円形を呈する大型住居跡である。縄文時代中期後半の北筒式土器を伴う。この時期の大型住居跡としては初めての検出例である。ⅡH-5は床から炭化材が出土していることから焼失家屋の可能性が高いものである。土壇のうち縄文時代晩期のものは調査区南側の台地縁辺部で集中して検出された。平面形はほとんどが円形である。その他の土壇はおもに縄文時代中期後半のものと考えられる。住居跡と重複しているものが多い。平面形は円形・長円形・隅丸方形などがある。Tピットはいずれも墳底に坑穴をもつものである。小判型と溝状のものがある。遺物は約59,000点出土した。このうちⅢ群b-3類土器（北筒式土器とそれに伴うノグダップⅡ式・レンガ台式土器）が約60%をしめる。次いでⅣ群a類（余市式、タブコブ式土器）、Ⅰ群b-4類（東銅路Ⅳ式土器）、Ⅲ群b-2類（柏木川式土器）と続く。このほかにⅡ群a類、Ⅲ群a類、Ⅳ群c類土器などが僅かにみられる。これらに伴う石器には、石鏢、槍先、スレイバー、つまみ付きナイフ、石斧、砥石などがある。特徴的なのは石斧の素材、残片、破損品がみられることである。遺跡の性格を考えるうえで興味深い。その他の遺物には、垂飾、三角形土製品が出土した。

5 遺物の分類

(1) 土器

Ⅰ群 縄文時代早期に属するもの。

- a類 貝殻縁線瓦紋、条痕文のある土器群。
- b類 縄文、撫糸文、絡条体瓦紋、組紐瓦紋、貼付文などの施される土器群。
 - b-1類 東銅路Ⅱ式、東銅路Ⅲ式に相当するもの。
 - b-2類 コックロ式に相当するもの。
 - b-3類 中茶路式に相当するもの。
 - b-4類 東銅路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの。

- a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群。
 - a-1類 網文土器に相当するものと結束のない羽状縄文の施された丸底を特色とするもの。
 - a-2類 春日町式、中野式など縄文の施された尖底を特色とするもの。
- b類 円筒土器下層式、植苗式に相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの。

- a類 円筒土器上層式に相当するもの。
- b類 a類以外のもの。
 - b-1類 天神山式に相当するもの。

b-2類 柏木川式に相当するもの。

b-3類 北筒式(トコロ6類)、ノグップII式、煉瓦台式に相当するもの。

IV群 縄文時代後期に属するもの。

a類 余市式、入江式に相当するもの。

b類 船泊上層式、手稲式、ホッケマ式、エリモB式、煉瓦台式に相当するもの。

c類 堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。

V群 縄文時代晩期に属するもの。

a類 大洞B式、上ノ国式に相当するもの。

b類 大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの。

c類 大洞A式、大洞A'式に相当するもの。

VI群 統縄文時代に属するもの。

VII群 縄文時代に属するもの。

(2) 石器・石製品

剥片石器には石鏃、ポイントもしくは両面加工のナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパー類、石錘などが、礫石器には石斧、たたき石、すり石、砥石、石皿・台石、石錘などがある。ほかに石核、剥片・石屑、加工痕ある剥片(Rフレイク)、刃こぼれ状の使用痕ある剥片(Uフレイク)がある。石製品には蛇紋岩製の垂飾、軽石製の用途不明品がある。

(3) 土製品 三角形土製品、円盤状土製品。

(4) 金属器 金属製品 刀子。

(5) 自然遺物 獣骨・魚骨などの動物遺存体、クルミの植物遺存体。

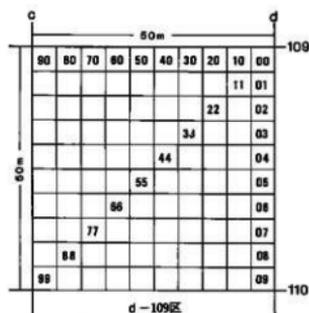


図 I-1 発掘区の呼称

II 遺跡の概要

1 遺跡の位置・立地 (図II-1)

本遺跡は苫小牧市の北部、市街地から約15kmほどで、千歳市と境を接する「美沢」地区に位置する。この「美沢」地区の地形はウトナイ沼を中心とする有名な湿原地帯を含めた、美々川流域の低地域と、樽前山から連続する台地域とから成るが、その台地上には人工的に削平された、新千歳空港の広大な用地が広がっている。新千歳空港の建設は美々川の支流である美沢川をはさんで、千歳市側の「美々」地区と美沢地区の両地区にわたっておこなわれており、美沢15遺跡もその建設用地内にあたる。

今回の調査区は、この建設用地内最南端の進入灯部分にあたり、地形的には、美々川の支流であるベンケナイ川の左岸に位置する。この川を南に見下ろす標高約20mの台地上に遺跡は展開するが、3600m²の調査区内においてすでにベンケナイ川への緩やかな傾斜が見られ、南側の区域外では、そのまま比高約16mの急斜面となっている。

2 遺跡の環境 (図II-2)

新千歳空港の用地内には3つの水域を中心に遺跡群が展開している。その中心を占めるのが美沢川流域に広がる「美沢川流域の遺跡群」であり、千歳市側の「美々」、苫小牧市側の「美沢」がそのまま遺跡名になっている。その南約1kmのところには「フレベツ湿原」に面した「フレベツ遺跡群」があり、これまでに美沢4、5遺跡が調査されている。さらにその約1km南には、ベンケナイ川が西から東に流れて美々川に注いでおり、美沢15遺跡はベンケナイ川流域に分布する遺跡群である「ベンケナイ川遺跡群」の内の一つであり、これまでに美沢10、11遺跡が調査されている(道埋文センター 1987、1988)。

これらの遺跡群はいずれも台地域と低地域とが樹枝状に複雑に絡みながらも密接に結びついたところに展開しており、自然環境上の推移帯(eco-tone)が生活環境にとっていかに重要であるかを示している。この地域には、現在も大規模な湿原が発達しており、縄文海進時には海水が入り込み、入江か潟湖のような景観であったと考えられている。縄文時代前期の内陸性貝塚として名高い美々貝塚は美々川と美沢川との合流点から、3kmほど本流をさかのぼったところにある(図II-2)。ヤマトシジミを主体とし、縄文尖底土器を出土するこの貝塚は、このような環境のもとで形成されたものである(千歳市教委 1976)と考えられ、豊かな資源環境が成立していたことがうかがえる。



図II-1 遺跡の位置 1：美沢15遺跡 2：美々4遺跡

(この地図は、国土地理院発行の5万分の1の地形図「千歳」を利用したものである)

3 遺跡の土層

本遺跡周辺は、樽前山、恵庭岳、および支笏カルデラ起源のテフラに厚く覆われ、これら諸火山のテフラの模式地となっている。したがって、本遺跡のテフラは既知のテフラとの対比が容易である。テフラ層の間には腐植土層が挟在し、遺物包層となっている。本遺跡における土壌層とテフラ層の堆積状態を図II-3に示す。以下、各層について主に野外観察の結果を記載する。

表土：Ta-aに腐植が集積した層。赤黒色(2.5YR2/1)を呈し、層厚3cm。

Ta-a(樽前a降下軽石堆積物)：七つのフォールユニットに細分し、上位からTa-a-a、…、Ta-a-gとした。各ユニットとも長石、輝石、不透明鉱物の遊離結晶と軽石から成る。軽石の表面の色調はにぶい黄褐色(10YR7/3)を呈する。噴出年代はA.D.1739(曾屋・佐藤, 1980)。

Ta-a-a：上方に向かってわずかに細粒化するユニット。下部は粒径0.5mmの遊離結晶を主体とし粒径1-3mmの軽石を含む。上部は粒径0.5mmの遊離結晶と粒径1-2mmの軽石から成る。層厚11cm。

Ta-a-b：上方へ向かってわずかに細粒化する。粒径1mmの遊離結晶と粒径1-7mmの軽石から成る。層厚4cm。軽石の最大粒径13mm。

Ta-a-c：粒径0.5-1mmの遊離結晶と粒径1-2mmの軽石から成る。層厚2.5cm。

Ta-a-d：粒径0.5-1mmの遊離結晶と粒径2mm±の軽石から成る。直上・直下のユニットより粗粒。層厚2cm。

Ta-a-e：cと同様な岩相のユニット。下部がやや粗粒。基底付近で粒径1-2mmの軽石が多い。層厚2.5cm。

Ta-a-f：粒径1-2mmの遊離結晶と粒径2-8mmの軽石から成る。層厚1.5cm。ユニット厚を越える大きさの軽石を含む。

Ta-a-g：粒径1mm±の遊離結晶と粒径2-7の軽石から成る。層厚5cm。

第0黒色土(OB)層：Ta-bに腐植が集積したもので、黒褐色(5YR2/12)を呈する。粒径0.5mmの遊離結晶と粒径1-5mmの軽石を含む。層厚3.5cm。本層相当層は、美々8遺跡低湿度においてアイヌ期の遺物包含層であったことからされた(北海道埋蔵文化財センター, 1991)。本遺跡では遺物は出土していない。

Ta-b(樽前b降下軽石堆積物)：粒径10-30mmの軽石から成る。軽石の表面にはにぶい黄褐色(10YR7/3)、橙色(7.5YR6/6)を呈するが内部は灰白色(7.5Y8/1)である。軽石は堅硬で、斑晶として長石、輝石を多く含む。平均最大粒径(2)は54mm、まれに90mmに達するものがある。基底には粒径3mm±の軽石が多い。層厚16cm。噴出年代はA.D.1667(曾屋・佐藤, 1980)。

Us-b：灰オリーブ色(5Y4.5/2)を呈する有珠山起源の砂質降下火山灰。層厚最大0.5cmで、Ta-bの基底部で、断続的に産出する。噴出年代はA.D.1663(北海道火山灰命名委員会, 1982)。

第I黒色土(IB)層：黒色(5YR1.7/1)の粘土質腐植土。粒径0.25-0.5mmの遊離結晶を多く含む。周辺遺跡の本層相当層は、縄文時代晩期～縄文時代の遺物包含層である。本遺跡では縄文時代の遺物が出土している。層厚18cm。

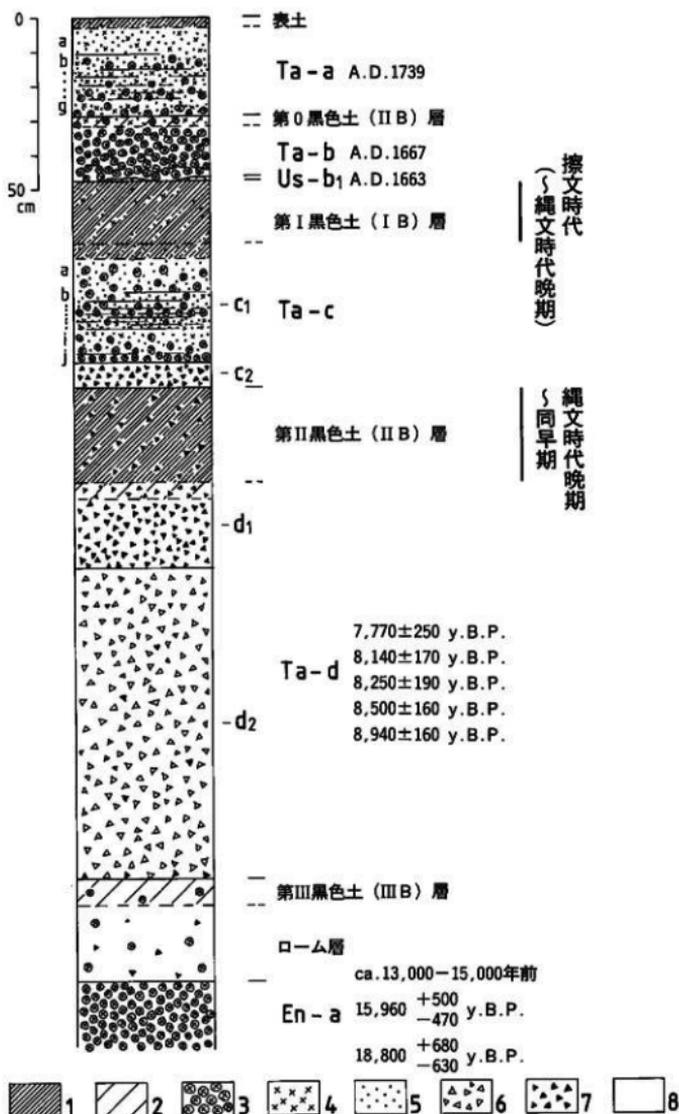
Ta-c(樽前c降下火砕堆積物)：上部の降下軽石(Ta-c₁)と下部の降下岩片(Ta-c₂)から成る。軽石層は十のフォールユニットに細分し、上位からTa-c₁-a、…、Ta-c₁-jとした。各ユニットとも長石、輝石、不透明鉱物の遊離結晶と軽石から成る。…軽石の表面の色調は明黄褐色(2.5Y7/6)、内部は灰白色(7.5Y8/1)を呈する。

Ta-c₁-a：上半部は腐植の集積層で黒色(5YR3/1)を呈し、粒径1mm±の遊離結晶から成る。下半部は粒径1mm±の遊離結晶と粒径2-10mmの軽石から成る。軽石は斑晶として長石、輝石を含む。軽

地質柱状図

テフラ・発掘層位名

遺物の出土層準と時代



図II-3 美沢15遺跡における地質柱状図 (グリッド d-109-50)

1: 黒色・赤黒色腐植土 2: 黒褐色腐植土 3: 礫質軽石 4: 砂質軽石 5: 砂質火山灰
6: 礫質スコリア 7: 岩片 8: ローム

テフラ名とテフラの年代値の出典は本文参照。

石の発泡度良、気泡は小さな球状である。層厚15cm。

Ta-c₁-b: ややしまりのあるユニット。粒径0.5-1mmの遊離結晶から成り、粒径1-2mmの軽石を含む。直上・直下のユニットより細粒。層厚2.5cm。

Ta-c₁-c: 粒径1mm±の遊離結晶と粒径2-7mmの軽石から成る。層厚2.5cm。

Ta-cl-d: 粒径5-10mmの軽石から成る。軽石は発泡度良、気泡は大きさ不揃いの球状である。斑晶として長石、輝石が多い。層厚1cm。

Ta-c₁-e: 粒径1mmの遊離結晶と粒径1-4mmの軽石から成る。層厚1.5cm。

Ta-c₁-f: ややしまりのあるユニット。粒径0.5mm±の遊離結晶と粒径1-2mmの軽石から成る。層厚1cm。

Ta-c₁-g: 粒径0.5-1mmの遊離結晶と粒径1-3mmの軽石から成る。直上・直下のユニットより粗粒。層厚0.5cm。

Ta-c₁-h: ややしまりのあるユニット。粒径0.5-1mmの遊離結晶と粒径1-2mmの軽石から成る。層厚1.5cm。

Ta-c₁-i: 上方へ向かってやや細粒化するユニット。上半部は粒径1-1.5mmの遊離結晶と粒径2-7mmの軽石から成る。軽石は発泡度中〜良、気泡は小さな球状で長石、輝石の斑晶が多い。下半部は粒径1-2mmの遊離結晶と粒径2-10mmの軽石から成る。下半部の軽石の平均最大粒径は14mmである。上半部、下半部を合わせた層厚7.5cm。

Ta-c₁-j: 粒径5-15mmの軽石から成る。発泡度良、気泡は小さな球状で長石、輝石の斑晶が多い。平均最大粒径は19mm、まれに40mmに達するものがある。層厚2cm。

Ta-c₂: 粒径4-15mmの安山岩質の岩片から成る。岩片は褐色(10YR4/4)、赤褐色(5YR4/8)を呈し、発泡質のものが多い。斑晶として長石を多く含む。平均最大粒径23mm。層厚7.5cm。

Ta-cの噴出年代は、本層中の上・下から縄文時代晩期の遺物が出土することにより、縄文時代晩期中のある時期である。

第II黒色土(II B)層: 黒色(5YR1.7/1)の粘土質腐植土。粒径8mm>の岩片を多く含む。層厚25-30cm。縄文時代早期〜同晩期の遺物包含層である。

Ta-d(樽前d降下火砕堆積物): 上部の降下岩片(Ta-d₁)と下部の降下スコリア(Ta-d₂)から成る。

Ta-d₁: 粒径4-20mmの安山岩質の岩片から成る。岩片の表面は明赤褐色(5YR5/8)、内部は暗灰色を呈する。斑晶として長石を多く含む。平均最大粒径29mm。層厚25cm。上部5cmには腐植が集積し、黒褐色(7.5YR2/2)を呈する。

Ta-d₂: 粒径10-30mmのスコリアから成り、粒径10mm±の灰色の岩片を含む。上半部のスコリア表面は明赤褐色(5YR5/8)を呈し、著しく風化している。下半部のスコリアは、表面は明黄褐色(10YR6/8)、内部にはぶい黄色を呈し上部のスコリアより堅硬である。スコリアの発泡度中〜良、泡は小さな球状でやや大きな気泡が散在する。斑晶として長石、輝石を含む。スコリアの平均最大粒径57mm、岩片の平均最大粒径23mm。基底部には粒径5mm±の岩片が多い。層厚85-92cm。

Ta-dの噴出年代に関しては、7,770±250y.B.P.、8,140±170y.B.P.(明石・木村編, 1977)、8,250±190y.B.P.(梅津, 1987)、8,500±160y.B.P.(五十嵐・藤原, 1982)、8,940±160y.B.P.(佐藤, 1971)などの値がある。

第III黒色土(III B)層: 黒褐色(5YR3/1)の粘土質腐植土。En-aの軽石を含む。周辺遺跡の本層相当層は縄文時代早期の遺物包含層となっているが、本遺跡では遺物は確認されていない。層厚8cm。

ローム層：明黄褐色 (10YR6/6) の粘土質土。灰色の岩片やEa-aの軽石を含む。層厚20-30cm。

En-a (恵庭 a 降下軽石堆積物)：粒径15-40mmの堅硬な軽石から成る。軽石表面は明褐色 (7.5YR5/8)、内部は明黄褐色 (2.5YR7/6) を呈する。軽石の発泡度中、気泡は特定の形状を示さず大きさが不揃いである。斑晶は輝石が多い。層厚20cm<。En-aの噴出年代に関して、ca.13,000-15,000年前(曾屋・佐藤, 1980)、15,960±500-470y.B.P.、18,800±680-630y.B.P. (梅津, 1987) などの値がある。

Ta-a、Ta-bの軽石、Ta-cの軽石と岩片、Ta-dのスコリアと岩片、およびEn-aの軽石の走査電子顕微鏡写真を図II-4に示す。軽石、スコリアとも発泡が良く、岩片も発泡質である。

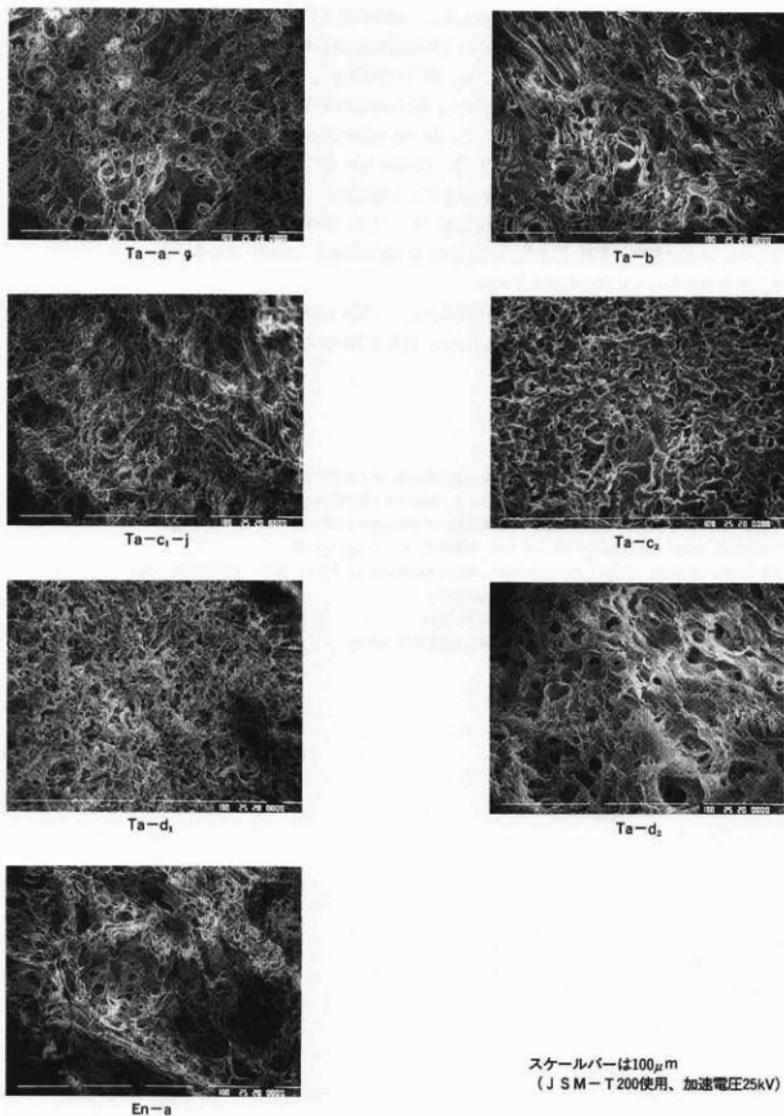
なお、地質柱状図作製地点で土壌断面標本(モノリス)を作製した。

- 1) テフラ名は曾屋・佐藤(1980)、北海道火山灰命名委員会(1982)による。
- 2) 大きなものから10個の長径の平均値。
- 3) 曾屋・佐藤(1980)は、上部の軽石をTa-c₂、下部の岩片をTa-c₁とし、北海道火山灰委員会(1979,1982)はこれとは逆に、軽石をTa-c₁、岩片をTa-c₂とした。本報告では後者に従った。

(花岡正光)

引用文献

- 明石博志・木村方一編(1977)：八千代C遺跡発掘調査報告書、帯広市教育委員会、52pp
- 五十嵐八枝子・藤原嘉樹(1982)：苫小牧高丘における恵庭a直上の腐植層の14C年代、地球科学、Vol.36、pp.2 29-230
- 梅津 誠(1987)：恵庭a降下軽石及び樽前d降下軽石の年代に関する資料、東北地理、Vol.39、pp.141-143
- 佐藤博之(1971)：樽前火山灰d層の14C年代、地球科学、Vol.25、pp.185-186
- 曾屋龍典・佐藤博之(1980)：千歳地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1図幅)、地質調査所、92pp
- 北海道火山灰命名委員会(1979)：北海道の火山灰分布図、
- 北海道火山灰命名委員会(1982)：北海道の火山灰、23pp.
- 北海道埋蔵文化財センター(1991)：美沢川流域の遺跡群XIV.469 pp



図II-4 軽石・岩片の電子顕微鏡写真

III 第I 黒色土層の遺構とその遺物

1 調査の概要

I 黒層の調査は、今回の調査の対象ではなかったが、Ta-c層までの掘り込みのあるものを遺構として確認した。また、遺物も部分的に残ったもののみを採取した。確認、検出したピットは6基で、調査区の中央やや南寄りに集中していた。そのうち2基は基壇で、鉄製の刀子を伴い、アイヌ文化期のものと縄文期のものが確認された。また、骨片集中とフレイク・チップの集中が1ヶ所見られた。遺物は土器が4点、フレイク・チップ、礫・礫片約650点が出土した。

2 遺構

(1) 土壇

IP-1 (図III-2)

位置 d-109-67・68

平面形 東西を長軸とする長円形 規模
1.60/1.00×1.20/0.72×0.16m

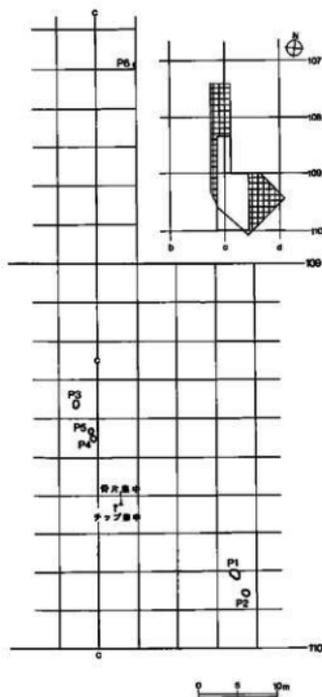
特徴 Ta-c層を掘り下げる段階で、鉄製品などの遺物の集中を発見し、周囲の精査を行なったところ、Ta-c層を掘込んだピットであることを確認した。掘り下げるとII B層にいたるまでの掘込みであることがわかった。土層はTa-c層を含んだI B層で単純な堆積であった。床面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかであった。遺物は鉄製の刀子と礫のみで、覆土上層の出土であった。

遺物 刃部や茎の形状は錆のために不明瞭である。平棟平造りの刀子(マキリ)であろうか。刃部は切先に向かって幅がやや狭くなり、切先側がわずかに曲がっている。刃区や棟区は認められない。表面には錆および柄部と思われる木質がところどころに付着している。全長17.8cm、幅2.1cmである。厚さは木質の残る部分で8.5mm、金属部分では3.0mmほどである。保存処理は北埋調報26の方法に習い、脱水、錆取り、クリーニングの工程を経てMV-1を減圧含浸した。

時期 遺物からアイヌ文化期の土壇基と思われる。

IP-2 (図III-2)

位置 d-109-68



図III-1 遺構位置図

平面形 西北-南東を長軸とする楕円形 規模 1.08/0.72×0.88/0.60×0.16m

特徴 Ta-c層を掘り下げる段階で、鉄製品や擦文土器などの遺物の集中を発見し、周囲の精査を行ったところ、Ta-c層を掘り込んだピットであることを確認した。掘り下げるとII B層にいたるまでの掘り込みであることがわかった。土層はTa-c層を含んだI B層で単純な堆積であった。床面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかであった。遺物は鉄製の刀子と擦文土器で、覆土の上層と中間層から出土した。

遺物 1はVII群-IV類土器である。体部がやや膨らみ、底部が張り出す。頸部には多条の横走沈線が施されている。調整は外面がハケメ後ヘラミガキ、内面がハケメである。2は平棟平造りの刀子(マキリ)である。切先および茎は明瞭であるが、刃部中央が銹により大きく膨れている。切先は緩い膨らみをもった形状である。刃部端には明瞭な刃区が認められる。刃部長は15.3cm、幅2.6cmである。茎は長さ4.6cm、塵上茎と考えられる。茎尻は刃上り茎である。刃部と茎には鋸と柄部の木質が付着している。細帯び状のサクラ属の樹皮のバンドが残存している部分もある。全長20.5cm、厚さは切先付近で8.2mmで、区付近で3.5mm、茎では4.0mmほどである。保存処理は金属部、木質部ともIP-1に同様にMV-1を減圧含浸した。

時期 遺物から擦文時代の土壌墓であると思われる。

IP-3 (図III-3)

位置 c-109-03 平面形 南北を長軸とする隅丸長方形

規模 1.00/(0.40)×0.80/(0.24)×0.20m

特徴 IIH-6のトレンチを掘り下げる際に、土層断面によって確認されたものである。そのため西半分だけが残った。覆土上面には集石が確認された。掘り込みは浅く、IIH-6の覆土中で底面を成している。

IP-4 (図III-3)

位置 c-109-04 平面形 北東-南西を長軸とする楕円形

規模 0.72/0.64×0.48/0.40×0.12m

特徴 IIH-6の覆土を掘り下げる段階で確認されたものである。礫や土器などの遺物は全く見られなかったが、IIH-6の覆土を掘りこんだピットであることがわかった。土層はTa-c層を含んだI B層で単純な堆積であった。床面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかであった。

IP-5 (図III-3)

位置 c-109-04 平面形 南北を長軸とする楕円形

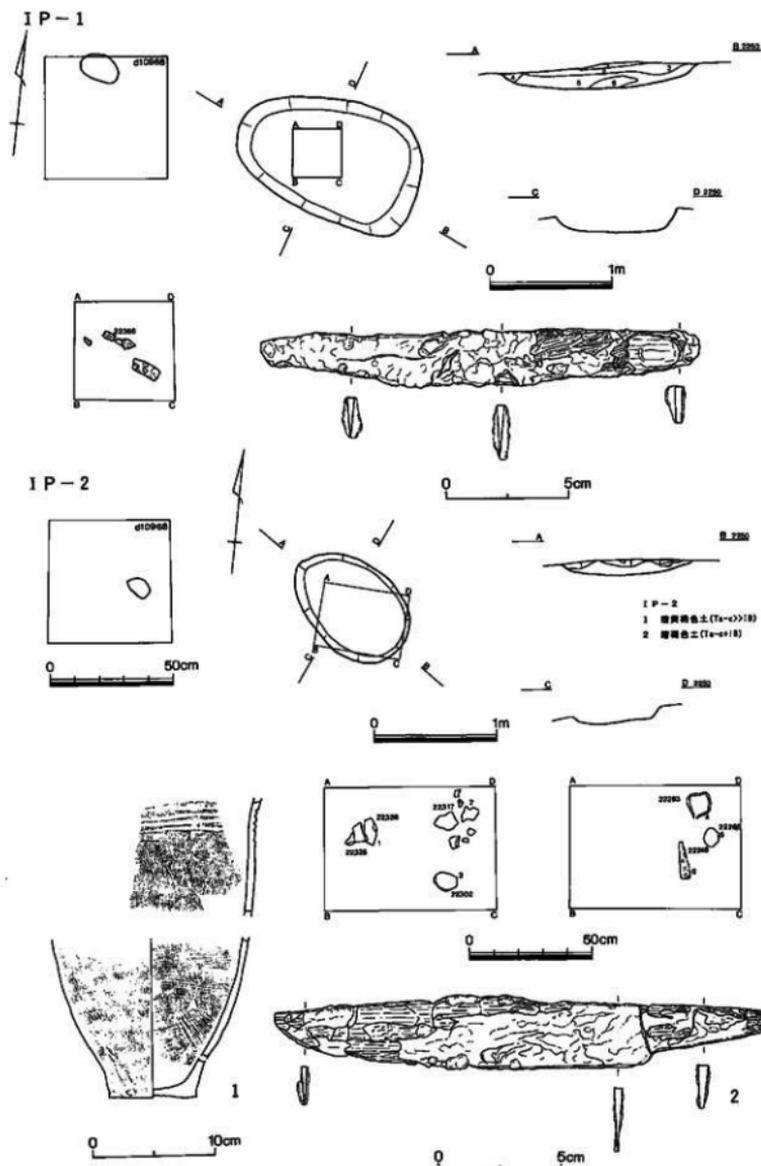
規模 1.00/0.72×0.56/0.40×0.16m

特徴 IIH-6の覆土を掘り下げる段階で確認されたものである。礫や土器などの遺物は全く見られなかったが、IIH-6の覆土を掘りこんだピットであることがわかった。土層はTa-c層を含んだI B層で単純な堆積であった。床面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかであった。

IP-6 (図III-3)

位置 d-108-94 平面形 不明

規模 0.60/--×--/--×0.52m



图III-2 IP-1·2

(2) 遺物集中

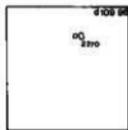
調査区設定の基本杭周辺に残ったI B層から検出されたものである。

d-109-96区においてフレイク・チップの集中と骨片の集中が見られた。いずれも、I B層上層の出土で、伴う遺構は見られなかった。

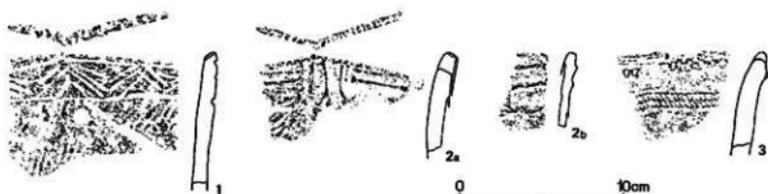
3 遺物

(3) 土器

1はV群C類土器である。口唇に縄文がつく、口唇直下と口縁に横位の沈線が施され、その間には連続山形文がある。2・3はVI群土器である。2は口唇に刻目、口縁貼付文が施される。3は口縁に貼付文があり、その上に刻目が施されている。原体はRLである。



図III-4 遺物集中



図III-5 包含層の土器

表III-1 I黒層の遺構一覧

遺構名	位置	確認面における(m)		底面における(m)		最大深 (m)
		長軸長	短軸長	長軸長	短軸長	
IP-1	d-109-67・68	1.60	1.00	1.20	0.72	0.16
IP-2	d-109-68	1.08	0.72	0.88	0.60	0.16
IP-3	c-109-03	1.00	(0.40)	0.80	(0.24)	0.20
IP-4	c-109-04	0.72	0.64	0.48	0.40	0.12
IP-5	c-109-04	1.00	0.72	0.56	0.40	0.16
IP-6	d-108-94	0.60	--	--	--	0.52

表III-2 遺構出土遺物一覧

名称	数量
土器 III群 b-3類	3
IV群 a類	3
V群	20
土器 計	26
石鏃	2
スクレイパー	2
軽石	33
フレイクチップ	22
礫・礫片	48
石器等 計	107
刀子	2
総 計	135

表III-3 包含層出土遺物一覧

名称	数量
土器 V群	2
VI群	2
土器 計	4
フレイクチップ	537
石器等 計	537
総 計	541

表III-5 I黒層掲載土器一覧

図版番号	分類	グリッド	層位
図III-5-1	V群	c-108-22	1
図III-5-2 a	V群	c-108-23	1
図III-5-2 b	V群	c-108-23	1
図III-5-3	V群	排土	1

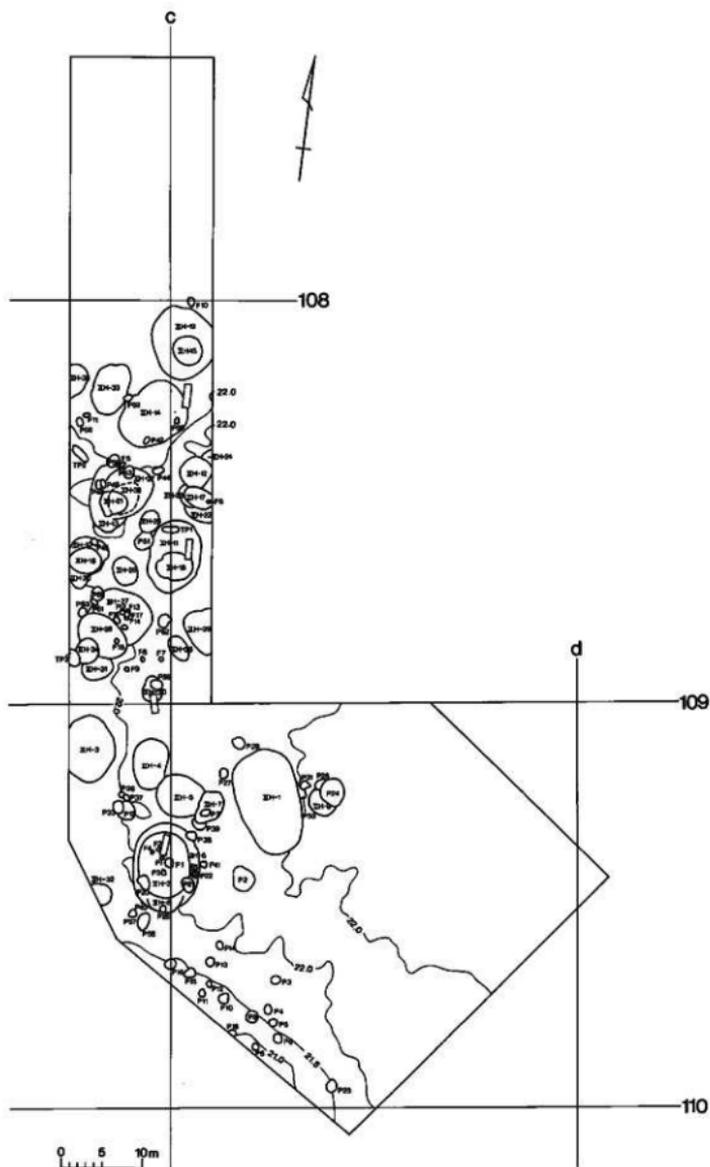
表III-4 遺構掲載土器一覧

遺構番号	図番号	分類
IP-2	図III-2-2	V群

IV 第II黒色土層の遺構と遺物

1 調査の概要

南北に延びた調査区の中央部を中心にして37軒の住居跡と53基のピット、3基のTピット、焼土が17ヶ所集中的に検出された。住居跡同士の重複は8ヶ所におよび、この内「入れ子」状に2軒重なる形で検出されたものが3ヶ所あったことはこの遺跡の特徴の一つとして上げられる。また、調査区南側では、縄文時代晩期のもと思われる土壌群が標高22mから21mの斜面の間で14基確認された。竪穴住居を中心とした遺構の大半は標高22mの高さに集中しているが、緩やかな傾斜が認められる調査区北側と張り出し部分の南東部分では遺構が全く認められなかった。集落としての遺跡の範囲を考えるに、調査区の中央東側と西側に展開する可能性が考えられる。



図IV-1 II黒層の遺構位置図（等高線はTa-d上面）

2 遺構

(1) 住居跡

IIH-1 (図IV-2~7)

位置 d-109-62・63・71・72・73・81・82

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 13.40/12.80×7.80/7.20×0.82m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層の上面を精査した段階でd-109-72区を中心とした区域のII B層がかなり広範囲にわたって落ち込み、深さにしても最大40cmの落ち込みを確認した(図IV-2)。かつ、その周縁が盛り上がり、特に南側においてはII B層の落ち込み面との比高が60cmをはかるほどの高まりを確認した。その規模や形状から大型遺構の存在が予想されたため、II B層の落ち込みにしたがって、南北に1つと東西に2つのベルトを設定し、床面と壁面の確認、検出作業を行なった。その結果、Ta-d₁層にまで到るしっかりとした掘り込みを持つ住居跡であり、他の遺構との重複はほとんどないことを確認した。(図IV-3)

土層は比較的単純で、厚いII B層の下に二枚の茶褐色土の覆土が堆積している。また、東側の壁際には流れこみ状の支笏火山灰の堆積が認められた(図IV-5 spfl)。掘り込み開始面はII B層下面である。

壁の周縁に堆積する掘上げ土は、約2~5mの幅で住居跡をとりまくようにしてあるが、中央東側と西側に堆積のきわめて薄い部分が見られ、この部分が出入口であった可能性がある。掘上げ土の最大層厚は約30cmで外側に向かうにつれて薄くなり、覆土の上に流れこんだもののみみられる。隣接するIIH-2やIIH-9の覆土にも流れこんでいる。

付属ピット 柱穴状の小ピットは74個検出された。そのうち、壁際で検出された規模の大きなピット、HP1~8が支柱穴と考えられるが、配列に規則性は認められない。断面形は先端が丸みをもつものと、細くなるものがある。

床面 Ta-d₁層を約20cmほど掘り込んで、堅くしまりのよい床面をつくっている。ほぼ平坦であるが、南側に向かって徐々に高くなる、緩やかな傾斜が認められる

壁 Ta-d₁層以下の掘り込みがしっかりしていたので、この面の立ち上がりがそのまま住居の壁面として確認することができた。床面と壁との境ははっきりとしており、急な立ち上がりである。

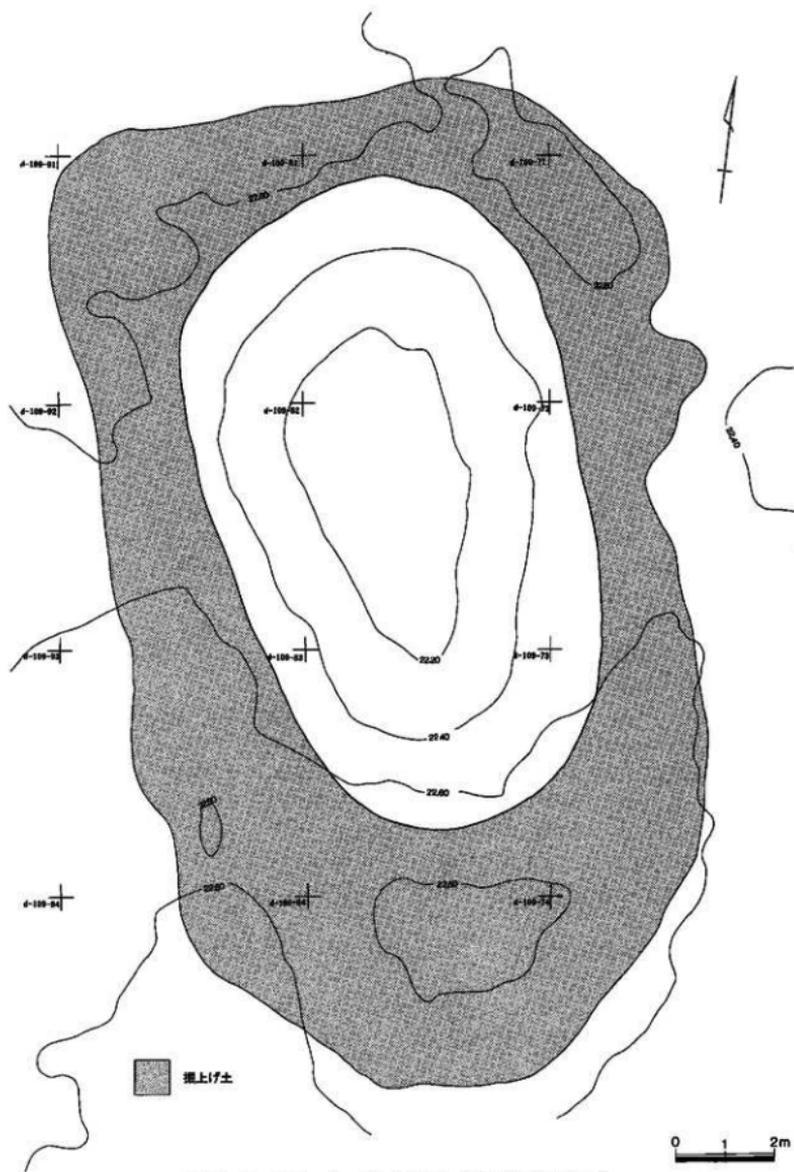
炉跡 住居跡の長軸上に3基が並んで確認された。北寄りに一つ、中央部に二ヶ所近接していた。いずれも掘込みは浅く、焼土の堆積は7~10cmを測った。特徴的であるのは支笏火山灰を用いて作られた炉であることで、どのような目的で用いられたかは不明である。支笏火山灰は砂粒状化し、厚さは5cmある。

遺物の出土状態 覆土中の遺物に比べ、床面出土の遺物は少なかった。南側には土器の一括出土が見られた。

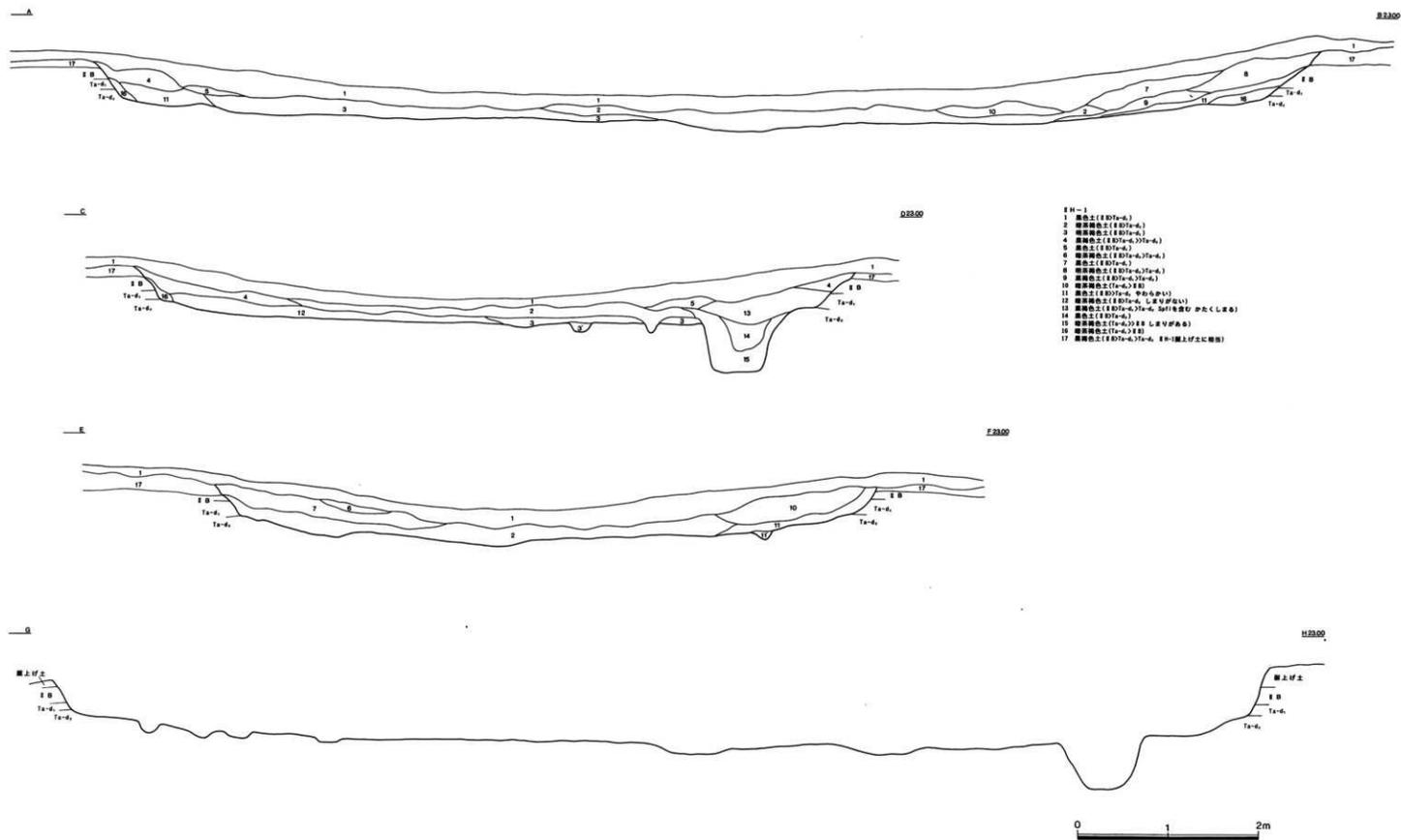
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。また、柱穴HP-5の覆土より出土した木炭の¹⁴C年代測定では、B.P.3030±80年という結果が出ている。

測定番号	資料番号	名称	出土地点	¹⁴ C年代(BP)
KSU-2461	木炭No 5	IIH-1		2750±140
		柱穴(HP-5)覆土		

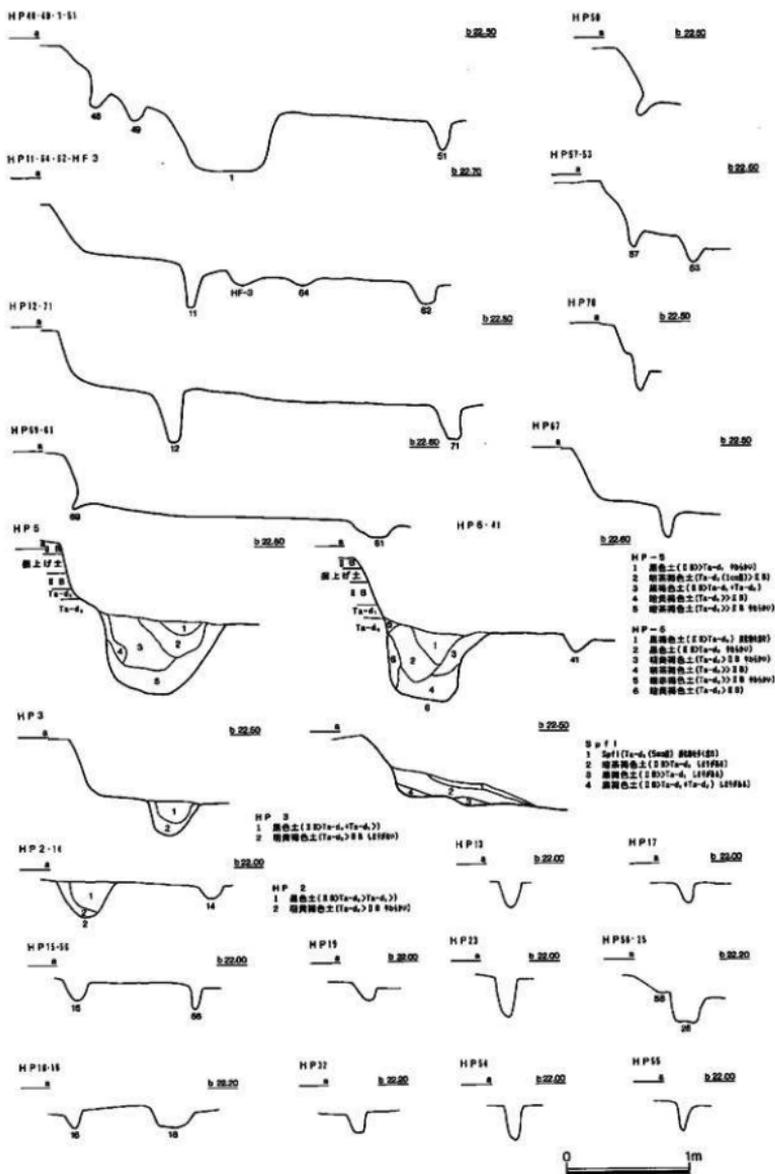
遺物 32・34・43~46・74・75はⅢ群b-2類土器、1~20・22~31・33・35~42・47~56・58~73・



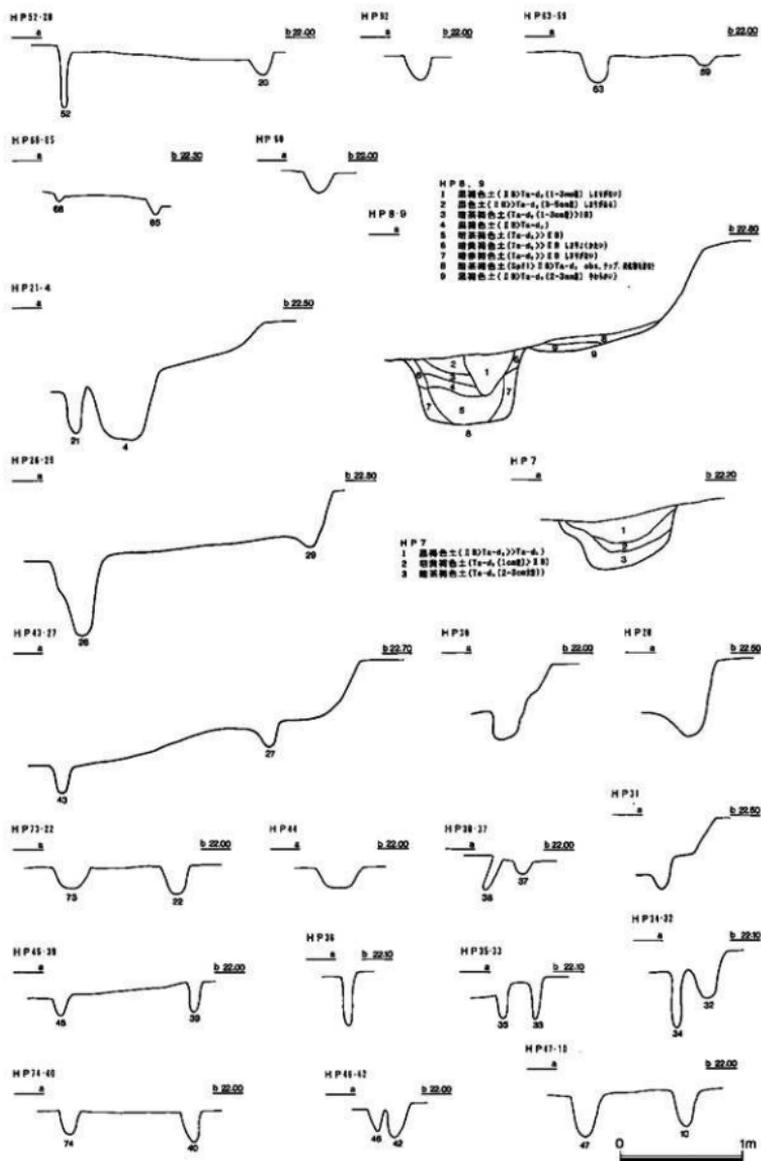
図IV-2 IIH-1 上面の地形（等高線はII黒上面）



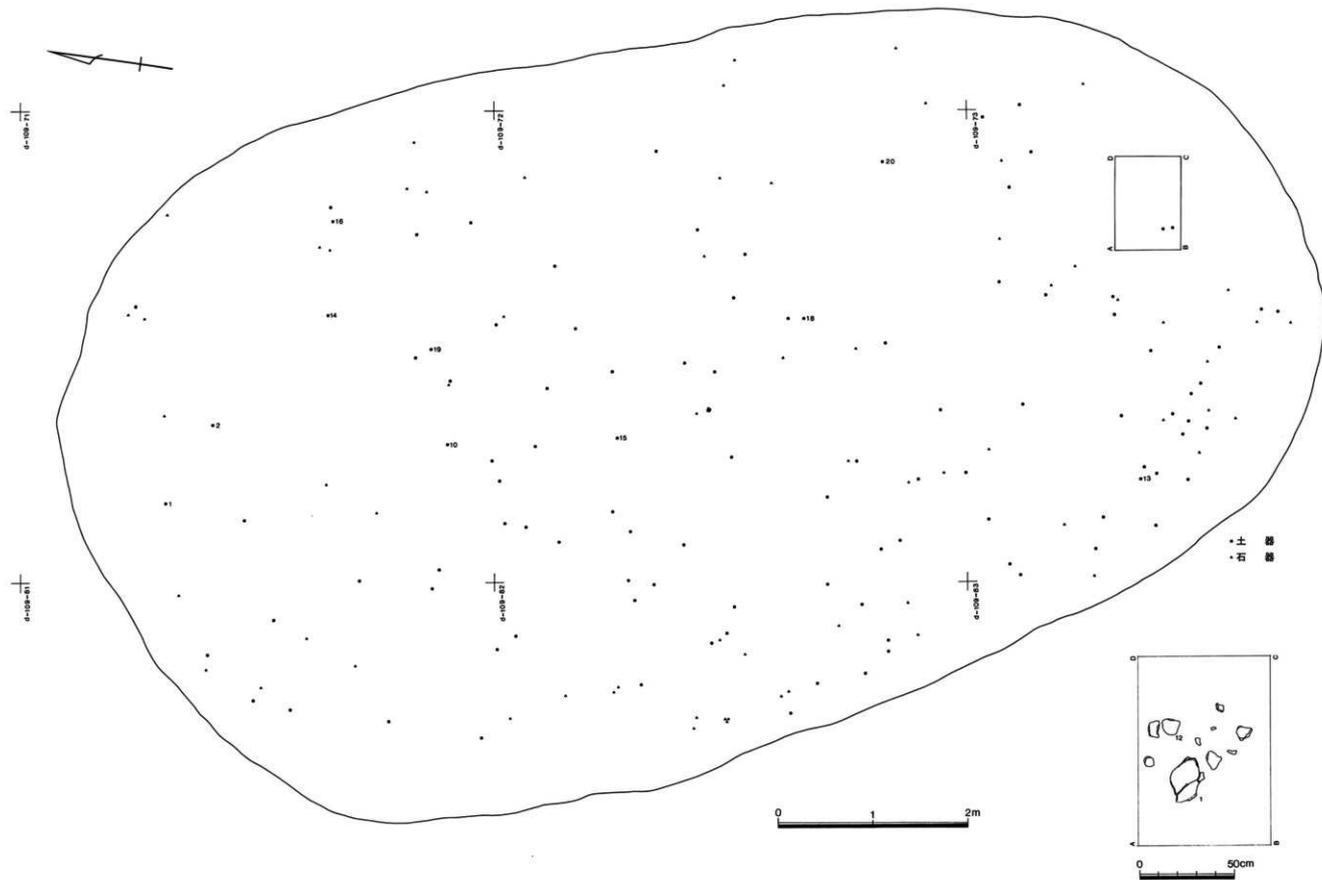
図IV-4 II H-1



図IV-5 II H-1



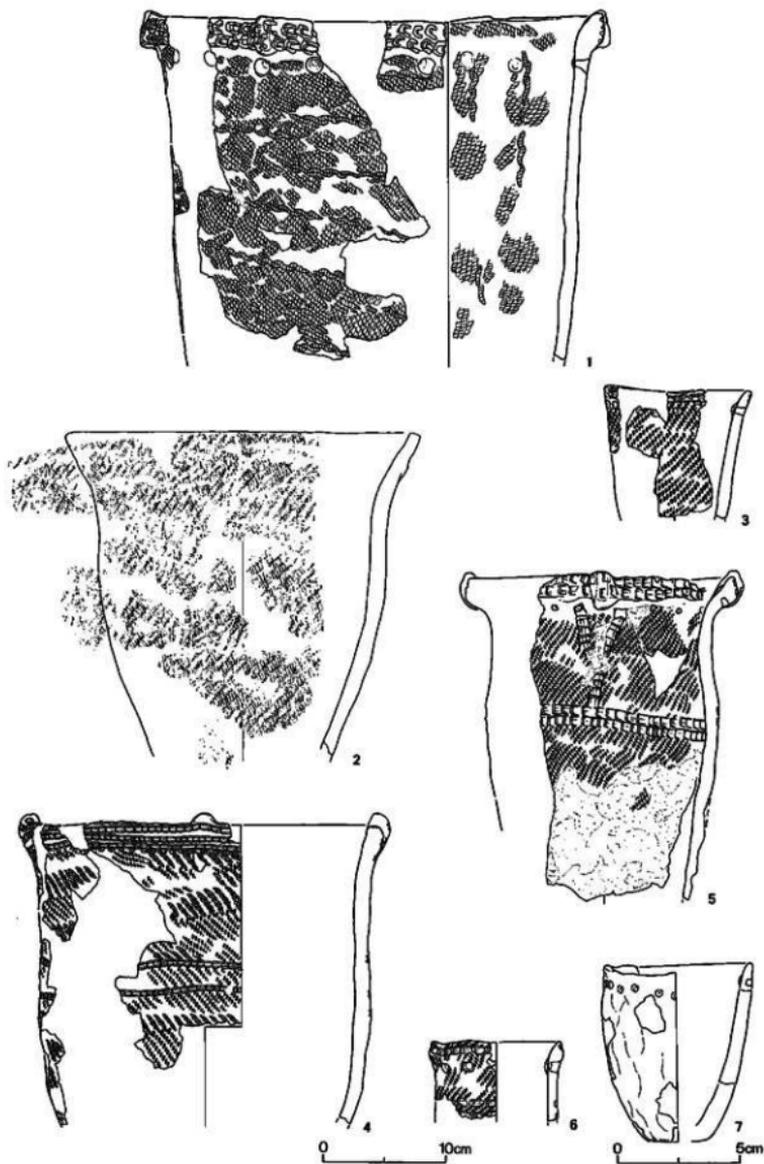
図IV-6 IIH-1



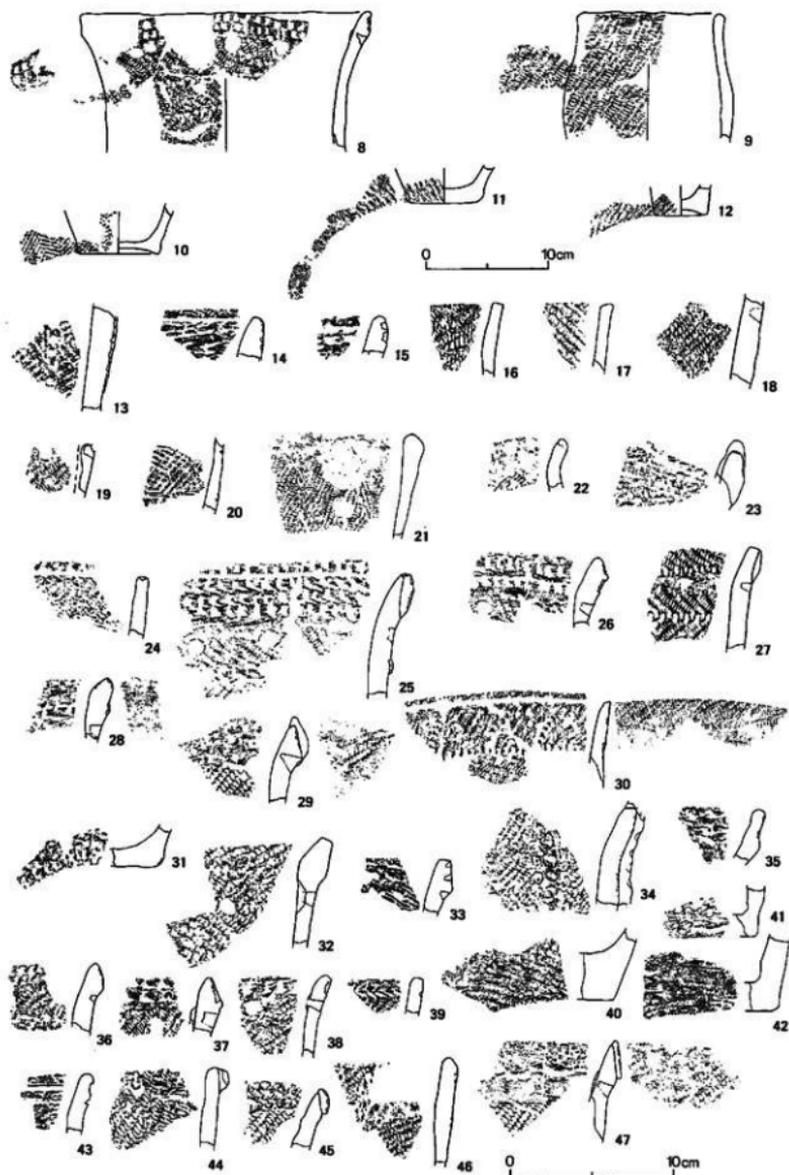
図IV-7 II H-1 出土遺物の位置

76~79・81はⅢ群b-3類土器、21・57・80はⅣ群a類土器である。1・3~7は円形刺突文をもつものである。1は口縁肥厚帯に貼瘤と半截竹管状工具による刺突文がつく。原体はRの縄を結節したものである。内面にも縄文が施されている。内外面には赤色顔料の付着がみられる。3は口縁があまり肥厚しない。浅い押し引き文がつく。原体はLRである。内面は凹凸がある。4は口唇に山形突起がつく。口唇・口縁肥厚帯・体部には押し引き文が施されている。地文はRとRLの縄を結束した原体による斜行縄文である。5は口縁肥厚帯に貼瘤がつく。肥厚帯と体部、さらにその間には押し引き文が施される。内面は凹凸が激しい。6は口縁肥厚帯と体部に押し引き文がつく。地文はLR原体の斜行縄文である。7は手ずくねのミニチュア土器である。器表面に指頭痕がつく。2は口唇断面が四角い。口縁貼付帯の中央部は擦り消されており、浅く凹む。地文は0段多糸LRの原体による斜行縄文である。内面は丁寧に調整されている。胎土には多量の小石が含まれる。

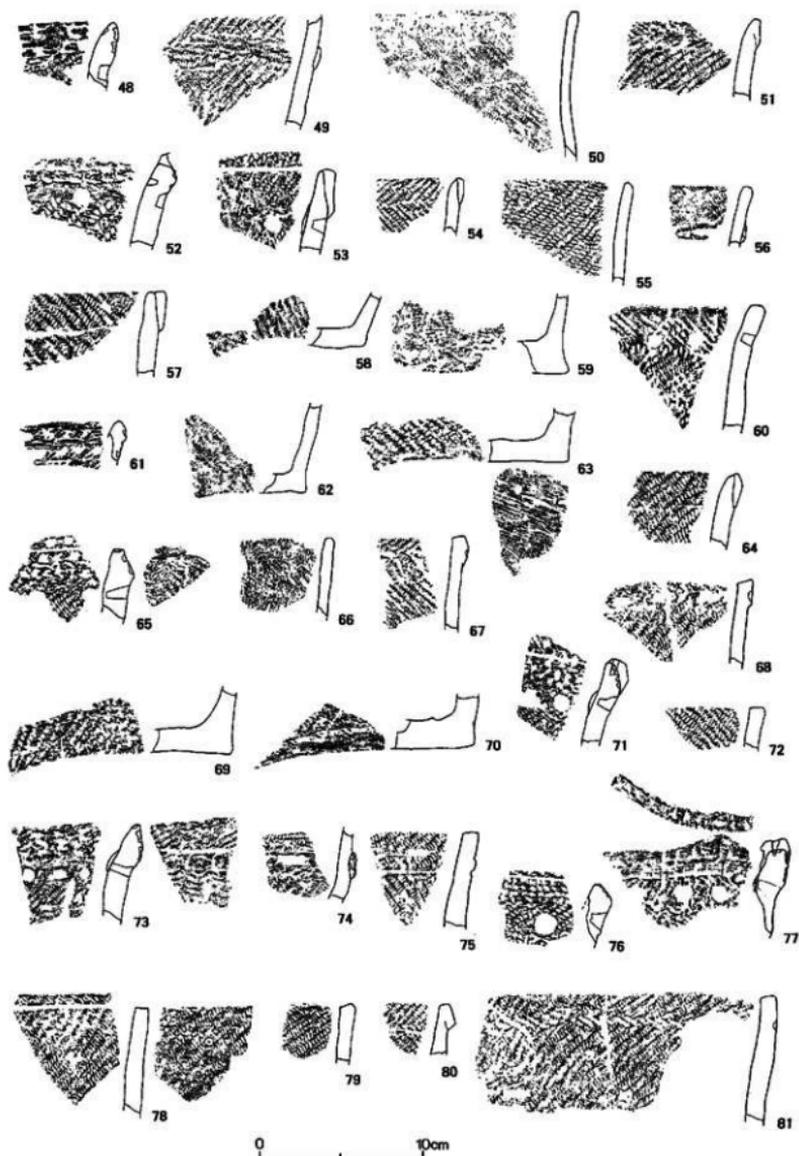
1~6は石錐である。7は頁岩製の石錐である。8はつまみ付きナイフ、9~14はスクレイパーである。15は石斧、16はたたき石である。17は砥石片で、砥面は4面である。18は垂飾、19は小玉である。いずれも橄欖岩製である。



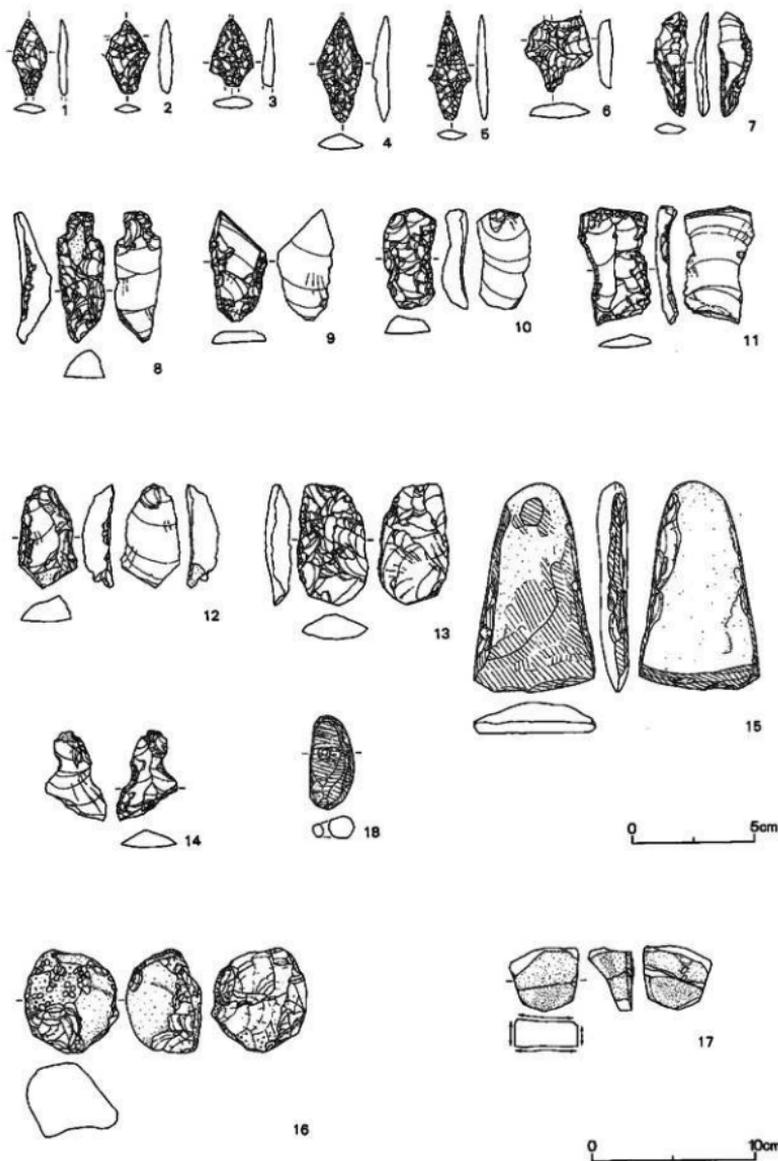
図IV-8 IIH-1 出土遺物



图四—9 II H—1 出土遺物



図IV-10 IIH-1 出土遺物



圖IV-11 II H-1 出土遺物

IIH-2 (図IV-12~15)

位置 d-109-93・94・c-109-04・05

平面形 南北を長軸とする楕円形

規模 8.20/7.80×6.48/6.20×0.79m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面を精査したところ、台地の南端より6m入った所で大きなくぼみを確認した。この遺構は既に試掘溝の土層観察により発見された遺構である。Ta-c層を除去した後、このくぼみの北側、北東側、北西側にもII B層上面で大きなくぼみとして遺構が幾つか確認されており、それらとの新旧関係を土層で確認する為にc109-04のグリット杭をくぼみの中心とし、そこから放射状に北西側、北側、北東側に存在する遺構にかかる様に土層観察用のベルトを掛け調査を行った。

先ずベルトに沿うトレンチを入れ、土層を確認する。II B層の下から、II B層にTa-d₁とTa-d₂を含む暗褐色のIIH-6の覆土を確認する。更に掘り下げていくと、くぼみの中央部分から更にTa-d₂を多く含む暗黄褐色の覆土があり、土層観察の結果、IIH-6の下にもう一軒住居が存在したことが判明し、IIH-6によって切られた古い住居址であることが確認された。IIH-2の構築した面は既にIIH-6によって掘られ無くなっている。掘り上げ土は住居の主に南側に集中して捨てられており、IIH-6の上場南側はIIH-2の掘り上げ土によって小高くなっている。そして住居をとりまくように北側へ薄い層として、わずかに確認される。

付属ピット IIH-6と重複していることもあり、柱穴に関しては新旧関係を見極めるのは困難であったが、IIH-2の柱穴は、壁から約50~70cm内側に入った所を一周し、深く、Ta-d₂を多く含む覆土の柱穴で、短いもので10cm、長いものでは50cmという深さのものまであり、III B層、En-aローム層にまで達するものがある。形状は先端の尖った杖状のものである。

床面 床面はほぼ平坦で、Ta-d₂層を掘り下げて作っている。北側にわずかにテラス状のものが確認されている。そして、住居址のほぼ中心部に粘状化した炭化物が確認された。

壁 全体的にやや急に立ち上がるが、南側の一部はIIH-6によって壊されている部分がある。

炉跡 住居中央より西南側に、地床炉と思われる焼土跡を検出したが、焼け跡のみの痕跡しか検出されなかった。

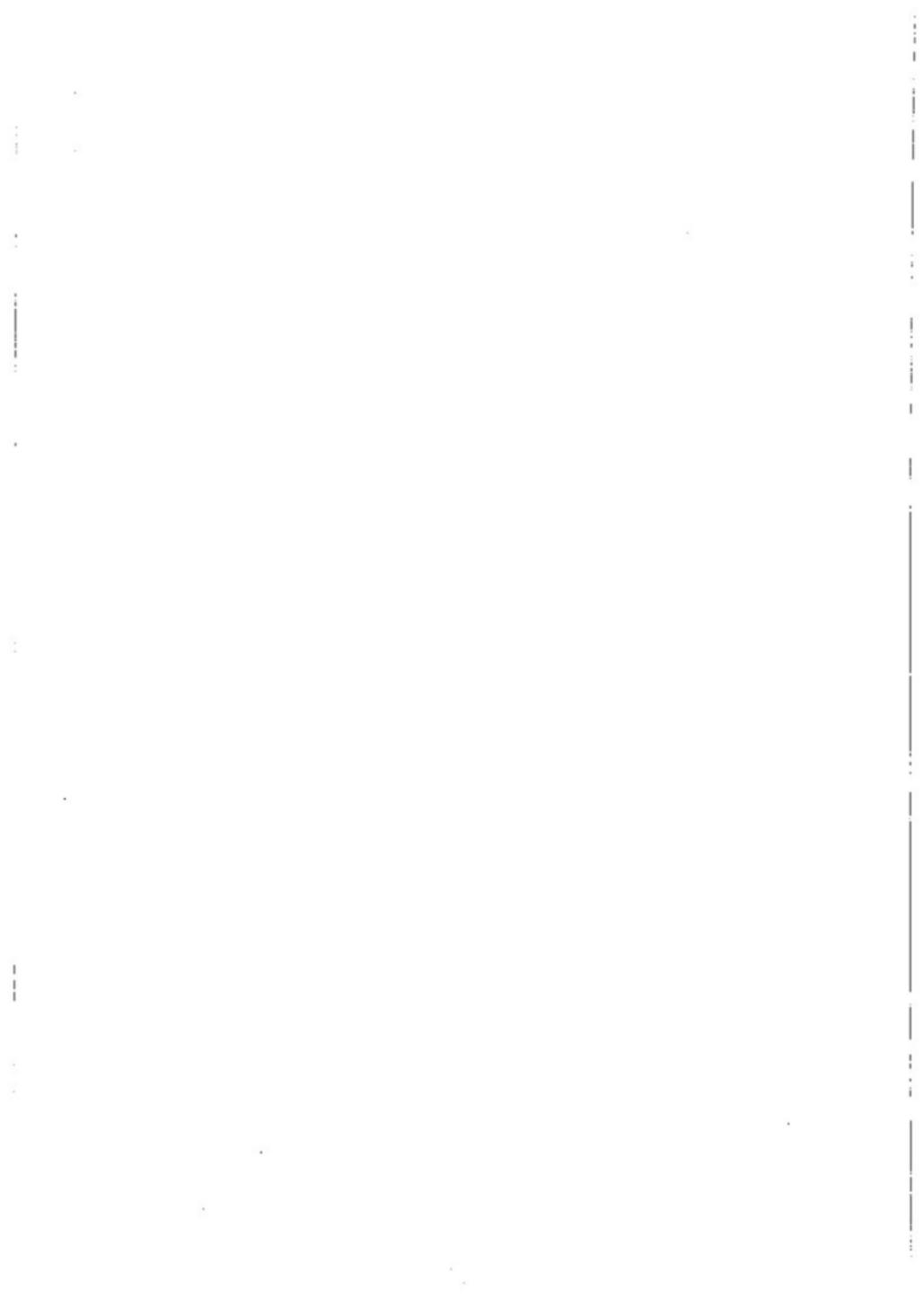
遺物の出土状態 覆土中の遺物に比べ、床面出土の遺物は少なかった。

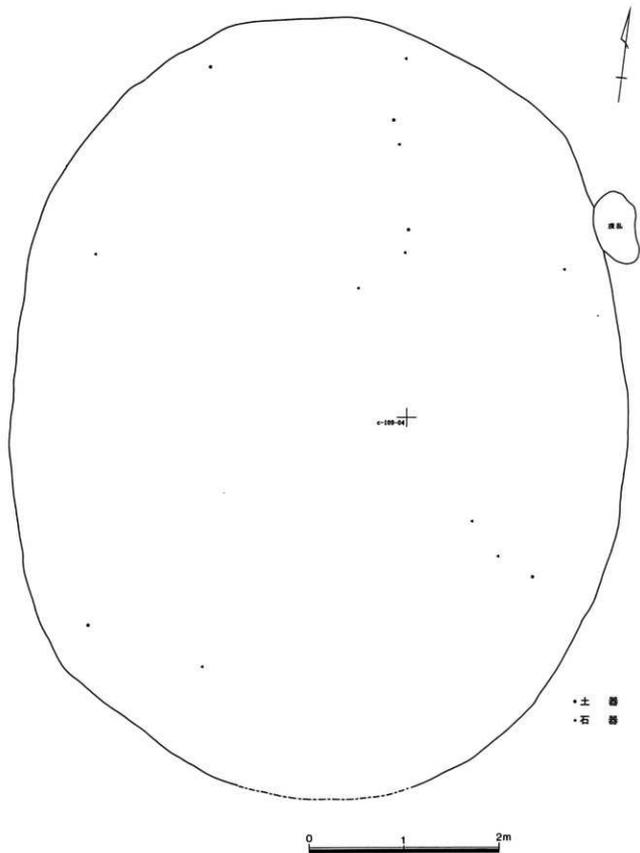
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。重複関係から見ると、IIH-6よりも古い。

遺物 7~10はIII群b-2類土器、1・2・4・5・11~15はIII群b-3類土器、3・6はIV群a類土器である。7は沈線が施されている。8・9は口唇に、10は口唇と口唇直下に刺突文がほどこされる。1・2・11~13は口縁に円形刺突文をもつものである。1は口唇に山形突起がつき、刺突文が施されている。口縁肥厚帯には押し引き文がつく。地文はRLとLR原体を結束した羽状縄文で、口縁内面にも縄文が施されている。2は口唇と口縁肥厚帯に押し引き文が施されている。口縁肥厚帯には貼瘤がつく。地文は結束一種LR原体の斜行縄文である。11は口唇に刺突文が、12には口縁に押し引き文がつく。13は口縁が無文で肥厚しない。4・5は縄文のみのものである。14は無文のミニチュア土器で、15は底部である。3は口縁がやや開く深鉢形土器である。波状口縁で頂部下の口縁には刺突文がつく。地文を施文後に調整されているため節が消えている部分がある。地文はRLとLR原体によるやや乱れた羽状縄文である。底部は無文である。6は口縁が肥厚している。斜めに綾絡文がつく。

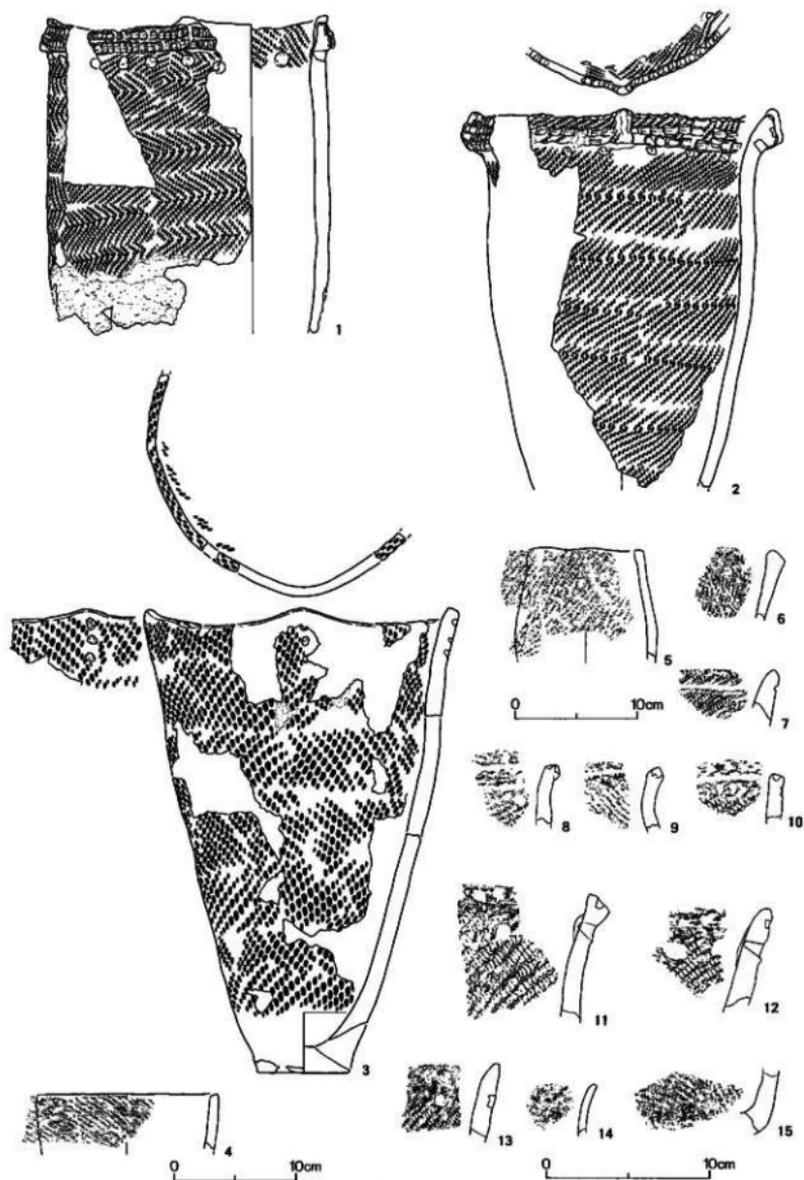
1~4は石鏃である。5~8はポイントまたはナイフ、9は石斧である。11は砥石で、砥面は2面

である。

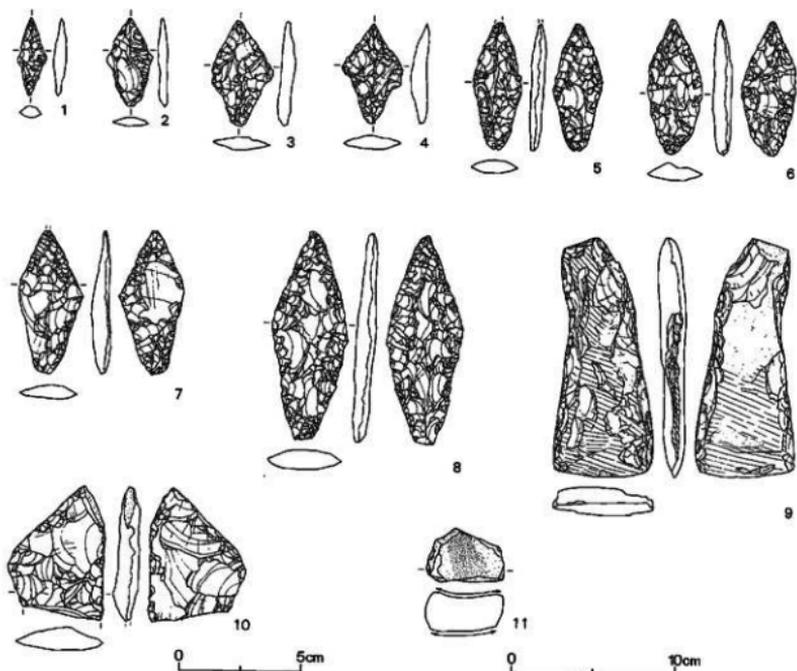




図IV-13 II H-2 出土遺物の位置



圖IV-14 II H-2 出土遺物



図IV-15 II H-2 出土遺物

IIH-3 (図IV-16~21)

位置 c-109-10・11・20・21

平面形 南北を長軸とする楕円形と推測される

規模 8.40×(5.04)/7.40×(4.00)/0.52m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去後、II黒層上面のくぼみとして確認された。c-109-21区を中心に、西側が発掘区域外に及んでいる。トレンチは西側境界に沿うもの、IIH-4に向かうもの、IIH-2に向かうもの三本を設定した。その結果、Ta-d₁層を掘り込んだ床面と壁の立ち上がりが確認された。床面には炉跡と柱穴が認められ、現存長軸が8mを超える大型の住居跡であることが判明した。床面よりも高いレベルの炉跡も存在することから、IIH-3のくぼみを利用した住居があった可能性もある。柱穴は壁柱穴のほかに、床面からも多数確認されている。この中には不規則な傾きや配列のものがあり、重複した住居の柱穴が含まれている可能性がある。周囲のII黒層中からはTa-d₁とTa-d₂をブロック状に混入した掘上げ土が確認された。掘上げ土は遺構の南側に厚く堆積する傾向があり、IIH-2との間では低いマウンド状となっている。住居跡の掘り込み面は、掘上げ土等の状況からII黒層中位と考えられる。

付属ピット 柱穴あるいは付属ピットが48か所確認された。壁面をめぐるもの、壁の肩に位置するものの、壁とほぼ平行して床面に環状に配されるもの、焼土の周辺に位置するものなどがある。床面には壁柱穴と対になる柱穴もある。HP36・43~48は壁面にほぼ等間隔をめぐる柱穴であり、斜めに掘り込まれている。壁柱穴は径25cm前後と大きく、深さは30cm前後のものが多い。床面の柱穴は径17cm前後のものも多く、深さは10~25cm前後とまとまりがない。ほぼ垂直に掘り込まれたものが多い。先端部形状には平坦なもの、丸いもの、尖るものなどの種類がある。HP22・26・32等のように先端が尖るものは打ち込み柱と思われる。HP-44とHP-48は北東壁の張り出し部に掘り込まれている。また、HF1の西側には、炉に関わる深さ10cm程のHP-48が存在する。この覆土には僅かながら、炭化物の細片が認められる。HP-18・28等のように斜めに打ち込まれたもの、掘り込みの浅いもの、炉の周囲をめぐるもの等は覆土中の住居跡の柱穴とも考えられる。

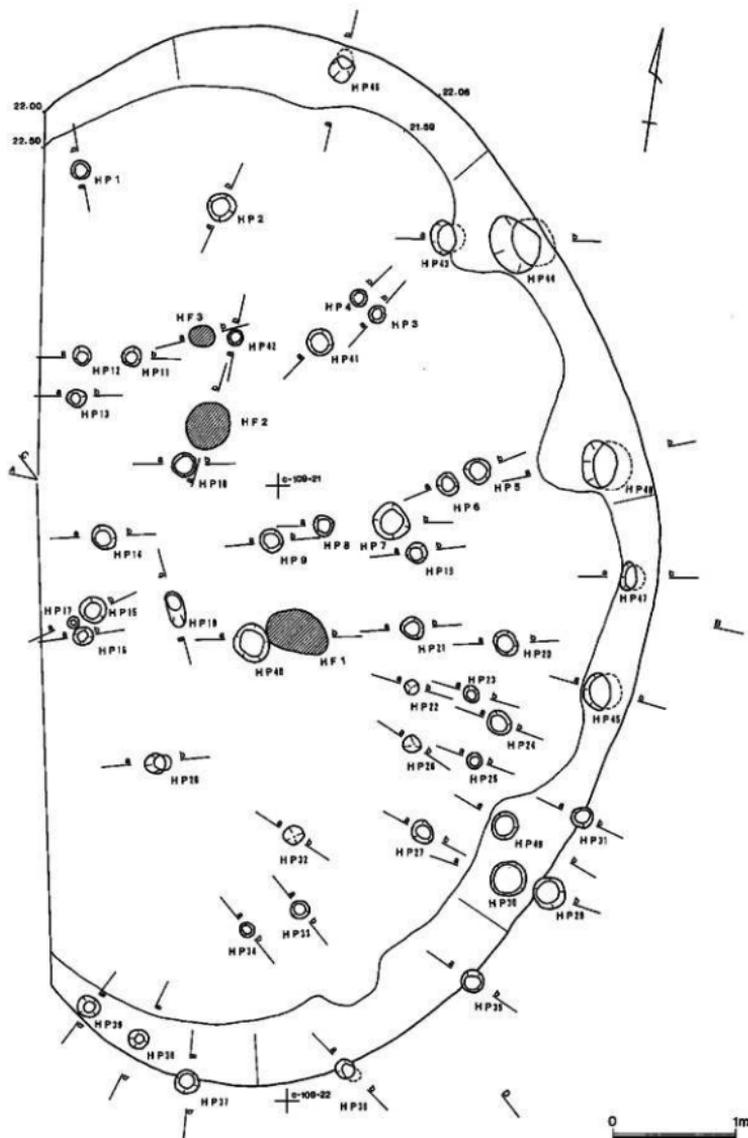
床面 Ta-d₂層を深く掘り込んで作られており、固くしまっている。壁付辺ではゆるやかに傾斜しているが、中央部ではほぼ平坦である。北東の壁に2か所の張り出し部が認められる。壁柱穴と床柱穴の配列などから入口構造とも考えられる。

壁 壁の掘り込みは北側や東側では床面との境界が明瞭で、やや急に立ち上がる。南側はテラス状の高まりがあり、床面からややゆるやかに立ち上がる。

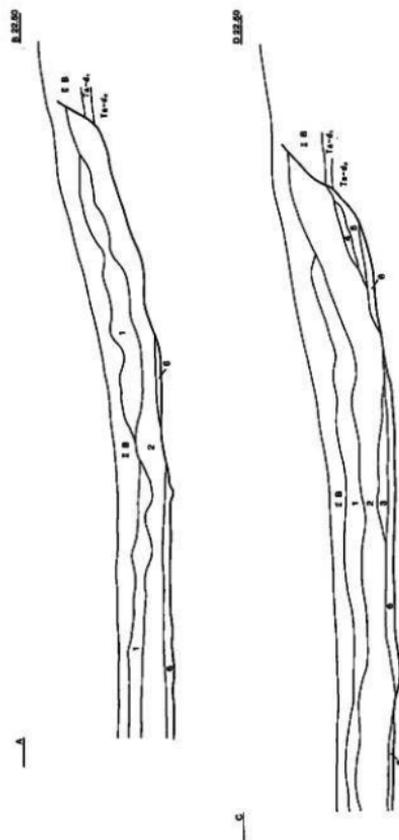
炉跡 HF-1、HF-2、HF-3の3か所が確認された。いずれの焼土も4~6cmの薄いレンズ状の堆積である。HF-1はIIH-3の床面の炉跡であり、竪穴のほぼ中央に位置する。層中にはspflの薄層が介在し、炭化物の細片や粉砕した骨片が認められた。HF-2とHF-3は検出レベルがほぼ同じ覆土中の炉跡である。HF-1よりも15cm程レベルが高く、竪穴中央より北側に位置する。両炉跡はIIH-3の埋没後にそのくぼみを利用した住居跡のものと考えられる。

遺跡の出土状態 床面出土の遺物は少ない。覆土や掘上げ土から土器片の他、石鏃や石斧片が多い。この他、ポイントまたはナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、くぼみ石、砥石、台石が出土している。覆土上部から出土したIV群a類土器は壁開口の掘上げ土のものと接合した。覆土中位の南壁際から出土したIII群b-3類(北筒式)土器の大型破片は、IIH-2出土の土器片と接合した。他にも掘上げ土と接合する関係のある遺跡が少なくない。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期末III群b-3土器の時期と考えられる。(越田、田口)



図IV-16 IIH-3



ⅡH-3土層

- 1 黒色土 ($IB > Ta-d_1 + Ta-d_2$)
- 2 暗褐色土 ($IB > Ta-d_1 + Ta-d_2$)
- 3 明褐色土 ($Ta-d_1 + Ta-d_2 > IB + Ta-d_2$)
- 4 茶褐色土 ($Ta-d_1 + Ta-d_2 > IB$)
- 5 黒色土 ($IB > Ta-d_1 + Ta-d_2$)
- 6 明褐色土 ($Ta-d_1 + Ta-d_2 > IB$)

HP10 HP11
b.21.89



HP2
b.21.89

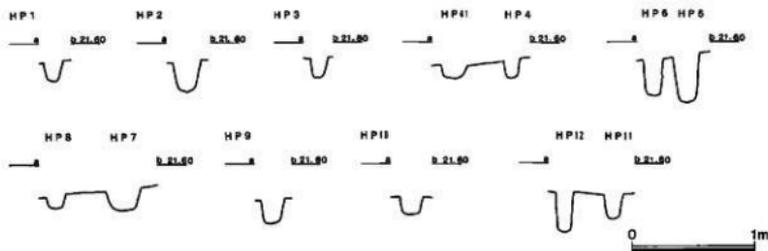


HP3
b.21.89

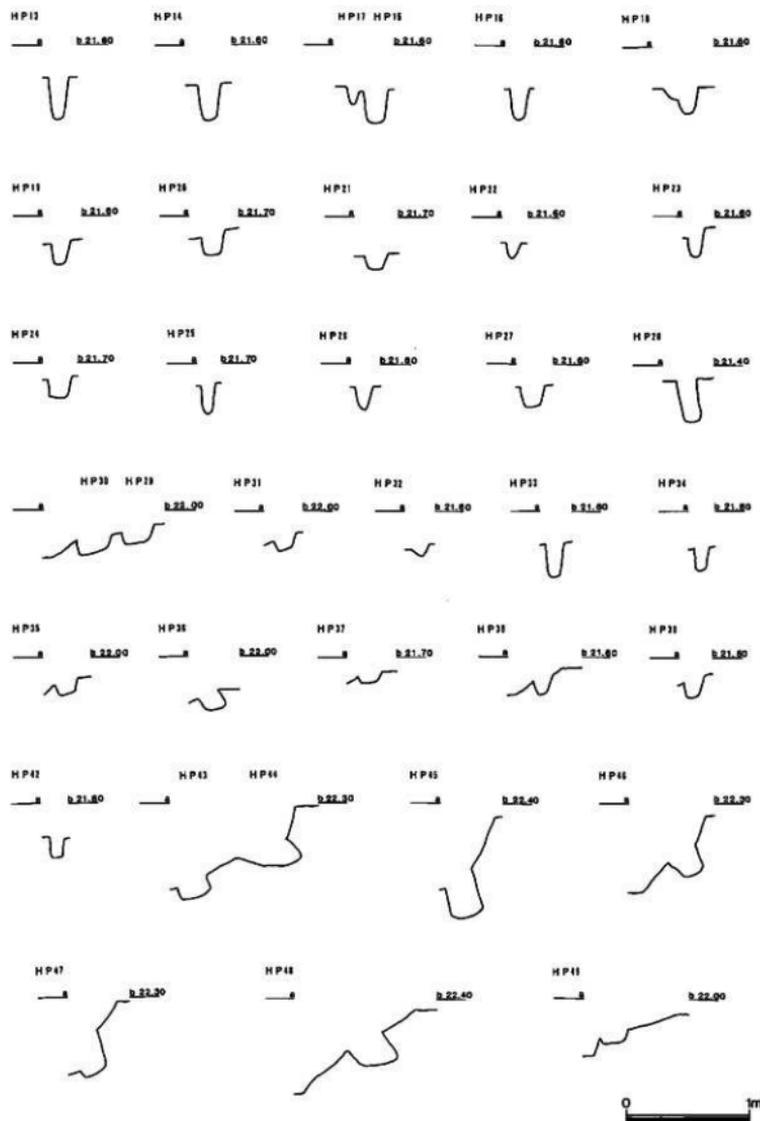


HF

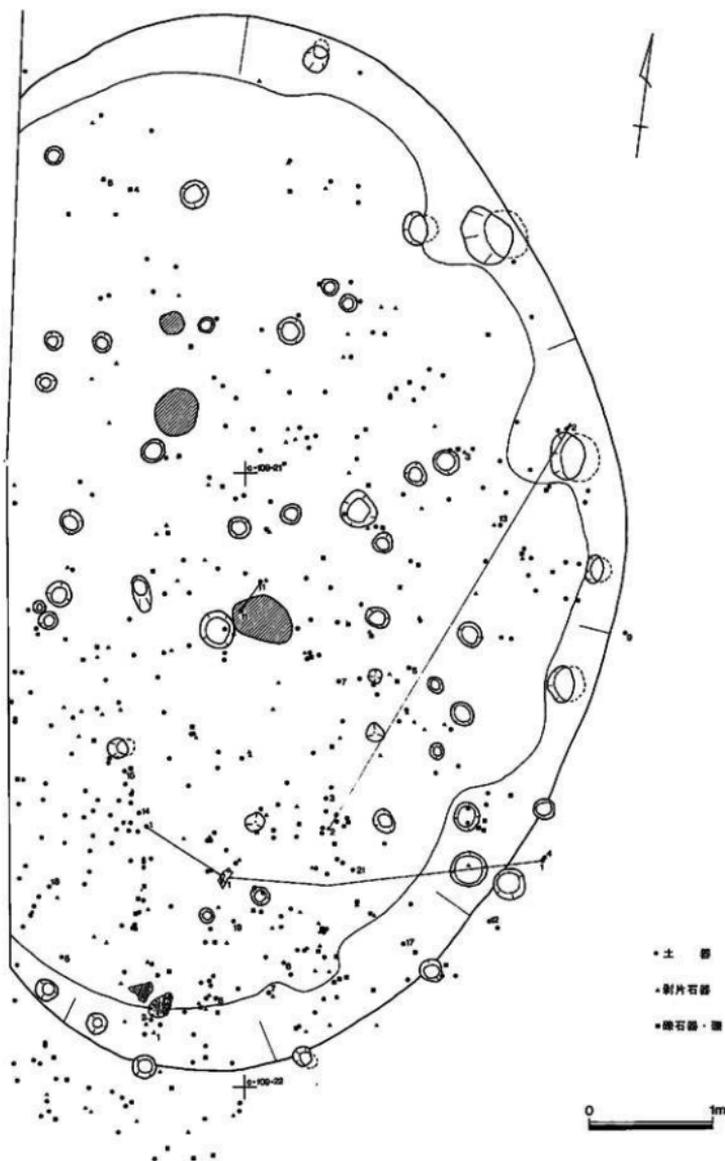
- 1 灰褐色強土 ($SF11 > 炭化物 + 灰$)
- 2 黄褐色強土 ($Ta-d_1$ が銷滅を受け硬くしまったもの)
- 3 暗褐色土 ($IB > Ta-d_1 + Ta-d_2$)



図IV-17 ⅡH-3



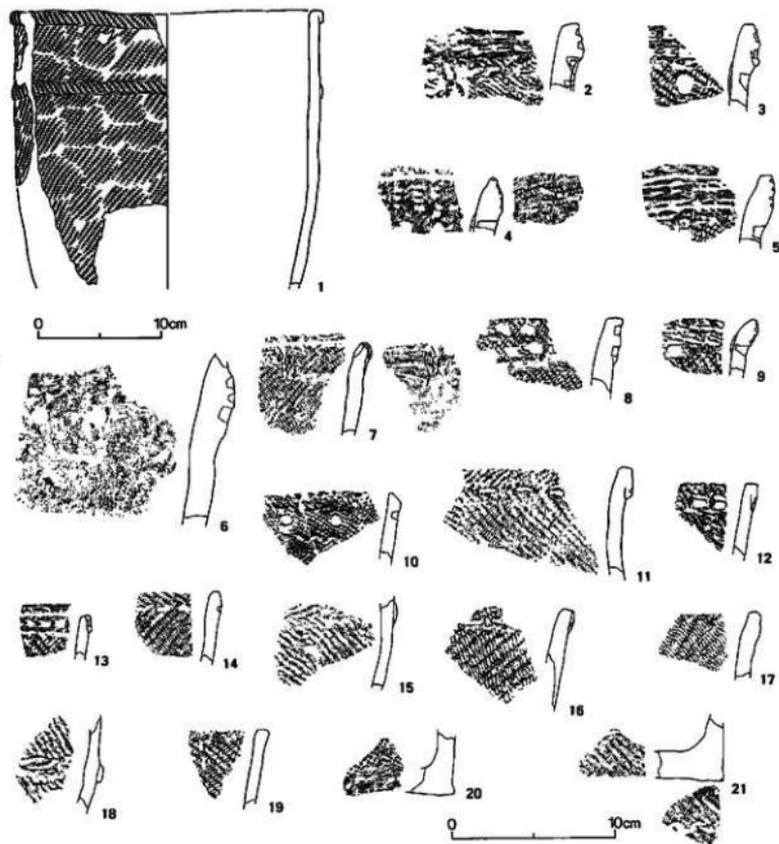
図IV-18 IIH-3



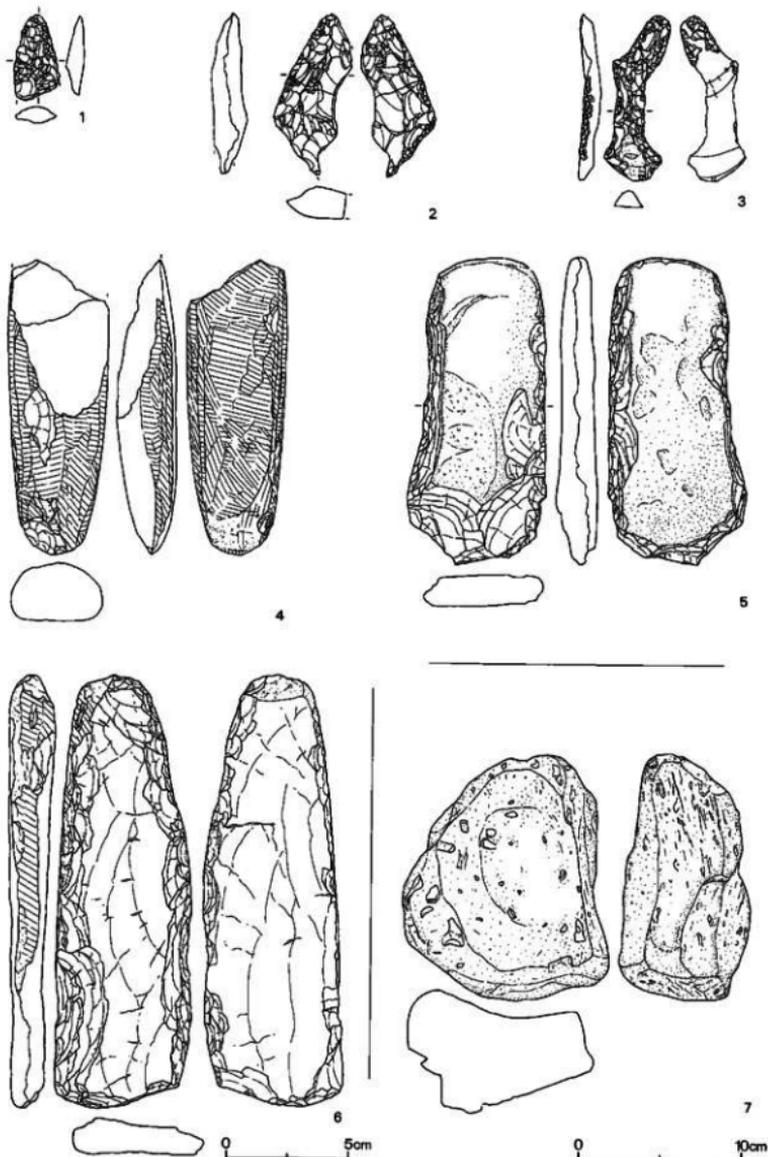
図IV-19 II H-3 出土遺物の位置

遺物 1はIV群a類土器である。1は口唇と体部に横環する貼付帯が付く。地文はRLの斜行縄文で貼付帯は横回転、他は縦回転で施文されている。2～21はIII群b-3土器である。2～6・8～10は口縁に円形刺突文をもつものである。2～6・8・9は口縁肥厚帯に押し引き文・刺突文がつく。2は縦位の貼付帯に刺突文がつく。4は内面にも縄文が付く。10は口縁の肥厚帯がなく、地文のみが付けられている。7は口縁に縦の縄文の圧痕が付く。内面には深い調整痕が付く。11～14・16は口縁の貼付帯に短刻文が付くものである。15・18は同一固体の可能性ある。R原体の縄文が施される。貼付帯上は斜回転、体部は縦回転である。17・19は貼付帯のないものである。19には浅い縦の刻みが付く。20・21は底部である。21は底面に縄文が付く。原体はRLの結束である。

1は石鏃である。2はスクレイパー、3は異形石器である。4～6は石斧片、7は軽石製の石皿である。



图IV-20 II H-3 出土遺物



図IV-21 II H-3 出土遺物

ⅡH-4 (図Ⅳ-22~26)

位置 c-109-00・01・02

平面形 南北を長軸とする下部のつおれた卵形である。

規模 6.40×4.40/5.68×3.60/0.48m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去後、c-109-01を中心にしたⅡ黒層上面のくぼみとして確認された。トレンチはⅡH-1とⅡH-3に向かって設定した。その結果、土層断面から炉跡と柱穴を確認でき、明瞭な壁の立ち上がりと硬くしまった床面から住居跡であることが判明した。掘り込み面はⅡ黒層中位と考えられる。床面はTa-d₃層を掘り込んだものである。切り合い関係は南東壁の一部がⅡH-5に壊されていることから、ⅡH-4はⅡH-5よりも古い住居である。また、覆土中に一括土器とそれに伴う径20cm程の炉跡が存在したことから、ⅡH-4のくぼみを利用した住居跡が重複していた可能性もある。床面にある多数の柱穴の一部はその住居に伴うものかも知れない。

付属ピット 床面からは浅い付属ピットや柱穴が55か所確認された。掘り込みの浅い付属ピットにはHP9・17・18・55・57などがあり、炉跡等に伴うものと考えられる。柱穴には壁際をめぐるものと浅いくぼみ周辺のものがある。壁柱穴はHP56のみである。径は12cm前後、深さ30cm前後のものが多い。特例としてHP14・19のみが径30cm、深さ80cmとなっている。先端部形状は、丸いものとほぼ平らものに分けられる。ほとんどの柱穴は垂直に掘り込まれており、壁際に位置するHP1・49のみが壁中央部に向かってやや傾いている。その他の柱穴様のピットは一段低いくぼみや炉の周辺に分布している。これらの中に重複した住居跡の柱穴が含まれている可能性もある。

床面 Ta-d₃層を20cmほど掘り込んで構築している。炉の周辺は周囲よりも一段低く掘り込まれており、床面が硬くしまっている。その掘り込みの外はほぼ平坦な床面となっている。

壁 全体的に床面からやや急に立ち上がる。南東側隅はⅡH-5によって壊されている。

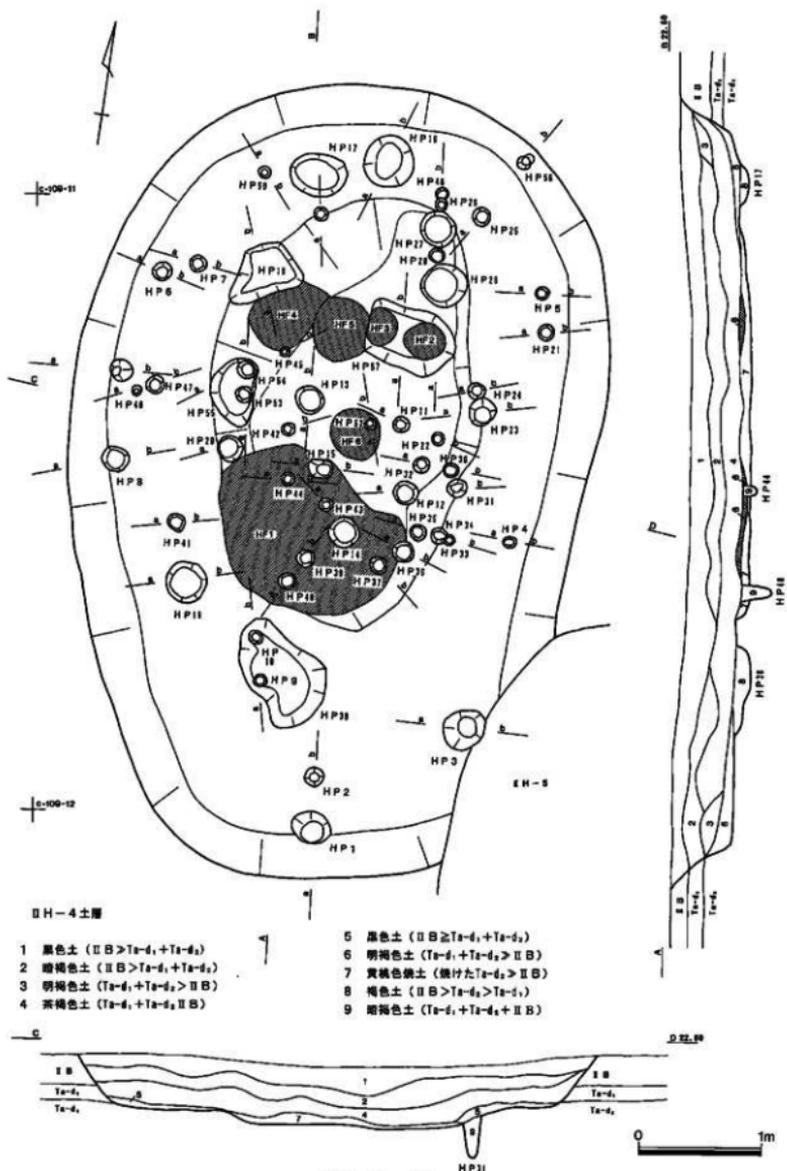
炉跡 6か所確認された。そのうち1か所は覆土中のものであった。床面の炉跡はHF1~5までの5か所が確認された。すべて一段低い掘り込みの上面に分布している。HF2~4は東西に並び中央よりやや北に、HF5は壁穴のほぼ中央に位置している。いずれも層厚が3~5cmと薄く、粉碎した骨片や炭化物の細片が含まれている。炉跡の中ではHF1の規模が大きく、160cm×122cmを計る。焼土の厚さは6~8cmで、獣骨片や炭化物細片を多量に含んでいる。

遺物の出土状態 覆土の遺物が多い。床面からは台石などが出土している。北側の覆土上位からはIV群a類土器(図Ⅳ-25-2)が一括出土し、それに混じって石斧片や石斧未製品が検出された。HF1の上面や周辺からはⅢ群b-3類土器(図Ⅳ-25-1)がまとめて出土し、傍らから石斧片が検出されている。柱穴内の覆土から出土した遺物も数点あり、HP17からは鏢が3点、HP-27・30・32からは石鏃やスクレイパーなどが出土している。その他は覆土から石鏃、石鏃、ポイントまたはナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、石斧片、たたき石、砥石等が出土している。

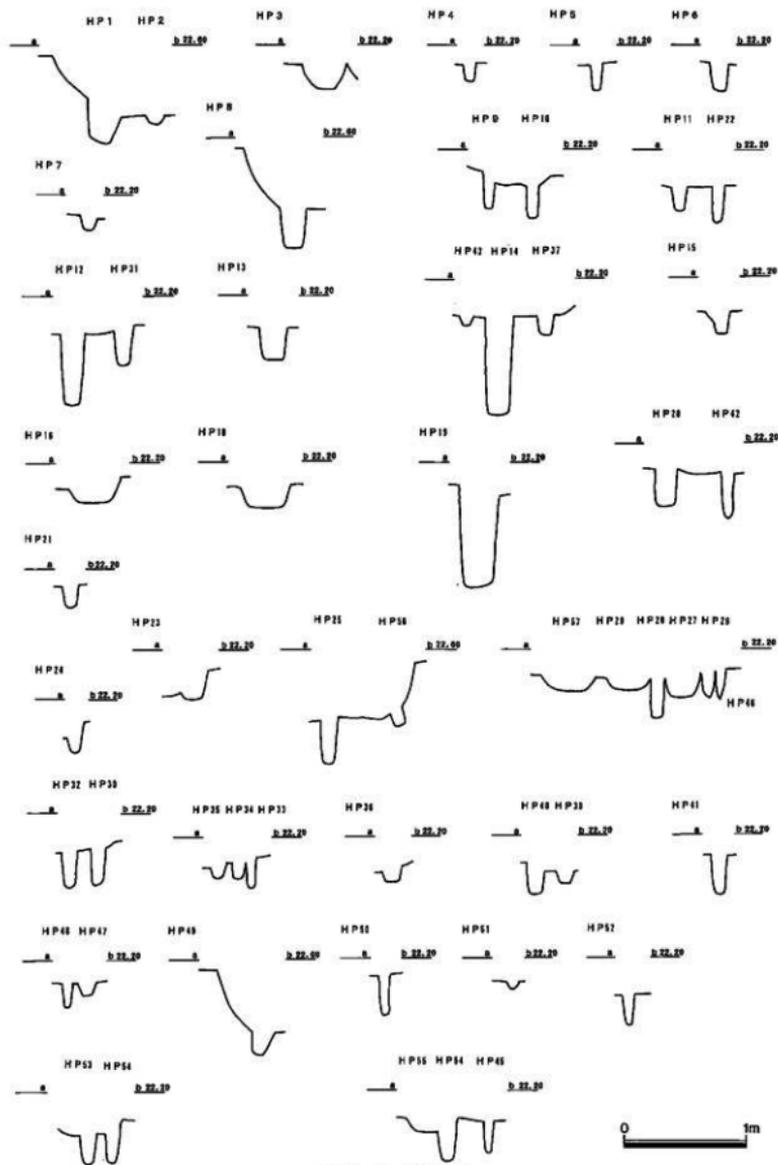
時期 床面の出土遺物から、縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。(越田、田口)

遺物 6・7・10・12はⅢ群b-2類土器で、1・3~5・8・9・11・13~17はⅢ群b-3類土器、2・18はIV群a類土器である。1は口縁肥厚帯に押し引き文が、肥厚帯直下には円形刺突文が付く。内面は良く研磨されている。LR原体の結束1種羽状縄文が施されている。2は口縁肥厚帯に縄文原体による刺突文が施されている。口唇には縄文原体による圧痕が付く。原体は条の太いRLである。内面は研磨されている。

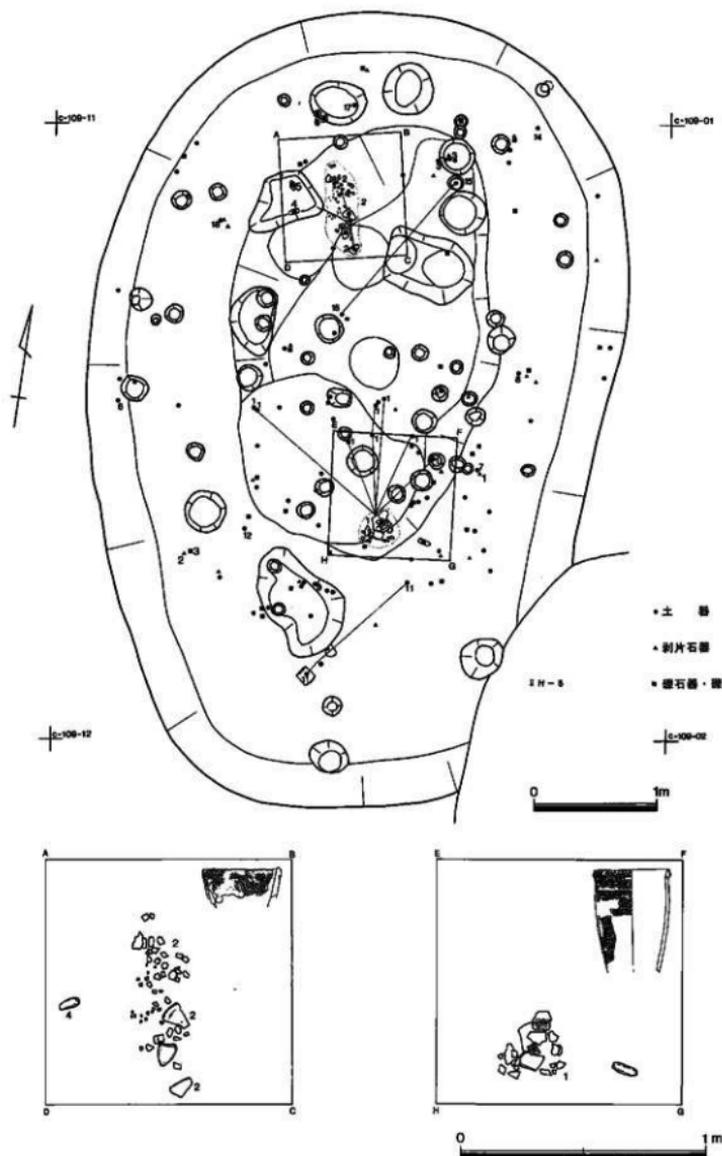
1は石鏃である。2はポイントまたはナイフである。3は石斧片、4は石斧未製品である。5はたたき石、6は石皿である。(佐藤)



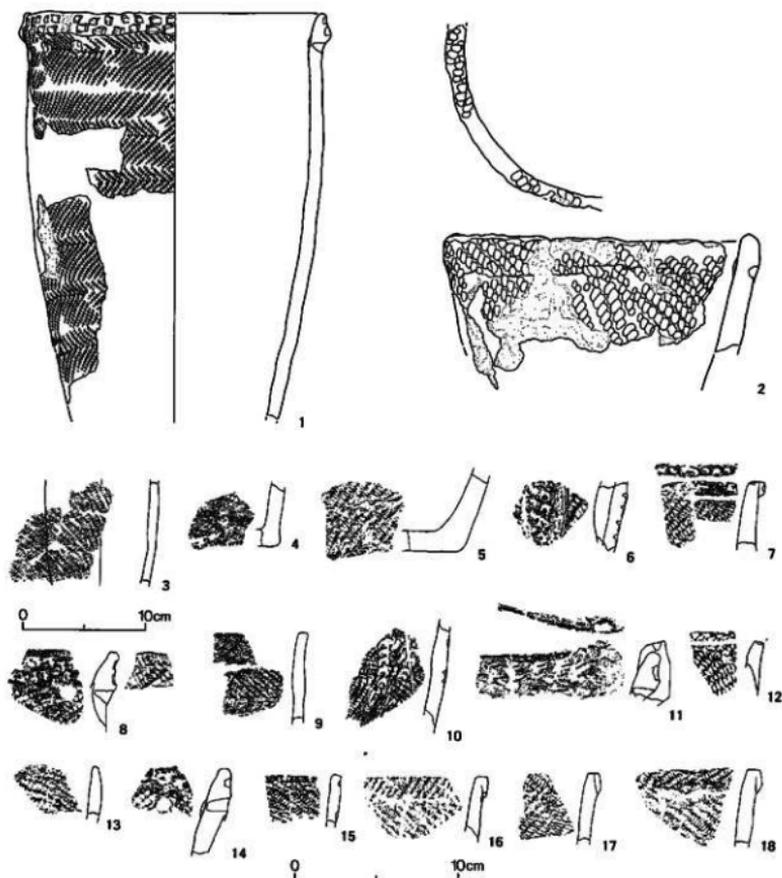
図IV-22 IIH-4



图IV-23 II H-4

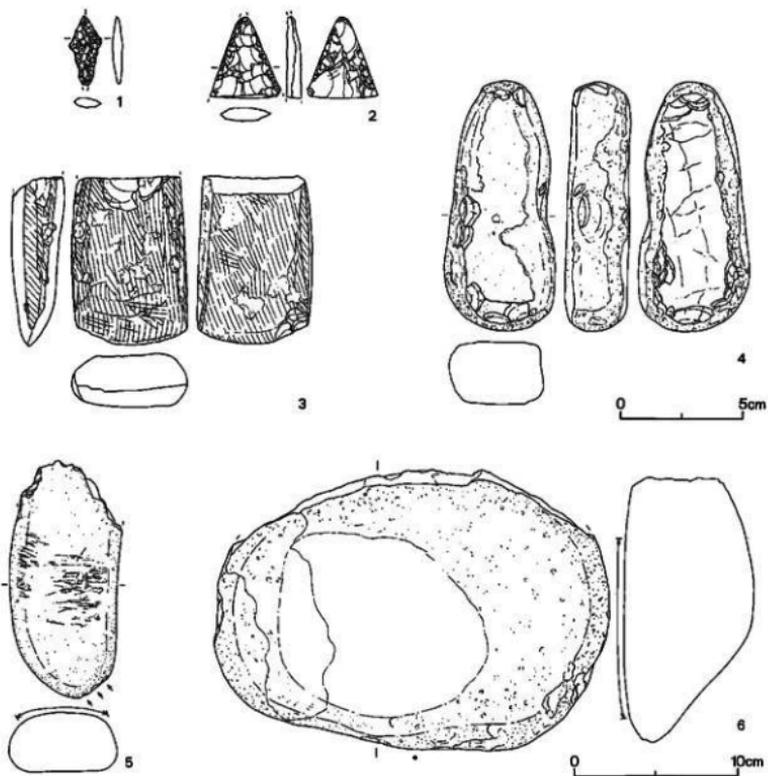


図IV-24 II H-4 出土遺物の位置



圖IV-25 II H-4 出土遺物

圖IV-25 II H-4 出土遺物



図IV-26 IIH-4 出土遺物

IIH-5 (図IV-27~29)

位置 d-109-91・92 c-109-01・02

平面形 東西を長軸とする楕円形

規模 6.00/5.20×5.60/4.60×0.52m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面を精査したところ、d-109-92区を中心にくぼみを確認する。IIH-1とIIH-2、IIH-3などの大きなくぼみにはさまれたわずかな落ち込みであったが、東西に1本、南北に2本の土層観察用ベルトを設定し、床面と壁面の確認、検出作業を行なった。その結果、Ta-d₂層にまで到る掘り込みを持つ住居跡であることがわかり、プランは東西を長軸にする楕円形を呈しているが、東南隅ではIIH-7と重複して壁を失っていることを確認した。(図IV-28)

土層の堆積は比較的単純で、II B層の下に二枚の茶褐色土の覆土が堆積している。南側にはIIH-2、6の掘上げ土の流入も見られた。覆土中層から底面に到る土層中には炭化物和焼土が多く検出され、火災焼失住居の可能性をうかがわせた。(図IV-27)

付属ビット 柱穴状の小ビットは38個検出された。壁際を巡るように確認され、壁面を掘り込んだ壁柱穴が7個確認された。断面形は先端が丸みをもつものと、細くなるものがある。深さは10~50cmまでのものである。

床面 Ta-d₂層を約15cmほど掘り込んで、堅くしまりのよい床面をつくっている。ほぼ平坦であるが、中央の炉跡部分に向かって緩やかに低くなっている。また壁面の周囲にはわずかではあるがテラス状の高まりが認められた。

壁 Ta-d₁層以下の掘り込みがしっかりしていたので、この面の立ち上がりがそのまま住居の壁面として確認することができた。床面と壁との境ははっきりとしており、急な立ち上がりである。

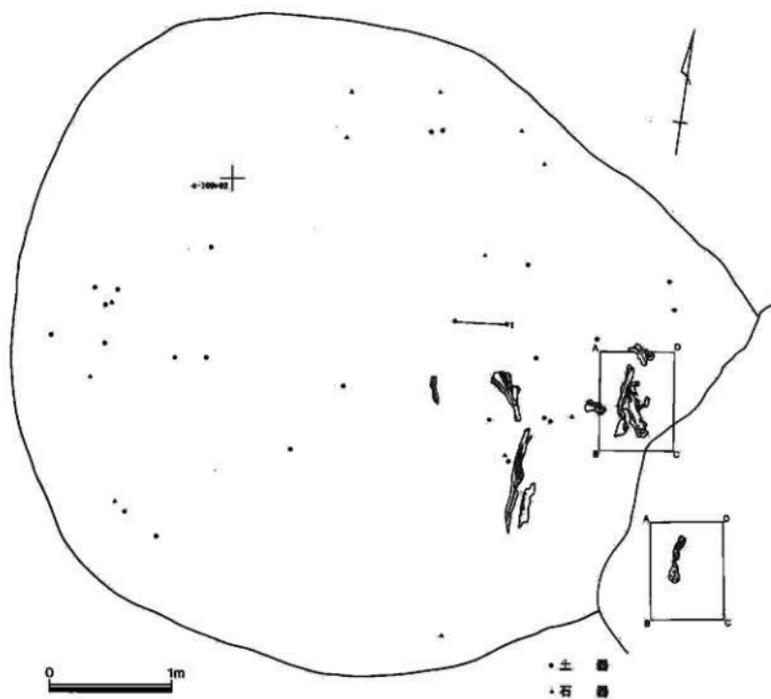
炉跡 住居跡の長軸上に2基が並んで確認された。中央部に二ヶ所近接していた。いずれも掘込みは浅く、多量の炭化物を含み、焼土の堆積は7~10cmを測った。

遺物の出土状態 覆土中の遺物に比べ、床面出土の遺物は少なかった。床面において出土した炭化材から保存状態のよいものをサンプルとして5点取り上げ、樹種同定を行なった。クリが2点、コナラが2点、ニレが1点であった。(付篇「樹種同定」参照)

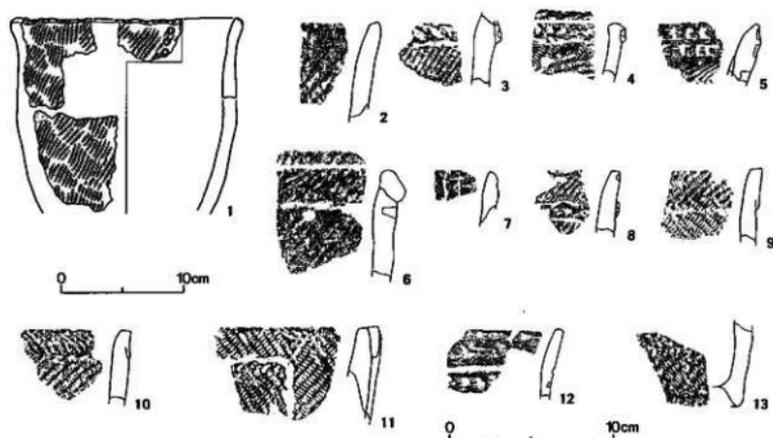
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。また、床面直上に出土した木炭の¹⁴C年代測定では、B.P.3910±60年という結果が出ている。

測定番号	資料番号	名称	出土地点	¹⁴ C年代 (BP)
KSU-2460	木炭№5	IIH-5	覆土	3910±60

遺物 1~4はⅢ群b-2類土器、5~10・13はⅢ群b-3類土器、11・12はⅣ群a類土器である。1は口唇と口縁に竹管状工具による刺突文がつく。地文はLR原体の斜行縄文である。部分的に擦り消されている。胎土に雲母が多く含まれる。



図IV-27 II H-5 出土遺物の位置



图IV-29 II H-5 出土遺物

IIH-6 (図IV-30~35)

位置 d-109-93・94・95 C-109-03・04・05

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 11.28/8.00×10.72/7.60×0.36m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面を精査したところ、台地の南端より6m入った所で大きなくぼみを確認する。IIH-2で前述した様に土層観察用のベルトを設定し、調査を行う。II B層を除去すると暗褐色の覆土がある。主に、IIH-2、IIH-6の掘り下げ土の流入によるものと考えられる。プランはIIH-2をすっぽりと包む様になる楕円形を呈し、床の南側には出入り口想定されるような、Ta-d₂の床面に粘りついたしまりのある黒色土の分布がある。その部分はIIH-2の南側立ち上がり部分と壁を一部破壊している。掘り上げ土は住居の周囲に捨てられており、IIH-2の掘り上げ土の上に確認されている。IIH-6は、IIH-2の埋没後、IIH-2のくぼみを利用して作られたか、あるいは台地の南側の、環境や条件が良いということでの重複か、又、双方の利点を利用したものであることが考えられる。

付属ピット 柱穴はIIH-2で前述した通り、IIH-2とIIH-6の柱穴とに区別することに困難したが、柱穴の切り合いや、覆土がIIH-2の柱穴に対し比較的Ta-dの混入が薄い事、又深さもIIH-2程の深さを持たないことから、IIH-6の柱穴と判断したものと、壁際に一周する柱穴がある。壁際のものには場所によって深さがまちまちであり、住居の短軸、東西方向に對して深い柱穴を持つ。北壁には壁際の柱穴は確認されなかった。他に住居の床面に、数多くの細い柱穴を確認した。覆土はII B主体である。深さは20cm~50cmまでのものである。

床 Ta-d₂とIIH-2の覆土を切る形で構築されており、ほぼ平坦である。

壁 床面と壁との境ははっきりとしており、急な立ち上がりである。

炉跡 支笏火山灰を用いて作られた炉である。住居の中心よりやや南西側に位置し、IIH-2覆土に作られている。炉のやや中心部に細長い礫が埋め込まれ、近くにもう一つ礫が用いられている。どのような目的で用いられたかは不明である。支笏火山灰は砂粒状化し、厚さは10cmあった。

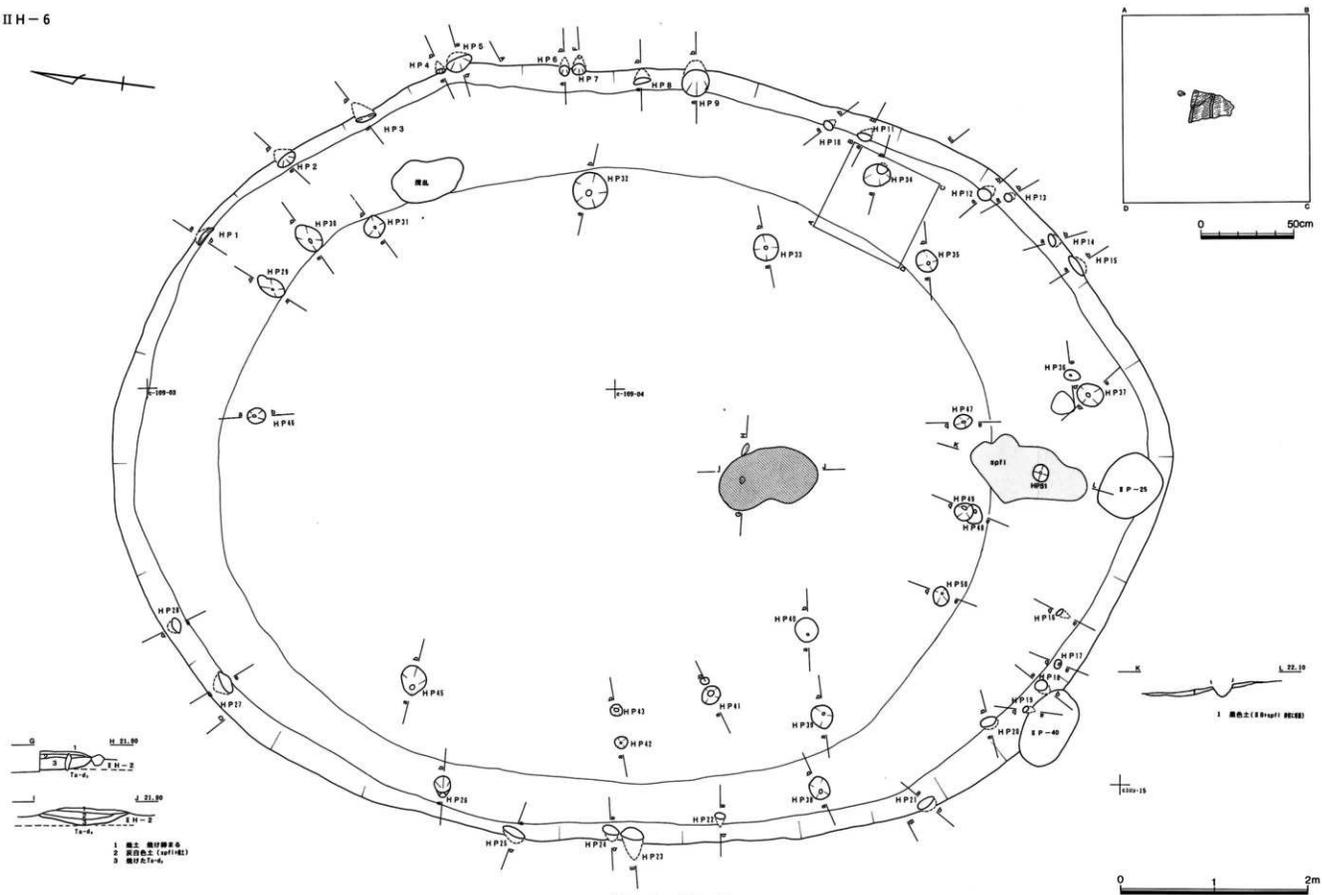
遺物の出土状態 覆土、掘り上げ土の遺物に比べ、床面の遺物は少なく、集中するところも見られなかった。

時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。

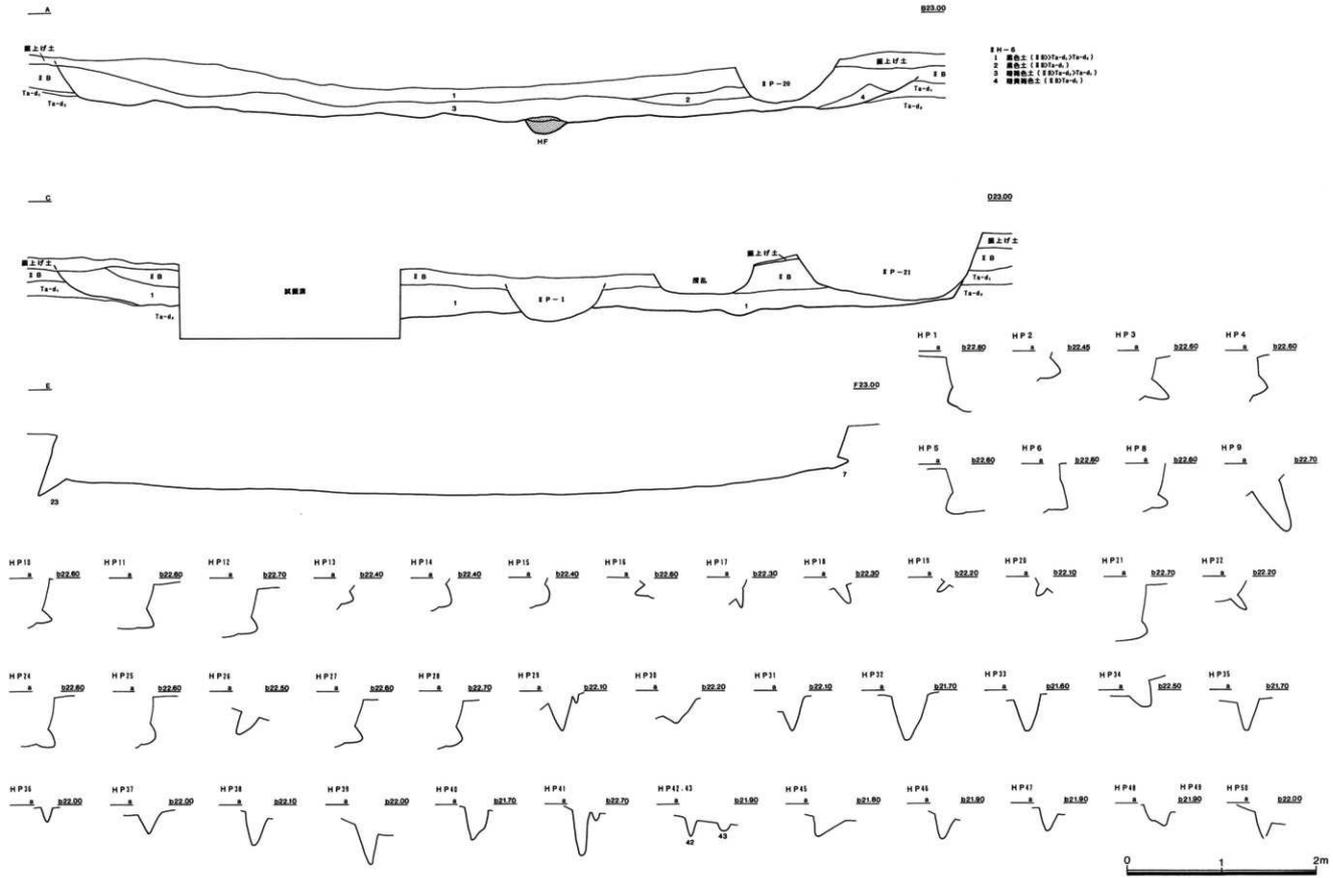
遺物 10・13・21はIII群b-2類土器、1~8・11・12・14・15・17・18・20・22はIII群b-3類土器、2・9・16・19はIV群a類土器である。1は口唇断面が四角い鉢形土器である。地文はLR原体の斜行縄文である。3は円形刺突文が施されており、内面の突き瘤は小さい。9は口唇に山形突起がつく。突起から口縁にかけて薄めの貼付帯がつく。口唇には縄による圧痕が、貼付帯上には縄による刺突が施されている。地文はLRとRL原体による羽状縄文である。施文後に調整されており、無文部が多い。内面はRL原体を斜施文した縄文が施され、丁寧に研磨されている。

1~7は石鏃である。8・9はポイントまたはナイフ、10・11はつまみ付きナイフである。12・13は石斧、14は石斧未製品である。15は砥石片である。

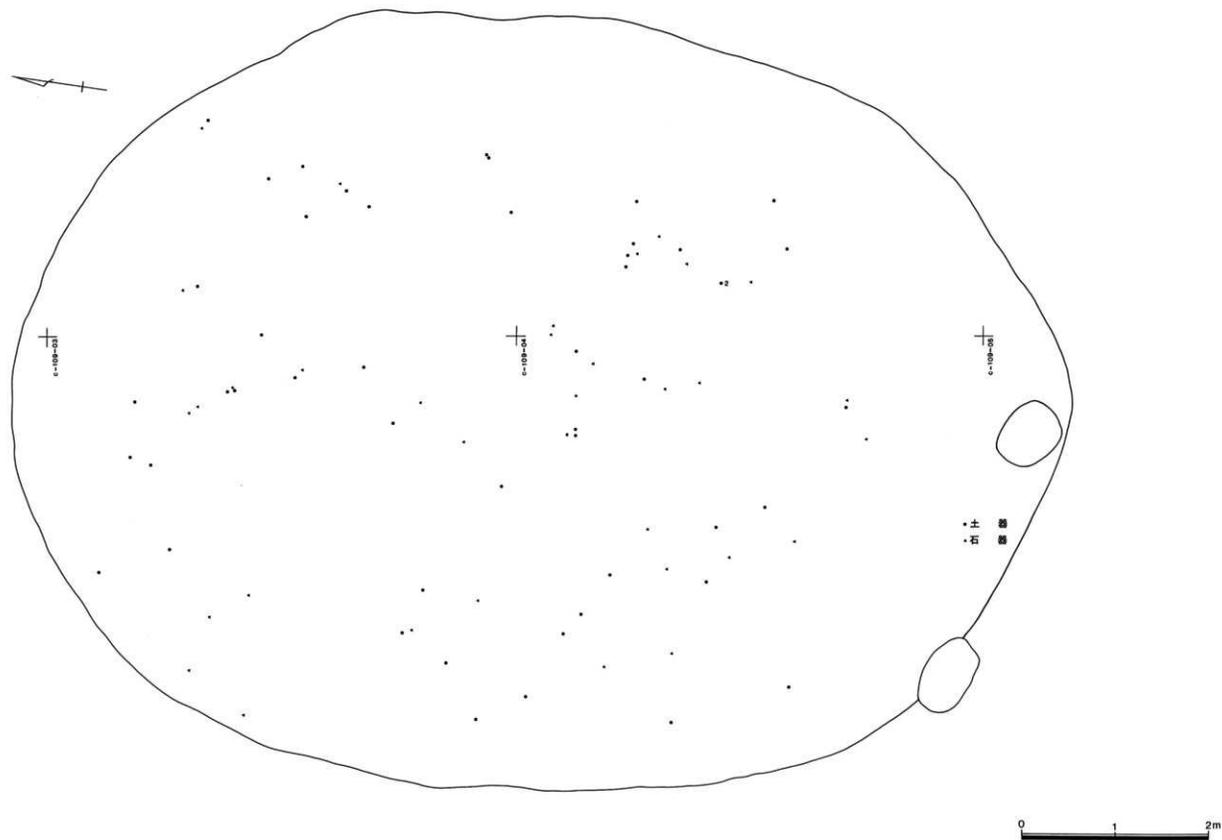
IIH-6



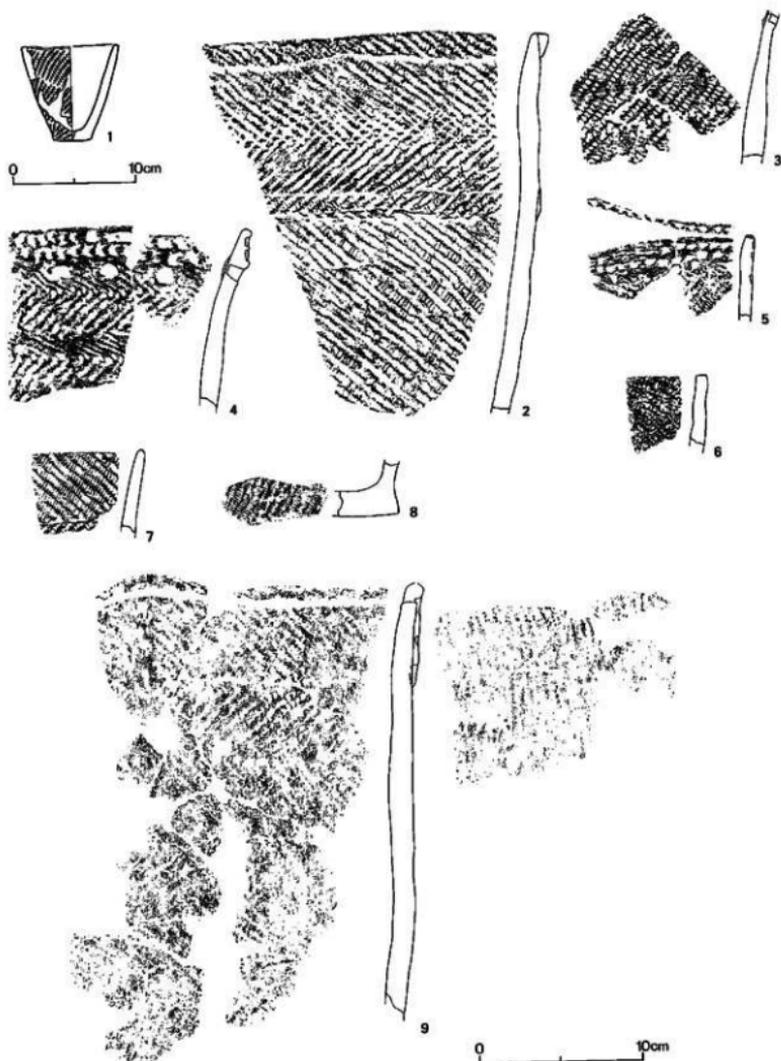
図IV-30 IIH-6



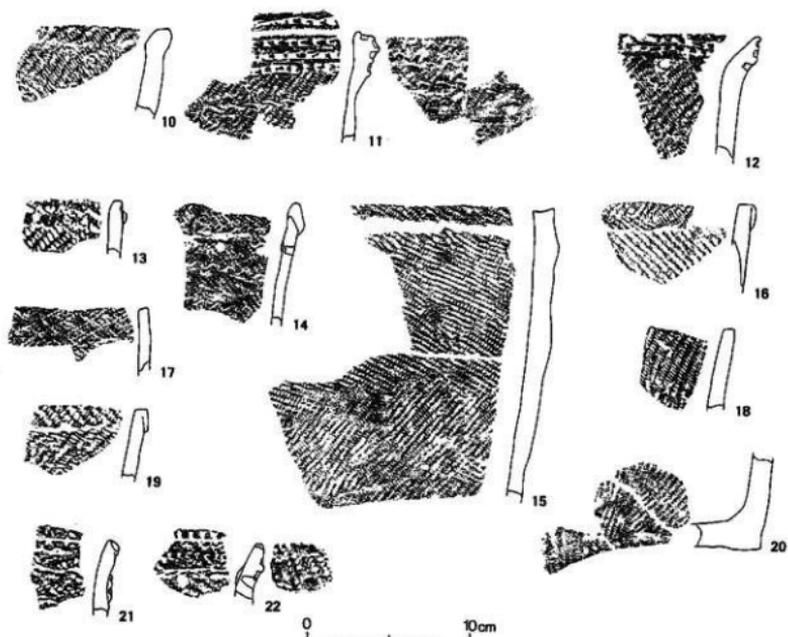
圖IV-31 II H-6



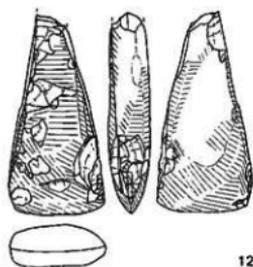
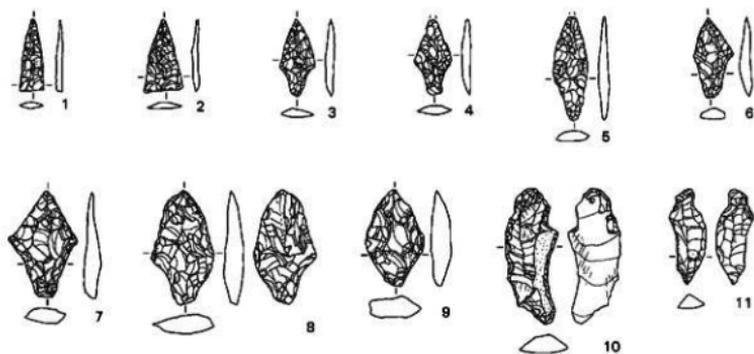
図IV-32 II H-6 出土遺物の位置



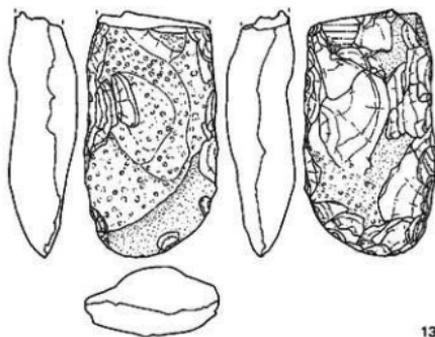
图IV-33 II H-6 出土遺物



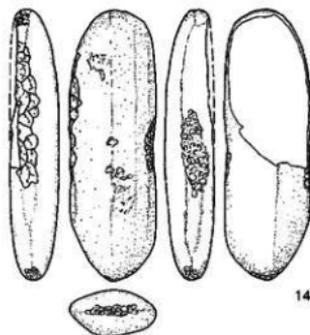
図IV-34 II H-6 出土遺物



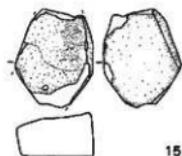
12



13



14



15

0 5cm

0 10cm

图IV-35 II H-6 出土遺物

IIH-7 (図IV-36~38)

位置 d-109-82・92

平面形 南北を長軸とする不整円形

規模 $4.52/2.92 \times 4.00/2.56 \times 0.52\text{m}$

確認・調査・土層 IIH-5の調査中に発見した遺構である。IIH-1とIIH-5を調査するトレンチにおいて確認、IIH-5の東壁がこれによって壊されていたことがわかった。南北に設定した土層観察用ベルトをもとに、掘り下げたところ、覆土を掘込んだピット(II P-7)を検出した。

土層の堆積は比較的単純で、II B層の下に二枚の茶褐色土の覆土が堆積している。掘り込み開始面はII B層上層と思われる。

付属ピット 柱穴状の小ピットは12個検出された。壁際には6個のピットが巡る。断面形は先端が丸みをもつものと、細くなるものがある。深さは10~50cmまでのものである。

床面 Ta-d₁層を約10cmほど掘り込んで、堅くしまりのよい床面をつくっているが、全体に凹凸がある。また、中央の伊跡部分に向かって緩やかに低くなっている。

壁 Ta-d₁層以下の掘り込みがしっかりしていたので、この面の立ち上がりがそのまま住居の壁面として確認することができた。床面と壁との境ははっきりとしており、急な立ち上がりである。

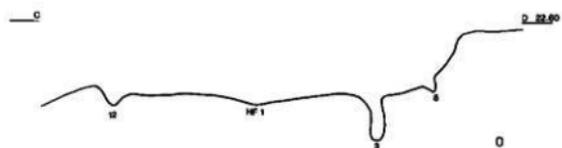
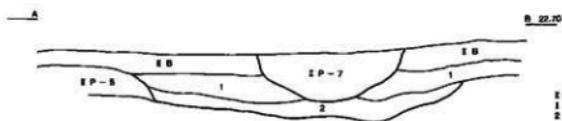
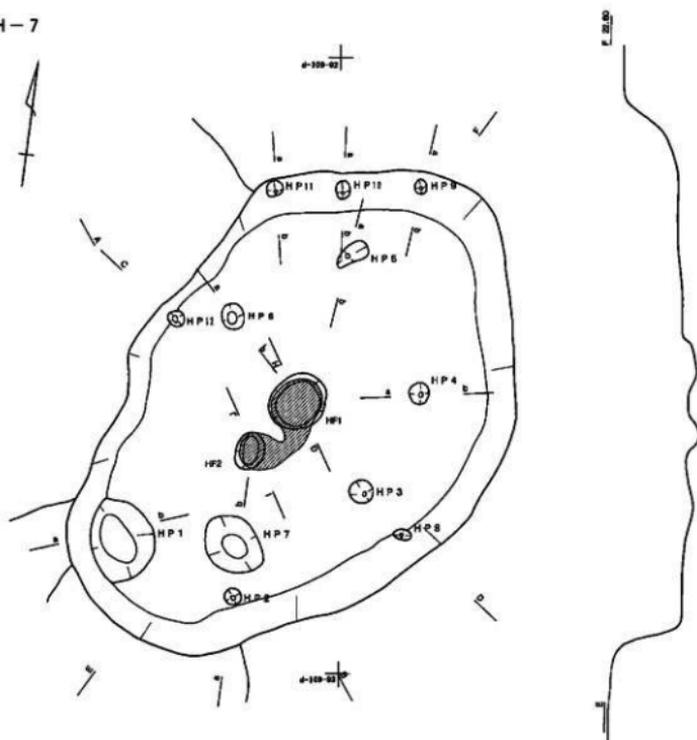
伊跡 住居跡の長軸上に2基が並んで確認された。中央部に二ヶ所近接していた。いずれも掘込みは浅く、少量の炭化物を含み、焼土の堆積は7~10cmを測った。

遺物の出土状態 覆土中の遺物に比べ、床面出土の遺物は少なかった。覆土中からは小玉の出土も見られた(図IV-38-7)。

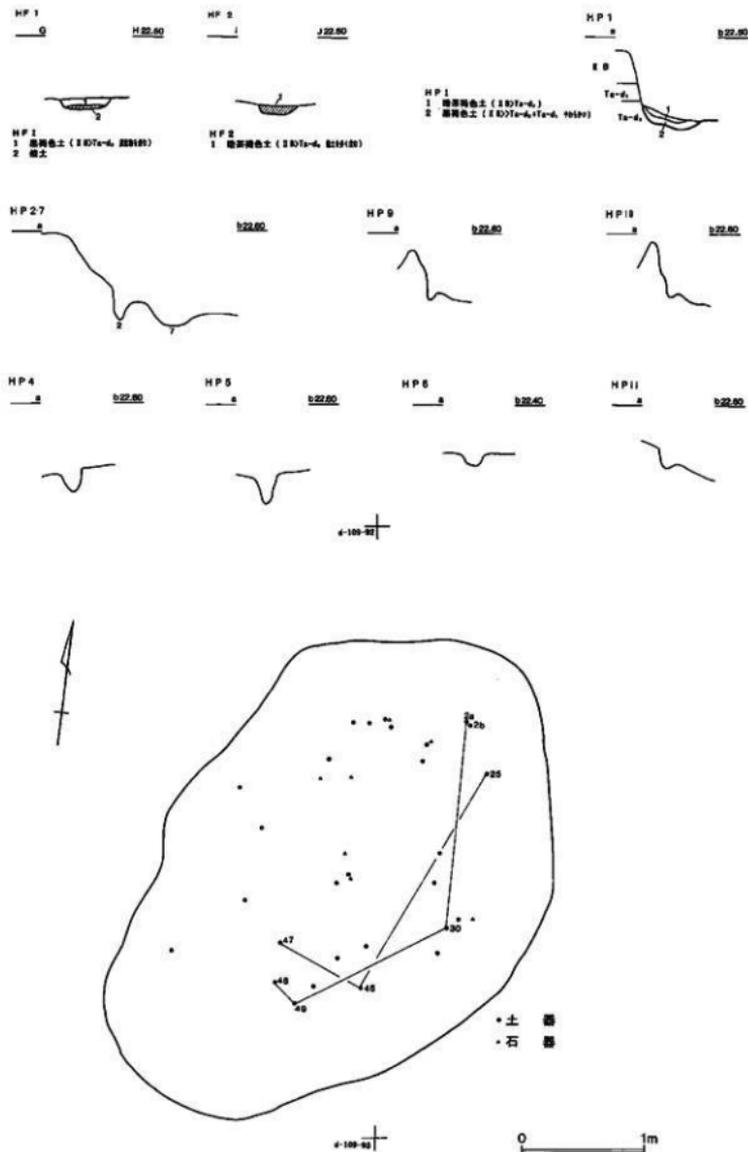
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。IIH-5のかべを壊しているのがこれより新しいものと思われる。

遺物 3はIII群b-2類土器、1・2・4~6はIII群b-3類土器である。1は口縁肥厚帯にたて長の貼瘤がつく。肥厚帯上には刺突文が施されている。口縁部から体部にかけて横位の貼付帯に縦位の貼付帯を重ねた格子状の文様帯がつく。貼付帯上には押し文が施されている。円形刺突文は肥厚帯直下と体部の貼付帯直下にある。原体はLRとRLの結束一種である。7は橄欖岩製の垂飾である。

IIH-7



図IV-36 IIH-7



図IV-37 II H-7 出土遺物の位置



图IV-38 II H-7 出土遺物

II H-9 (図IV-39~40)

位置 d-109-52・62

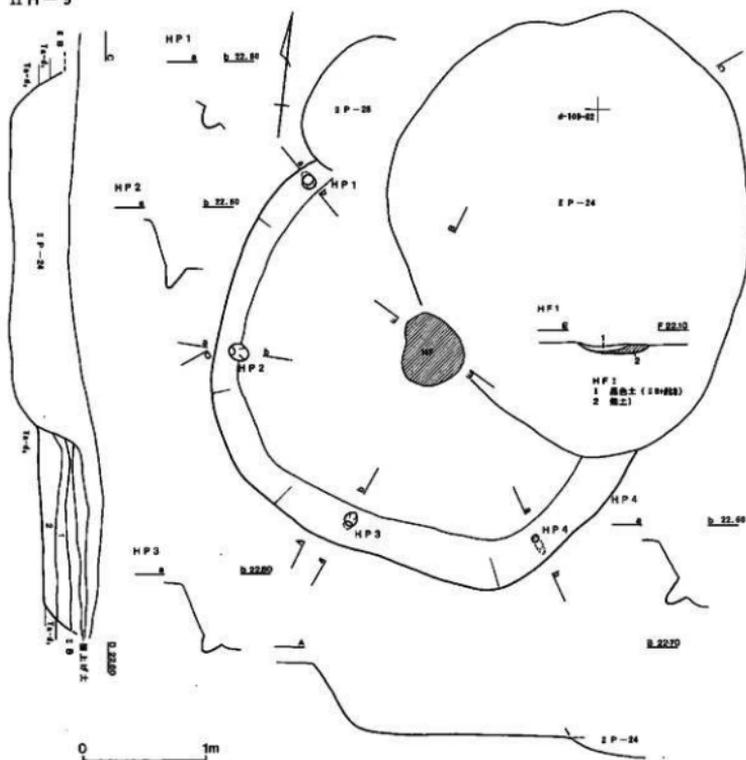
平面形 隅丸方形

規模 3.68/(2.00)×3.12/(1.80)×0.44m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面に僅かなくぼみを確認した。くぼみの中心からII H-1に向かってトレンチをいれたところ、他の遺構と重複した遺構であることがわかった。土層はII B層を挟んでII H-1の堀上げ土があり、その下に覆土が二枚堆積している。掘込み面はII B層下面である。

付属ピット 柱穴状の小ピットが壁際から4個検出された。いずれも住居跡の中央部に向って傾斜している。断面形は先端が丸みをもつものと、細くなるものがある。

II H-9



図IV-39 II H-9

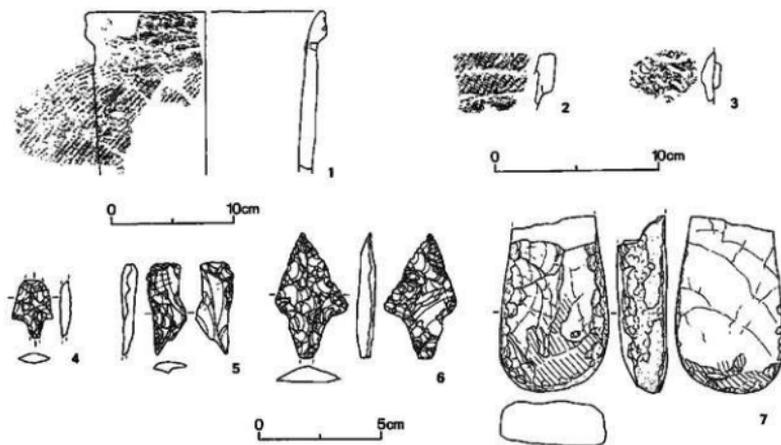
床面 Ta-d₂を掘り込んで作られており、ほぼ平坦である。中央部の北側はIIH-24に切られている。

壁 床面との境は明瞭で、立ち上がりは急である。北・西側はIIH-24・28に切られている。

炉跡 住居跡のほぼ中央部に作られており、浅い掘り込みをもつ。焼土の厚さは約7である。

時期 IIH-1住居跡の掘上げ土に覆われていることから、IIH-1の構築時期(縄文時代中期末)より古い。

遺物 1はIII群b-3類土器、2・3はIV群a類土器である。1は口縁に三角形の肥厚帯があり、押しき文、刺突文がつく。地文はLR原体の斜行縄文である。2は口縁部破片で幅の広い貼付帯がつく。原体はLRである。3は平たい粘土帯が貼付されていて、胎土に小石を多く含む。原体は節の太いLRである。1は北筒式、2は余市式、3はタブコブ式に相当する。



図IV-40 IIH-9 出土遺物

IIH-10 (図IV-41~43)

位置 c-108-05・06・07

平面形 楕円形

規模 (4.56)/3.32×(4.32)×2.88×0.40m

確認・調査・土層 II層上面で円形のくぼみを確認した。くぼみを中心にトレンチをいれ、壁、床の検出につとめた。その結果、3軒の住居跡が重複しているのが判明した。西側の先端部分は調査区外にかかっている。土層は上面にII層が厚く堆積しており、その下に暗褐色土層がある。掘込み面はII黒層の中程である。

付属ピット 柱穴状のピットが9個検出された。西側の壁付近に集中しており、東側では1個のみである。

床面 Ta-d₂と、IIH-16の覆土中に作られており、やや凹凸がある。南側に向かって緩く傾斜している。

壁 北側はII P-45に切られており、南側はIIH-16と重複しているため不明である。

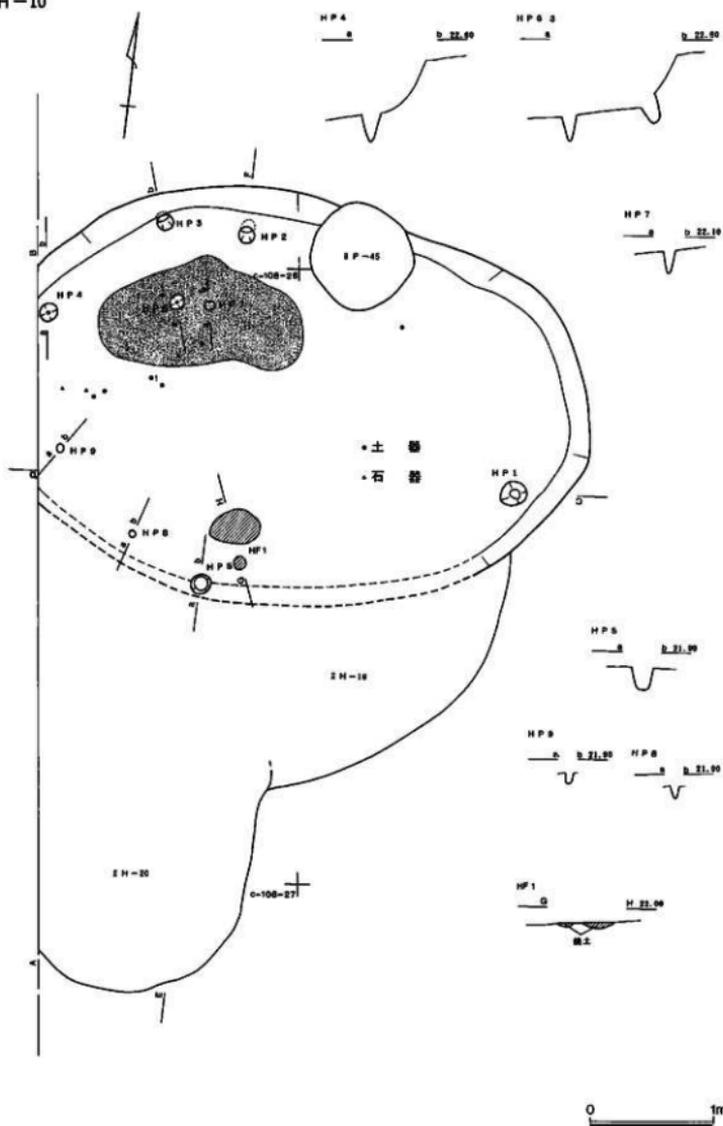
炉跡 南側の壁寄りで見出された。焼土の厚さは約5cmである。

遺物の出土状態 南西側の覆土〜床面にかけて骨片の集中が確認された。範囲は1.7m×0.9mである。遺存体にはサケなどの魚骨やシカなどの獣骨がある(付属1)。

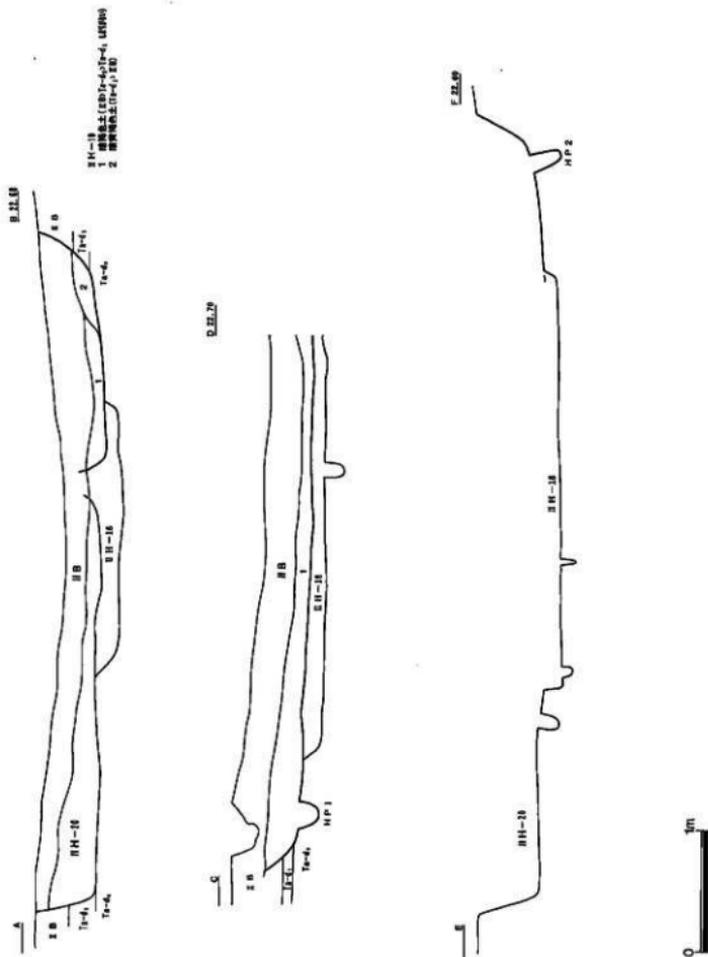
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 2~4・10はⅢ群b-2類土器、5~16・18はⅢ群b-3類土器、1・17・19・20はⅣ群a類土器である。2は沈線が施される。3は口縁の貼付帯とその直下に縄の疋痕が付く。地文はLRの斜行縄文である。器面に赤色顔料の付着がみられる。4は口唇と口縁に刺突がつく。10は口唇に縄端の刻目、内面に縄の疋痕がつく。5・7は口縁に肥厚帯があり、押し引き文を施す。9は肥厚帯の破片である。7の円形刺突文は内面に大きな突瘤を形成している。6は結節のある斜行縄文が施されている。8・11・12は貼付帯に縄線文、刺突文が施されるものである。11はLRと0段多条RLの原体による結束のない羽状縄文が施される。13・14は口縁に貼付帯のあるもの。13は刺突文がつく。14の貼付帯の断面は三角形である。15・16は地文のみのものである。原体は15がLR、16がLである。1・17・19・20は口縁に肥厚帯がつき、二つの原体による地文がつく。1・20の原体は貼付帯がLR、体部がRLである。17・19は貼付帯がRL、体部がLRである。18は底部である。底面に笹葉痕がつく。2~4・10は柏木川、5~7・9は北筒式、8・11~16はノグツブⅡ式・煉瓦台式、17・19・20は余市式に相当する。

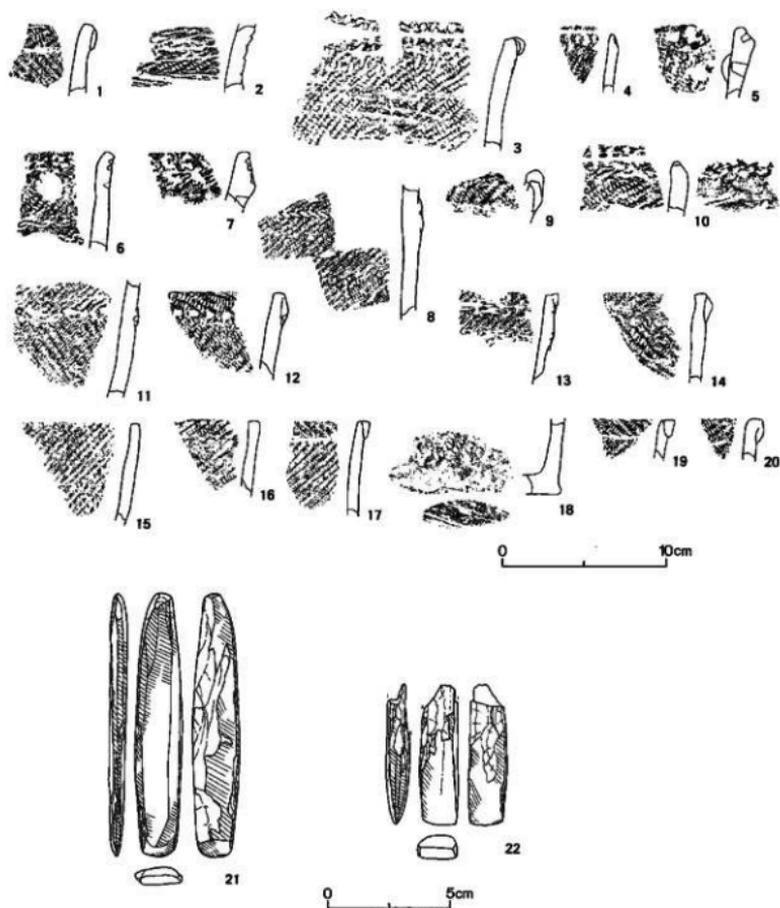
IIH-10



図IV-41 IIH-10



図IV-42 II H-10



图IV-43 II H-10 出土遺物

IIH-11 (図IV-44~46)

位置 d-108-95・96 c-108-05・06・07

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 9.52/6.08×8.72/5.20×0.48m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、d-108-96、c-108-06区を中心とするII B層上面に大きくなほみを確認した。東西、南北に一つずつトレンチを設定し掘り下げたところ、Ta-d₁を底面とする掘り込みであることがわかった。平面的な重複は見られなかったが、床面の検出に及び、本住居跡の下層に住居跡(IIH-18)とTピット(TP1)があることを確認した。床面がTa-d₁であったことから、床面、壁面の検出はかなり難しかったが、遺物の出土状況、ピットの状況等で、プランを把握することができた。土層はII B層の下に二枚の覆土の堆積が見られた。掘り込み面はII B層上部である。

付属ピット 柱穴状の小ピットは39個検出された。南側の壁と北半分に集中している。断面は円くなるものが多く、深さは10~50cmのものまである。

床面 Ta-d₁層と、IIH-18の覆土中に作られており、やや凹凸がある。東側に向かって緩く傾斜している。

壁 Ta-d₁層を壁面にしていたため、たいへんしまりの悪い壁面となっている。そのため、確認検出も非常に困難であった。立ち上がりは急で、床との境は明瞭である。

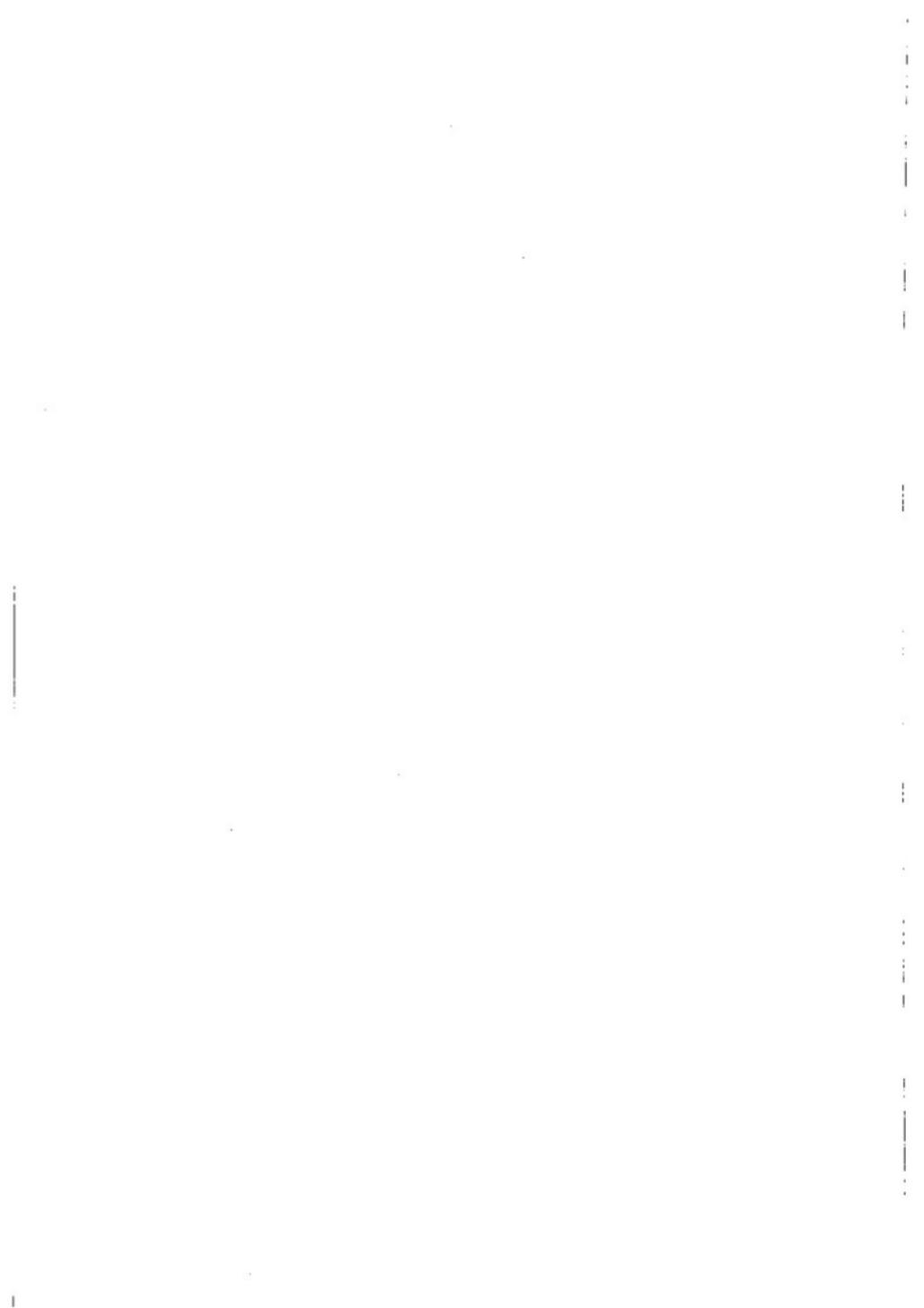
炉跡 南側の壁寄りで長軸方向に2ヶ所検出された。IIH-18の覆土上面につくられていて、いずれも掘り込みは浅く、焼土の堆積は7~10cmを測った。特徴的であるのは支笏火山灰を用いて作られた炉であることで、どのような目的で用いられたかは不明である。支笏火山灰は砂粒状化し、厚さは3cmある。

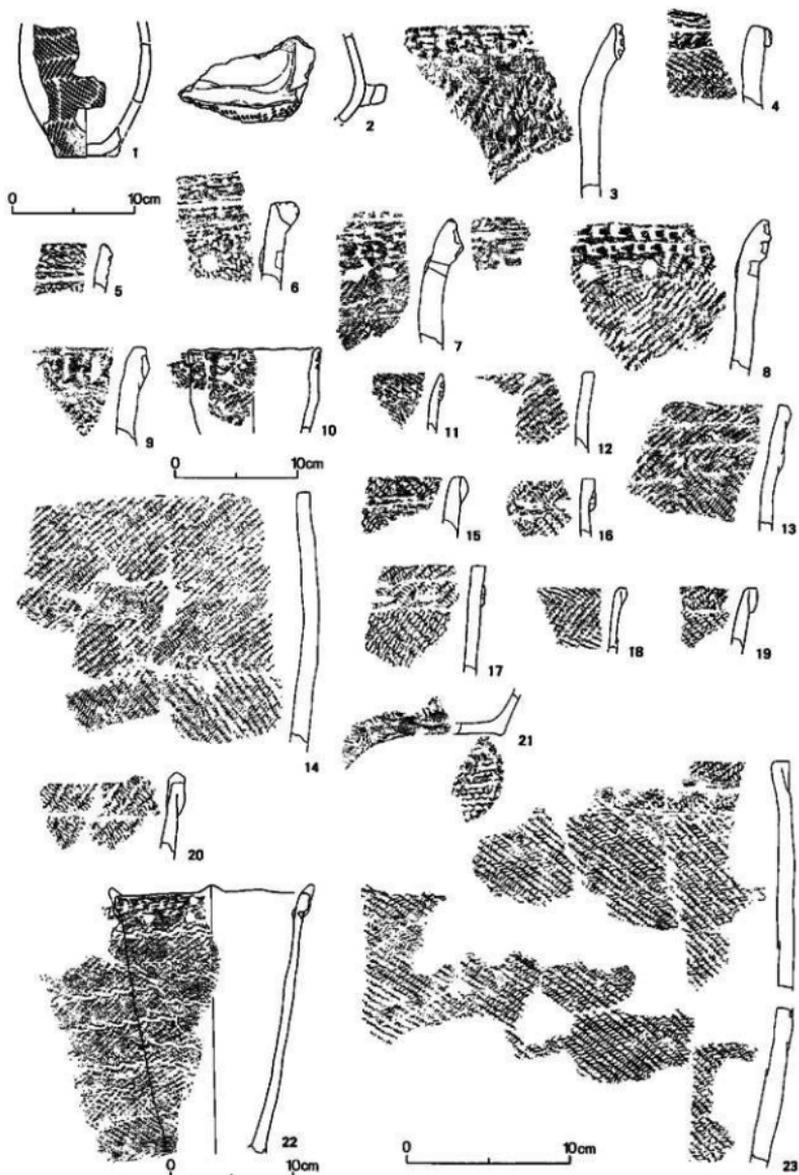
時期 覆土出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と思われる。また、柱穴HP-5の覆土より出土した木炭の¹⁴C年代測定では、B.P.4060±70年という結果が出ている。

測定番号	資料番号	名称	出土地点	¹⁴ C年代(BP)
KSU-2457	木炭№1	IIH-11 覆土		4060±70

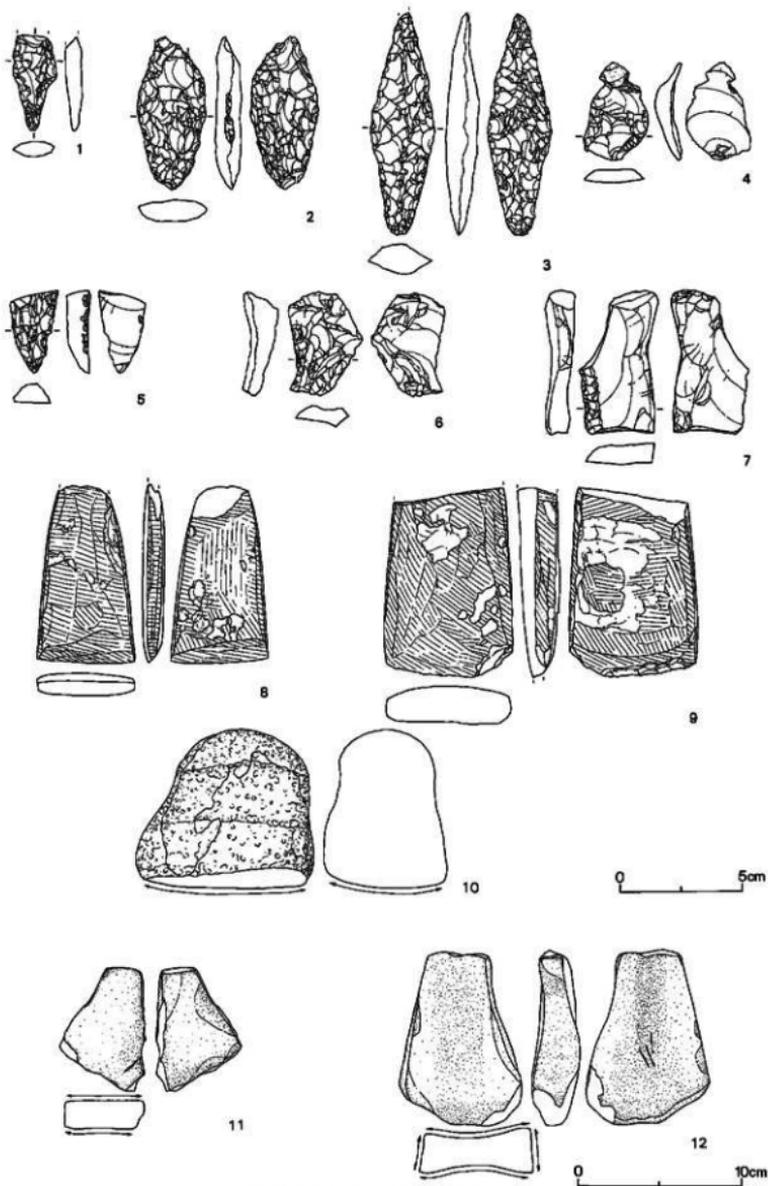
遺物 3~5・10・11はIII群b-2類土器、1・2・6~9・12~18・21~23はIII群b-3類土器、19・20はIV群a類土器である。3は口縁肥厚帯に刺突文をもつもので、その直下は調整により無文になる。体部には斜位の刻み目が付けられている。4は貼付帯上と口唇に縄文が施されている。5は浅い沈線がつけられている。10・11は口縁に刺突文が施されるものである。10は半載竹管状工具による。口唇の下に押し引き文がつく。11は棒状工具による。口縁は肥厚する。6~8・22は円形刺突文をもつ。口縁肥厚帯上には押し引き文がつく。22は口縁に小突起がつく。原体はLRの結節とRLである。9は口縁肥厚帯に地文が施されないもので、幅広の工具による押し引き文がつく。地文はLRの斜行縄文である。1は上げ底気味の底部をもち体部は膨らむ。内面は良く研磨されている。2は取手がついている破片である。取手は無文でかなり凹凸がある。体部は細い隆帯で区画されおり、区画内は無文である。原体はRLである。12・14は口唇断面が四角いもので、内面は良く研磨されている。13~18は口唇・口縁に貼付帯がつくものである。16・17は貼付帯上に短刻文がつく。23は折り返し口縁になるもので、口唇断面は四角い。器表面は剥落している部分がある。原体はRLである。21は底部である。底面に網代痕がつく。19・20は口縁に貼付帯がつく。20は口唇に山形突起がつく。いずれも原体はLRである。

1・5は石錐、2・3はポイントまたはナイフ、4はつまみ付きナイフである。8は石斧、9は石斧片である。10は北海道式石冠である。11は砥石片、12は砥石である。砥面は11が2面、12が4面である。





圖IV—45 II H—11 出土遺物



図IV-46 II H-11 出土遺物

ⅡH-12 (図Ⅳ-47~49)

位置 d-108-93・94

平面形 円形

規模 4.06/3.77×3.65/3.48×0.50m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、ⅡB層上面がくぼんでいるのが確認された。くぼみを中心に東西方向にトレンチをいれたところ壁・床が検出された。土層はⅡB層の厚い堆積があり、その下にⅡB層を主体にTa-dが混入した褐色土がある。掘り込み面はⅡB層上部である。

調査の結果、ⅡH-17・23・24を切っている遺構であることが判明した。

付属ピット 柱穴状のピットが12個検出された。断面形は浅く先端が丸みをもつものと、深く先端が細い杭状のものがある。

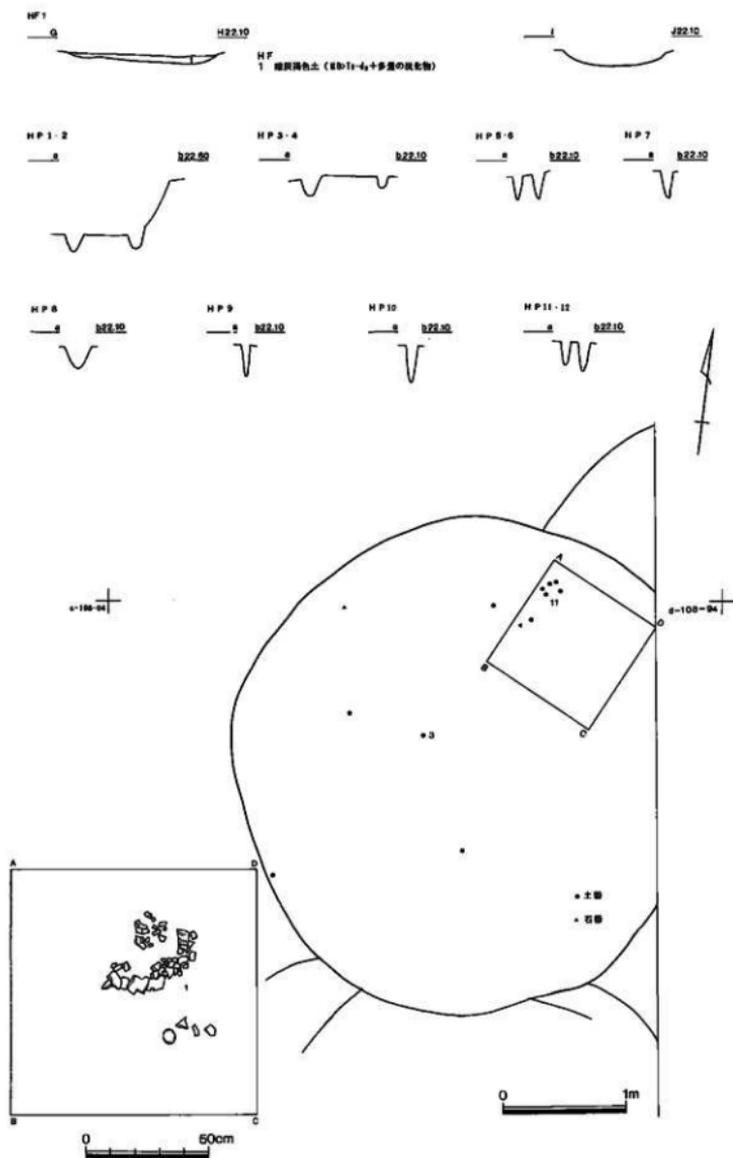
床面 Ta-d₂を掘込んで作られている。かなり凹凸がある。

壁 立ち上がりが急で床との境が明瞭である。

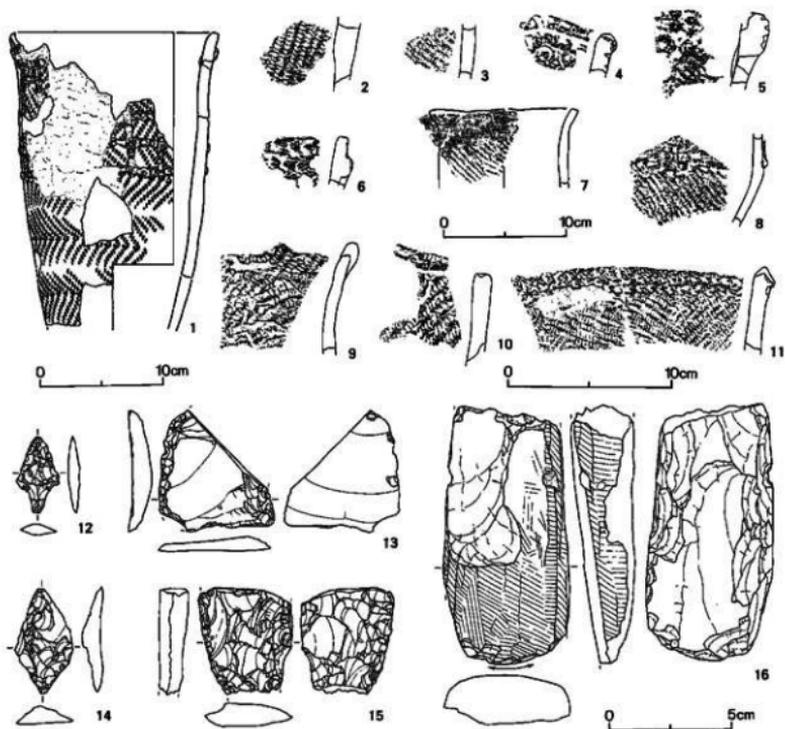
炉跡 浅い掘り込みをもつ。地山は焼成を受けていないが掘り込みの覆土中には多量の炭化物が含まれている。

時期 床面出土の遺物からみて、縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 4・9・10はⅢ群b-2類土器、1~3・5~8・11はⅢ群b-3類土器である。4は口縁の貼付帯と口唇に刺突文が施される。貼付帯直下には竹管状工具による円形刺突文がある。9は口縁に山形突起が付く。10は口唇にも縄文が施されるものである。原体はLRである。胎土には多量の小石が含まれる。1は口縁部がやや開く筒形土器である。口縁部に円形刺突文をもつ。口縁部から体部にかけて横位の貼付帯に縦位の貼付帯を重ねた格子状の文様帯がつく。貼付帯上には押し引き文が施される。地文はRLとLRの原体を結束した羽状縄文である。5は肥厚帯上に刺突文がつく。6は縄による刺突文がつく。7は口縁が無文で体部にはL原体の斜行縄文が施される。8は断面がくの字状になるもので、張出し部の直上には刺突文と張増が付く。11は口縁の肥厚帯上と突起の下に刺突文が付く。原体はRLとLRである。内面の調整は良い。



図IV-48 II H-12 出土遺物の位置



図IV-49 II H-12 出土遺物

IIH-13 (図IV-50~54)

位置 c-108-14・15

平面形 円形

規模 8.40/5.12×7.60/4.52×0.48m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面にくぼみを確認する。くぼみの東西南北に土層観察用のベルトを設け、ベルトに沿うトレンチの調査から行った。その結果、IIH-13とIIH-13によって切られたIIH-21を検出する。覆土はTa-d₁を多めに含み、Ta-d₂がわずかに混じる暗褐色土が主体である。床面はTa-d₃を10cm程掘り下げた程度である。掘り上げ土は検出されなかった。平面的に調査を開始した後でIIH-37との重複が判明する。

付属ピット 柱穴は壁際及び壁際付近に主として位置しており、住居の南東と北西側にかたよって多く見られる傾向がある。

床面 Ta-d₃を10cm程度掘り込んだ所に作られ、平坦である。

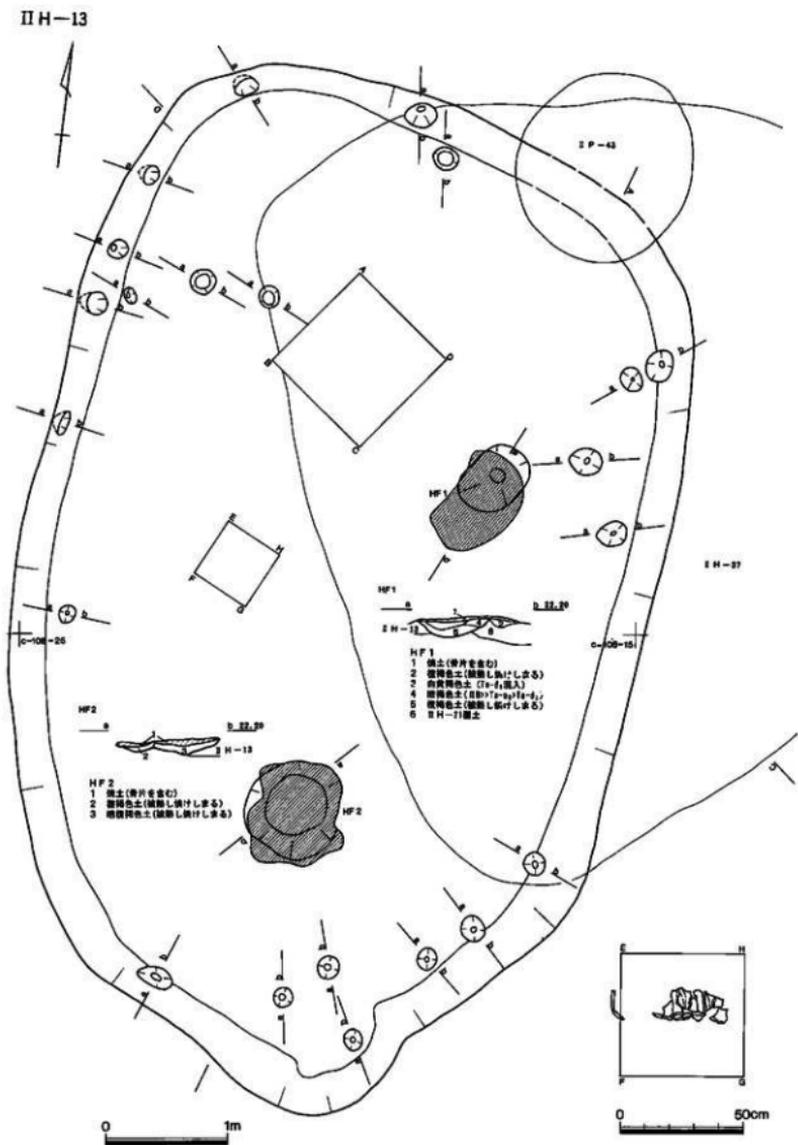
壁 Ta-d₃の掘り込みが浅く、やや明瞭さに欠ける所もあるが、立ち上がりはやや急である。

炉跡 2か所検出されている。中心よりやや南側と北側に検出されている。Ta-d₃とIIH-21の一部を浅く掘り込んで使用されていたと思われる。焼土面には微細な骨片が含まれている。焼土下の被熱しためんは褐色化が著しく、8cm前後あり、焼け締まる。

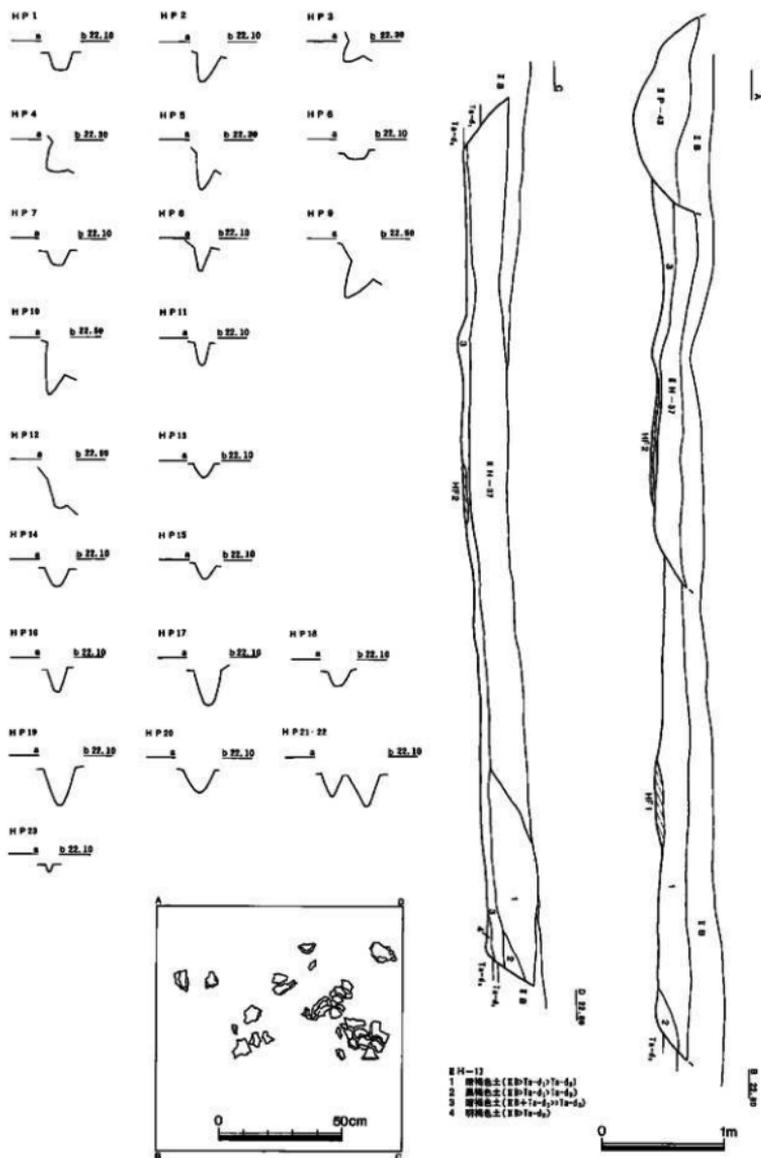
時期 床面出土の遺物からみて、縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 2・22・23・34~36はⅢ群b-2類土器、1・3~19・24~33・37~43はⅢ群b-3類土器、20・21はIV群a類土器である。1は手すくねのミニチュア土器である。丸底気味で、器面には指頭痕が多い。

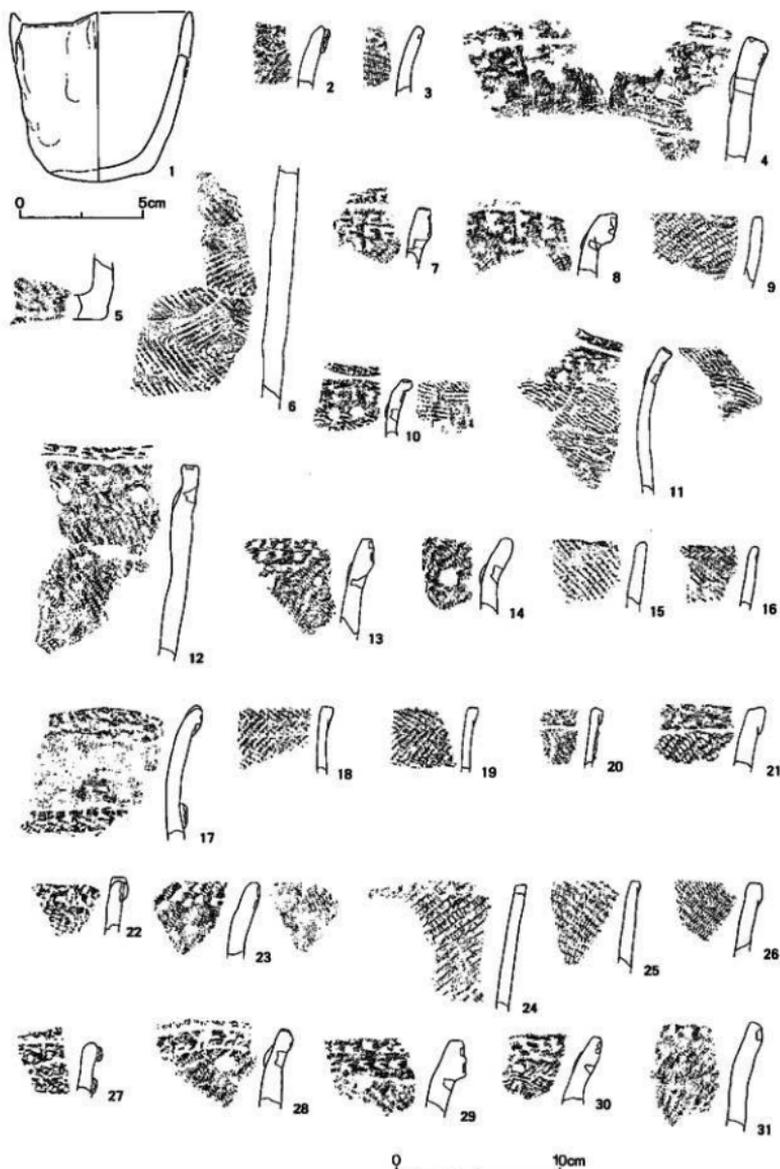
1~8は石鏝である。9~15はポイントまたはナイフ、16~20は石錐、21~23はスクレイパーである。24は異形石器である。25は石斧末製品である。26は砥石で、砥面は3面である。



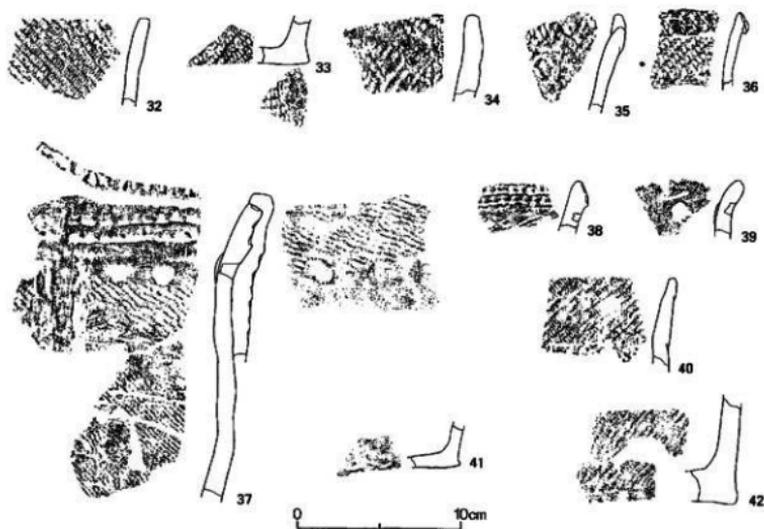
図IV-50 II H-13



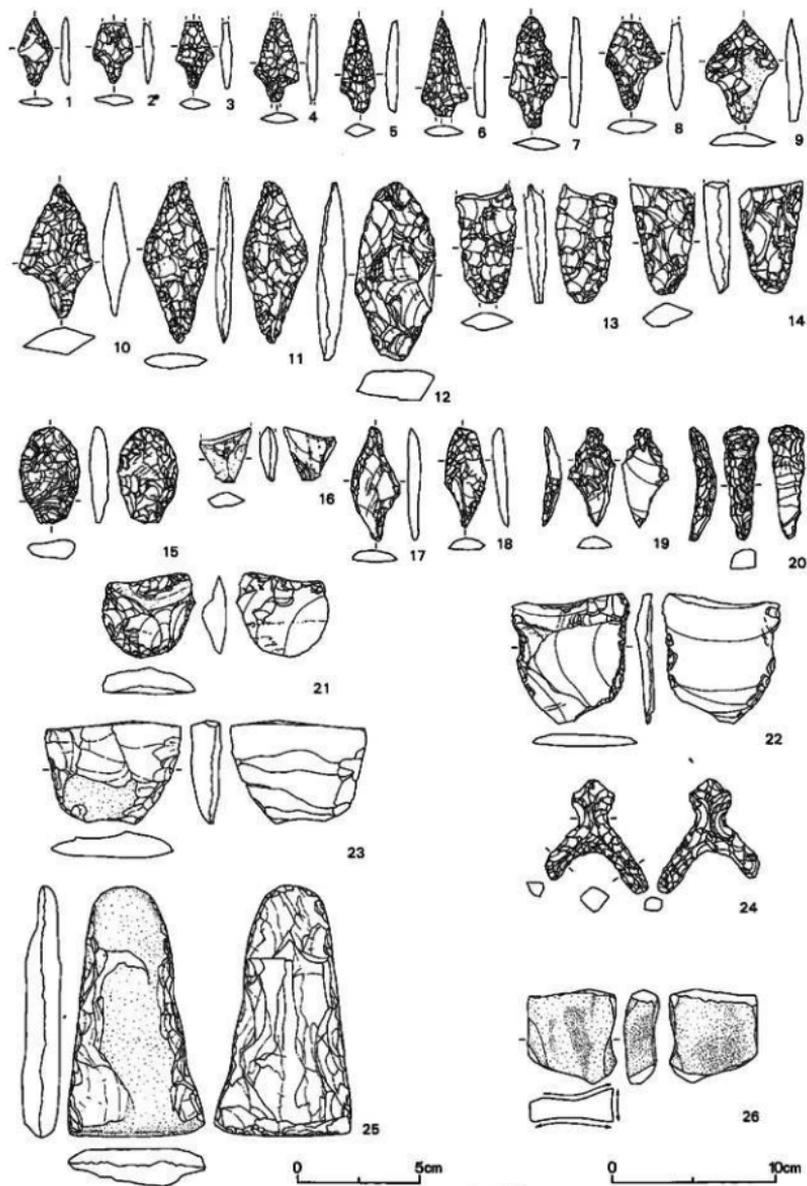
图IV-51 KH-13



図IV-52 II H-13 出土遺物



图IV-53 II H-13 出土遺物



図IV-54 II H-13 出土遺物

II H-14 (図IV-55~60)

位置 d-108-91・92 c-108-02・03・12・13

平面形 北東から南西を長軸とする長円形

規模 9.12/6.80×8.40/6.20×0.64m

確認・調査・土層 II B上面でくぼみを確認する。南北と東西に土層観察用のベルトを掛け、ベルトに沿う形で先ずトレンチを入れ調査する。Ta-d₂まで掘りこんでいる床面と立ち上がり部分を確認すると、平面的に掘り下げて調査を行った。

遺構内のII Bを除去後、II BにTa-d₁を含み、Ta-d₂がわずかに混じる覆土がある。更に掘り下げていくと、住居地の南西部分においてS-1検出と、床面(Ta-d₂面)がほかの部分に比べ低い事、あるいは別の遺構との重複も想定された事から、急きょ南西側にトレンチをいれ、土層観察用のベルトを設定した。その結果、ほかの遺構との重複は認められず、S-1もII H-14の埋没する過程の途中で、II H-14のくぼみを利用した。石囲いの焼土跡と判明した。調査のけっか、南西側に通常の床面より更にTa-d₃を掘りこんだくぼみを持つ住居で、そのくぼみは炉の利用の為に掘りこまれたものと考えられる。

床面 床面は主柱穴と考えられるものを境に、内側は平坦である。南西側には炉の利用の為に20cm程度掘りこまれたくぼみがある。

炉跡 住居地南西側のくぼみの中に炉がある。2ヶ所検出されたが、短期間にHF-1からHF-2に移動されたものと考えられる。HF-1南側の周囲には楕円形の深さ15cm程度の浅いくぼみが焼土を取り囲む様になっており、これは礫の抜き取り痕と考えられ、これと同様のものは美沢川流域の遺跡群XIVの美々3遺跡H-19で報告例がある(鈴木1990)。住居地の時期もこれと同じ時期に相当するものと考えられる。

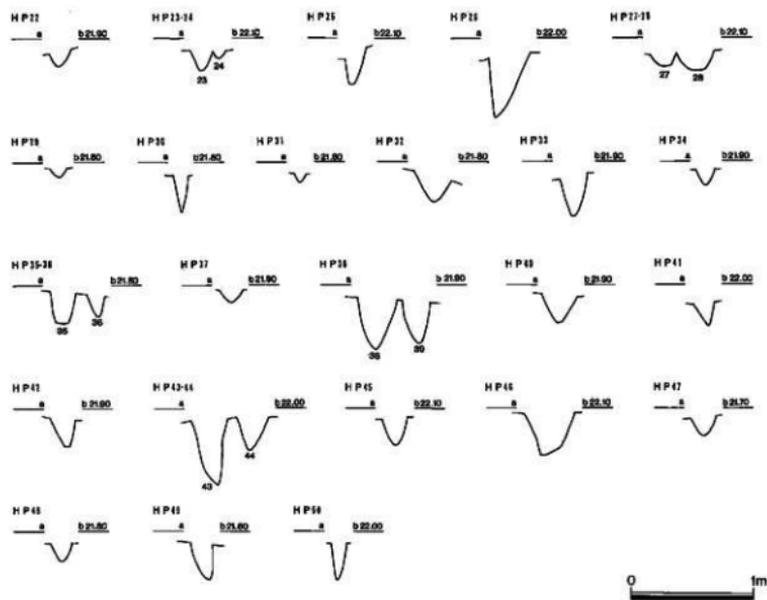
壁 壁と床との境ははっきりとしており、急に立ち上がる。

柱穴 壁にあるもの、住居内にある主柱穴と考えられるものと、主柱穴にある小さな柱穴と、その他規則性を感じられない柱穴とに分けられる。住居南西側側のくぼみとも考慮し、遺構の重複も考え柱穴の重複に関して精査したが一箇所しか認められなかった。

時期 床面出土の遺物からみて、縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。

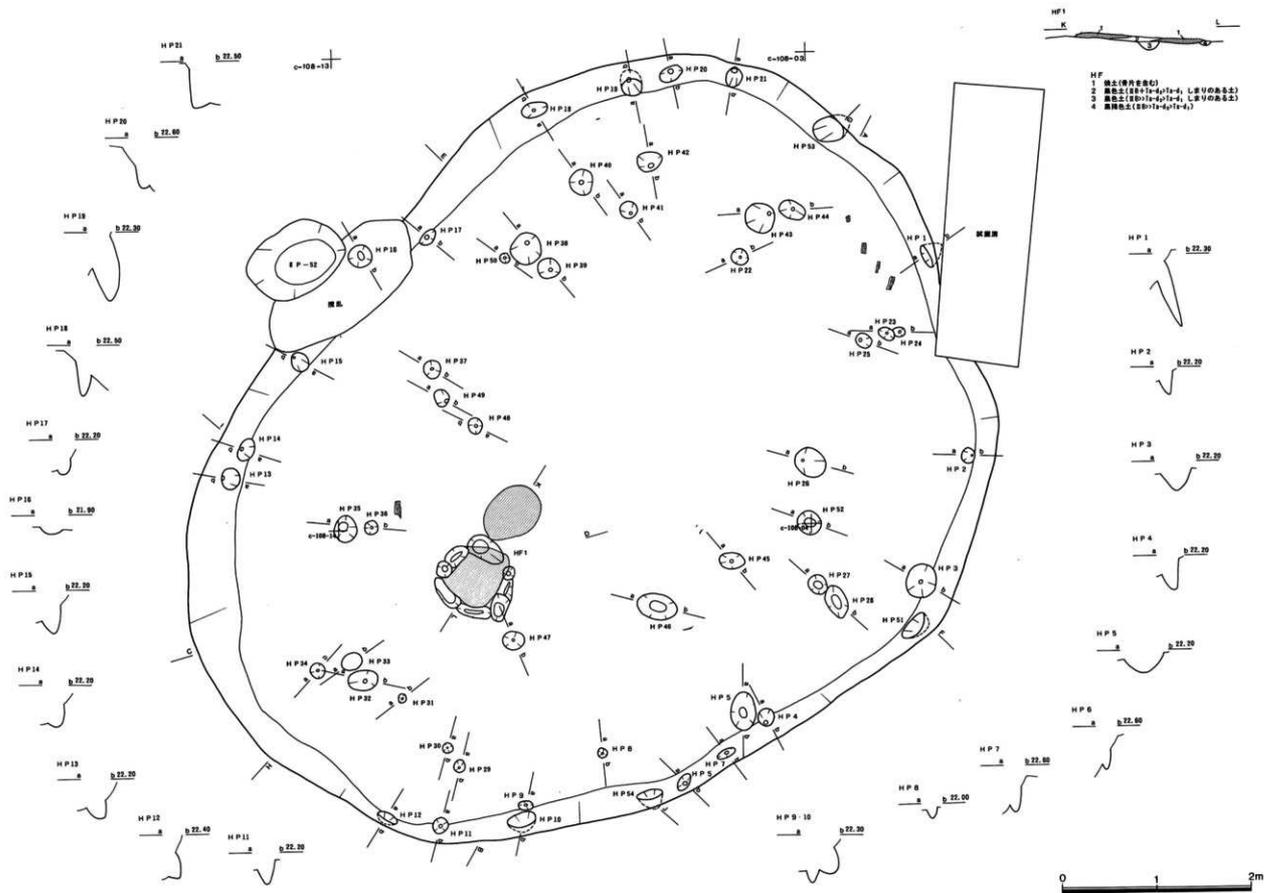
遺物 1・10・11はIII群b-2類土器、2~9・12~19はIII群b-3類土器、20はIV群a類土器である。1は口唇から口縁にかけて貼付帯がつく。貼付帯上には円形の刺突文が施されている。口唇に縄の圧痕がつく。内面はやや凹凸がある。原体はRLである。

1~6は石鏃である。7・9・11はポイントまたはナイフ、8は石錐、10・12・13はスクレイパーである。14は円盤状土製品である。15は滑石製の垂飾である。

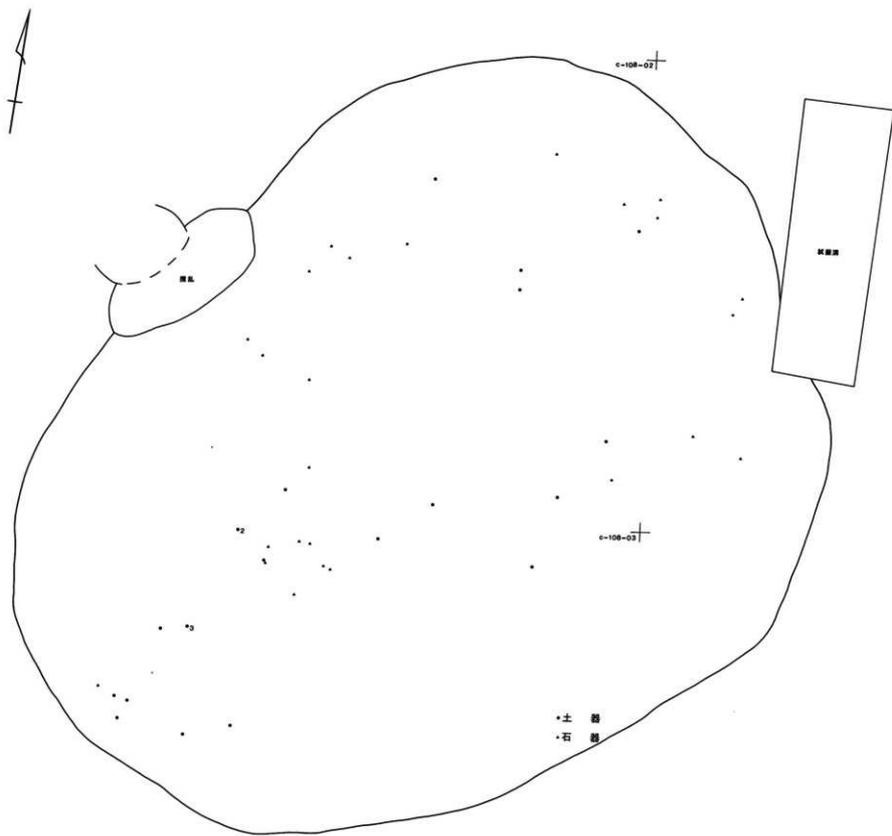


図IV-55 II H-14

II H-14

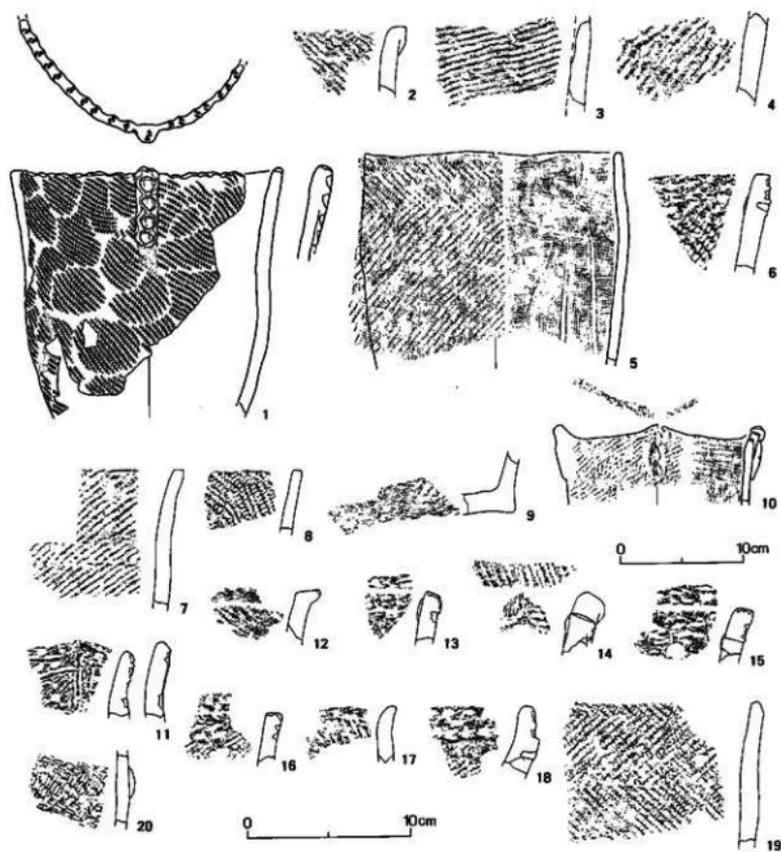


図IV-56 II H-14

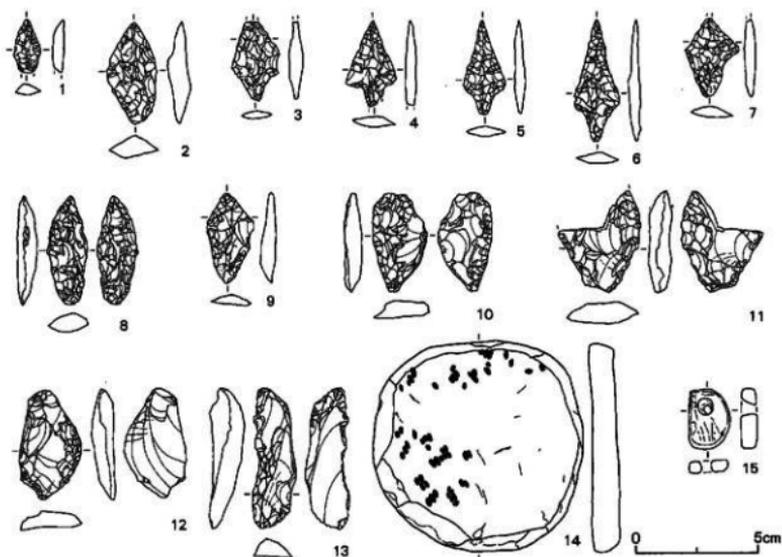


図IV-58 IIH-14 出土遺物の位置

0 1 2m



图IV-59 II H-14 遺物分布



圖IV-60 II H-14 遺物分布

IIH-15 (図IV-61~65)

位置 c-108-90・91

平面形 円形

規模 3.80/3.40×3.44/3.12×0.36m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、c-108-91区域を中心にIIH上面が落ち込んでいるのが確認された。東西、南北にトレンチを設定し、掘り下げたところ、Ta-d₂層下30cmにいたる掘り込みであることが確認された。土層観察と、壁の立ち上がりの検出作業に及んで、Ta-d₂層の上面を壁面とするもう一つの遺構があることを確認して、これをIIH-19とした。

土層は、このうえにIIH-19がつくられたときの人為的な埋積層があり、Ta-d₂のバミスを多く含んだ黒色土が本住居跡の覆土になっていて、複雑な堆積を示している。

付属ピット 柱穴状のピットが9個検出された。断面形は浅く先端が丸みをもつものであるが、中心から放射状に並んで検出されている。

床面 Ta-d₂を30cmも掘り込んで作られている。ほぼ平坦でかたくしまった床である。

壁 立ち上がりが急で床との境が明瞭である。

炉跡 炉跡は検出されていない。

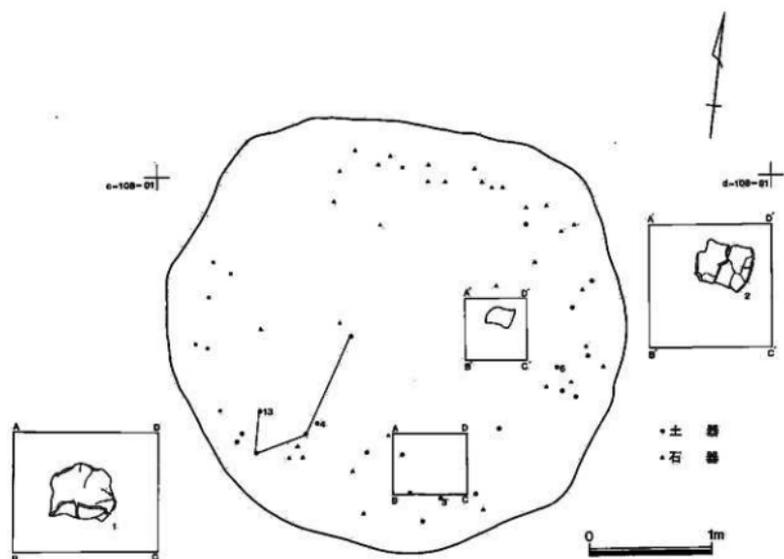
遺物の出土状況 床面にかなりの遺物が集中して出土している。2個体の土器の出土が見られ、また、覆土中からは磁石の出土も見られた。

時期 床面出土の遺物からみて、縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

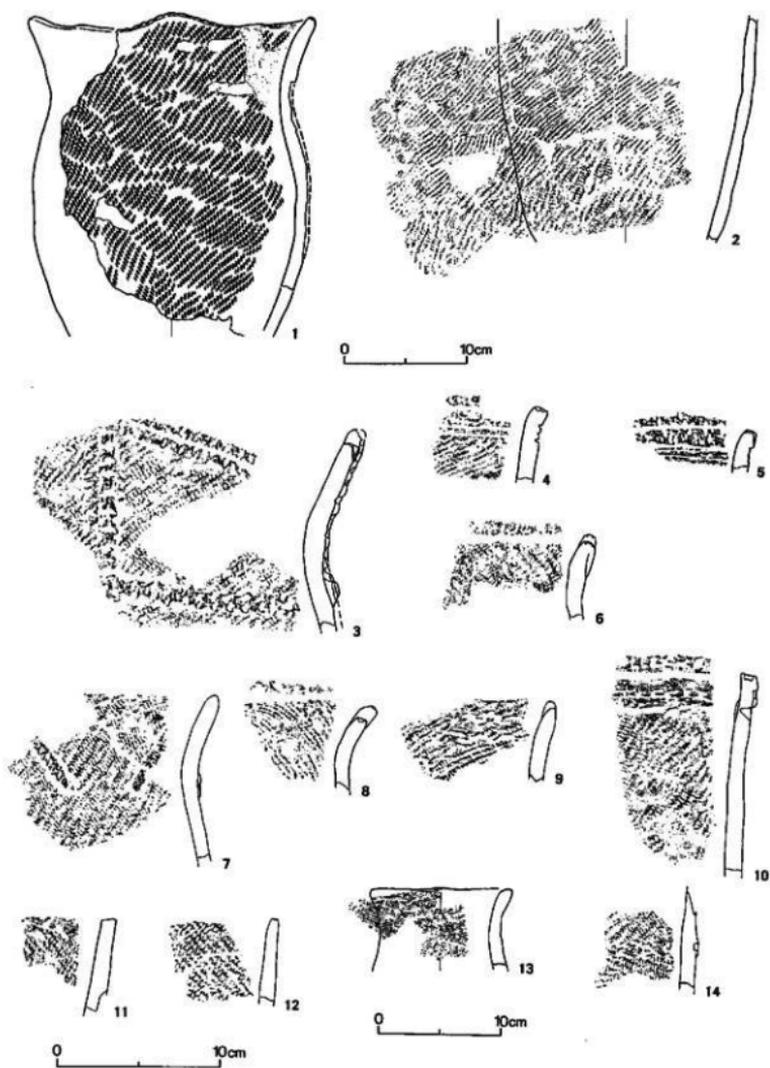
遺物 3~9はⅢ群b-2類土器、1・2・10~14はⅢ群b-3類土器である。1は緩やかな波状口縁をもち、口唇には竹管状工具による円形の刺突文が施されている。内面は凹凸がある。原体はLRで、条がやや乱れている。

1・2は石鏃である。3・4はスクレイパーである。7は石斧、5・6・8は石斧片である。9は板状の磁石で、底面は1面である。

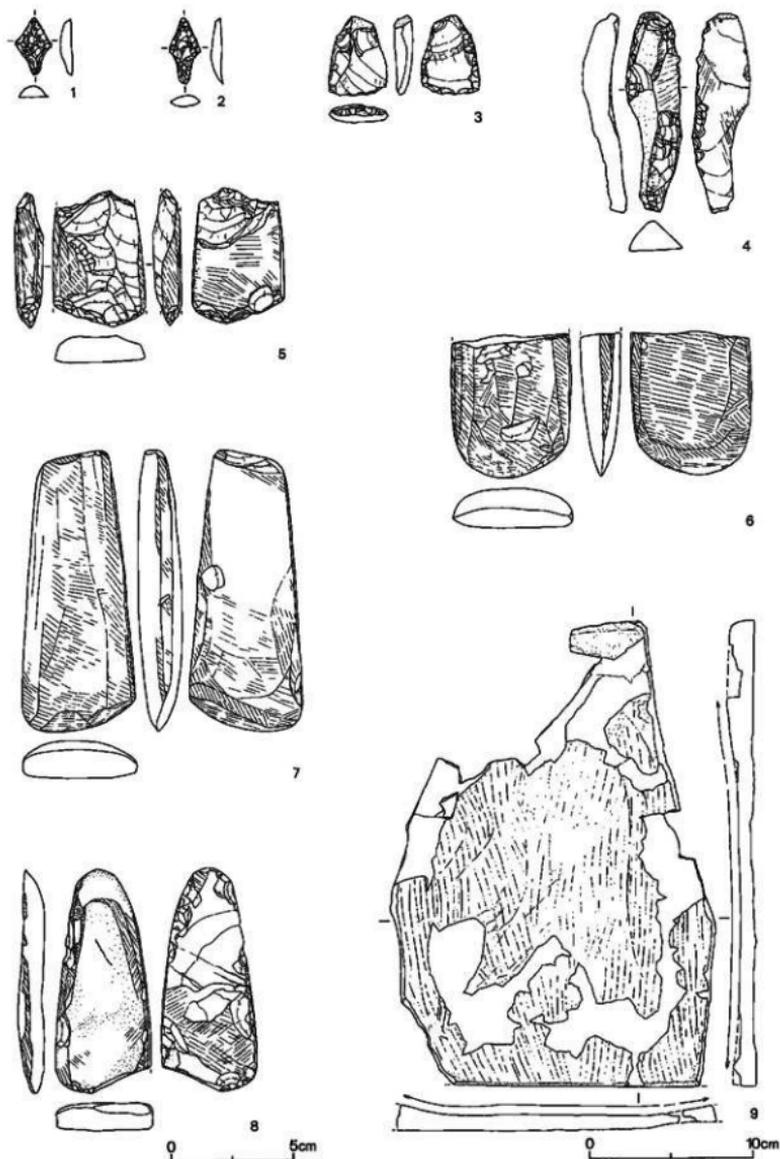
図IV-65-1~11は三角形土製品である。



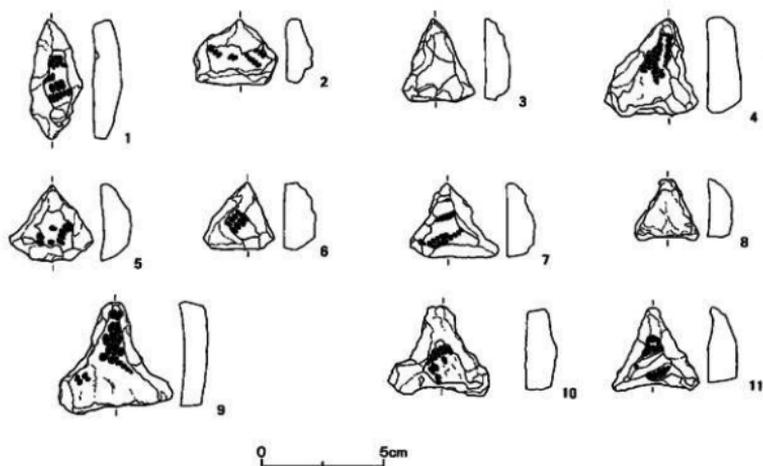
図IV-62 II H-15 出土遺物の位置



図IV-63 II H-15 出土遺物



图IV-64 II H-15 出土遺物



図IV-65 II H-15 出土遺物

II H-16 (図IV-66~69)

位置 c-108-16・26

平面形 東西を長軸とする楕円形

規模 (3.65)/3.60×(3.50)/3.28×0.63m

確認・調査・土層 II H-10住居跡を調査中に確認された。覆土はII B層とTa-dが混入した褐色土である。掘り込み面はII B層下面である。

付属ビット 柱穴状のビットが42個確認された。径は大きいものがすくなく約10cm程のものが多い。断面形は先端が丸みをもつもの、細く杭状になるものがある。

床面 Ta-d₂を掘り込んでつくられている。やや凹凸がある。

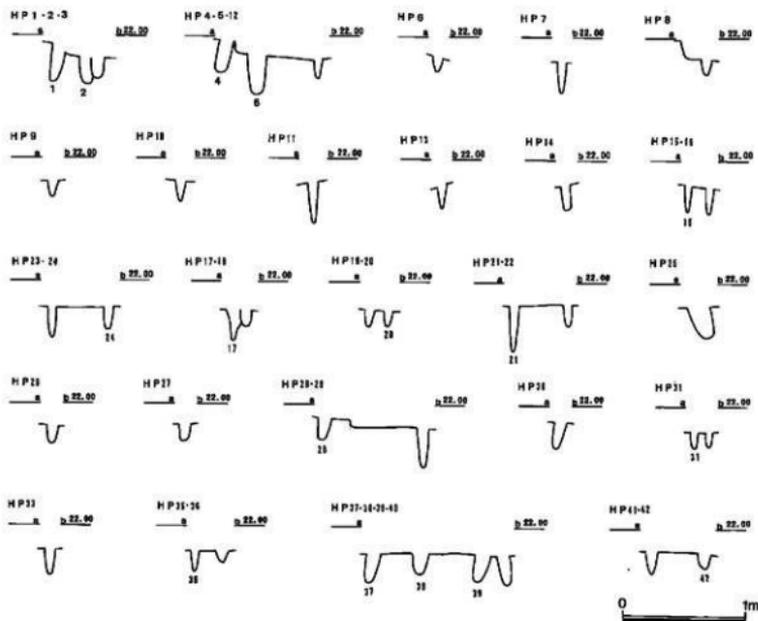
壁 立ち上がりは急である。上部はII H-10・20に切られている。

炉跡 2カ所確認された。HF 1は住居跡のほぼ中央部にある。浅い掘り込みをもつ。焼土の厚さは約3cmである。HF 2は北側の壁寄りで確認された。焼土の厚さは約3cmである。

遺物の出土状態 北側の覆土中から土器がある程度まとまって出土した(図IV-68)。予想に反して接合できないため図示していない。

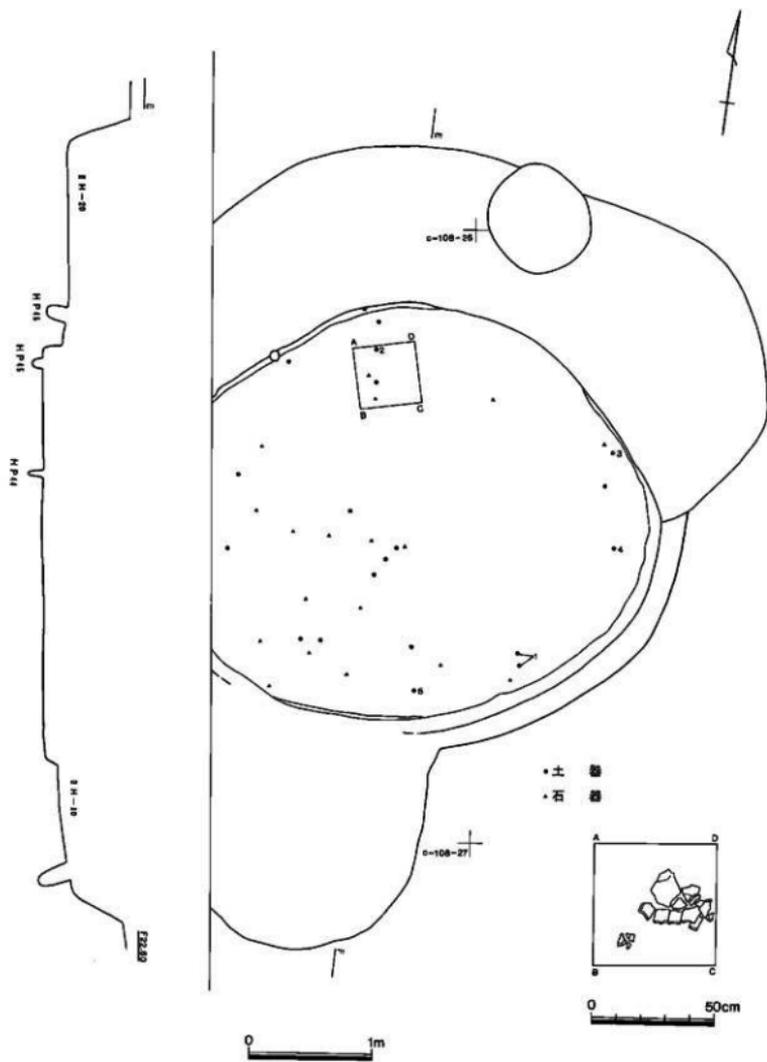
時期 床面出土の土器からみて、縄文時代中期後半Ⅲ群b-2類土器の時期と考えられる。

遺物 1~4・7はⅢ群b-2類土器、5はⅢ群b-3類土器、6はⅣ群a類土器である。1は口唇に縄文が施される。2は口縁・体部に竹管状工具による刺突文が施されている。3は縦位・横位の沈線が付く。4はLR原体の斜行縄文が施されている。7は口縁部から体部にかけて横位・縦位の貼付帯がつく。貼付帯上・口唇には縄の圧痕による刻み目が付く。原体はLRである。5は調整により糸の一部が消えている。6は貼付帯上がLR、体部がRLの原体である。

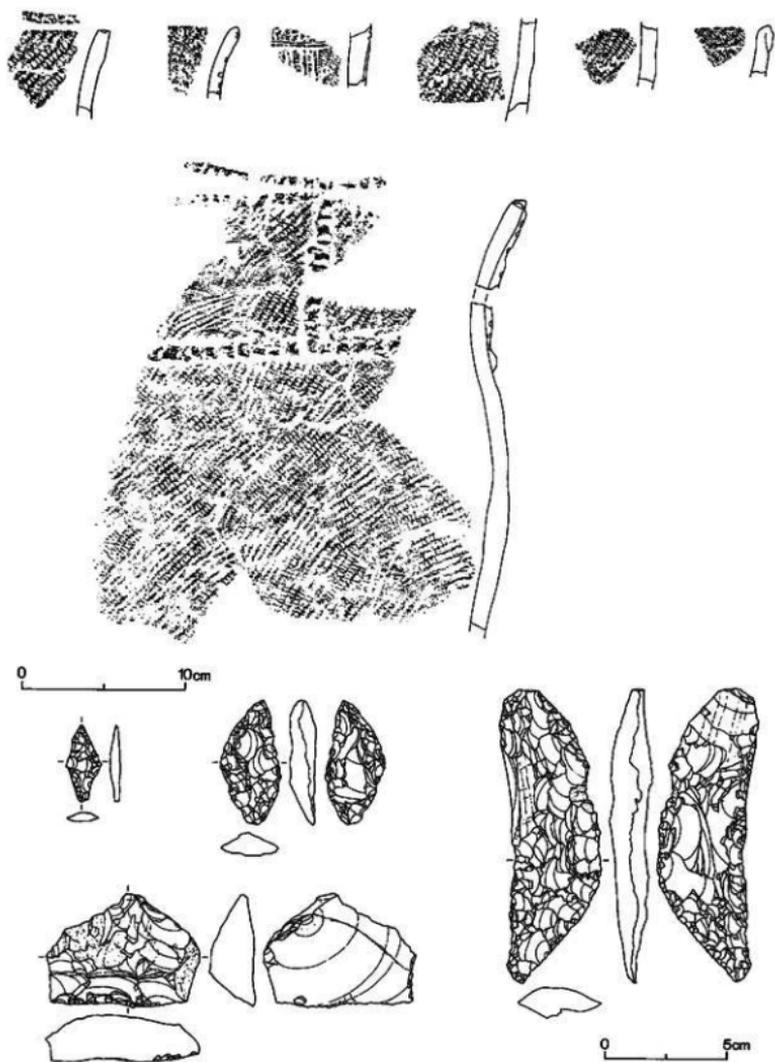


図IV-67 II H-16

II H-16



図IV-68 II H-16 出土遺物の位置



图IV-69 II H-16 出土遺物

IIH-17 (図IV-70~72)

位置 d-108-94・95

平面形 長円形

規模 (3.20)/2.58×(3.07)/2.48×0.73m

確認・調査・土層 IIH-12の調査中に確認された。調査の結果、IIH-12・23と重複する遺構であることが判明した。土層はIIH-23覆土の下にII B層とTa-d₂が混入した褐色土が堆積している。

付属ピット 柱穴状のピットが11個確認された。断面をみると全てほぼ垂直になっている。

床面 Ta-d中に作られている。やや凹凸があり、北側は高くなっている。

壁 上部はIIH-23に切られている。立ち上がりは急で、床との境は明瞭である。

炉跡 中央部からやや東側で確認された。焼土の厚さは約3cmである。

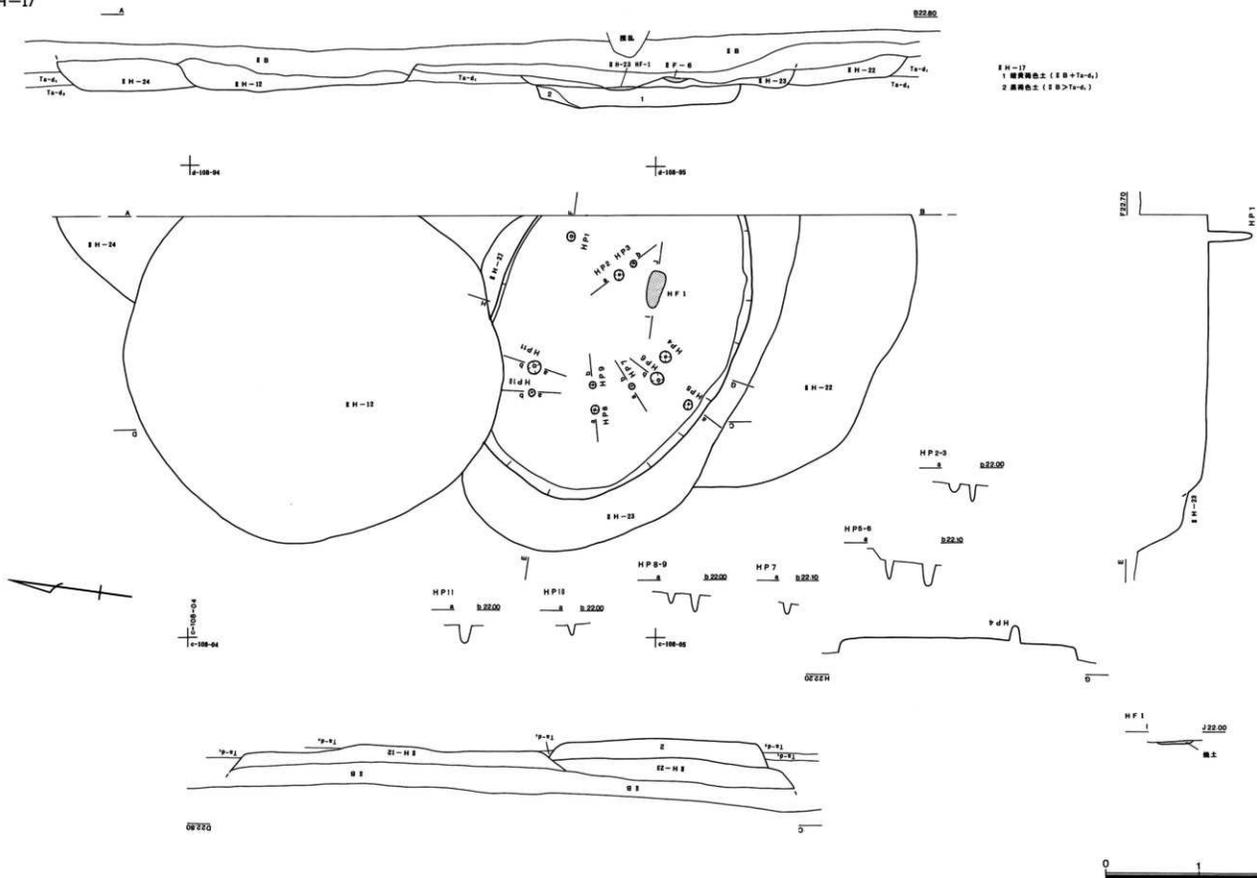
遺物の出土状態 北東側の床面から2個体の土器が一括出土した。土器の内面を表にした状態で出土した(図IV-71)。

時期 床面出土の土器からみて、縄文時代中期後半III群b-2類土器の時期と考えられる。

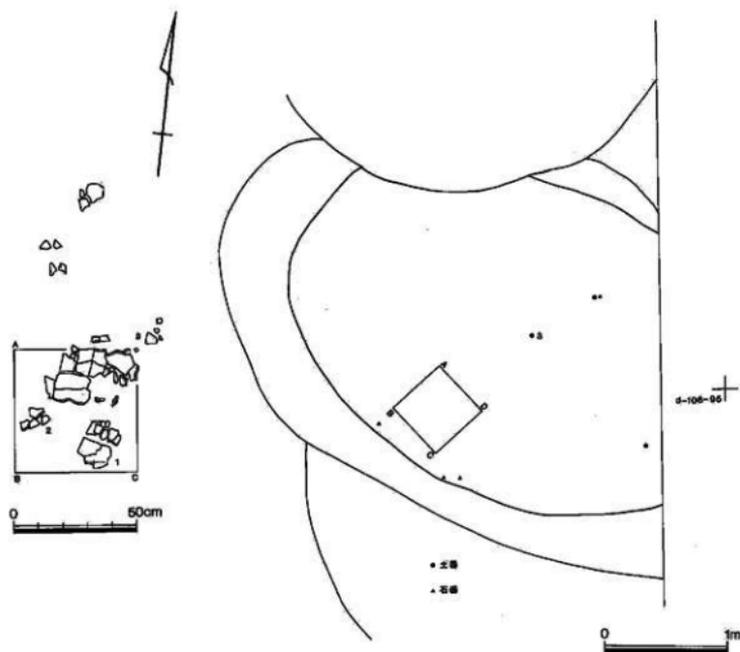
遺物 1~3はIII群b-2類土器、4~7はIII群b-3類土器、8はIV群a類土器である。1は口縁が外傾する深鉢形土器である。口唇には竹管状工具による刺突文がつく。口縁部から体部にかけては縦位の、体部には横位の貼付帯が付く。縦位の貼付帯の口縁部には山形突起が体部には貼瘤がつく。貼付帯の間には沈線と竹管状工具による押し引き文が施される。貼付帯上の文様は縦位のものは短刻文、横位のものは押し引き文である。内面は凹凸があり、ヘラ状工具による粗いミガキが施されている。原体はLRである。2は平たい貼付帯をもち、その上には縄による刻み目が施される。上部には縄線文が施されている。地文はLRの斜行縄文である。3は押し引き文と刺突文がつく。4・6は口縁に、5は口唇・口縁に押し引き文がつく。7は貼付帯上に刻み目がつく。地文はLRRL原体の羽状縄文である。8は体部に縦位施文、貼付帯上に横位施文の縄文がつく。

9~11は石鏃である。14はナイフ、12・13・15はスクレイパーである。

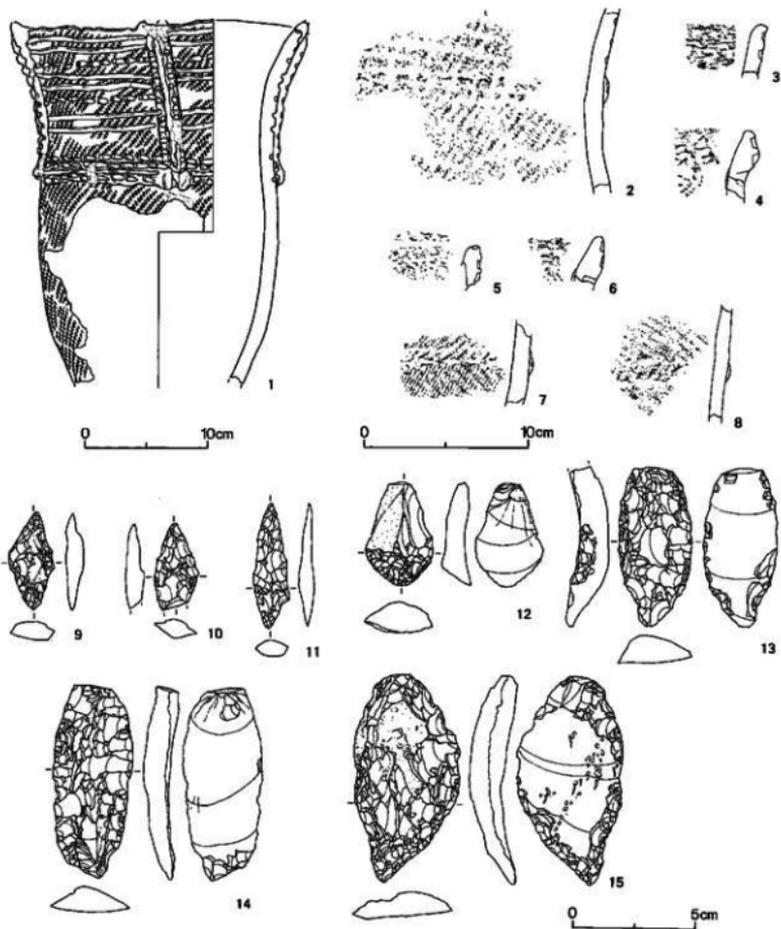
II H-17



図IV-70 II H-17



図IV-71 II H-17 出土遺物の位置



図IV-72 II H-17 出土遺物

図IV-72 II H-17 出土遺物

IIH-18 (図IV-73~74)

位置 c-108-06 d-108-96

平面形 東西を長軸とする長円形

規模 4.80/3.52×4.60/3.12×0.72m

確認・調査・土層 IIH-11の調査中に確認された。IIH-11の床面に黒い落ち込みがあることを確認し、東西、南北のトレンチに沿ってこれを掘り下げたところ、Ta-d₂層下約20cm程の掘り込みがあることが明らかになった。土層断面によって、これはIIH-11よりも古く、IIH-18の上にIIH-11がつくられていることがわかった。

土層の堆積は単純でIIH-11の土層下に2枚の覆土が堆積している。

付属ピット 柱穴状の小ピットは34個確認された。断面をみると全てほぼ垂直になっている。深さは10~32cmのものまである。

床面 Ta-d₂層中に作られている。ほぼ平坦である。

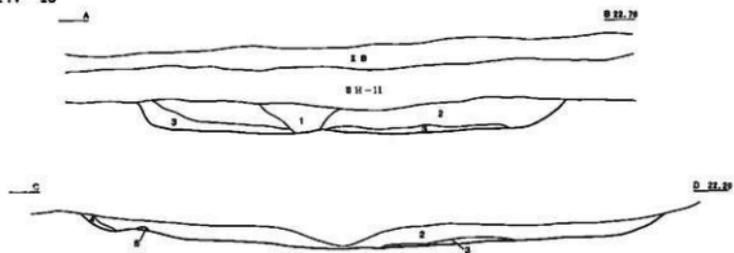
壁 立ち上がりはゆるやかであるが、床との境は明瞭である。

炉跡 中央部に長軸方向に2基並んで検出された。ともに焼土の厚さは5cmほどで浅いが、炭化物を多く含んでいた。

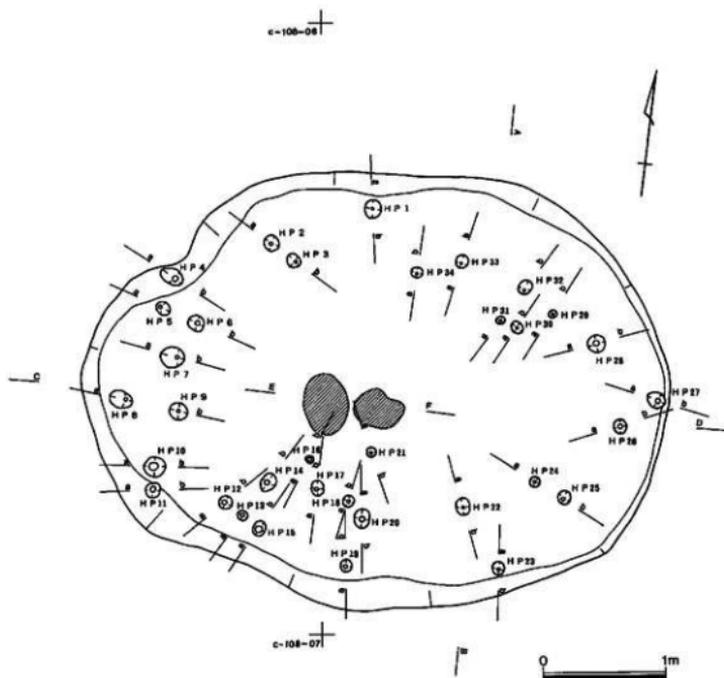
時期 床面出土の土器からみて、縄文時代中期後半Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 1~6はⅢ群b-2類土器、7~8はⅢ群b-3類土器である。

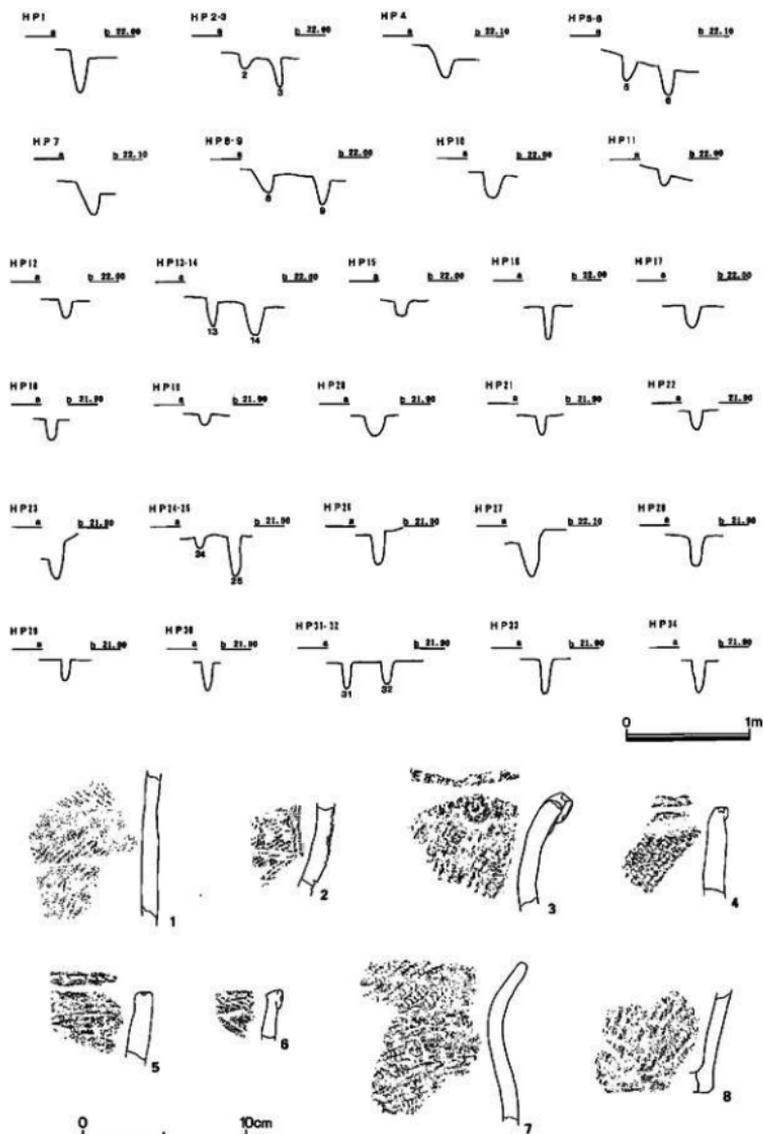
IIH-18



- IIH-18
 1 明礬層黒土(IIH-1a-c)
 2 暗礬層黒土(IIH-1a-c, 1a-d)
 3 黒礬層黒土(IIH-1a-c, 中から下へ)
 4 暗礬層黒土(IIH-1a-c, 1a-d)
 5 明礬層黒土(IIH-1a-c, プログラフ)



図IV-73 IIH-18



図IV-74 II H-18 柱穴と出土遺物

II H-19 (図IV-75)

位置 d-108-90・91・c-108-00・01

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 9.36/7.00×8.80/6.60×0.56m

確認・調査・土層 II H-15の調査中に確認された。土層断面によって、II H-15の上層にこれを上回る大きさの遺構があることを確認、トレンチを放射状に設定して、床面と壁面の検出作業を行った。Ta-d₁層をわずかに掘り込む程度であったため、検出作業はかなり困難なものであった。II H-15との重複部分は、これをTa-d₂を含んだ黒色土によって埋立てたうえで床面をつくっているようである。それ以外の土層の堆積は単純で、II B層の下に二枚の覆土を有している。

付属ピット 柱穴状のピットが28個確認された。断面をみるとほとんどが垂直になっているが、II H-15の周囲には住居跡中心に傾いた柱穴も見られた。II H-15の柱穴の可能性も考えられる。

床面 わずかにTa-d₂層を掘り込んで作られている。平坦ではあるが、床面としてはあまり踏み固められてはいない。

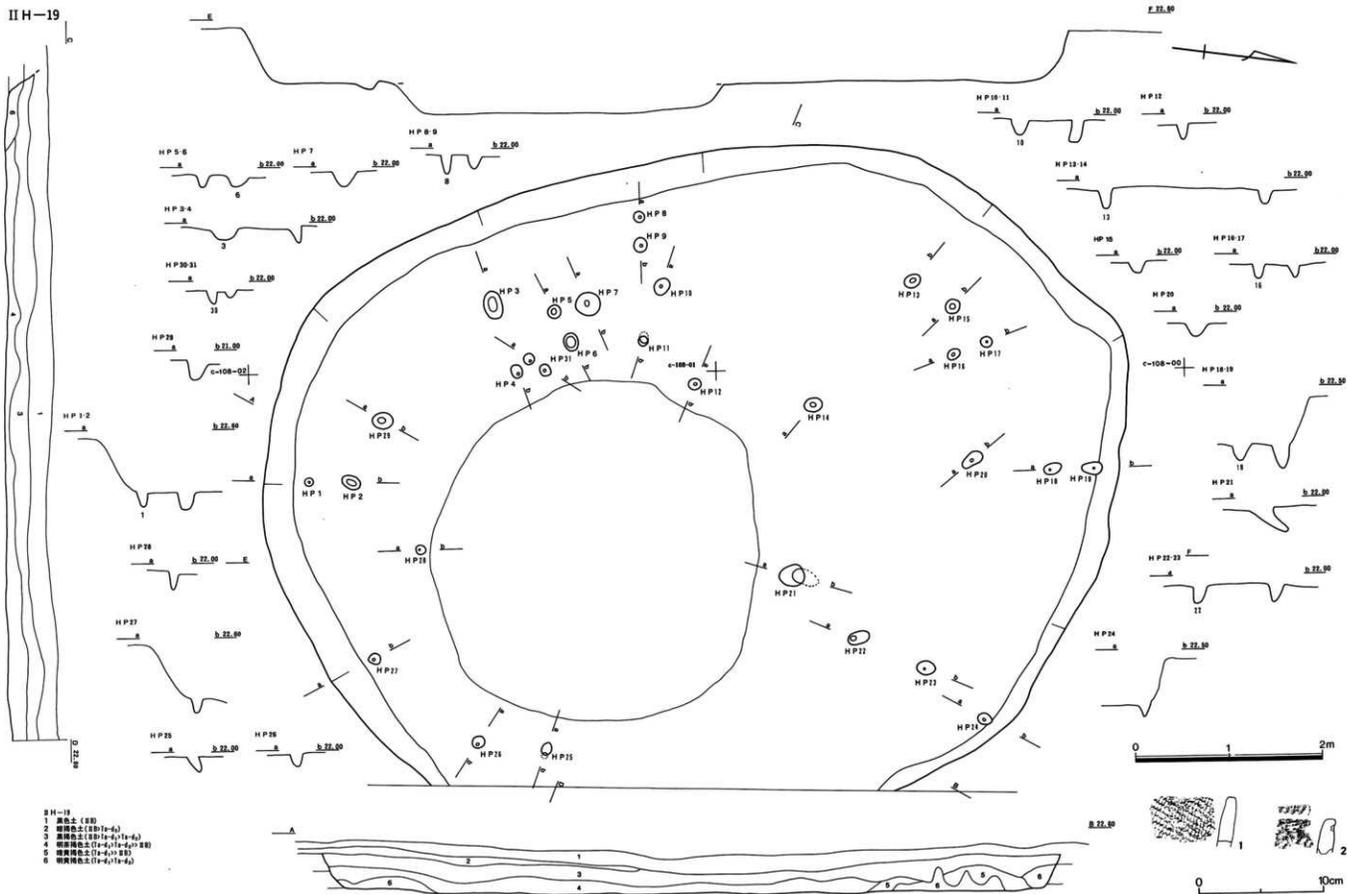
壁 Ta-d₁層を壁面にしていたため、たいへんしまりの悪い壁面となっている。そのため、確認検出も非常に困難であった。立ち上がりは緩やかで、床との境は明瞭ではない。

炉跡 検出されていない。

遺物の出土状態 遺物は大半が覆土からの出土で、床面からは僅かに出土したのみである。

時期 床面出土の土器からみて、縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 1はIII群b-2類土器、2はIII群b-3類土器である。1は胎土に小石を含む。口唇・内面はよく研磨されている。原体はRLである。2は口唇に縄文が施され、口縁に刺突文がつく。



图IV-75 II H-19

II H-20 (図IV-76~78)

位置 c-108-26-27

平面形 不明

規模 (2.00)/(1.73)×(1.84)/(1.46)×0.49m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層の上面がくぼんでいるのが確認された。くぼみにトレンチをいれ、掘り下げたところII B層にTa-dが混入した褐色土が検出された。褐色土を掘り下げると住居跡の床面があり、北側ではさらにその下にTa-d層を床面・壁とした住居跡が確認された。調査の結果、重複した遺構であることが判明した。

付属ピット 柱穴状のピットが9個検出された。断面形は先端が丸くなっている。深さは比較的浅いものが多い。

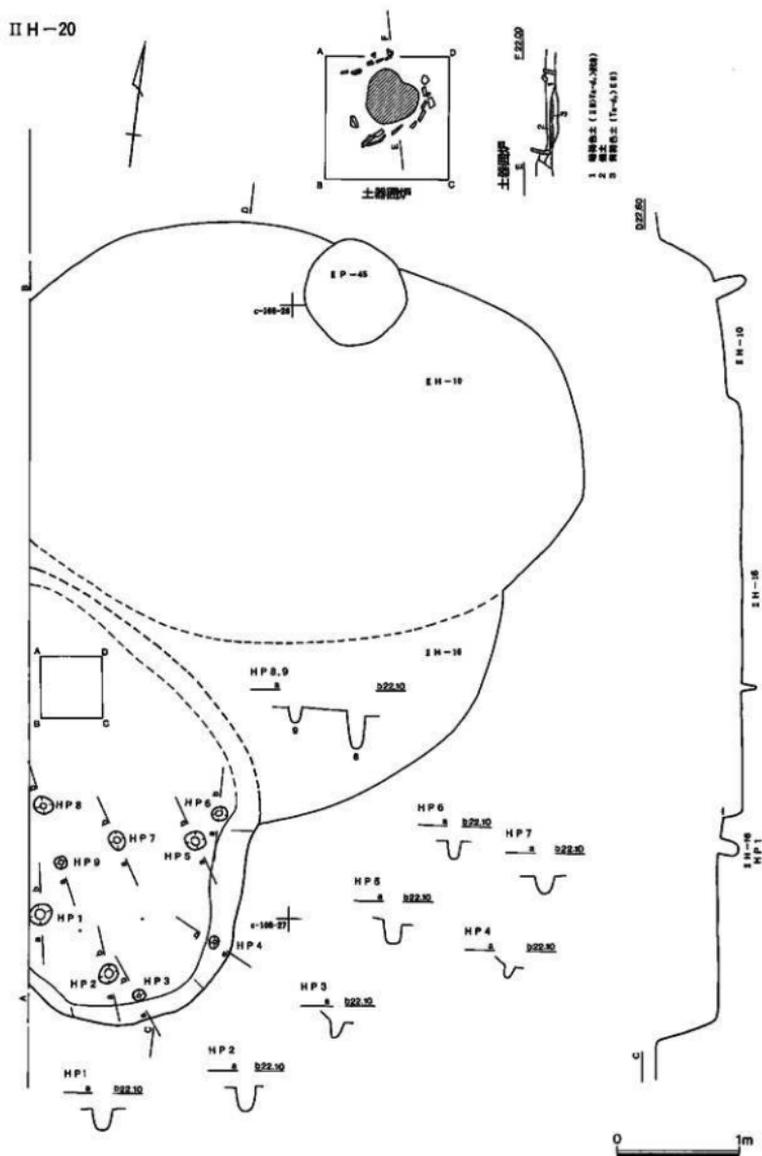
床面 Ta-d₂層とII H-16の覆土を掘り込んで作られている。II H-16の覆土の部分では凹凸がある。

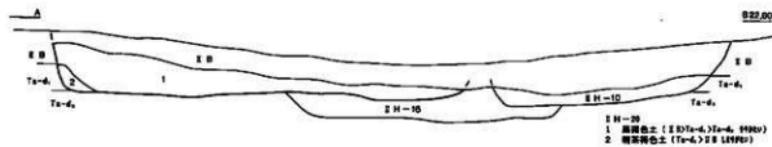
壁 北側では立ち上がりが急であるが南側は床面との境が不明瞭である。

炉跡 土器囲い炉が検出された。炉は浅く掘り込まれている。そのまわりに土器片がほぼ垂直に差し込まれている。焼土の厚さは約3cmである。

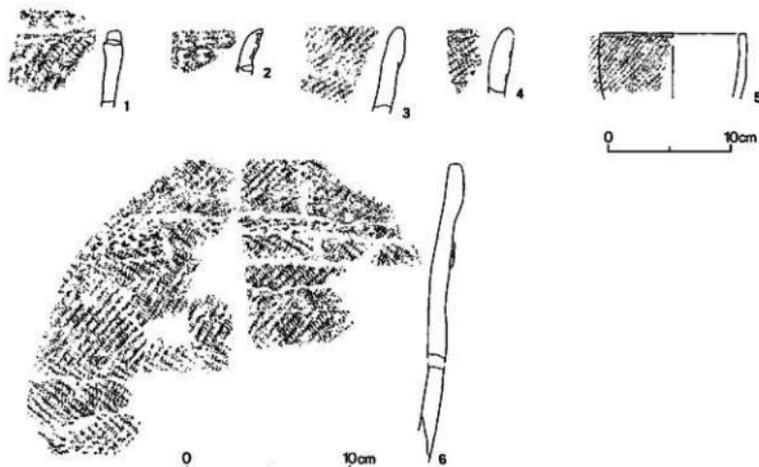
時期 土器囲い炉の土器が縄文時代中期末(Ⅲ群b-3類)期であることからみて同時期か、やや古い時期と考えられる。

遺物 1はⅢ群b-2類土器、2はⅢ群b-3類土器である。1は胎土に小石を含む。口唇・内面はよく研磨されている。原体はRLである。2は口唇に縄文が施され、口縁に刺突文がつく。





図IV-77 II H-20



図IV-78 II H-20 出土遺物

IIH-21 (図IV-79~81)

位置 c-108-14・15

平面形 不明

規模 3.36/2.80×2.96/2.40×0.64m

確認・調査・土層 IIH-13の南北に入れられたトレンチによる調査で検出された遺構である。覆土はTa-d₁、Ta-d₂を多く混入する暗褐色土で、全体的にやしまりのある土である。住居西側の床面から立ち上がり部分から上場にかけてと、住居跡中央部分のTa-d₂床面に骨片を多く混じる黒色土が検出されたが、これらの骨片はIIH-13の炉に共通するものと考えられ、これは、IIH-13時期と同時期に存在していた可能性が高く、IIH-13の人々によってIIH-21が埋められ、そこにIIH-13が作られた可能性が高い。

付属ピット 遺構内外に数多くの柱穴状のピットが検出された。IIH-21の中や、IIH-21をとり様に深さは20cm~40cm程度、直径10~15cm程度の柱穴状ピットがある。性格は不明である。

床面 Ta-d₂層を掘り下げて構築されており、ほぼ平坦である。

壁 床面から壁にかけての立ち上がりはやや急である。南と北の一部がIIH-13の炉によって壊されている。

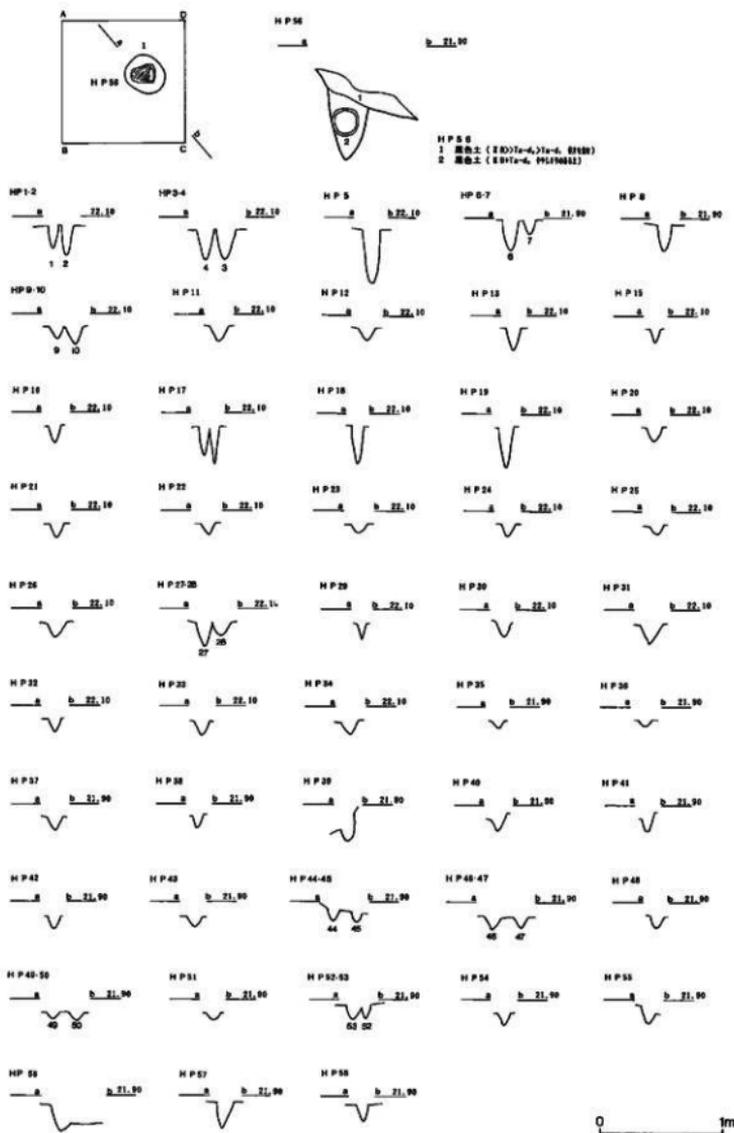
炉跡 検出されていない。

時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。また、柱穴HP-5の覆土より出土した木炭の14C年代測定では、B.P.3920±150年という結果が出ている。

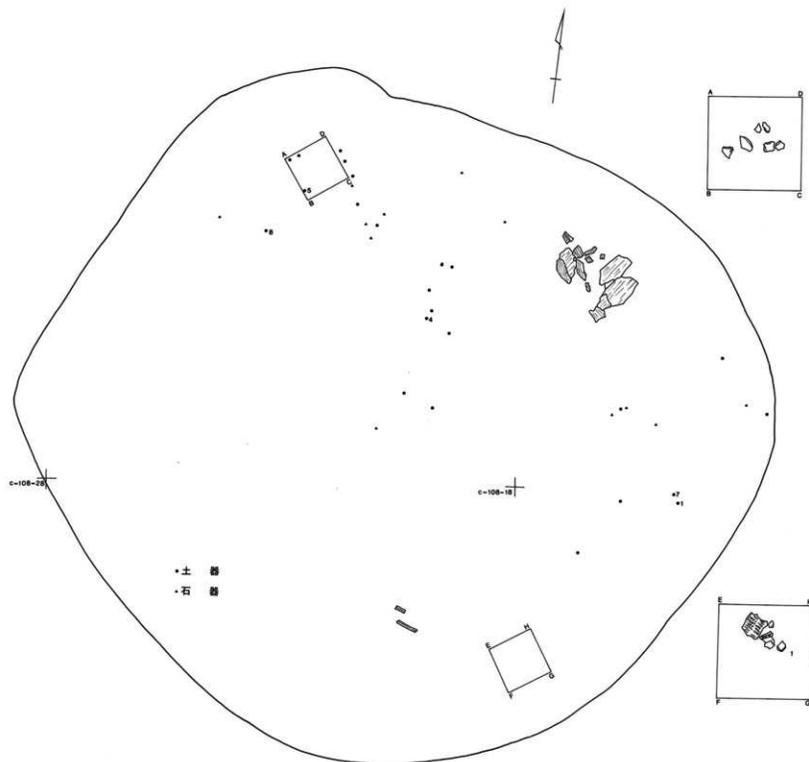
測定番号	資料番号	名称	出土地点	¹⁴ C年代 (BP)
KSU-2459	木炭No3	IIH-21	覆土	3920±150

遺物 6はIII群b-2類土器、1~5・7はIII群b-3類土器である。6は口縁の貼付帯に縄文が施されているものである。7は口縁肥厚帯に押しき文が施されている。1~3・5は縄文だけのものである。1はやや上げ底気味の鉢形土器である。地文はLR原体の斜行縄文である。4は貼付帯上と口縁から体部にかけて半截竹管状工具による押しき文が施される。口唇直下は無文になる。原体はLRである。

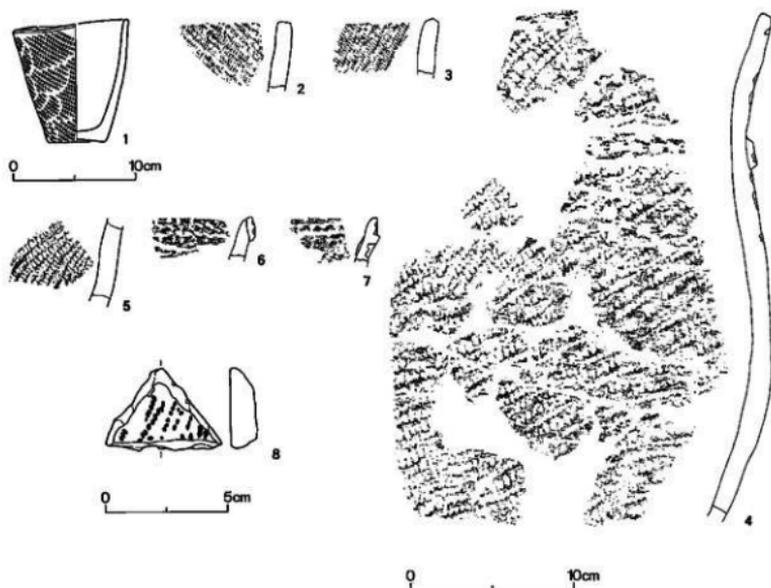
8は三角形土製品である。土器片製でLR原体の縄文が施されている。



図IV-80 II H-21



図IV-93 IIH-27 出土遺物の位置



图IV-81 II H-21 出土遺物

IIH-22 (図IV-82~84)

位置 d-108-25

平面形 不明

規模 (2.94)/---×(2.73)/---×0.57m

確認・調査・土層 IIH-17・23調査中に確認された。東側は調査区外、北側はIIH-23にさられているため不明な部分が多い。覆土はII B層に少量のTa-d₂が混入する褐色土である。上にはIIH-23の覆土とII B層の堆積がある。

付属ピット 6個の柱状のピットが検出された。住居跡の全体が不明であるため配置の規則性はわからない。いずれも断面は垂直で、先が丸くなるHP-2以外は先が細くなる杭状である。深さはHP-1・2が約13cmで他のものは20cmをこえる。中でもHP-4は約50cmある。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。北側は低くなっており、IIH-23の床より下にある。

壁 確認できた部分は、立ち上がりが急で床との境が明瞭である。

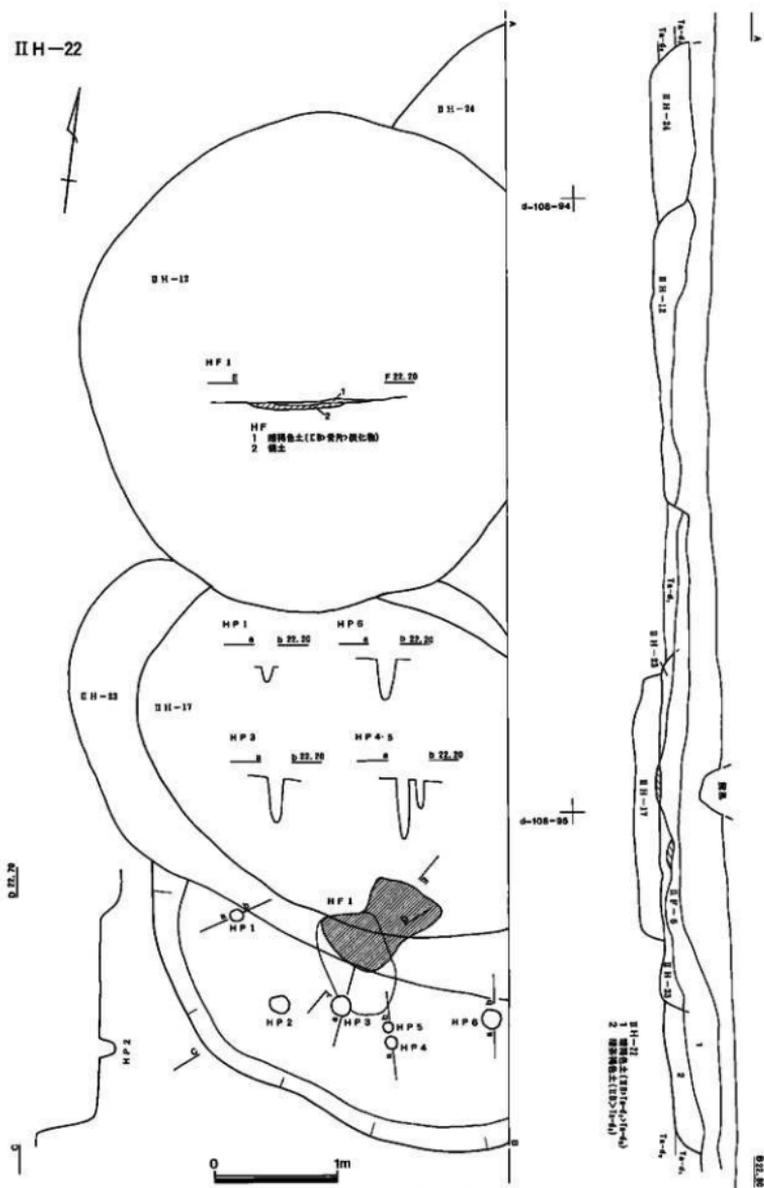
炉跡 住居跡のほぼ中央部と思われる場所で検出された。焼土の厚さは約4である。

遺物の出土状態 炉跡の半分を覆うように骨片の集中がみられた。範囲は約0.87×約0.53である。遺存体はサケなどの魚類が多く、哺乳類も少量ある(付篇1)。

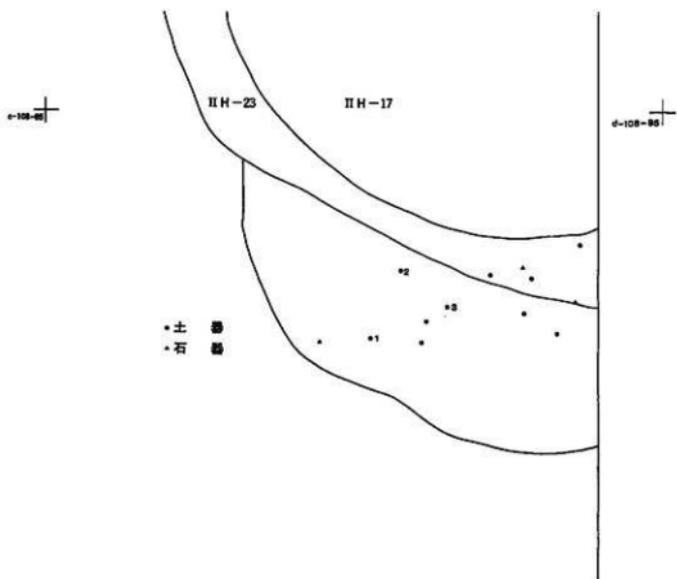
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 1~5の全てIII群b-3類土器である。1は口縁があまり肥厚しないもので刺突文がつく。4・5は肥厚帯に押しき文がつく、2は胎土に小石を多く含む。原体はLRである。3は底部でRL原体の搬走する縄文が施されている。

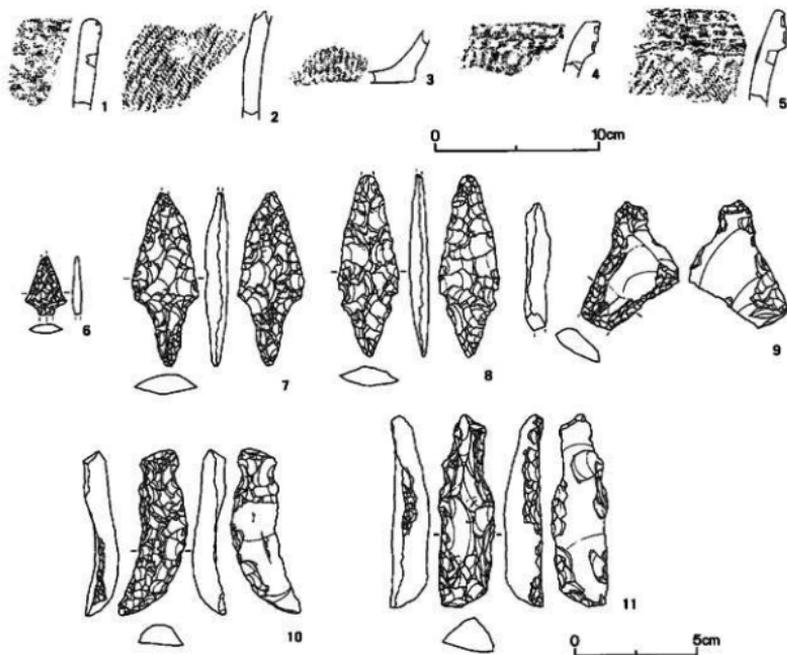
6は石鏃である。7・8はポイントまたはナイフ、9~10はつまみ付きナイフである。11はスクレイパーである。



図IV-82 IIH-22



図IV-83 II H-22 出土遺物の位置



圖IV-84 II H-22 出土遺物

II H-23 (図IV-85)

位置 d-108-94・95

平面形 長円形

規模 (3.68)/(2.78)×(3.42)/(2.56)×0.57m

確認・調査・土層 II H-12の調査中に確認された。調査の結果、4軒の住居跡が重複した遺構であることが判明した。土層をみるとII B層が深く落ち込んでおり、その直下に覆土の堆積がみられる。覆土はII B層とTa-dの混入した褐色土である。

付属ピット 5個の柱穴状ピットが検出された。断面形は先が細くなる杭状をなしている。径は約10cm程度で深さは13cm～33cmである。いずれも壁際の床面から検出された。

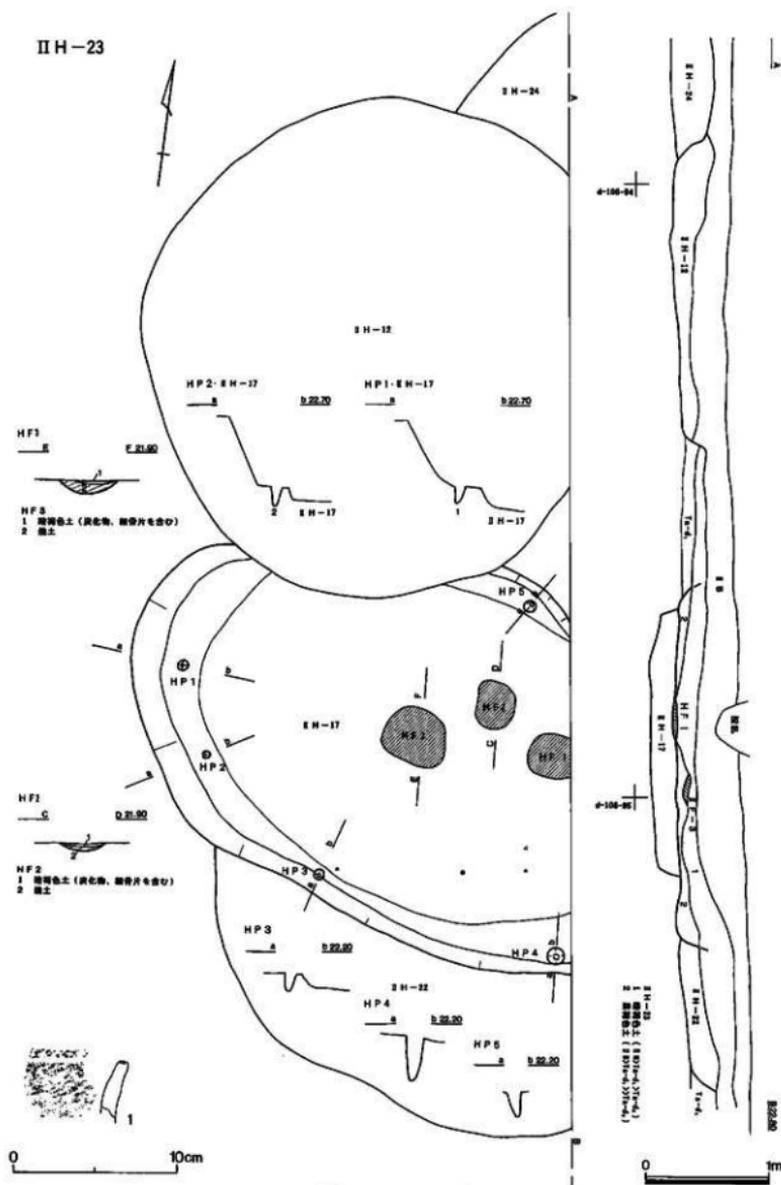
床面 Ta-d₃層とII H-17の覆土中に作られている。かなり凹凸がある。

壁 北側はII H-12に切られており、東側は調査区外であるため不明である。確認できたところでは床面との境は明瞭である。

炉跡 3個所で検出された。床面のほぼ中央部とそこから東側に2か所である。HF 2は浅い掘り込みをもつ。焼土の厚さは約4cmである。ほかの焼土の厚さはHF 1が約5cm、HF 3が約9cmである。

時期 II H-12・22・23との重複関係からみて縄文時代中期後半と考えられる。

遺物 1はIII群b-2類土器である。口唇に刺突文が付く。原体はLRである。



图IV-85 II H-23

IIH-24 (図IV-86)

位置 d-108-93・94

平面形 不明

規模 ---/---×---/---×0.48m

確認・調査・土層 IIH-12を調査中に確認された。検出されたのはIIH-12と調査区の境界に挟まれた僅かな部分である。覆土はII B層にTa-dが混入した褐色土で3層の堆積がある。掘り込み面はII B層の中程である。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。

壁 確認できた部分では床面との境は明瞭である。

炉跡 不明

時期 IIH-12に切られていることからIIH-12の構築時期より古い。

遺物 出土していない。

II H-25 (図IV-87~89)

位置 c-108-06・07・16・17

平面形 南北を長軸とする長槽円形

規模 3.60/3.12×3.08/2.40×0.72m

確認・調査・土層 II B層の上面の落ち込みは確認されなかったが、II H-16からII H-11にいたるトレンチ中央部の断面によってはじめて確認された。土層観察ベルトをプランに従って設定しなおし、掘り下げたところTa-d₂層を10cmほど掘り込んでいることが確認された。

土層は厚いII B層の下に3枚の茶褐色土を主体とする覆土が堆積していた。掘り込み面はII B層上部である。

床面 Ta-d₂層を10cmほど掘り込んで作られている。床面は比較的平坦であった。

壁 Ta-d₂層を壁面にして、しっかりとした壁を作っている。立ち上がりは急で床との境は明瞭である。

炉跡 中央部の長軸方向に2基並んで検出された。焼土の厚さはともに8cmほどで覆土に多くの炭化物、骨片が見られた。骨片は本住居跡の床面にいくつかの集中出土が見られている。

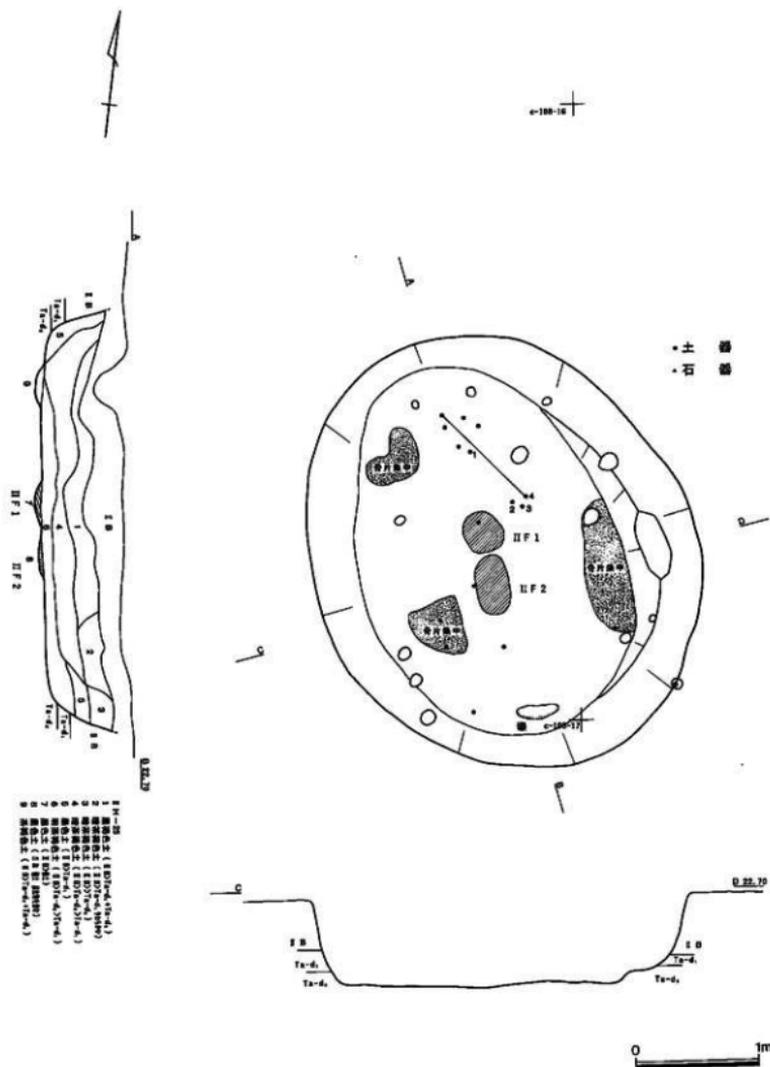
遺物の出土状態 床面出土はかなり限られていて大半は覆土上層のものであった。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代中期末のⅢ群b-3類土器の時期と考えられる。他の遺構との関連がないため、詳細は明らかでない。

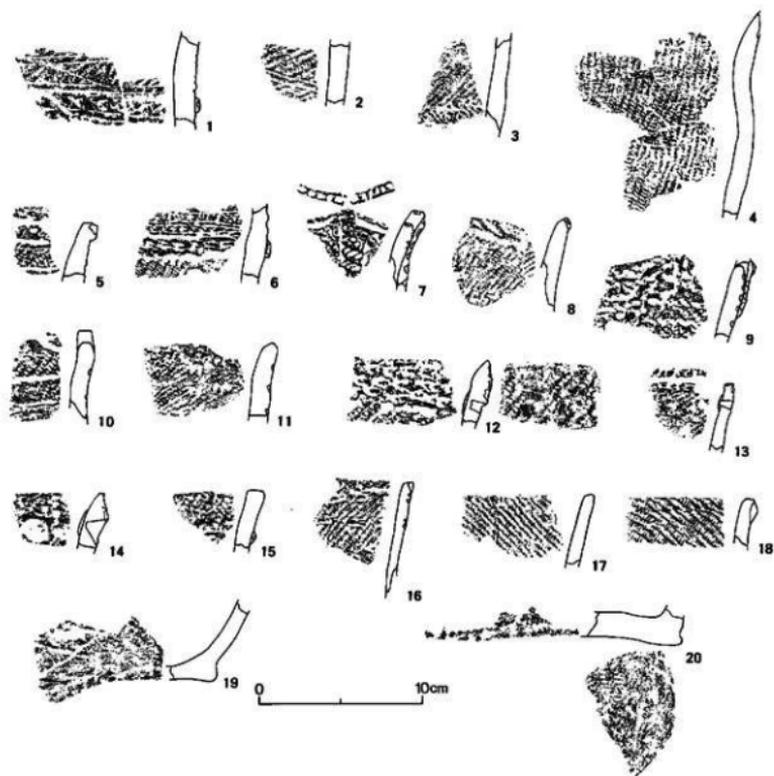
遺物 1~11はⅢ群b-2類土器、12~20はⅢ群b-3類土器である。

1は三角形土製品である。2・3は石鏃、5は石鏃片である。4はポイント、6はポイントまたはナイフである。7は砥石で、砥面は3面である。8・9はたたき石である。

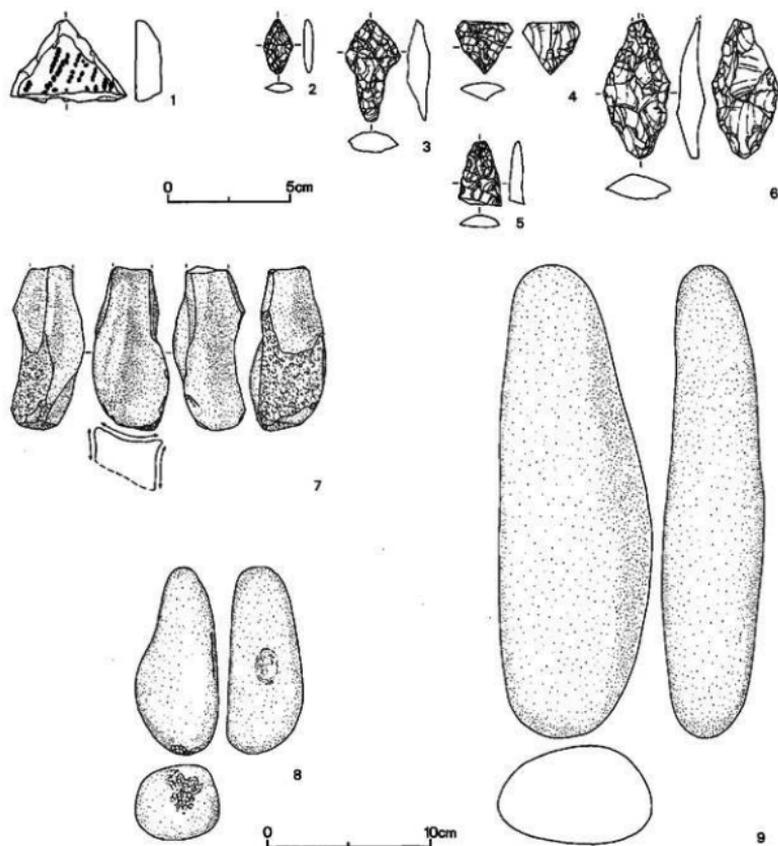
II H-25



图IV-87 II H-25



図IV-88 II H-25 出土遺物



圖IV-89 II H-25 出土遺物

II H-26 (図IV-90~91)

位置 c-108-05

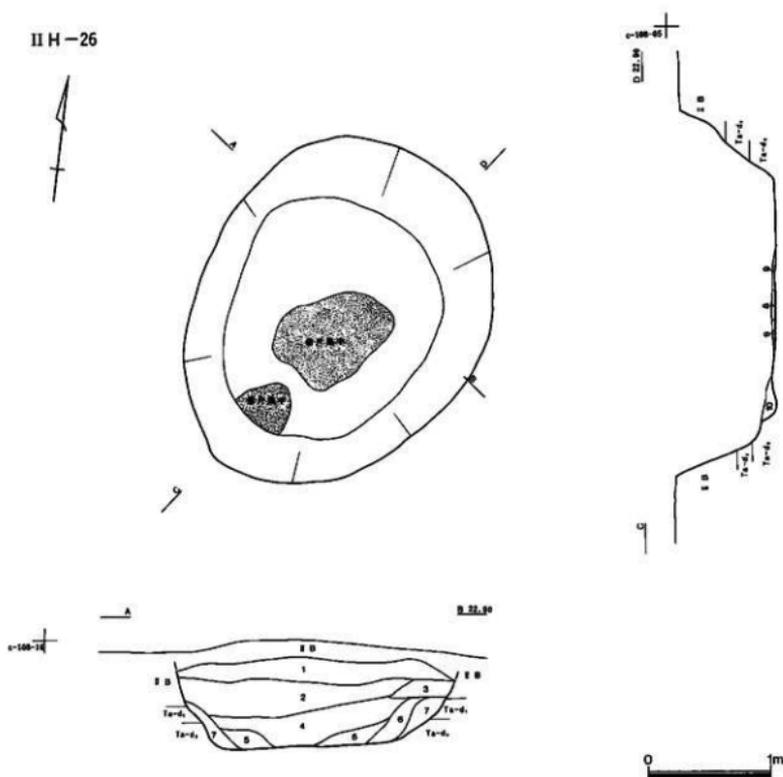
平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 2.96/2.60×2.00/1.60×0.88m

確認・調査・土層 II H-11のトレンチを掘り下げた段階で確認された。土層断面で示したように(図IV-90)、II B層上面の落ち込みは全く見られず、やや高くなっている。新たにプランに沿った形でベルトを設定して、掘り下げたところTa-d₂を20cmも掘り込んだ遺構であることがわかった。掘り込みがしっかりしていたので、床面、壁面の確認は容易であった。

土層はやや盛り上がったII B層の下に3枚の茶褐色土を主体とする覆土の堆積が見られた。掘り込み面はII B層上部と思われる。

床面 Ta-d₂層を20cmほど掘り込んで作られている。ほぼ平坦で堅くてしまりの良い床面である。



図IV-90 II H-26

壁 II B層からTa-d層を壁面にして、しっかりとした壁を作っている。立ち上がりは急で床との境は明瞭である。

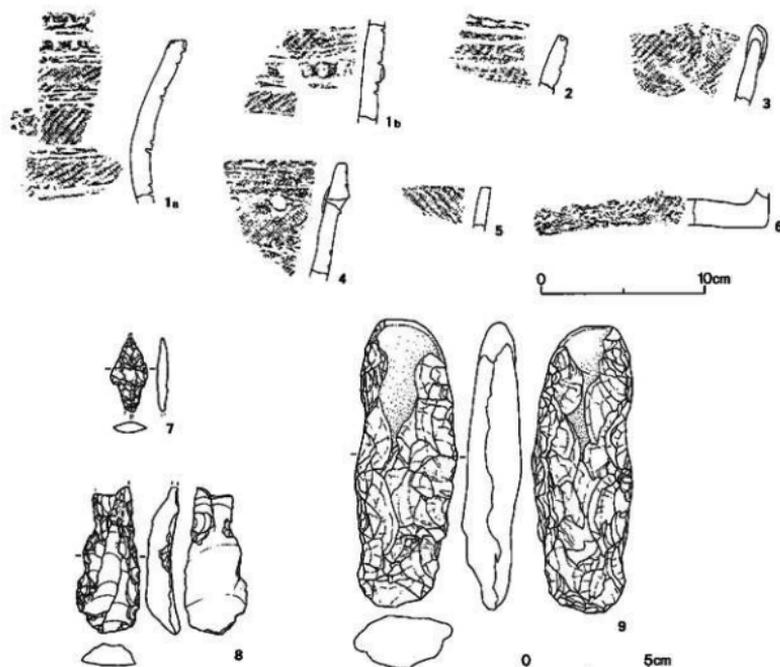
炉跡 検出されなかった。床面には骨片の集中が2ヶ所見られた。

遺物の出土状態 床面出土はなく、覆土上層のみの出土であった。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代中期末のⅢ群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との関連がないため、詳細は明らかでない。

遺物 1～3はⅢ群b-2類土器、5～6はⅢ群b-3類土器である。

7は石鏃、8はつまみ付きナイフ、9は石斧末製品である。



図IV-91 II H-26

IIH-27 (図IV-92~96)

位置 c-108-07・08・17・18

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 8.00/6.60×7.20/6.20×0.72m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去後、II B層上面にくぼみを発見する。II B上面で確認されたくぼみはやや北東から南西方向に長軸方向が延びており、住居址が2軒重複していることが確認され、土層観察用のベルトはくぼみの長軸に一本、それに交差する様に3本のベルトを設定した。先ず土層観察用のベルトに沿ってトレンチを入れ、遺構の範囲と重複関係、床面の構築面の検出作業をした。その結果、住居址3軒の重複とTピット1基の重複が確認された。IIH-27はIIH-28によって切られている。掘り上げ土が確認されたが重複している部分も多く、周囲に遺構も多く検出されているので、IIH-27自体のものとは言い難い。覆土はTa-d₁とd₂を多く含む暗褐色の土である。覆土中から焼土が6か所検出されている。住居の埋没過程において、住居のくぼみを利用しての焼土跡であろう。住居北側の覆土土層から、炭化材が検出されたが、炭化した木材と、その下から蔭状か、あるいは、薄く引いた板状のものらしい巾広で薄い炭化材が検出された。これらは住居の北側のごく一部であるが、住居の上屋構造の一部とも考えられるものである。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。住居の立ち上がりから中央へ向かって南から北にかけてもう一段Ta-d₂層を掘り込んであり、ベンチ状のものを作り出している。ベンチ状のもの、床面ともほぼ平坦である。

壁 Ta-d₂層まで掘り込んであり、立ち上がりははっきりとしている。急に立ち上がる。

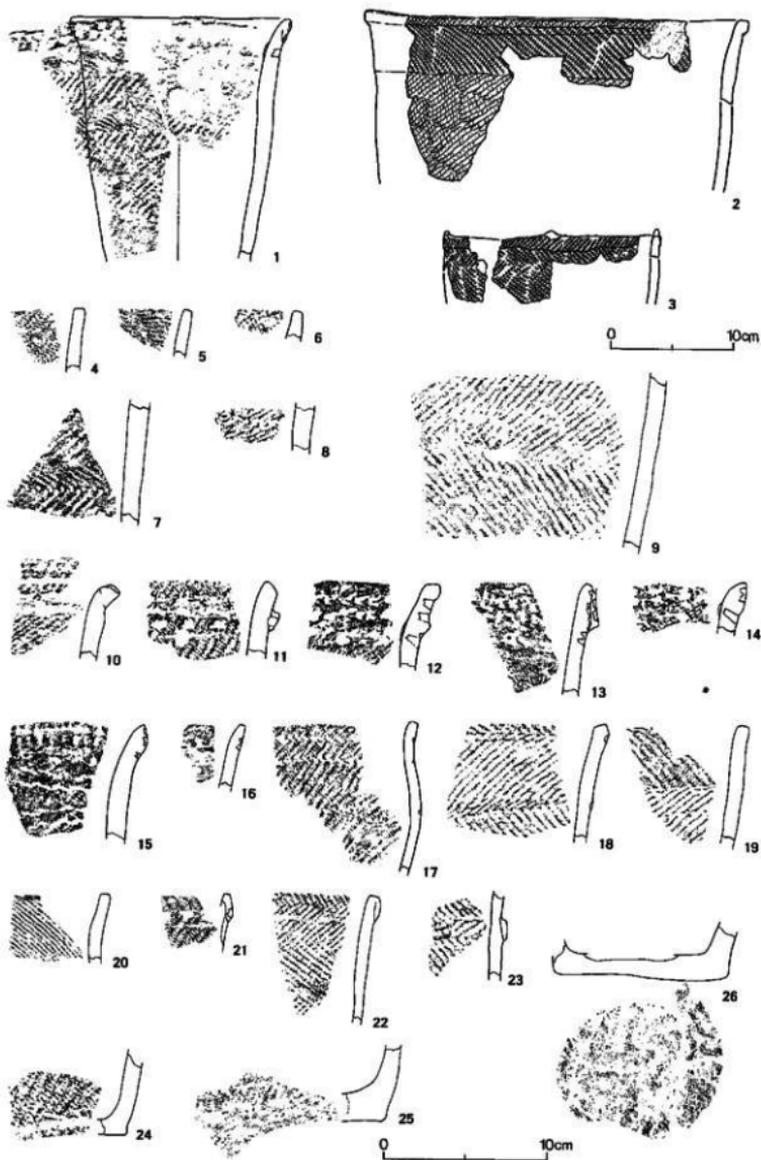
炉跡 住居の中央よりやや西側に、床面のTa-d₂層を掘り込んで作られた炉跡が検出されたが、焼土は検出されず、土塊状の墳底一面に赤褐色化した焼け跡のみが検出された。その他、住居中央より東南側に床面から焼土跡が検出された。

時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。また、柱穴HP-5の覆土より出土した木炭の¹⁴C年代測定では、B.P.3030±80年という結果が出ている。

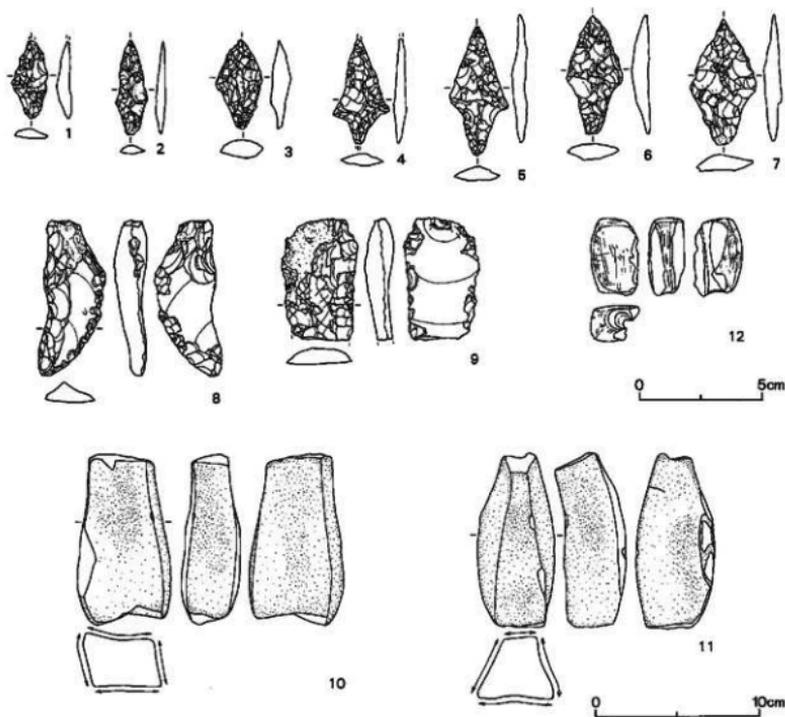
測定番号	資料番号	名称	出土地点	¹⁴ C年代 (BP)
KSU-2464	木炭№8	IIH-27	覆土	3030±80

遺物 10・11はIII群b-2類土器、1・4~9・12~22・25・26はIII群b-3類土器、2・3・23はIV群a類土器である。1は口唇断面が丸いものである。口縁は折り返して肥厚帯をつくりだしている。肥厚帯には篋状工具による押し文がつく。地文は結束一種の羽状縄文である。原体の押圧が弱い。2は口唇に貼付帯がつき、口縁はやや肥厚する。内面は良く調整されている。地にはLとRLの原体による斜行縄文が交互に施される。3は口唇に山形突起がつく。口唇断面は四角い。口縁には幅広く薄い貼付帯がつく。原体はLRである。

1~6は石鏃である。7はポイントまたはナイフ、8・9はスクレイパーである。10・11は砥石で、砥面は4面である。12は橄欖岩製の垂飾である。



圖IV-95 II H-27 出土遺物



圖IV-96 II H-27 出土遺物

IIH-28 (図IV-97~100)

位置 c-108-17・18・27・28

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 6.60/5.20×5.92/4.60×0.60m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面にくぼみを発見する。II B層上面で確認されたくぼみはやや北東から南西方向に長軸方向が延びており、住居址が2軒重複していることが確認され、土層観察用のベルトはくぼみの長軸に一本、それに交差する様に3本のベルトを設定した。先ず土層観察用のベルトに沿いトレンチを入れ、遺構の範囲と重複関係、床面の構築面の検出作業をした。その結果、住居址3軒の重複とTピット1基の重複が確認された。IIH-28はIIH-27とIIH-34を切っている。

土層は周辺の遺構の覆土、掘上げ土などが入り組んでいてかなり複雑なものになっている。基本的にはIIH-28の覆土はII B層の下に黒褐色土を主体とする覆土が3枚堆積している。掘込み面はII B層の下部と思われる。

付属ピット 柱穴状の小ピットは16個検出されている。断面は垂直なものがほとんどで、先端は鋭い。深さは約10~30cmのものである。配列に規則性は見られないため、性格の決定はできなかった。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。床面はほぼ平坦である。

壁 Ta-d₂層まで掘り込んであり、立ち上がりははっきりとしているが、IIH-27、IIH-34の覆土を壁面している部分は明確ではない。床面との境は明確で急に立ち上がる。

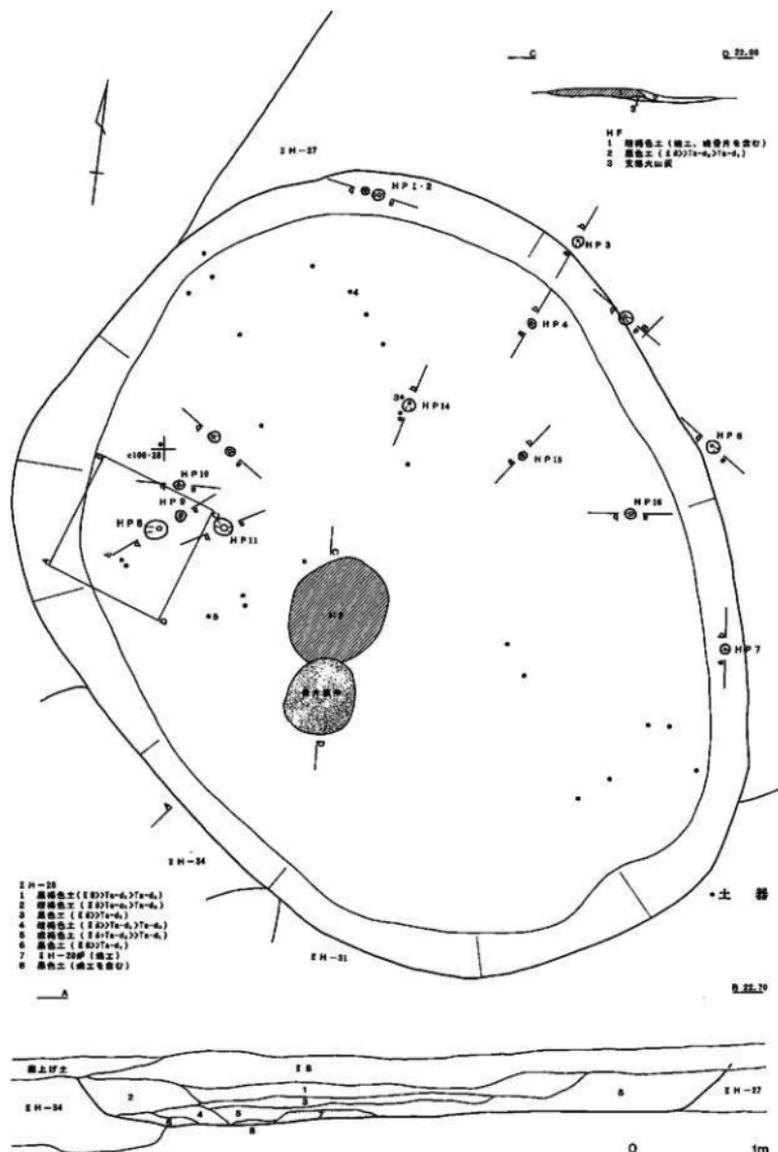
炉跡 住居の中央よりやや南側に、Ta-d₂の床面を掘り込んで作られた炉跡が検出された。厚い焼土を持ち、覆土には骨片を多く含み、骨片集中の範囲と重複している。

遺物の出土状態 床面から多くの土器の出土が見られた。HP 2からは一括の出土も見られた。

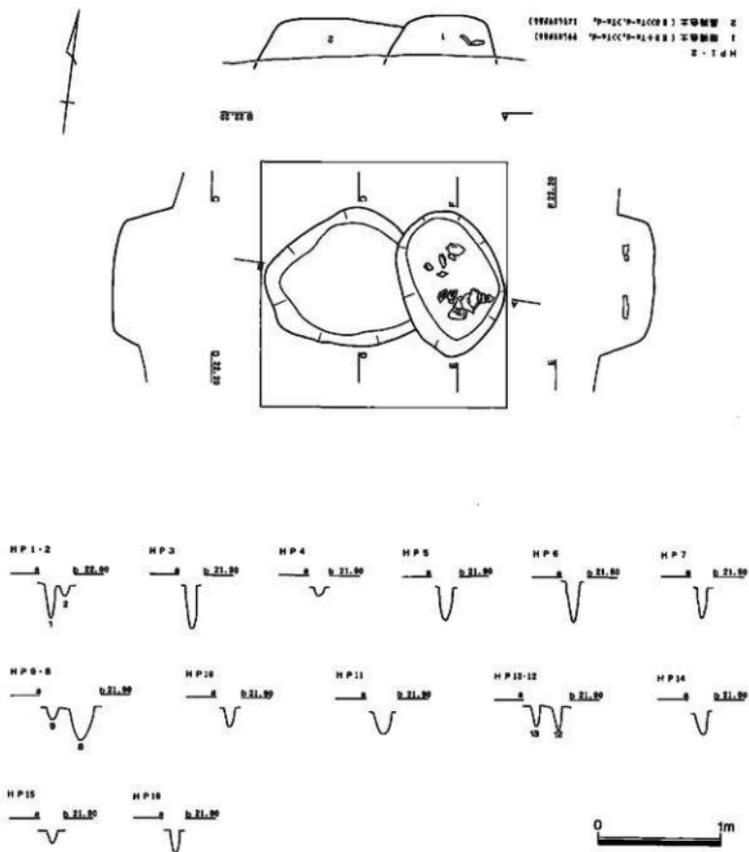
時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期末Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。重複関係からIIH-27、IIH-34よりも新しいものであることがわかる。

遺物 1~7・9・10はⅢ群b-3類土器、8はIV群a類土器である。1は口縁肥厚帯に押し引き文がつく。肥厚帯直下の円形刺突文は浅く施されている。内面は凹凸がある。原体はLRである。10は口縁と体部に浅い貼付帯がつく。貼付帯上には棒状工具による刺突文が施されている。内面は良く調整されている。地文は0段多条LRとRL原体による羽状縄文である。

1~3は石鏃である。4・5・7はポイントまたはナイフ、6・9はスクレイパーである。8はナイフ、10は石斧素材である。



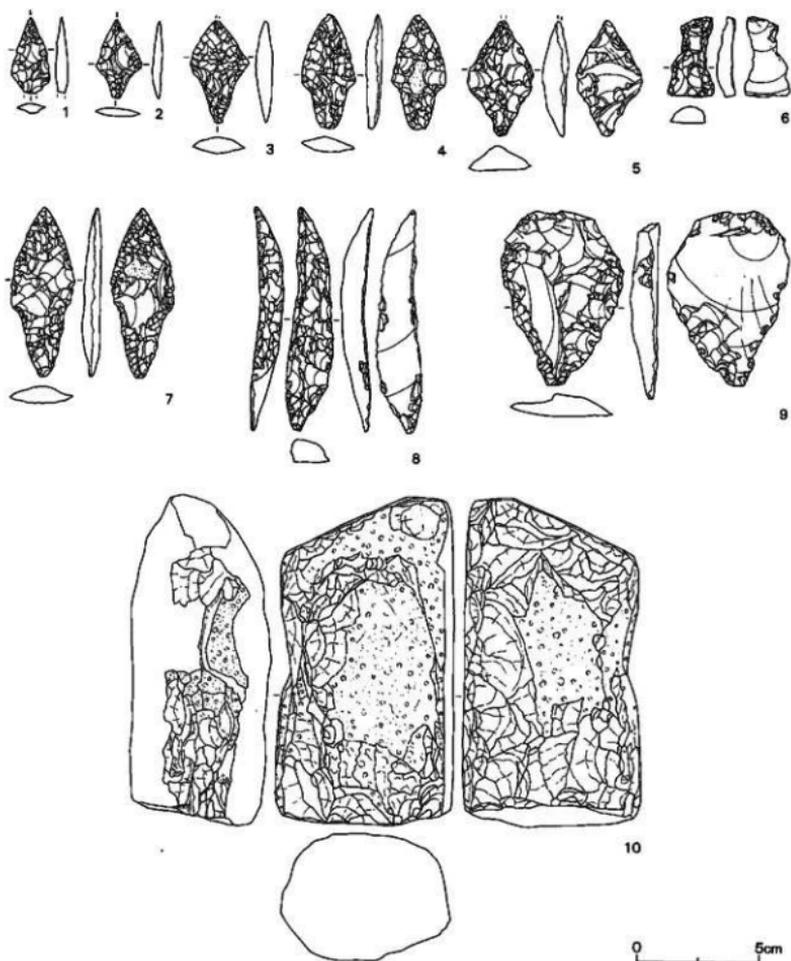
図IV-97 IIH-28



図IV-98 II H-28



图IV-99 II H-28 出土遺物



図IV-100 II H-28 出土遺物

II H-29 (図IV-101~102)

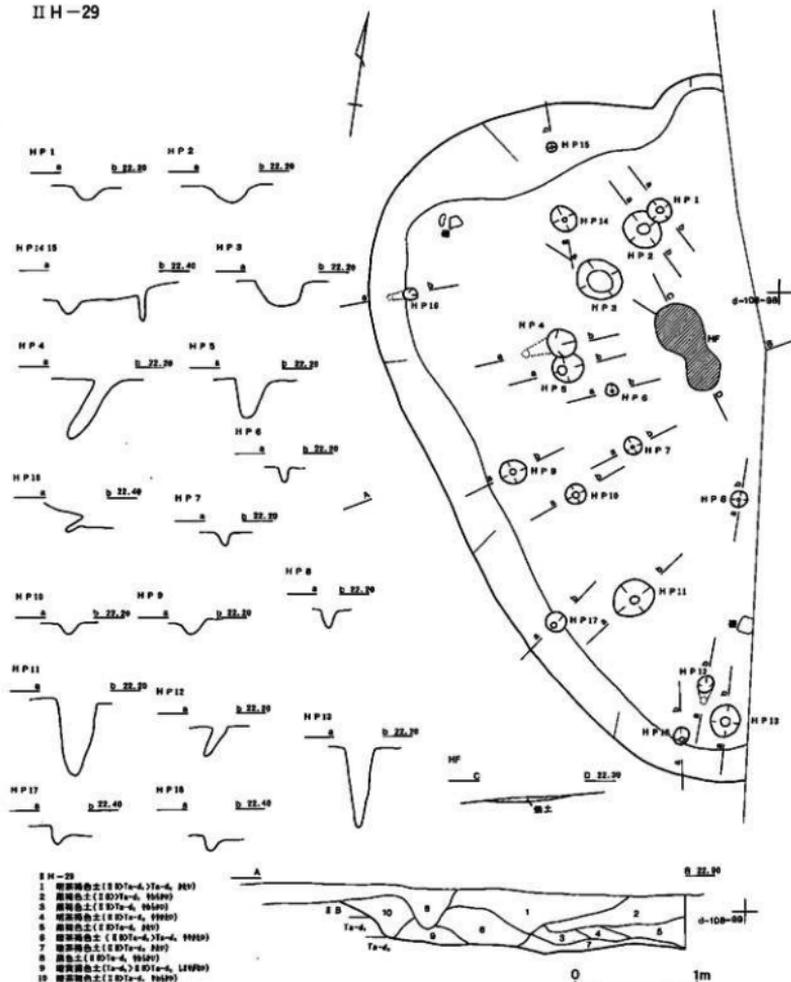
位置 d-108-97・98

平面形 不明

規模 5.60/4.80×3.00/2.60×0.48m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、d-108-98区を中心にII B層の落ち込みが見られたが、

II H-29



プランの半分以上は調査区外にあると思われた。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を数cmほど掘り込んだ遺構を確認した。底面は明確ではなく、床面の確認は困難であった。

土層は予想外に複雑な堆積を示していた。他の遺構の掘り上げ土の流入も見られた。掘り込み面はII B層下部と思われる。

付属ピット 柱穴状の小ピットは18個検出されている。断面は垂直なものほとんどであるが、壁際には中央に向けて傾斜した掘り込みを持つピットも見られた。先端は円いものが多く、深さは10~70cmのものまである。住居中央から放射状に並ぶという配列の規則性が見られ、柱穴の可能性が高い。

床面 Ta-d₂層をわずかに掘り込んで作られている。全体に凹凸が多く見られ、床面としてはあまり固められていない。

壁 確認できた部分では床面との境は明瞭である。

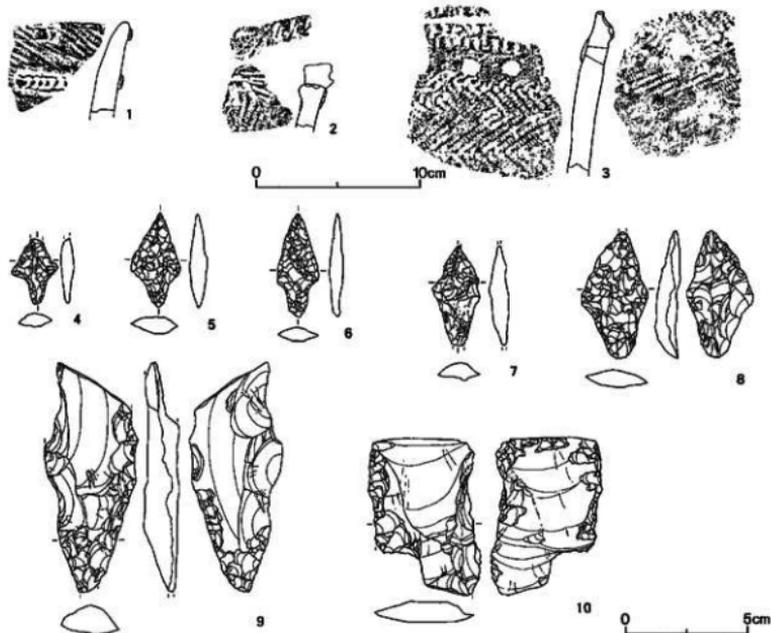
炉跡 中央北寄りに1基確認された。焼土の堆積は薄く、4cm程のものである。

遺物の出土状態 床面からの出土はなかった。覆土上層の出土が多く、まとまった出土も見られなかった。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代中期末のIII群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との関連がないため、詳細は明らかでない。

遺物 1はIII群b-1類土器、2はIII群b-2類土器、3はIII群b-3類土器である。

4~7は石鏃である。8はポイントまたはナイフ、9はナイフ、10はスクレイパーである。



図IV-102 II H-29 出土遺物

II H-30 (図IV-103~104)

位置 c-108-09

平面形 南北を長軸とする長円形

規模 3.40/2.80×3.20/2.50×0.56m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、c-108-09区を中心にII B層の小さな落ち込みが見られた。東西、南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を数cmほど掘り込んだ遺構を確認した。中央に土壌状のピットが掘り込まれている。

土層はやや複雑な堆積を示していた。掘り込み面はII B層下部と思われる。

床面 Ta-d₂層をわずかに掘り込んで作られている。全体に凹凸が多く見られ、床面としてはあまり固められていない。

壁 Ta-d₁層を壁面に行っているが、比較的しっかりした壁面をつくっている。床面との境は明瞭で、立ち上がりは急である。

炉跡 中央南寄りに1基確認された。焼土の堆積は10cm程のものである。

遺物の出土状態 床面からの出土はなかった。覆土上層の出土が多く、まとまった出土も見られなかった。

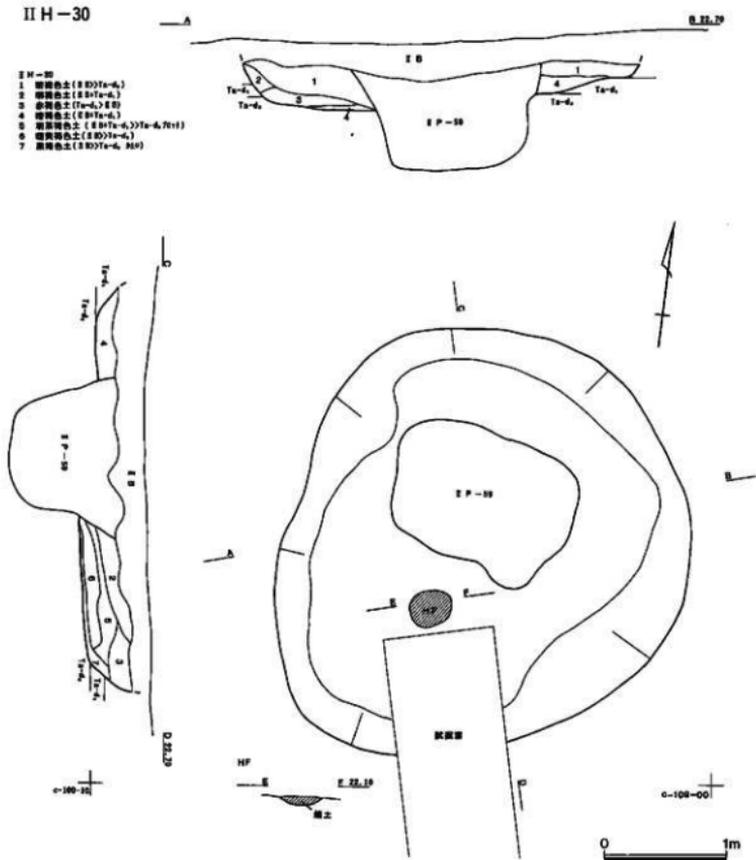
時期 覆土出土の遺物から、縄文時代中期末のIII群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との関連がないため、詳細は明らかでない。

遺物 1はIII群b-2類土器、2~9・12はIII群b-3類土器、10・11はIV群a類土器である。

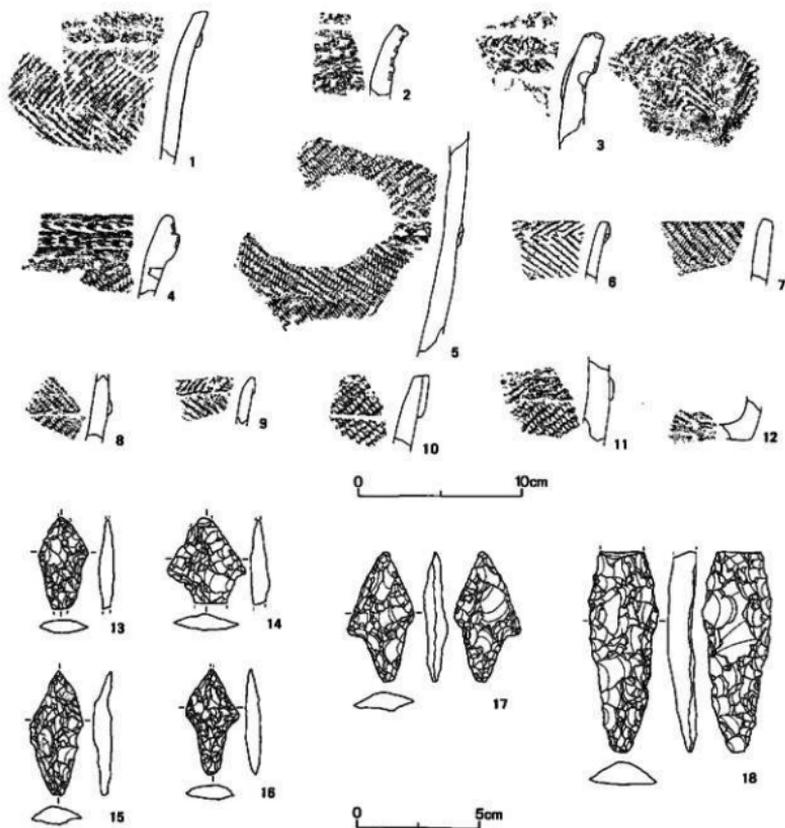
13~17はポイントまたはナイフ、18は両面加工のナイフである。

II H-30

- II H-30
 1 暗褐色土 (I B) (Fa-d)
 2 暗褐色土 (I B) (Fa-d)
 3 赤褐色土 (I a-d) (E B)
 4 暗褐色土 (I B) (Fa-d)
 5 暗褐色土 (I B) (Fa-d) (Fa-d, Fe+)
 6 暗褐色土 (I B) (Fa-d)
 7 暗褐色土 (I B) (Fa-d, Fe+)



図IV-183 II H-30



图IV-104 II H-30 出土遺物

IIH-31 (図IV-105~106)

位置 c-108-18・19・29

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 4.16/3.20×3.40/2.40×0.80m

確認・調査・土層 II B層上面の落ち込みを確認することはできなかった。IIH-27、28、34の重複した住居を掘り下げて調査した際に、IIH-28の南壁に於いて確認された。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₃層を10数cmほど掘り込んだ遺構を確認した。掘り込みがしっかりしていたので、床面及び壁面の確認は容易であったが、他の遺構との重複関係が複雑で、切り合いの確認は困難であった。

土層は周辺の遺構の覆土が入り組んでいてかなり複雑なものになっている。基本的にはIIH-28の覆土はII B層の下に黒褐色土を主体とする覆土が3枚堆積している。掘込み面はII B層の下部と思われる。

床面 Ta-d₃層を掘り込んで作られている。ほぼ平坦ではあるが、床面としてはあまり固められていない。

壁 Ta-d₃層を壁面にしているが、比較的しっかりした壁面をつくっている。床面との境は明瞭で、立ち上がりは急である。

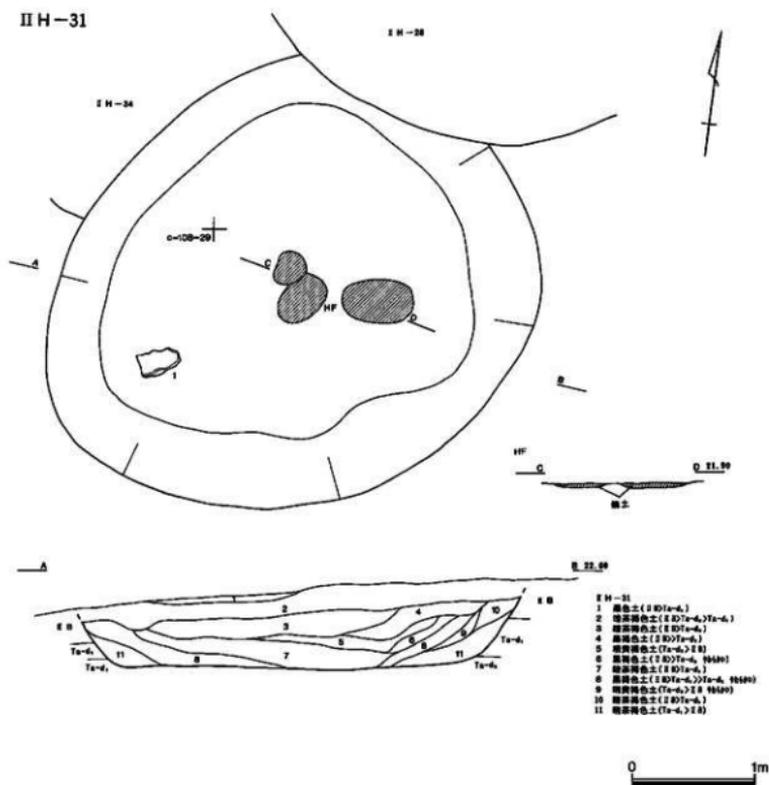
炉跡 焼土の集目が3ヶ所ほど確認されたが、いずれも堆積は薄くは4cm程のものである。

遺物の出土状態 床面からの出土はなかった。覆土上層の出土が多かったが、1点のみ一括出土が見られた。

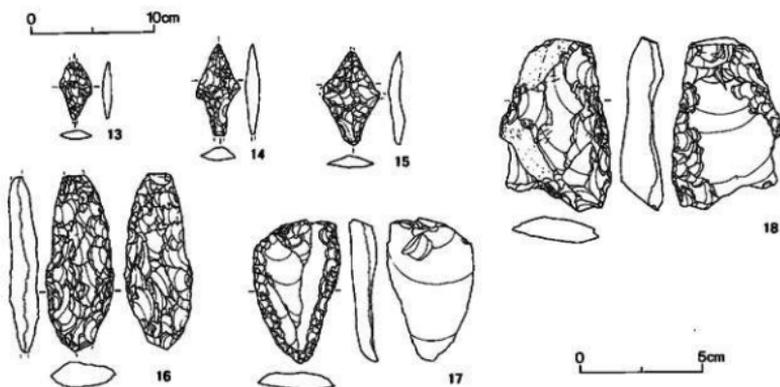
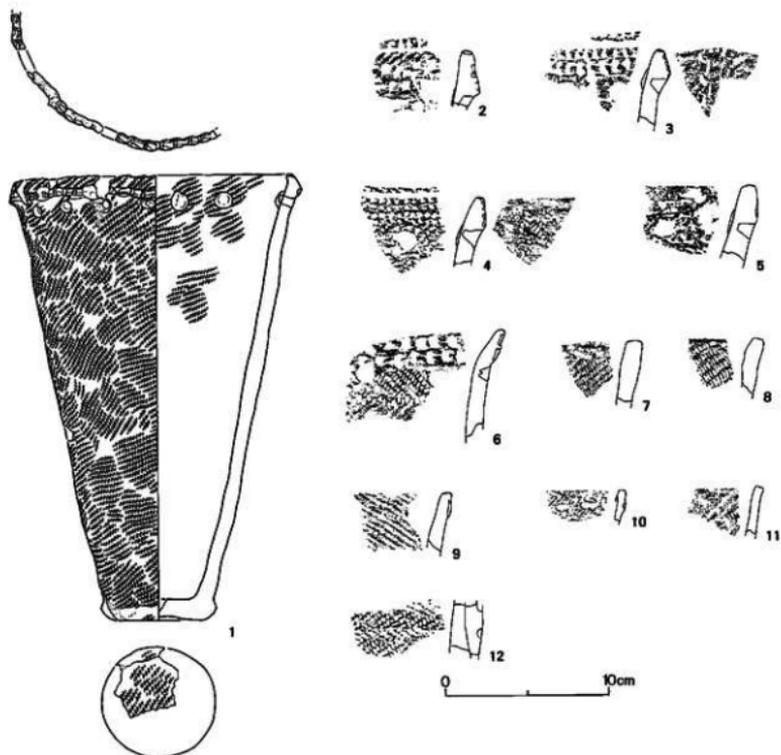
時期 覆土出土の遺物から、縄文時代中期末のⅢ群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との重複関係から見るとIIH-28より古く、IIH-34より新しい。

遺物 1~11はⅢ群b-3類土器、12はⅣ群a類土器である。1は口唇と口縁肥厚帯に押し引き文が施されている。円形刺突文は深く施されており、内面の突瘤が大きい。原体はLRで、内面と底面にも縄文が施されている。

13~14は石鏃、15・16ポイントまたはナイフ、17・18はスクレイパーである。



図IV-105 II H-31



図IV-106 II H-31 出土遺物

II H-32 (図IV-107)

位置 c-109-14

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 ---/---×---/---×0.32m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層の上面を精査した段階で落ち込みが見られた。プランの大半は調査区外にあると思われるが東西にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を10数cmほど掘り込んだ遺構を確認した。掘り込みがしっかりしていたので、床面及び壁面の確認は容易であった。が、他の遺構との重複関係は見られなかった。土層は比較的単純で、覆土は茶褐色土を主体とする覆土が2枚堆積している。掘込み面はII B層の下部と思われる。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。ほぼ平坦ではあるが、床面としてはあまり固められていない。

壁 Ta-d₂層を壁面になっているが、比較的しっかりした壁面をつくっている。床面との境は明瞭で、立ち上がりは急である。

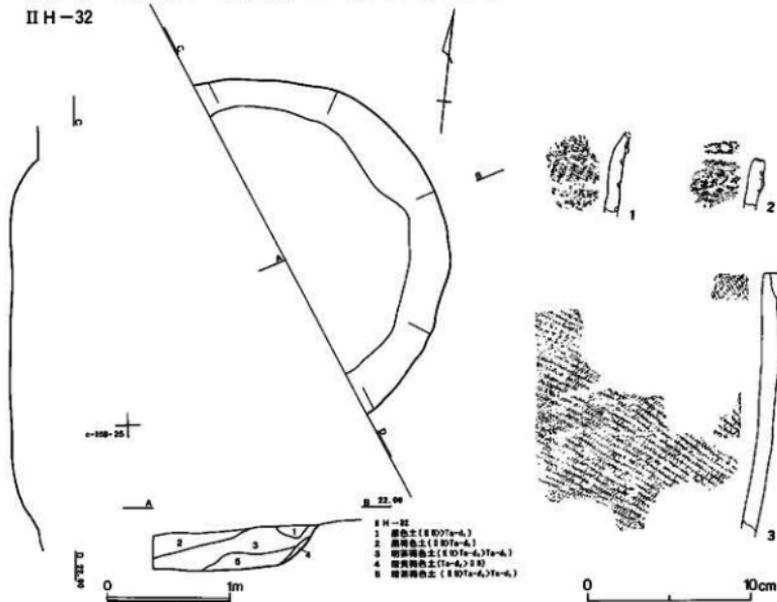
炉跡 調査された範囲内では確認されていない。

遺物の出土状態 床面から数点出土したが、まとまったものは見られなかった。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代中期末のⅢ群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との重複関係はなく、詳細は明らかでない。

遺物 1・2はⅢ群b-2類土器、3はⅣ群a類土器である。

II H-32



図IV-107 II H-32と出土遺物

II H-33 (図IV-108~109)

位置 c-108-11・12

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 7.00/4.60×6.60/4.30×0.42m

確認・調査・土層 II B層上面の落ち込みは全く見られず、Ta-d₃層まで下げたところで確認した。調査は最初に検出した3基の石囲いと思われる炉を中心にプラン確認を広げるという方法で行なった。土層はII B層の下に覆土が1層という単純な堆積で、この覆土上面にはII H-14のものと思われる掘上げ土の流れ込みが見られた。

付属ピット 38個検出されている。北部分は同心円上に並ぶことが確認されたが、南半分での規則性はつかめなかった。深さは10cmから80cmのものまでである。

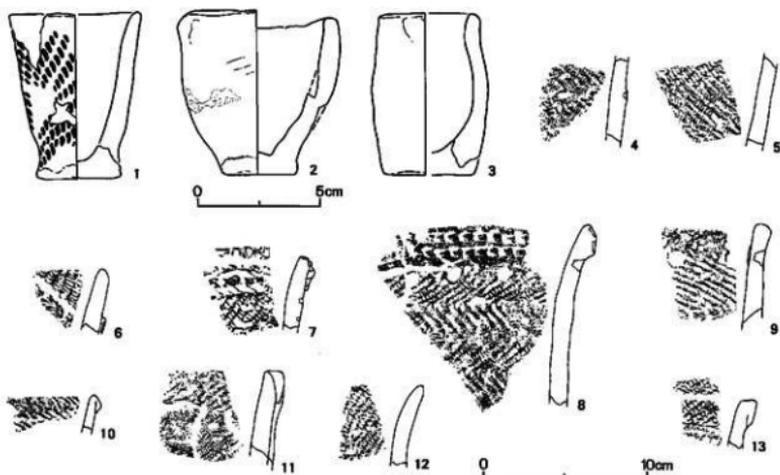
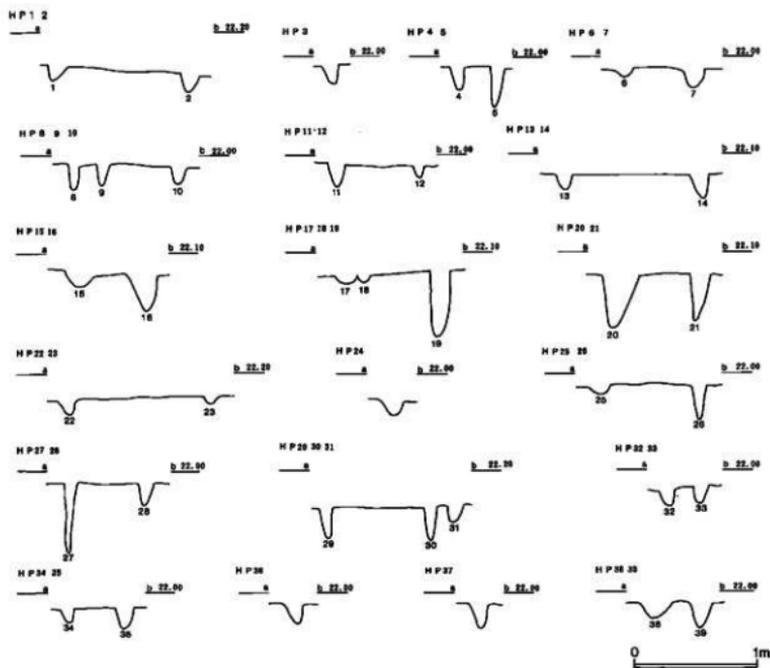
床面 Ta-d₃層直上まで掘り込んで作られている。

壁 掘り込みがTa-d₃層直上で、Ta-d₃をある程度掘り込んで構築されている住居址とは違い、さほど明確とは言えない部分もあったが、立ち上がりはやや急である。

炉跡 検出されていない。

時期 床面出土の土器からみて、縄文時代中期末III群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 6・7はIII群b-2類土器、1~5・8~10・12はIII群b-3類土器、11・13はIV群a類土器である。1~3はミニチュア土器である。1はLR原体の斜行縄文が施されている。2・3は手ずくねで無文である。指頭痕がつく。



図IV-109 II H-33 出土遺物

II H-34 (図IV-110~111)

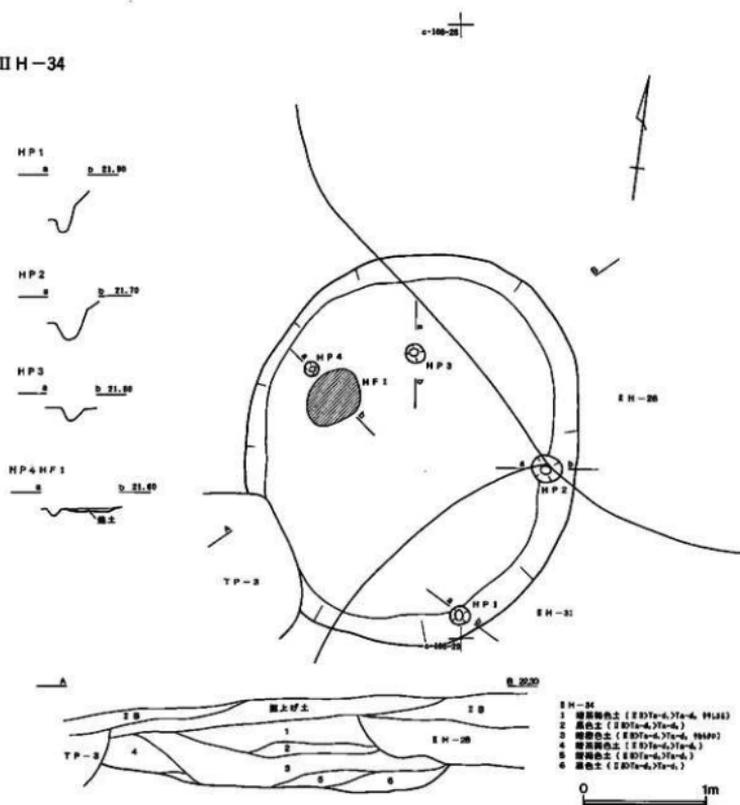
位置 c-108-18・28

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 3.20/2.70×2.90/2.30×0.72m

確認・調査・土層 Ta-c層を除去した後、II B層上面にくぼみを発見する。II B層上面で確認されたくぼみはやや北東から南西方向に長軸方向が延びており、住居址が2軒重複していることが確認され、土層観察用のベルトはくぼみの長軸に一本、それに交差する様に3本のベルトを設定した。先ず土層観察用のベルトに沿ってトレンチを入れ、遺構の範囲と重複関係、床面の構築面の検出に努めた。その結果、住居址3軒の重複とTピット1基の重複が確認された。II H-34はII H-28とII H-31、TP-3に切られたかたちで検出された。

II H-34



図IV-110 II H-34

土層は周辺の遺構の覆土、掘上げ土などが入り組んでいてかなり複雑なものになっている。掘込み面はII B層の下部と思われる。

付属ピット 柱穴状の小ピットは4個検出されている。断面は垂直なものがほとんどで浅い。配列に規則性は見られないため、性格の決定はできなかった。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。凹凸の部分が多く、固められていない。

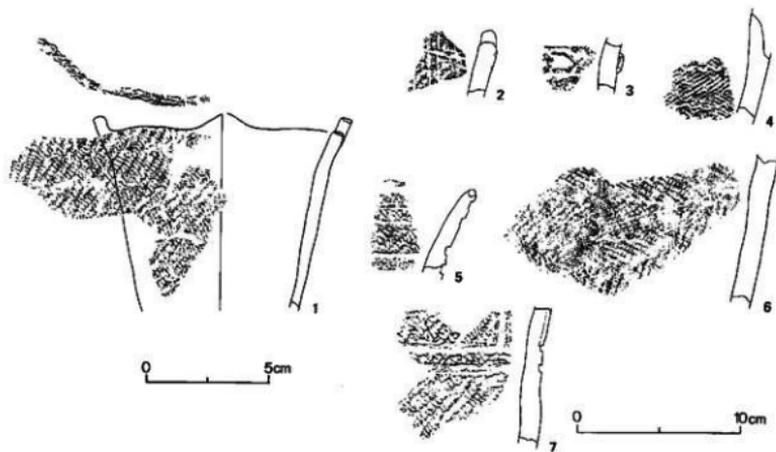
壁 Ta-d₂まで掘り込んであり、立ち上がりははっきりとしているが、TP-3覆土を壁面にしてある部分は明確ではない。床面との境は明確で急に立ち上がる。

炉跡 住居の北西寄りに中央よりに、焼土の集中出土が見られた。堆積は薄く3cm程である。

遺物の出土状態 床面から多くの土器の出土が見られた。まとまった出土はなかった。

時期 床面出土の遺物からみて縄文時代中期後半III群b-2類土器の時期と思われる。重複関係からII H-28、II H-31、TP-3よりも古いものであることがわかる。

遺物 1~3・5はIII群b-2類土器、4・6・7はIV群a類土器である。



図IV-III II H-34 出土遺物

II H-35 (図IV-112)

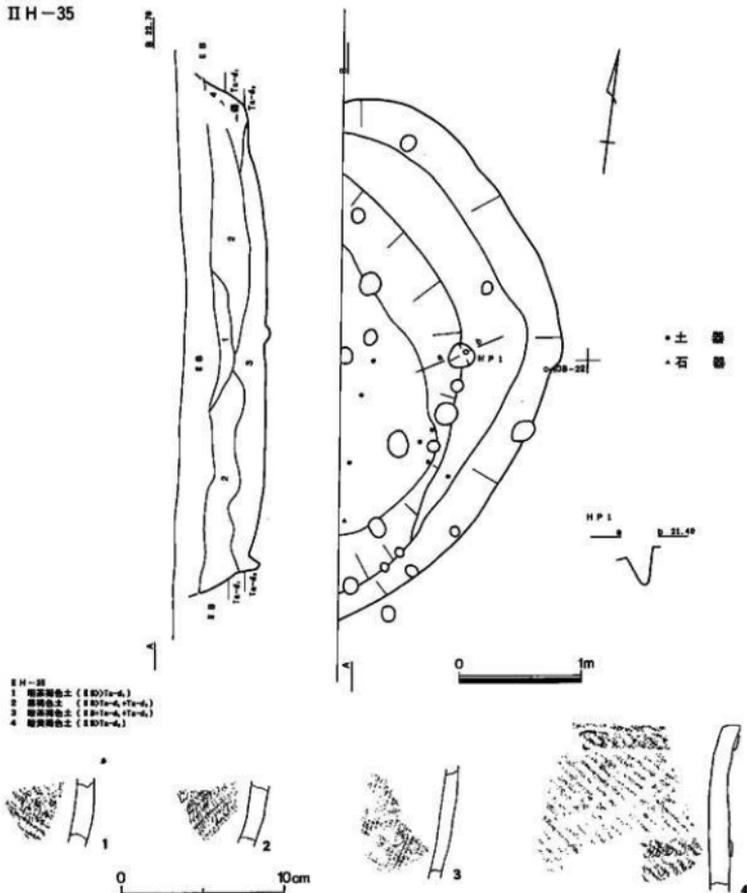
位置 c-108-21・22

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 4.12/(1.80)×3.70/(1.50)×0.70m

確認・調査・土層 II B層上面の落ち込みを確認することはできなかった。c-108-21・22区をTa-d₁層上面まで掘り下げた段階で黒色土の落ち込みを確認した。また、プランの大半は西側の調査区外にあることがわかった。覆土を掘り下げたところ、Ta-d₂層を10数cmほど掘り込んでいることを確認し

II H-35



図IV-112 II H-35 出土遺物

た。他の遺構との重複関係はなかったが、床面が2段確認され、テラス状の部分があることがわかった。

土層は単純な堆積を示しており、II B層の下に黒褐色土を主体とする覆土が2枚堆積している。掘込み面はII B層の下部と思われる。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。テラス状の高まりを持っている。床面はほぼ平坦であるが、あまり固められていない。

壁 Ta-d₁層を壁面にしていて、比較的しっかりした壁面をつくっている。床面との境は明瞭で、立ち上がりは急である。

炉跡 調査された範囲内では検出されていない。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代中期後半のIII群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との重複関係はなく、詳細は明らかでない。

遺物 1~3はIII群b-3類土器、4はIV群a類土器である。

II H-36 (図IV-113)

位置 c-108-08 d-108-98

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 4.00/2.70×--/--×--m

確認・調査・土層 II B層上面の落ち込みはまったく見られなかった。c-108-08 d-108-98区をTa-d₂層上面まで掘り下げた段階で焼土の堆積した掘り込みを確認した。これを炉跡と判断して、これを中心にしてわずかな掘り込みを確認しながら調査を進めた。その結果柱穴が同心円状にならんでいることがわかり、これをもとにプランを設定した。

付属ピット 柱穴状の小ピットは21個検出されている。大半が同心円上に並ぶことが確認された。断面は垂直で、深さは10cmから80cmのものまでである。

床面 Ta-d₂層を掘り込んで作られている。

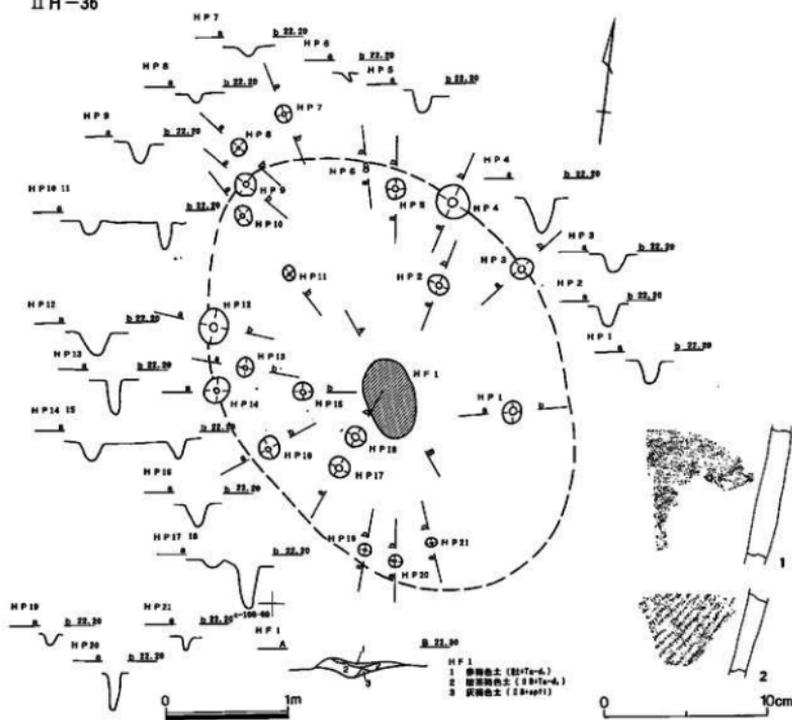
壁 検出できなかった。

炉跡 住居中央で1基確認された。焼土の堆積は薄く、6cm程である。下層II H-掘り込みを伴っているため、炉跡と判断した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後半のIII群b-3類土器の時期と思われる。他の遺構との重複関係はなく、詳細は明らかでない。

遺物 1・2はIII群b-3類土器である。

II H-36



図IV-113 II H-36と出土遺物

IIH-37 (図IV-114~115)

位置 c-108-04・05・14・15

平面形 南北を長軸とする長楕円形

規模 6.30/5.40×5.60/4.60×0.50m

確認・調査・土層 IIH-13の調査中に検出された遺構である。土層の確認においてIIH-37は、IIH-13と掘り込み面、床面ともにほとんど差はみられず、調査の初期段階では確認することができなかった。土層観察用のベルトを残し、平面的に掘り下げる調査で床面までを検出し、住居全体の立ち上がりの検出作業を行った時点で、IIH-13とは別のプランが東側に延びていくことが判明した。また東側の方がIIH-13より若干掘り込みが浅く、覆土における遺物の出土量においてもIIH-13の方が圧倒的に多く、その差がみられたため、IIH-37の検出に至った。

付属ピット 主に壁にある。20個検出されている。

床面 Ta-d₂層直上まで掘り込んで作られている。IIH-13より掘り込みがやや浅い。

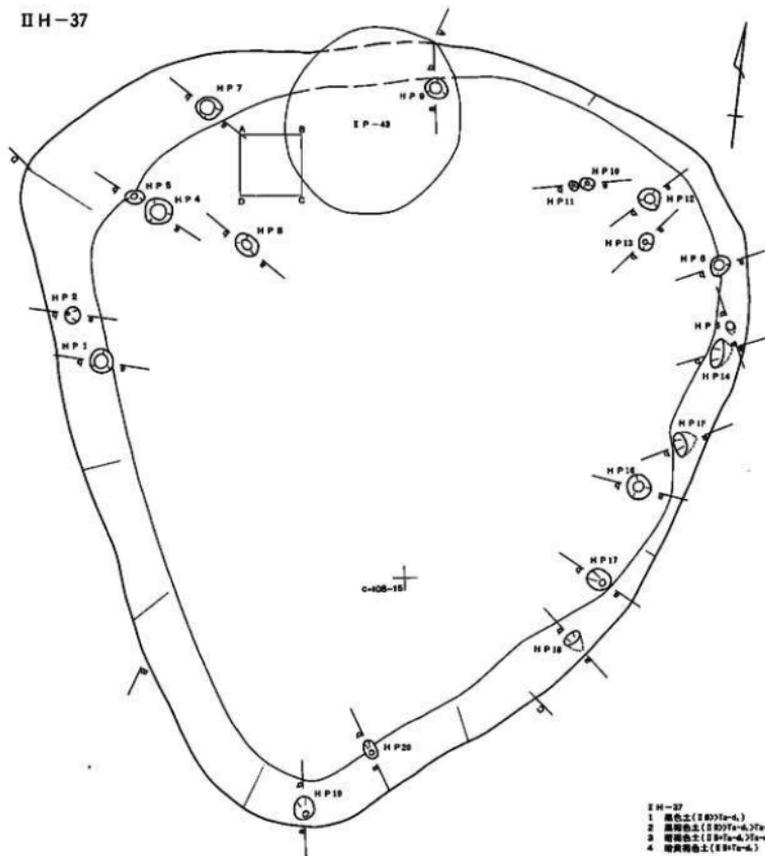
壁 掘り込みがTa-d₂直上で、Ta-d₂がある程度掘り込んで構築されている住居址とは違い、さほど明確とは言い難い部分もあったが、立ち上がりはやや急である。

炉跡 検出されていない。

時期 遺構の重複関係からみて、縄文時代中期後半Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

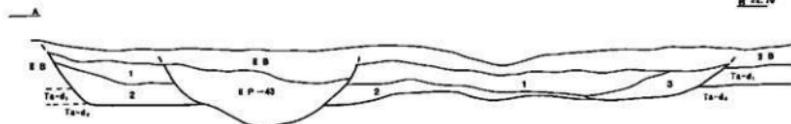
遺物 出土していない。

II H-37

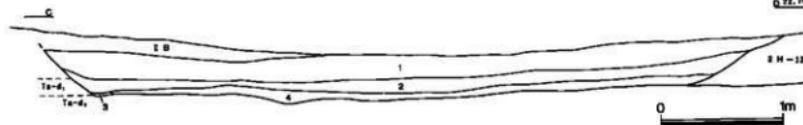


- II H-37
 1 褐色土 (E 8071a-d.)
 2 赤褐色土 (E 8071a-d.)
 3 黄褐色土 (E 8071a-d.)
 4 黄褐色土 (E 8071a-d.)

R 22.70

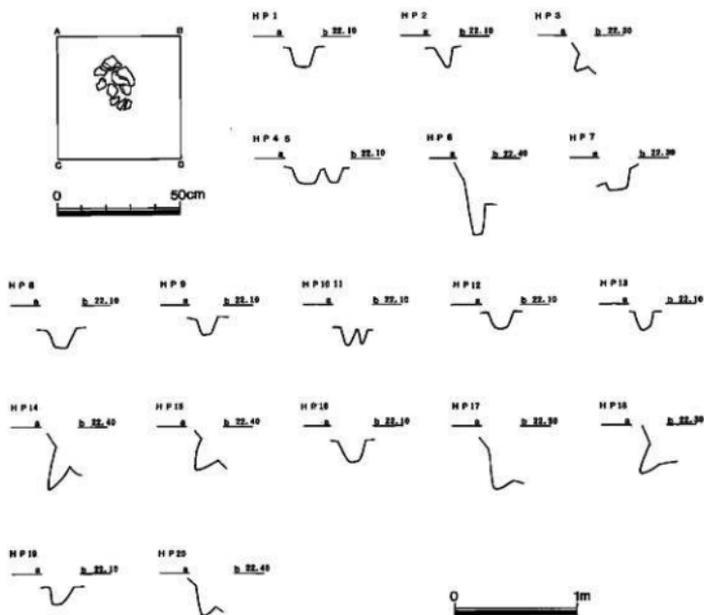


Q 22.70



0 1m

図IV-114 II H-37



図IV-115 II H-37

ⅡH-38 (図Ⅳ-116)

位置 c-108-04・05・14・15

平面形 楕円形

規模 5.70/3.40×--/--×--

確認・調査・土層 ⅡH-13、ⅡH-21、ⅡH-37を調査後に検出された遺構である。ⅡH-13、ⅡH-37に切られている遺構であり、柱穴と炉跡と思われる痕跡のみの検出である。

付属ピット 15個検出されている。重複しているⅡH-13とⅡH-37の柱穴とは異なり、柱穴の直径は25~35cm前後、深さは8cm前後である。柱穴の配列は楕円で長軸方向が北東~南西を示す。

床面 ⅡH-13とⅡH-37に切られており、よく判らないが、炉跡の状況から見てTa-d₁からd₂上面の間までが床面であった可能性が高いと考えられる。

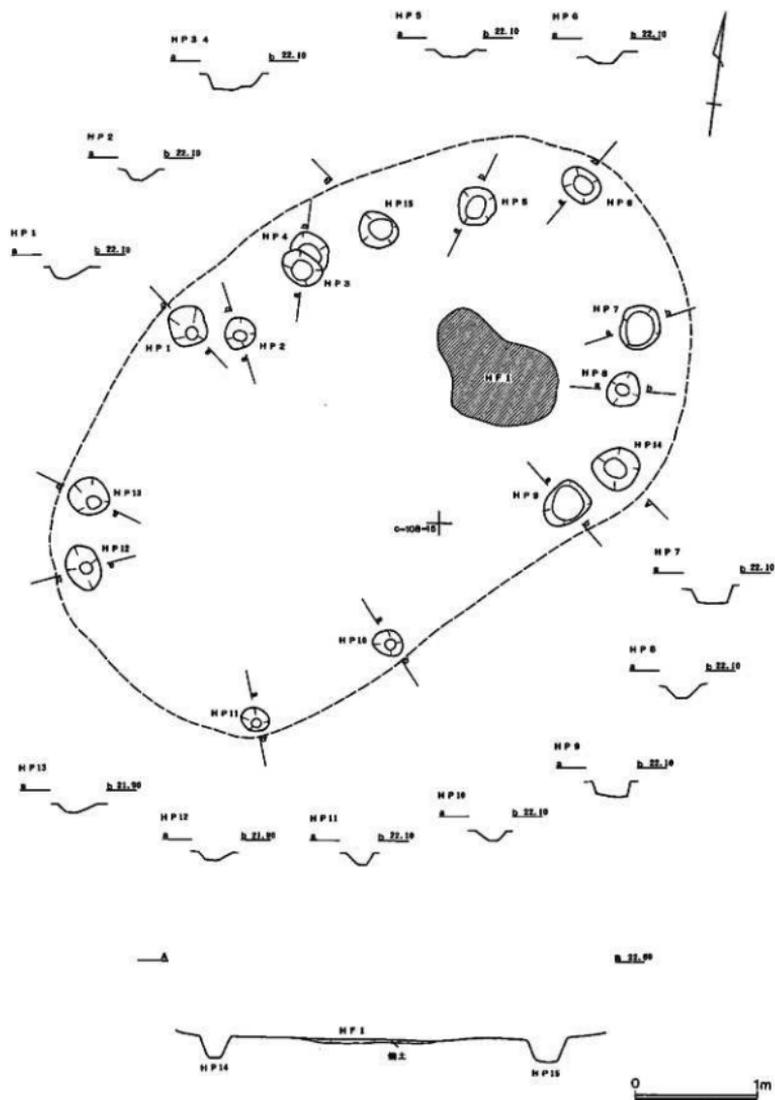
壁 ⅡH-13とⅡH-37に切られており、無い。

炉跡 炉跡と考えられる焼土跡が検出されたが、赤褐色化した焼けた痕跡のみの検出である。

時期 遺構の重複関係からみて、縄文時代中期後半Ⅲ群b-3類土器の時期と考えられる。

遺物 出土していない。

II H-38



図IV-116 II H-38

(2) 土壌

土壌は55基検出された。調査区全体で認められるが、南側の斜面部には縄文時代晩期のもと思われる土壌が15基出土し、土壌群を形成している。本報告ではこれを晩期土壌群として、他の土壌とは別に取り扱った。

晩期土壌群 (図IV-117)

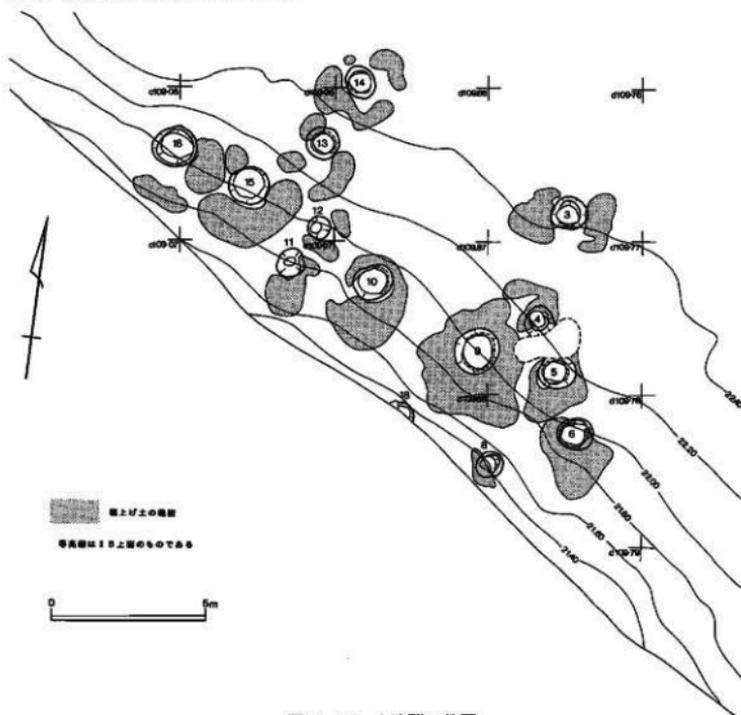
調査区南側の斜面部、標高22mから21mの等高線に沿うようにして、15基が検出された。いずれも、掘上げ土を伴っていた。

II P-3 (図IV-118)

位置 d-109-76 規模 1.25/1.09×0.84/0.65×0.93m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。東西両方向に掘上げ土の堆積が見られた。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、掘り込みはTa-d₀層の40cm下にまで到っていた。土層の堆積は単純で、覆土は基本的に6層が認められた。墳底は平らで、立ち上がり急であった。

遺物 遺物の出土は見られなかった。



図IV-117 土壌群の位置

II P-4 (図IV-118)

位置 d-109-77 規模 1.10/1.04×1.18/0.48×0.82m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。南側は攪乱を受けていたが、北方向に掘上げ土の堆積が見られた。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、掘り込みはTa-d₃層の20cm下まで到達していた。土層の堆積は単純で、覆土は基本的に4層が認められた。墳底は平らで、立ち上がりが急であった。

遺物 遺物の出土は見られなかった。

II P-5 (図IV-119)

位置 d-109-77 規模 1.23/1.00×0.90/0.65×0.92m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。北側は攪乱を受けていたが、南方向にはピットを取り巻くように掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₃層を40cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には2層が認められた。墳底は平らで、数cmほどオーバーハングしている部分があった。立ち上がりは急であった。

遺物 遺物の出土は見られなかった。

II P-6 (図IV-119)

位置 d-109-78 規模 1.19/1.04×1.03/0.73×0.87m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。南方向と西方向にはピットを取り巻くように掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₃層を北側で40cm、南側で20cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には3層が認められた。底面は地形が傾斜しているにもかかわらず平坦で、数cmほどオーバーハングしている部分があった。立ち上がりは急であった。

遺物 遺物の出土は見られなかった。

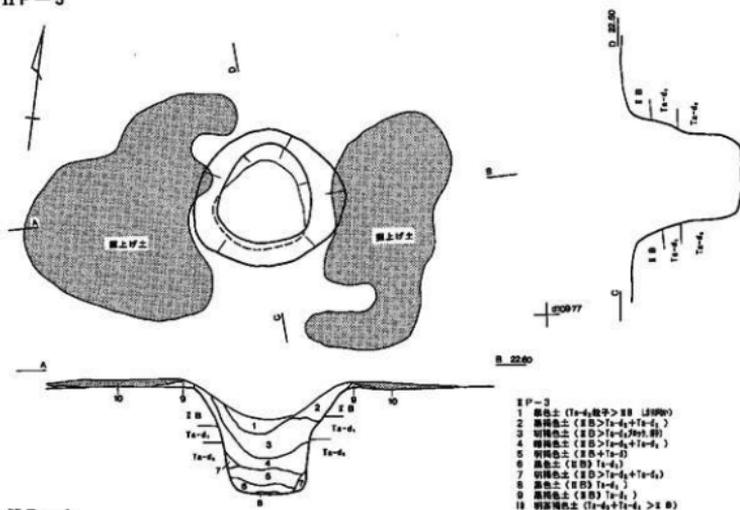
II P-8 (図IV-120)

位置 d-109-78・88 規模 0.91/0.84×0.70/0.51×0.87m

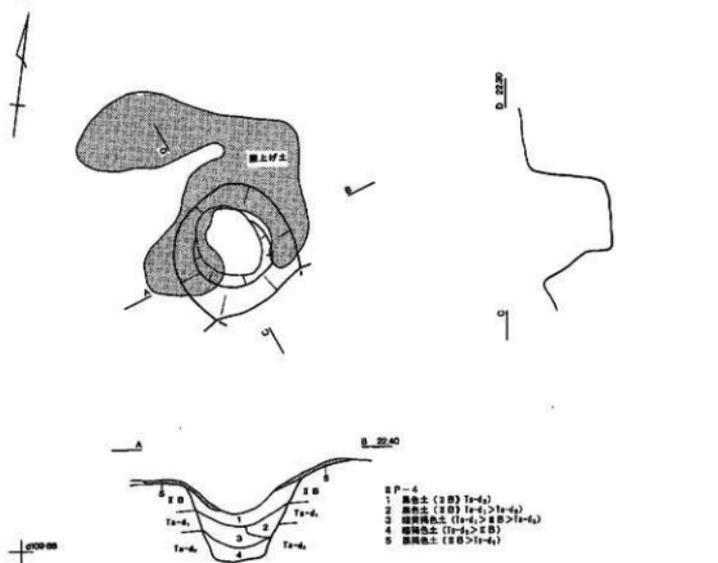
特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピット中央から南西方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₃層を20cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には3層が認められた。墳底は平坦で、立ち上がりは急であった。

遺物 遺物の出土は見られなかった。

II P-3

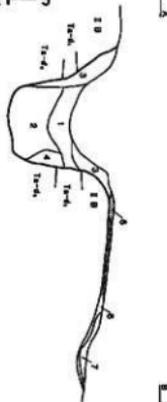


II P-4

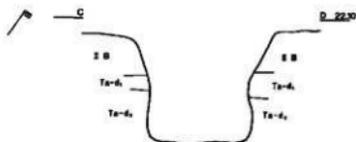
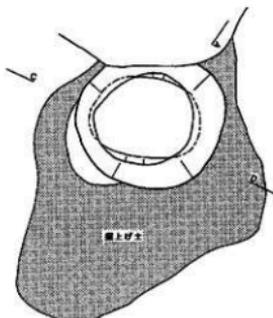


IV-118 II P-3・4

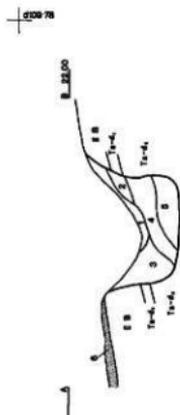
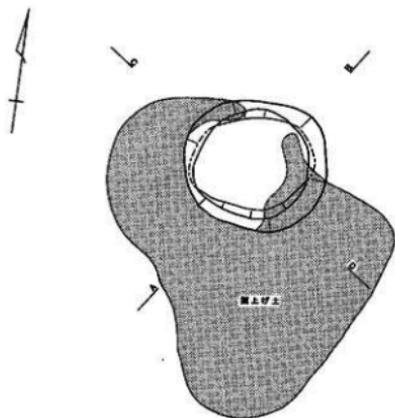
II P-5



- II P-5
 1 黒色土 (厚さ>10-cm, L番号がなし)
 2 暗褐色土 (10-cm) 厚さ L番号がない
 3 黒色土 (厚さ>10-cm, L番号がなし)
 4 暗褐色土 (10-cm) 厚さ
 5 暗褐色土 (10-cm) 厚さ 黒上げ土に積層
 6 黒色土 (厚さ>10-cm)
 7 暗褐色土 (10-cm) 厚さ II P-5黒上げ土



II P-6



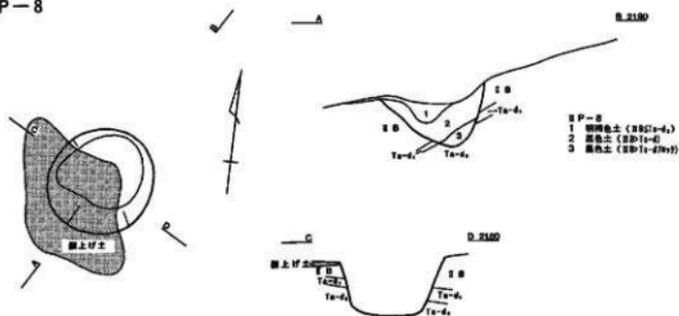
- II P-6
 1 黒色土 (II B) Ta-4 L1991
 2 黒色土 (II B) Ta-4 L1991
 3 暗褐色土 (II B) Ta-4 L1981
 4 暗褐色土 (II B) Ta-4
 5 暗褐色土 (II B) Ta-4 L1911



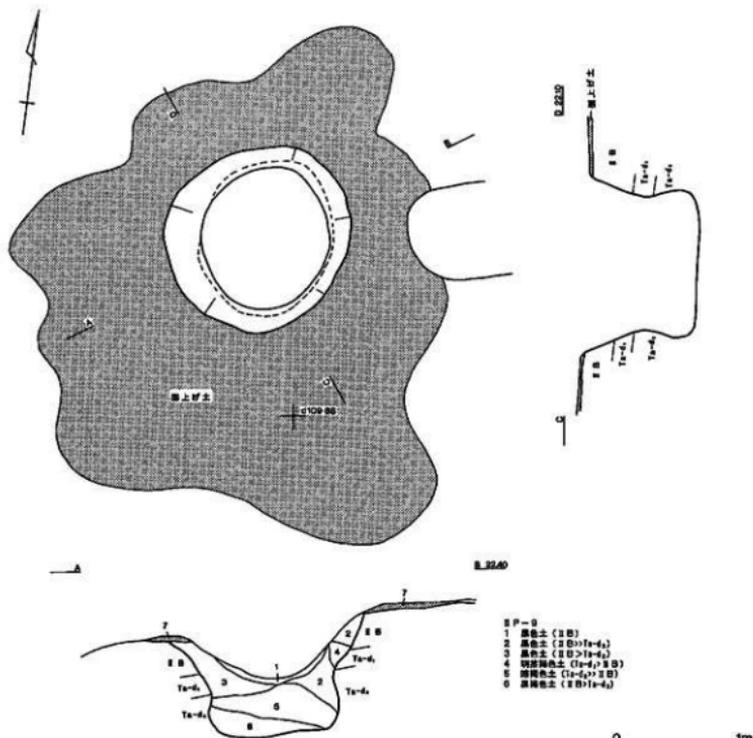
図IV-119 II P-5・6

0 1m

II P-8

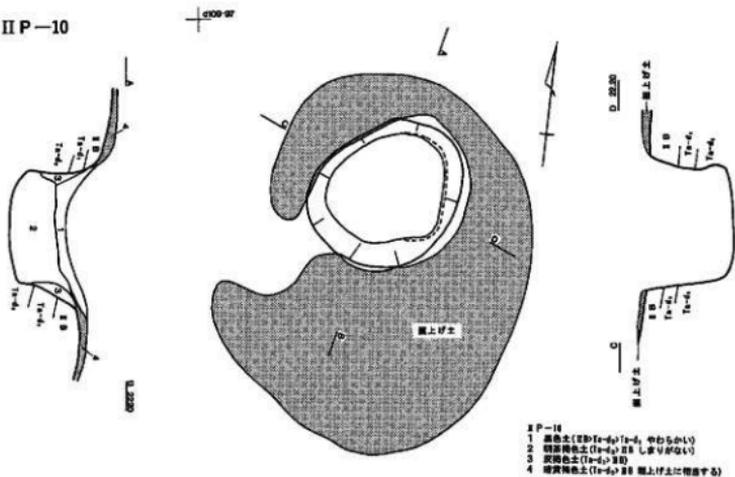


II P-9

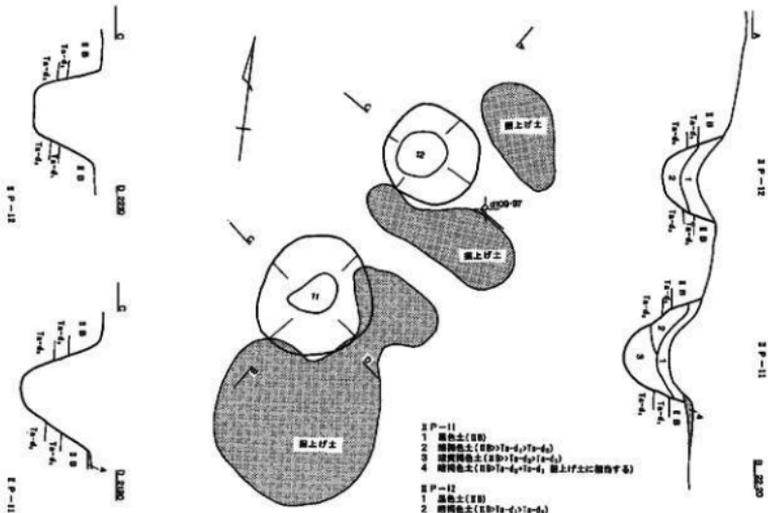


図IV-120 II P-8・9

II P-10



II P-11・12



図IV-121 II P-10・11・12

0 1m

II P-9 (図IV-120)

位置 d-109-77・87 規模 1.56/1.41×1.28/1.05×1.14m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにすべての方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を30cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には4層が認められた。墳底は平坦で、数cmほどオーバーハングしている部分があった。立ち上がりは急であった。

遺物 出土していない。

II P-10 (図IV-121)

位置 d-109-87 規模 1.32/1.08×1.05/0.86×0.88m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、東、北、南の方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を30~50cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には2層が認められた。地形が北から南へと傾斜しているにもかかわらず墳底は平坦で、数cmほどオーバーハングしている部分があった。立ち上がりは急であった。

遺物 出土していない。

II P-11 (図IV-121)

位置 d-109-97 規模 1.01/0.92×0.41/0.26×0.63m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、西から南の方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を30cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には2層が認められた。墳底は平坦で、立ち上がりは急であった。

遺物 出土はしていない。

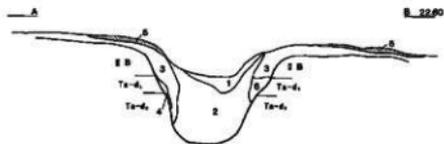
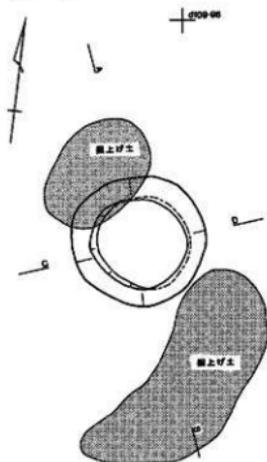
II P-12 (図IV-121)

位置 d-109-96 規模 0.80/0.80×0.42/0.36×0.68m

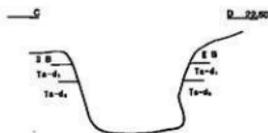
特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、北と南の両方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を20cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には2層が認められた。墳底は平坦で、立ち上がりは急であった。

遺物 出土はしていない。

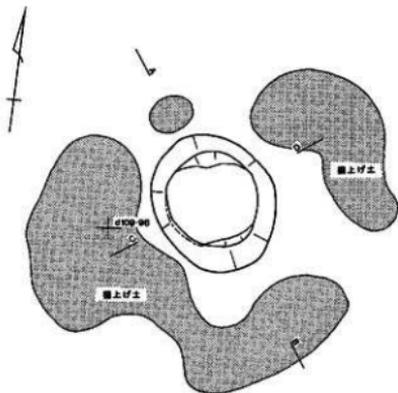
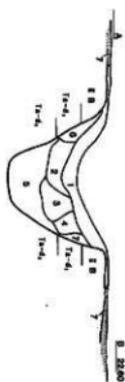
II P-13



- II P-13
 1 黒色土 (厚約 1m-4m) 土層、中から砂(小)
 2 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、しずりが多い
 3 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、中から砂(小)
 4 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、中から砂(小)
 5 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、黒上げ土に埋没する



II P-14



- II P-14
 1 黒色土 (厚約 1m-4m) 土層、中から砂(小)
 2 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、中から砂(小)
 3 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、しずりが多い
 4 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、中から砂(小)
 5 黒色土 (厚約 1m-2m) 土層、中から砂(小)
 6 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、中から砂(小)
 7 腐葉層土 (厚約 1m-2m) 土層、黒上げ土に埋没する



IV-122 II P-13・14

II P-13 (図IV-122)

位置 d-109-96 規模 1.10/1.02×0.83/0.69×0.83m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、北と南の両方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を30cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には2層が認められた。墳底は平坦で、一部数cmほどオーバーハングしている部分も見られた。立ち上がりは急であった。

遺物 出土はしていない。

II P-14 (図IV-122)

位置 d-109-85・86 規模 1.14/0.97×0.77/0.73×0.76m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、すべての方向に掘上げ土の堆積が見られた。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を30cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には3層が認められた。墳底は平坦で、一部数cmほどオーバーハングしている部分も見られた。立ち上がりは急であった。

遺物 覆土からIV群a類の土器(タブコブ式)が出土している。

II P-15 (図IV-123)

位置 d-109-96 規模 1.35/1.24×1.15/0.98×0.85m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、東、西、南の方向に掘上げ土の堆積が見られた。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を30cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には3層が認められた。墳底は平坦で、一部数cmほどオーバーハングしている部分も見られた。立ち上がりは急であった。

遺物 覆土からIII群b-3類の土器片が1点出土している。

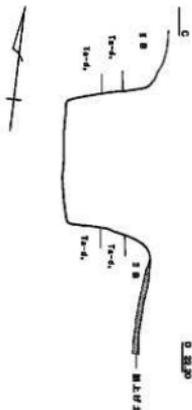
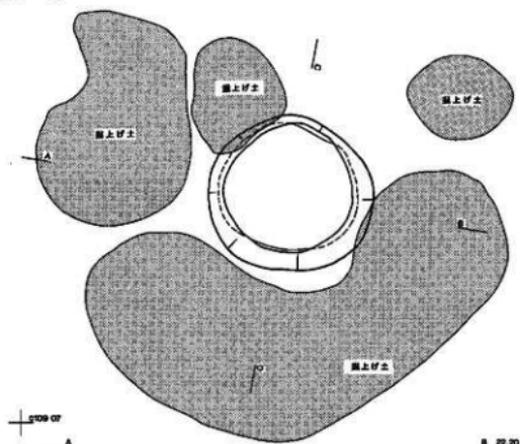
II P-16 (図IV-123)

位置 d-109-96 c-109-06 規模 1.53/1.33×1.12/0.79×0.76m

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。ピットを取り巻くようにして、東、西、南の方向に掘上げ土の堆積が見られた。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を20cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には3層が認められた。墳底は平坦で、立ち上がりは急であった。

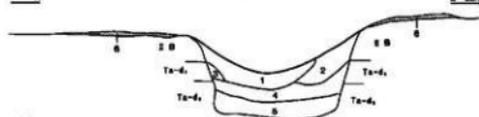
遺物 覆土からフレイクチップが数点出土した。

II P-15



509.07

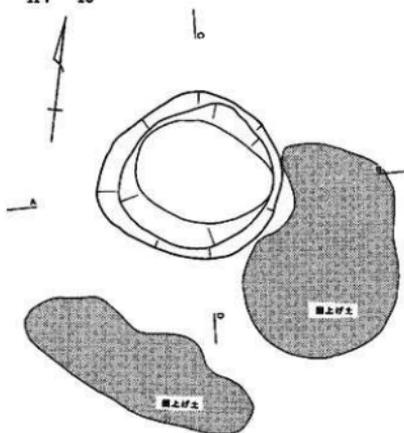
22.20



II P-15

- 1 黒色土(遺物)
- 2 黒褐色土(遺物)1a-d, 1b-d,
- 3 赤褐色土(1a-d, 1b-d)
- 4 黒褐色土(遺物)1a-d, 1b-d,
- 5 黒褐色土(遺物)1a-d, 1b-d,
- 6 赤褐色土(1a-d, 黒上げ土)

II P-16



509.07

0 1m.

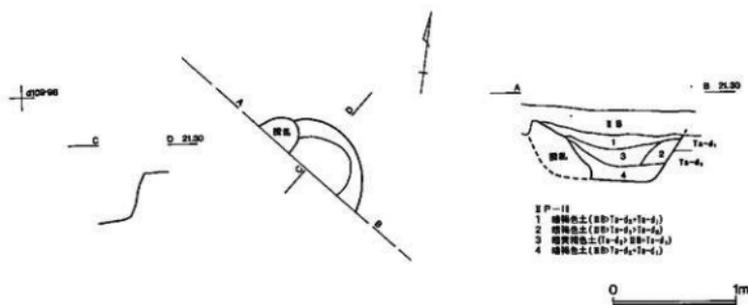
図IV-123 II P-15・16

II P-18 (図IV-124)

位置 d-109-88 規模 $1.04/(0.40) \times 0.50/(0.31) \times 0.44\text{m}$

特徴 Ta-c層を除去後、II B層の上面に円形の凹みを確認した。プランは調査区外に及び、掘り上げ土の堆積は見られなかった。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₃層を20cmまで掘り込んでいることを確認した。土層の堆積は単純で、覆土は基本的には3層が認められた。墳底は平坦で、立ち上がりは急であった。

遺物 遺物の出土は見られなかった。



図IV-124 II P-18

ⅡP-1 (図Ⅳ-125)

位置 d-109-93・94・c-109-03・04 規模 1.13/0.64×0.29/0.20×0.53m

特徴 ⅡH-2、6の掘り下げの際に確認した。南北のベルトに沿って掘り下げたところ、ⅡH-6の覆土を底面にする掘り込みを確認することができた。土層の堆積は複雑で、墳底にはピット状の径30cm、深さ10cmの落ち込みが見られた。立ち上がりは一部をのぞいてゆるやかである。掘り込み面はⅡB層の上部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が4点、Ⅰ群b-4類の土器が2点出土している。

時期 ⅡH-2、6の覆土を掘り込んでいることから、これらよりも新しいものである。覆土の遺物から縄文時代早期後半の可能性が考えられる。

ⅡP-2 (図Ⅳ-125)

位置 d-109-84 規模 3.28/2.31×2.08/1.31×0.78m

特徴 ⅡH-1の南側に位置する。平面形は隅丸方形である。断面形は皿状で壁と墳底との境が不明瞭な部分がある。覆土は1~3が流れ込み、4~6は埋め戻しである。このうち3層はⅡH-1の掘上げ土である。掘り込み面はⅡB層の下部である。土壌のほぼ中央、3層の上部からspflが検出された。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 ⅡH-1の覆土に覆われていることからみて、ⅡH-1の構築時期（縄文時代中期末）より古い。

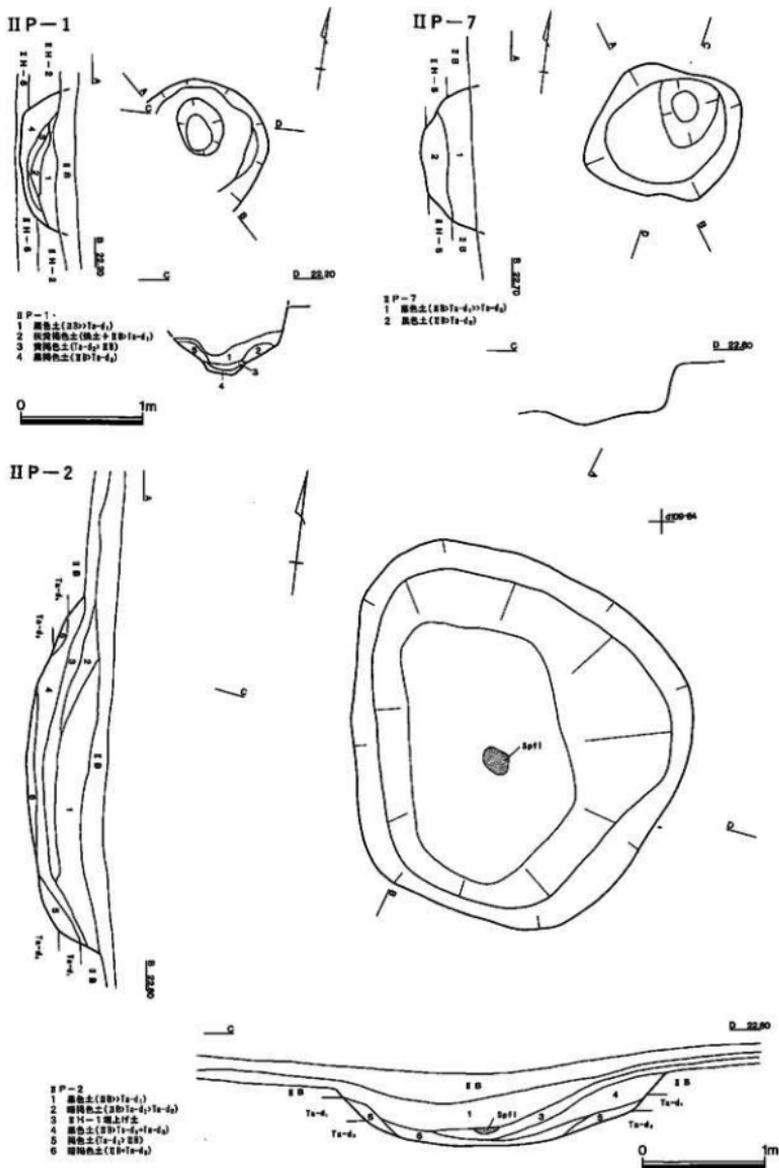
ⅡP-7 (図Ⅳ-125)

位置 d-109-92 規模 1.36/1.17×0.25/0.20×0.46m

特徴 ⅡH-7を掘り下げる際に確認した。南北のベルトに沿って掘り下げたところ、ⅡH-7の床面からTa-d₃層に到る掘り込みを確認した。平面形は不整形で、断面形は皿状で壁と墳底との境が不明瞭な部分がある。覆土の堆積は単純で2層が確認されている。掘り込み面はⅡB層の上部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 ⅡH-7の覆土を掘り込んでいることから、ⅡH-7の構築時期（縄文時代中期末）よりも新しい。



図IV-125 II P-1・2・7

II P-17 (図IV-126)

位置 d-109-04 規模 0.68/0.56×0.51/0.42×0.10m

特徴 II H-6を掘り下げた際に確認した。東西のベルトに沿って掘り下げたところ、II H-7の床面からTa-d₀層に到る掘り込みを確認した。平面形は円形で、断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭である。覆土の堆積は1層が確認されている。掘り込み面は不明である。

遺物 遺物の出土は見られていない。

時期 II H-6の覆土を掘り込んでいることから、II H-6の構築時期（縄文時代中期末）よりも新しい。

II P-19 (図IV-126)

位置 c-109-02・12 規模 2.42/2.22×1.95/1.71×0.56m

特徴 Ta-c層を除去した後、円形の凹みを確認した。II H-2～5に囲まれたほぼ中心に位置する。22.00mの等高線にある。II P-33を切って構築されている。平面形は円形である。墳底は、Ta-d層とII P-33の覆土中に作られており、壁との境は明瞭である。覆土はII B層とTa-dが混入した埋め戻しである。掘り込み面はII B層の中部である。

遺物 等頭大の礫が東側の壁際で出土している。覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-3類土器の時期（縄文時代中期末）と考えられる。

II P-20 (図IV-127)

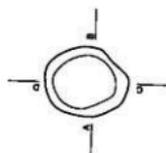
位置 c-109-04 規模 1.88/1.18×1.21/0.74×0.43m

特徴 II H-6を掘り下げる際に確認した。東西のベルトに沿って掘り下げたところ、II H-2の覆土を墳底とする掘り込みを確認した。平面形は隅丸方形で、断面形は皿状で壁と床との境が不明瞭である。覆土の堆積は2層が確認されている。掘り込み面は不明である。

遺物 覆土からIII群b-3類の土器が出土している。

時期 II H-2の覆土を掘り込んでいることから、II H-2の構築時期（縄文時代中期末）よりも新しい。

II P-17



G200-04

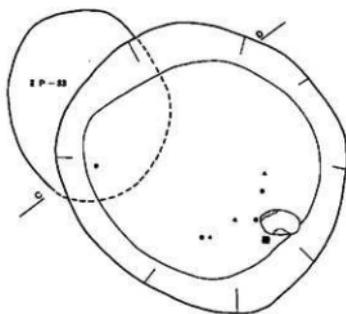
II P-17
1 黒褐色土 (G201a-d)(1a-d)



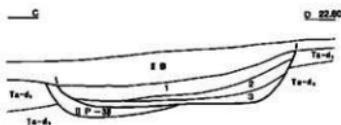
II P-19



G200-12



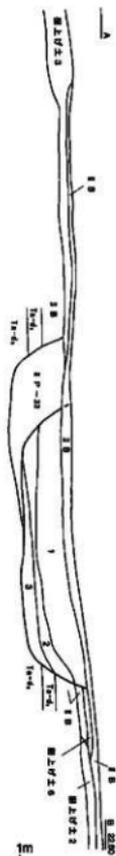
II P-19
1 黒色土 (H2)
2 黒褐色土 (G201a-d)(1a-d)
3 硬質褐色土 (H2)(1a-d)(1a-d)



G200-15

● 土層
● 遺構

0 1m



図IV-126 II P-17・19

II P-21 (図IV-127)

位置 d-109-94 規模 1.93/1.48×1.36/1.01×0.61m

特徴 II P-22に隣接する土壌である。II H-6のトレンチによって検出された。II H-6の覆土とII H-2の掘り上げ土から掘り込まれており、南側は一部Ta-d₂まで掘り込んである。土層観察の結果、II H-1より古くII H-6より新しい土壌であることが確認されている。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

II P-22 (図IV-127)

位置 d-109-94 規模 1.33/0.99×0.87/0.64×0.54m

特徴 II H-6の立ち上がりを検出中に見いだされた遺構である。覆土はII H-6と見分けがつかず、II H-6を平面的に掘り下げる調査においては発見することができなかった。墳底はほぼ平坦に近く、構築面はII B上面で確認されなかったことから、II H-6に前後する位の時期と考えられる。

遺物 覆土からⅢ群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

II P-23 (図IV-127)

位置 d-109-69 規模 1.58/1.27×1.11/0.94×0.22m

特徴 調査区南側の斜面部において、d-109-69区をTa-d₁層まで掘り下げた段階で黒い落ち込みとして確認された。南北にベルトを設定して掘り下げたところ、Ta-d₂層を15cmほど掘り込んでいた。土層の堆積は単純で、覆土は3層が主体的に認められる。平面形は不整形である。断面形は皿状で壁と墳底との境が不明瞭である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と石斧が1点出土している。

時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と考えられる。

II P-24 (図IV-128)

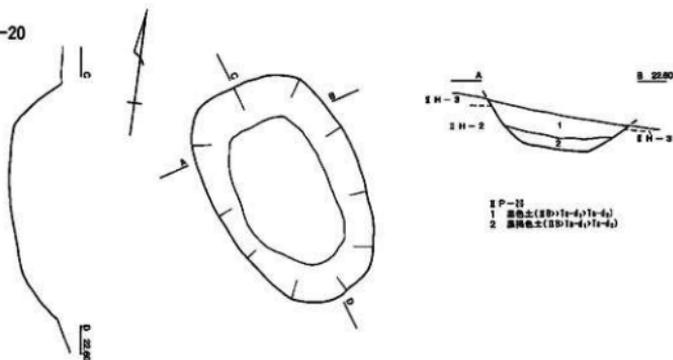
位置 d-109-51・52・61・62 規模 0.36/0.28×0.28/0.21×0.42m

特徴 II H-1の東側に位置する。II H-9・II P-28を切って構築されている。平面形は卵形である。長径が約4mの大型土壌である。墳底はTa-d₂層を掘り込んで作られており、壁との境は一部不明瞭である。覆土は流れ込みである。掘込み面はII B層の上部である。

遺物 遺物はⅢ群b-3類の土器と石鏃、ポイント、石斧、フレイク、チップなどの石器が出土している。

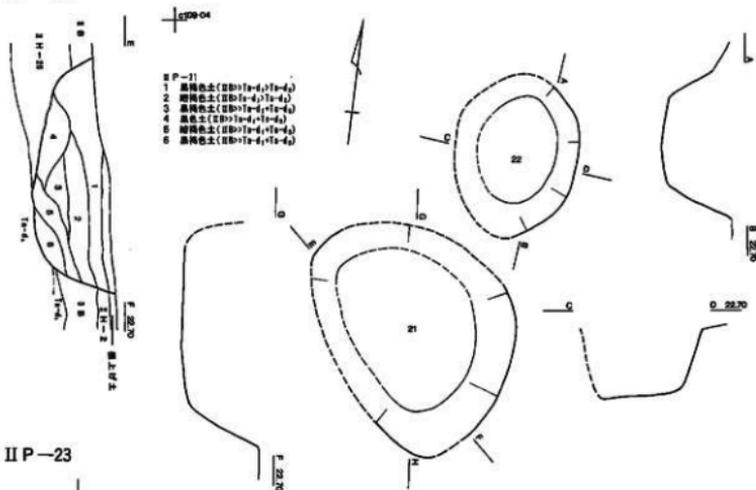
時期 覆土の遺物からみてⅢ群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と思われる。また、重複関係から、II H-9、II P-28よりも新しい。

II P-20



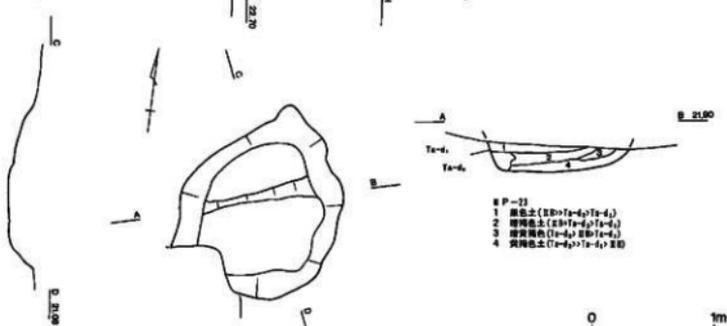
II P-20
 1 溝底土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 2 溝側土(IIb>Ia-d, Ie-d)

II P-22



II P-22
 1 溝底土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 2 溝側土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 3 溝底土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 4 溝底土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 5 溝側土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 6 溝側土(IIb>Ia-d, Ie-d)

II P-23



II P-23
 1 溝底土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 2 溝側土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 3 溝底土(IIb>Ia-d, Ie-d)
 4 溝側土(IIb>Ia-d, Ie-d)

図IV-127 II P-20・22・23

0 1m

II P-25 (図IV-128)

位置 c-109-05 規模 $1.18/(0.33) \times 0.50/0.40 \times 0.63\text{m}$

特徴 II H-6の壁面を検出する際に確認された遺構である。東西にベルトを設定して掘り下げたところ、北壁はすでに失われていたものの、円形のプランが確認できた。墳底はTa-d₂層を掘り込んで作られており、壁の立ち上がりは急で、壁との境は明瞭である。覆土は3層が認められた。掘り込み面はII B層の上部である。

遺物 遺物はIII群b-3類の土器と石斧が1点出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と思われる。

II P-27 (図IV-129)

位置 d-109-81 規模 $1.35/1.11 \times 0.90/0.69 \times 0.42\text{m}$

特徴 Ta-c層を除去した後、II B層の上面で円形の凹みを確認した。II H-1とII H-5に囲まれたほぼ中心に位置する。東西にベルトを設定して、掘り下げたところTa-d₂層に到る掘り込みを確認した。重複する遺構はなく、II H-1の掘上げ土を掘り込んでいた。平面形は楕円形である。墳底は、Ta-d₂層に作られており、壁との境は明瞭である。覆土はII B層の下に3枚の堆積が確認できた。掘り込み面はII H-1の掘り上げ土上部である。

遺物 遺物はIII群b-3類の土器と鏝、フレイクチップが出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と思われる。

II P-28 (図IV-129)

位置 d-109-61・62 規模 $1.20/(0.81) \times 1.03/(0.50) \times 0.51\text{m}$

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明である。墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘り込み面はII B層の中部である。

遺物 遺物はIII群b-3類の土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と思われる。

II P-29 (図IV-129)

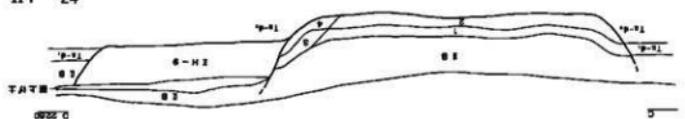
位置 d-109-80・81 規模 $1.60/1.43 \times 1.17/0.94 \times 0.60\text{m}$

特徴 Ta-c層を除去した後、II B層の上面で円形の凹みを確認した。II H-1の北側に位置する。南北にベルトを設定して、掘り下げたところTa-d₂層に到る掘り込みを確認した。重複する遺構はなく、平面形は円形である。墳底はTa-d₂層に作られており、壁との境は明瞭である。覆土は3層の堆積が確認できた。

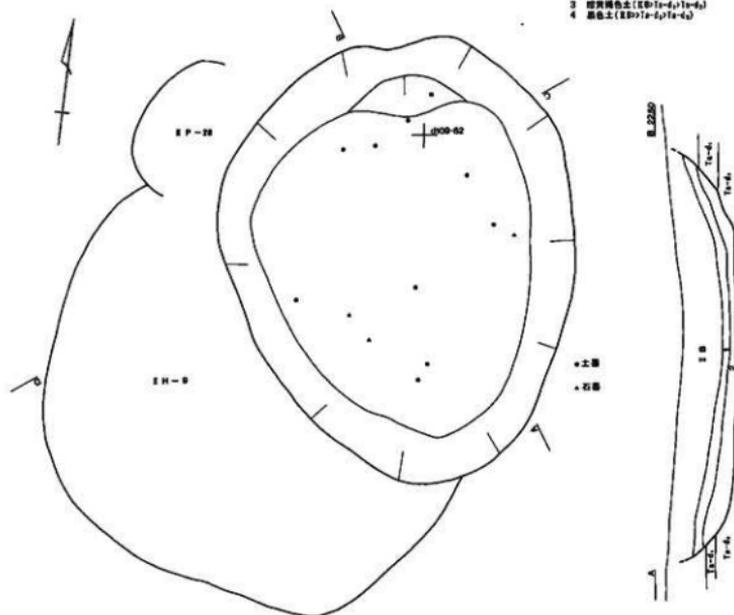
遺物 遺物はIII群b-3類の土器とフレイクチップが出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と思われる。

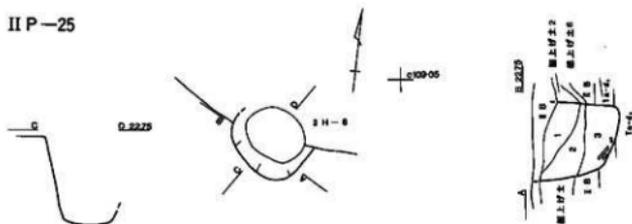
II P-24



- II P-24
 1 暗褐色土 (E0>Ia-d>Ia-d)
 2 黒色土 (E0>Ia-d>Ia-d)
 3 暗褐色土 (E0>Ia-d>Ia-d)
 4 黒色土 (E0>Ia-d>Ia-d)



II P-25



- II P-25
 1 黒色土 (E0>Ia-d>Ia-d)
 2 暗褐色土 (E0>Ia-d>Ia-d)
 3 黒褐色土 (E0>Ia-d>Ia-d)

図IV-128 II P-24・25

II P-30 (図IV-129)

位置 d-109-61・62 規模 1.41/1.06×0.89/0.86×0.58m

特徴 II H-9・P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みみである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-3類土器の時期(縄文時代中期末)と思われる。

II P-33 (図IV-130)

位置 c-109-12 規模 1.60/1.22×1.35/0.92×0.48m

特徴 II P-19と重複している遺構である。平面形は楕円形である。墳底はTa-d層を掘り込んで作られている。中央部がやや凹む。壁の一部はII P-19に切られているが他の壁は立ち上がりは急である。覆土は流れ込みみである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器とたたき石・ポイントが出土した。

時期 覆土出土の遺物から縄文時代中期後半のIII群b-3類土器の時期と考えられる。

II P-36 (図IV-128)

位置 c-109-12 規模 0.86//0.69×0.35/0.32×0.48m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みみである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からI群b-4類・III群2-3類土器・石斧が出土している。

時期

II P-37 (図IV-128)

位置 c-109-12 規模 0.98/0.90×0.27/0.22×0.47m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みみである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期

II P-38 (図IV-128)

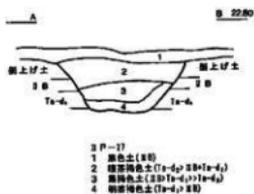
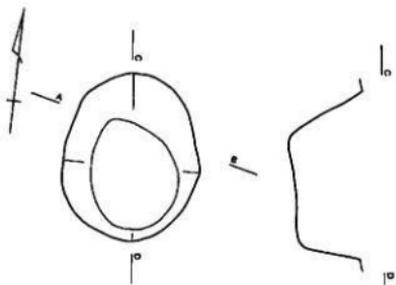
位置 d-109-93 規模 1.23/0.44×0.95/0.31×0.50m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みみである。掘込み面はII B層の中部である。

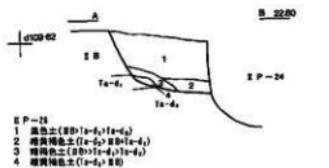
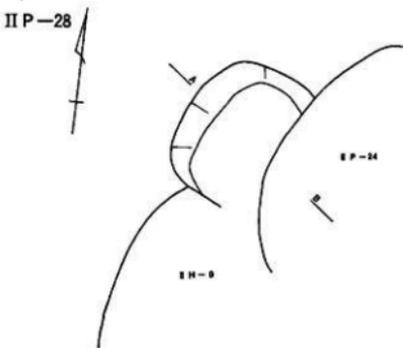
遺物 覆土からIII群b-3類土器・ポイントが出土している。

時期 覆土出土の遺物からみて縄文時代中期末と思われる。

II P-27

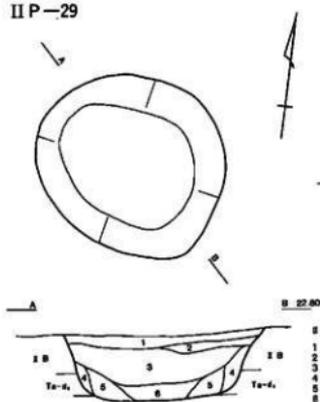


II P-28

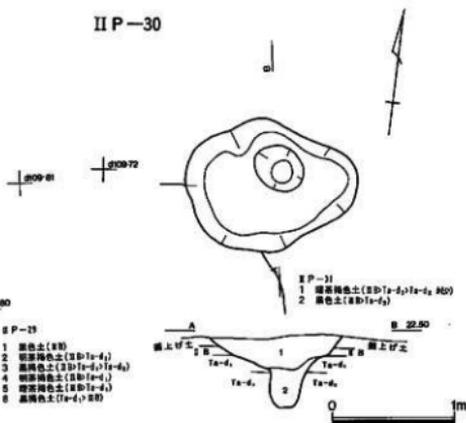


0 1m

II P-29



II P-30



0 1m

图IV-129 II P-27·28·29·30

II P-39 (図IV-128)

位置 d-109-92・93 規模 $1.88/(0.87) \times 0.27/0.22 \times 0.67m$

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器・ポイント・スレイバー・磁石等が出土している。

時期

II P-40 (図IV-128)

位置 c-109-04 規模 $(0.77)/(0.33) \times 0.36/0.45 \times 0.46m$

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期

II P-41 (図IV-128)

位置 d-109-93・94 規模 $1.15/--- \times 1.05/--- \times 0.45m$

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 わずかにフレイク・チップが出土しているのみである。

時期 周辺の遺物からみて縄文時代中期末と思われる。

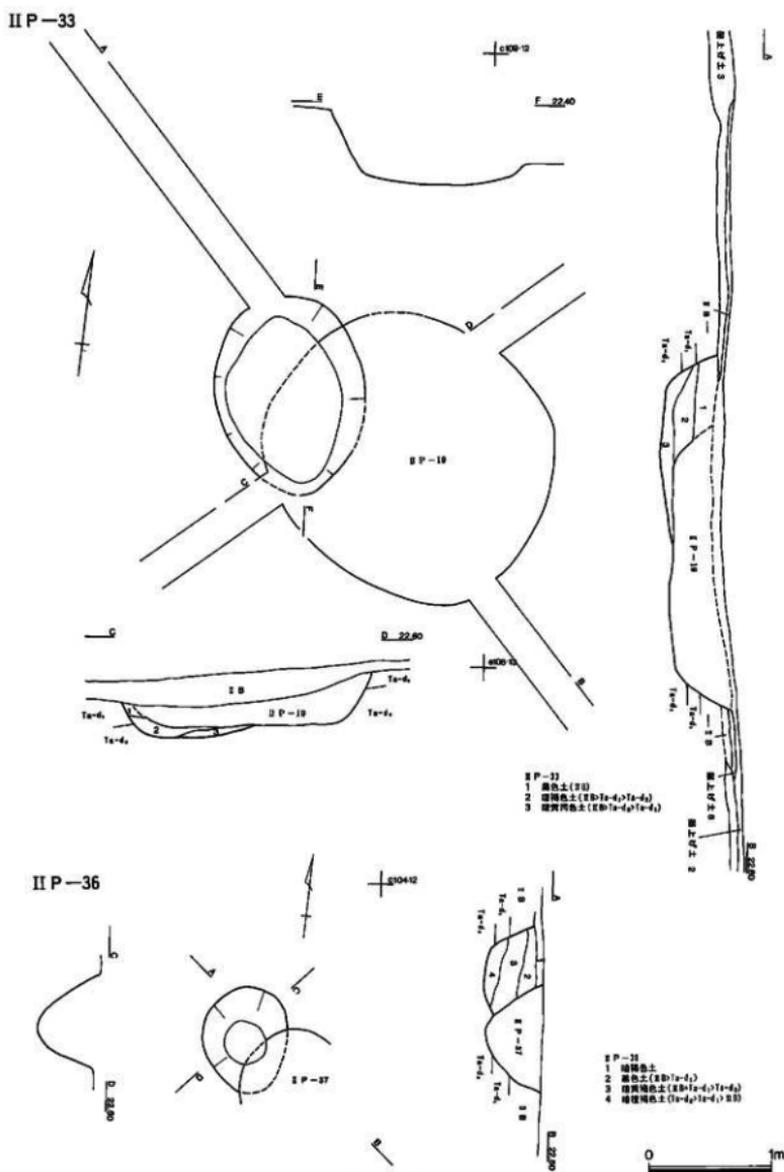
II P-42 (図IV-128)

位置 c-108-03 規模 $1.15/--- \times 1.05/--- \times 0.45m$

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からI群b-4類土器・Ⅲ群b-3類土器が出土している。

時期 周辺の遺構が覆土出土の遺物からみて縄文時代中期末と思われる。



図IV-130 II P-33・36

ⅡP-43 (図Ⅳ-128)

位置 c-108-14・24 規模 1.15/---×1.05/---×0.45m

特徴 ⅡH-9・ⅡP-28と重複している遺構である。平面形はⅡP-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はⅡB層の中部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器・石斧が出土している。

時期 覆土出土の遺物からみて縄文時代中期末と思われる。

ⅡP-44 (図Ⅳ-128)

位置 c-108-04 規模 1.15/---×1.05/---×0.45m

特徴 ⅡH-9・ⅡP-28と重複している遺構である。平面形はⅡP-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はⅡB層の中部である。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期

ⅡP-45 (図Ⅳ-132)

位置 c-108-15・16 規模 0.87/0.53×0.84/0.47×0.48m

特徴 ⅡP-10の調査中に確認された。平面形は円形である。断面形は椀状で壁と墳底との境が不明瞭である。覆土はⅡB・Ta-d・骨片が混入した埋め戻しである。掘込み面はⅡB層の中部である。

遺物 墳底からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 墳底出土の遺物からみて縄文時代中期末と考えられる。

ⅡP-48 (図Ⅳ-132)

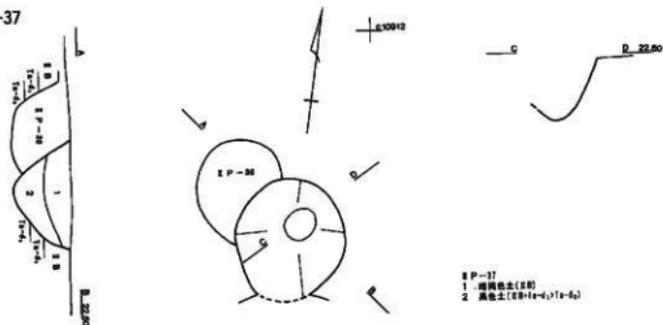
位置 c-108-15・16 規模 0.87/0.53×0.84/0.47×0.48m

特徴 ⅡP-10の調査中に確認された。平面形は円形である。断面形は椀状で壁と床との境が不明瞭である。覆土はⅡB層・Ta-d・骨片が混入した埋め戻しである。掘込み面はⅡB層の中部である。

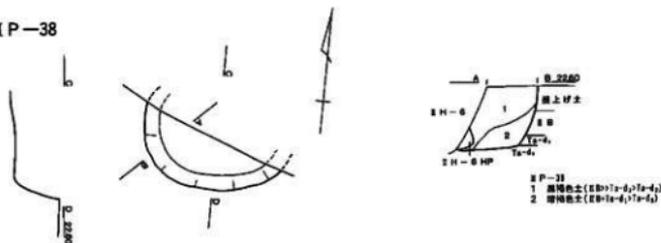
遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期

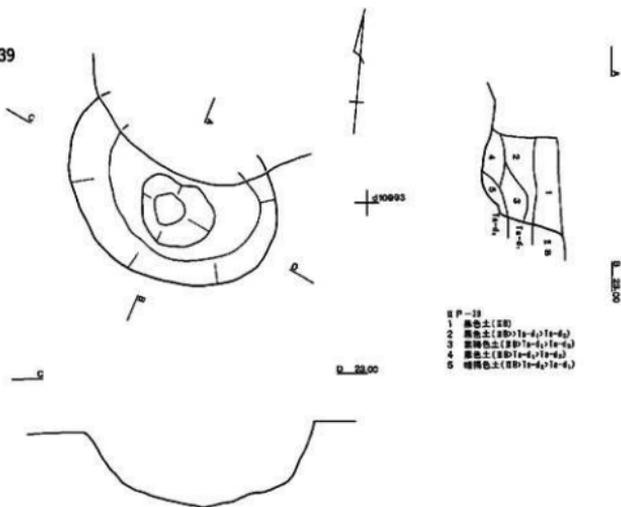
II P-37



II P-38



II P-39



図IV-131 II P-37・38・39

II P-49 (図IV-132)

位置 c-108-15・16 規模 0.87/0.53×0.84/0.47×0.48m

特徴 II P-10の調査中に確認された。平面形は円形である。断面形は椀状で壁と床との境が不明瞭である。覆土はII B層・Ta-d・骨片が混入した埋め戻しである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期

II P-50 (図IV-133)

位置 c-108-13・14 規模 1.60/1.36×1.38/1.08/0.62m

特徴 II H-13と重複している遺構である。平面形は円形である。墳底はTa-d層を掘り込んで作られている。壁は立ち上がりが急であるが南側はII H-19に切られているため不明である。西側の墳底に小ビットが一個確認された。断面形は先が細くなる杭状をなしている。用途は不明である。覆土はII B・Ta-d・が混入した埋め戻しである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-2類土器と、多量のIII群b-3類土器が出土している。

時期 覆土出土からみて縄文時代中期後半～末と思われる。

II P-51 (図IV-128)

位置 c-108-05・06 規模 2.61/2.19×0.65/0.59×0.57m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が多数出土している。

時期 覆土出土の遺物からみて縄文時代中期末と思われる。

II P-52 (図IV-128)

位置 c-108-05・06 規模 1.06/0.76×0.65/0.42×0.44m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からスクレイパー・石斧が出土している。

時期 周辺の遺物からみて縄文時代中期末と思われる。

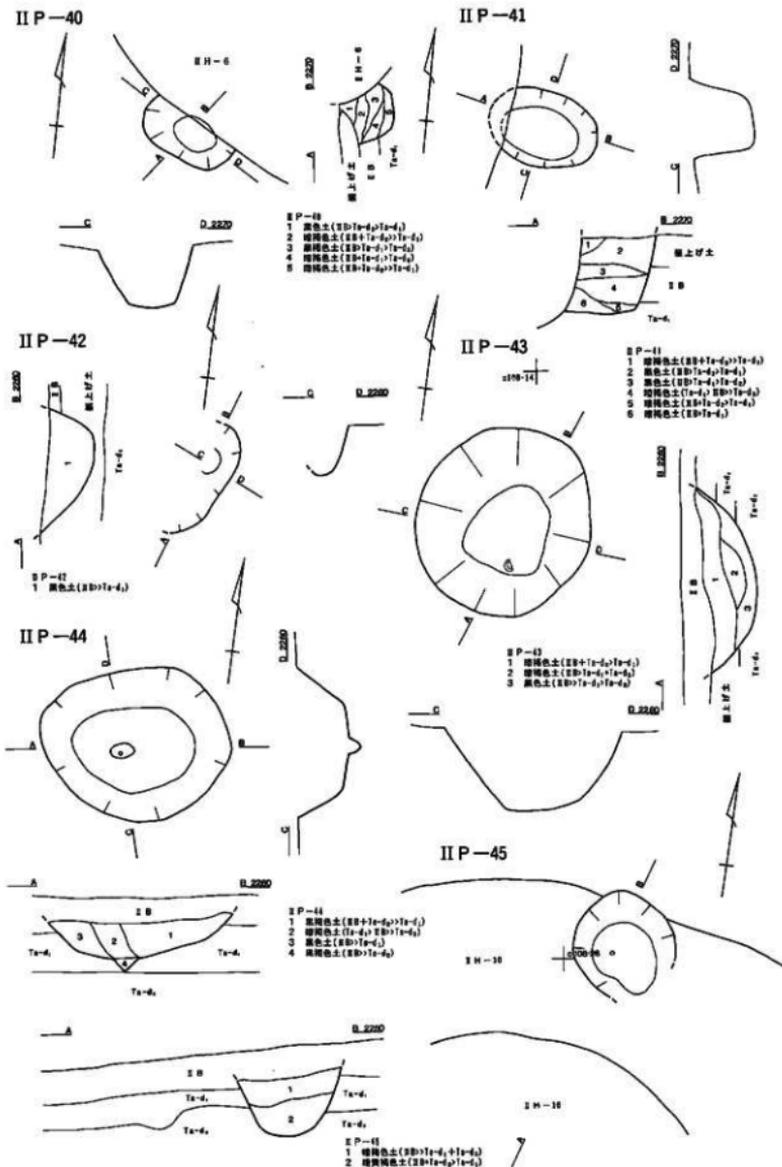
II P-53 (図IV-128)

位置 c-108-02・12 規模 1.74/0.98×1.45/0.69×0.41m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明。墳底はTa-d層を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器・石鏃が出土している。

時期



図IV-132 II P-40・41・42・43・44・45

II P-55 (図IV-128)

位置 c-108-02・12 規模 1.56/1.04×1.20/0.76×0.23m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-2類土器が出土している。

時期 覆土の遺物からみてIII群b-2類土器の時期(縄文時代中期後半)と思われる。

II P-56 (図IV-128)

位置 c-108-22・23 規模 1.08/0.85×0.79/0.65×0.46m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期

II P-57 (図IV-128)

位置 c-109-05・15 規模 1.07/0.92×0.66/0.49×0.32m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期

II P-58 (図IV-128)

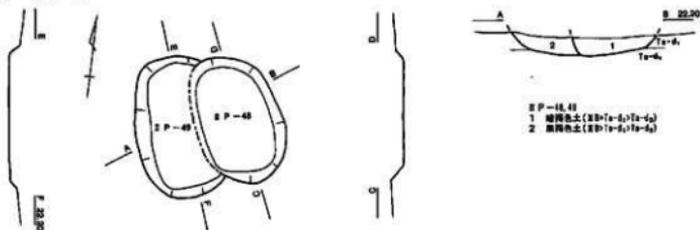
位置 d-108-92・93 規模 2.26/1.42×1.08/0.66×0.33m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器・石鏃・ポイントが出土している。

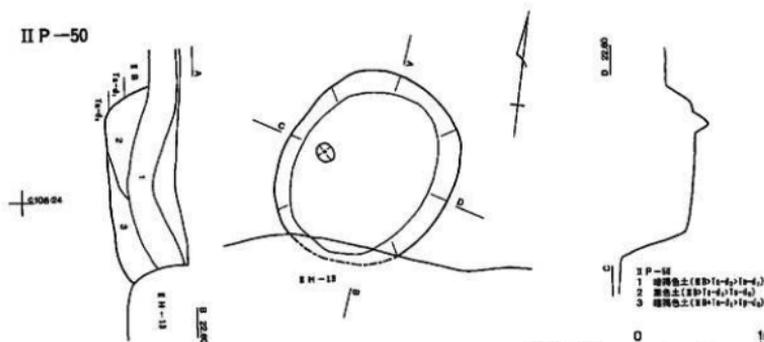
時期

II P-48・49



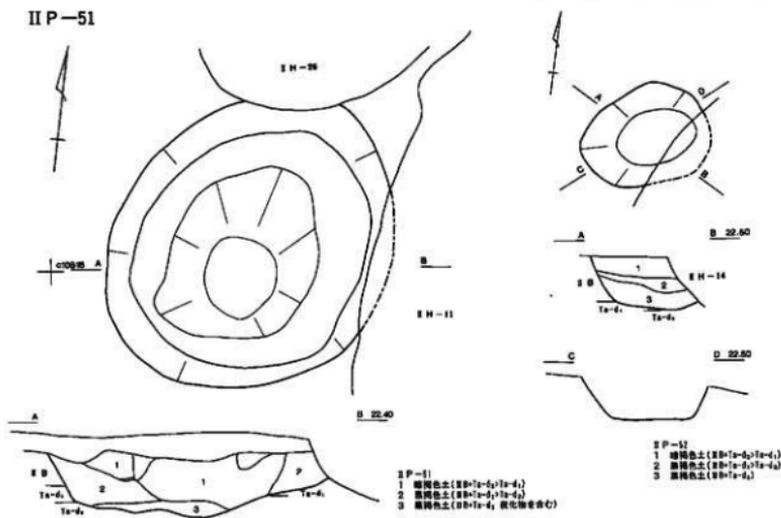
II P-48, 49
 1 燧石土(II P-48) (II P-49)
 2 燧石土(II P-48) (II P-49)

II P-50



II P-50
 1 燧石土(II P-50) (II P-50)
 2 燧石土(II P-50) (II P-50)
 3 燧石土(II P-50) (II P-50)

II P-51



II P-51
 1 燧石土(II P-51) (II P-51)
 2 燧石土(II P-51) (II P-51)
 3 燧石土(II P-51) (II P-51)

IV-133 II P-48・49・50・51・52

II P-59 (図IV-128)

位置 c-108-09 規模 1.59/1.07×1.06/0.60×0.90m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-2類土器が多数出土している。

時期 覆土出土からみて縄文時代中期後半と思われる。

II P-60 (図IV-128)

位置 c-108-17 規模 (1.84)/(1.01)×(0.99)/0.84×0.49m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 墳底・覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期 墳底出土の遺物からみて縄文時代中期末と考えられる。

II P-61 (図IV-128)

位置 c-108-17 規模 (1.03)/(0.75)×(0.35)/(0.32)×0.42m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期

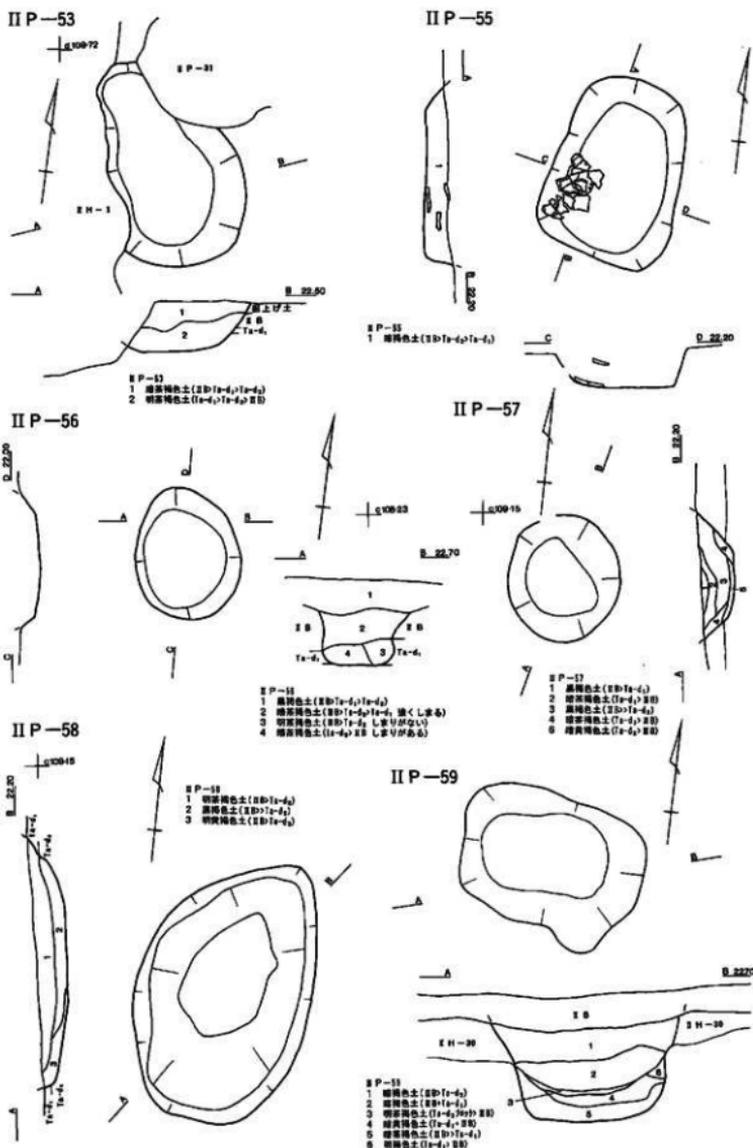
II P-62 (図IV-128)

位置 c-108-07・08 規模 1.81/1.41×0.89/0.46×0.20m

特徴 II H-9・II P-28と重複している遺構である。平面形はII P-28に切られているため不明
墳底はTa-d₂を僅かに掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。
掘込み面はII B層の中部である。

遺物 覆土からIII群b-3類土器が出土している。

時期



図IV-134 II P-53・55・56・57・58・59

(3) Tピット

TP-1 (図IV-140)

位置 d-108-95・c-108-05 規模 2.22/2.11×0.78/0.60×1.16m

特徴 平面形は隅丸長方形を呈し、墳底はやはり両隅の張った長方形で、En-L層を掘り込んで作られている。柱穴は2本で、深さは20cmほどで、ほぼ中央に長軸方向に並んで穿たれている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。

遺物 覆土からⅢ群b-2類土器が出土している。

時期 不明。

TP-2 (図IV-140)

位置 c-108-23 規模 2.62/2.42×1.65/1.01×1.18m

特徴 平面形は長楕円を呈し、墳底は溝状に細長く延びていて、両側がオーバーハングしている。その中央には深さ20cmほどの柱穴が3本検出され、等間隔に並んでいた。底面はEn-L層を20cmほど掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急である。覆土は流れ込みである。

遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 不明。

TP-3 (図IV-141)

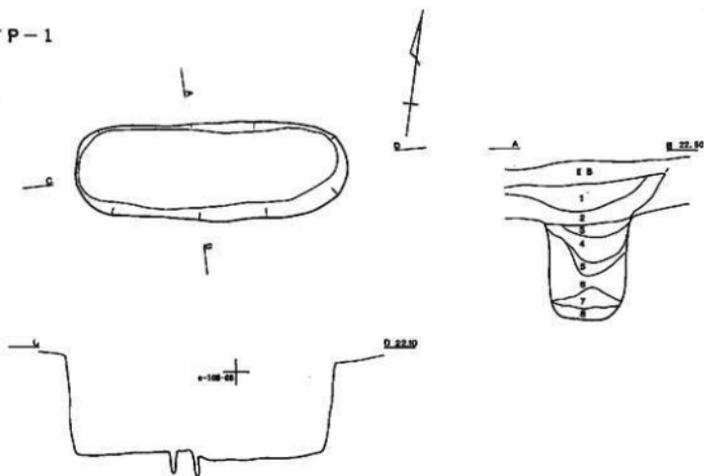
位置 c-108-28・29 規模 2.24/(1.54)×1.05/(0.47)×1.18m

特徴 平面形は楕円形を呈し、長軸方向は北北西から南南東で、西側が調査区外にまで広がっている。柱穴は2本確認され、深さ10cmを測り、短軸方向に並んで出土している。墳底は両隅が角張る長方形を呈していて、En-Lを10cmほど掘り込んで作られている。壁の立ち上がりは急であり、覆土は流れ込みである。

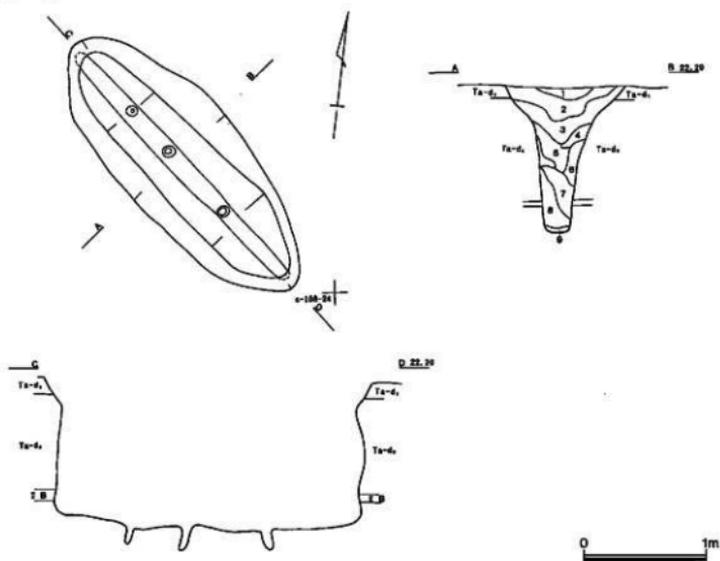
遺物 覆土からⅢ群b-3類土器が出土している。

時期 重複関係からみてⅡH-34の構築時期（縄文時代中期後半Ⅲ群b-2類土器）より新しい。

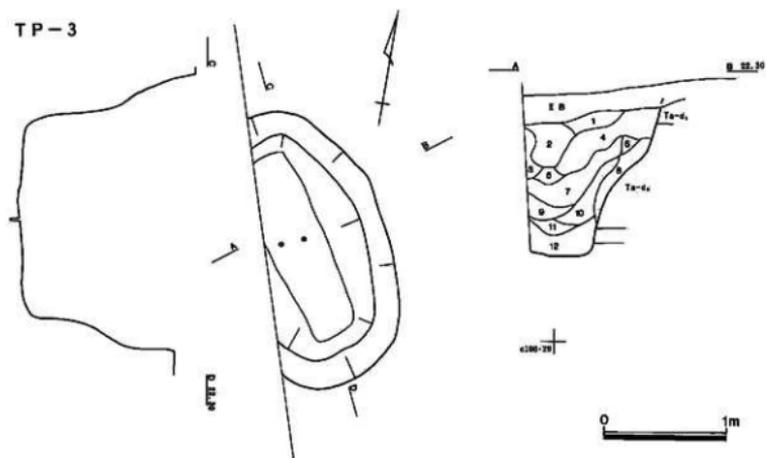
TP-1



TP-2



図IV-136 TP-1・2



図IV-137 TP-3

(4) 屋外炉・焼土

II S-1 (図IV-142)

位置 d-108-95 規模 1.00×0.50m

特徴 II H-14の覆土中で確認された。礫石は遺構の東側に偏って出土した。焼土は覆土の中層にみられた。焼土の厚さは約5cmである。

II F-1 (図IV-142)

位置 c-109-03 規模 0.52×0.51m

特徴 II H-2の覆土中で確認された。焼土の厚さは約7cmである。

II F-2 (図IV-142)

位置 c-109-03 規模 0.49×0.47m

特徴 II H-2の覆土中で確認された。焼土の厚さは約7cmである。

II F-3 (図IV-142)

位置 d-108-95 規模 0.48×0.47m

特徴 II H-2の覆土中で確認された。焼土の厚さは約7cmである。

II F-4 (図IV-142)

位置 d-108-95 規模 0.73×0.35m

特徴 II H-2の覆土中で確認された。焼土の厚さは約7cmである。

II F-5 (図IV-142)

位置 c-108-14 規模 0.86×0.51m

特徴 II H-37の北側で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-6 (図IV-142)

位置 d-108-95 規模 (0.40)×0.33m

特徴 II H-17の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-7 (図IV-143)

位置 c-108-08 規模 0.58×0.47m

特徴 II H-38の南側で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-8 (図IV-143)

位置 c-108-08 規模 0.68×0.57m

特徴 II H-27の南側で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-9 (図IV-143)

位置 c-108-19 規模 0.58×0.36m

特徴 II H-28の南側で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-10 (図IV-143)

位置 d-108-90・d-107-99 規模 0.62×0.47m

特徴 II H-19の北側で確認された。東側は調査区外に広がっている。焼土の厚さは約4である。

II F-11 (図IV-143)

位置 c-108-22 規模 0.96×0.73m

特徴 II H-13の覆土中で確認された。東側は調査区外に広がっている。焼土の厚さは約4である。

II F-12 (図IV-143)

位置 c-108-17 規模 0.62×0.54m

特徴 II H-27の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-13 (図IV-143)

位置 c-108-17 規模 0.38×0.34m

特徴 II H-27の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-14 (図IV-143)

位置 c-108-17 規模 0.70×0.46m

特徴 II H-27の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-15 (図IV-143)

位置 c-108-18 規模 0.44×0.38m

特徴 II H-28の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-16 (図IV-143)

位置 c-108-17 規模 0.63×0.57m

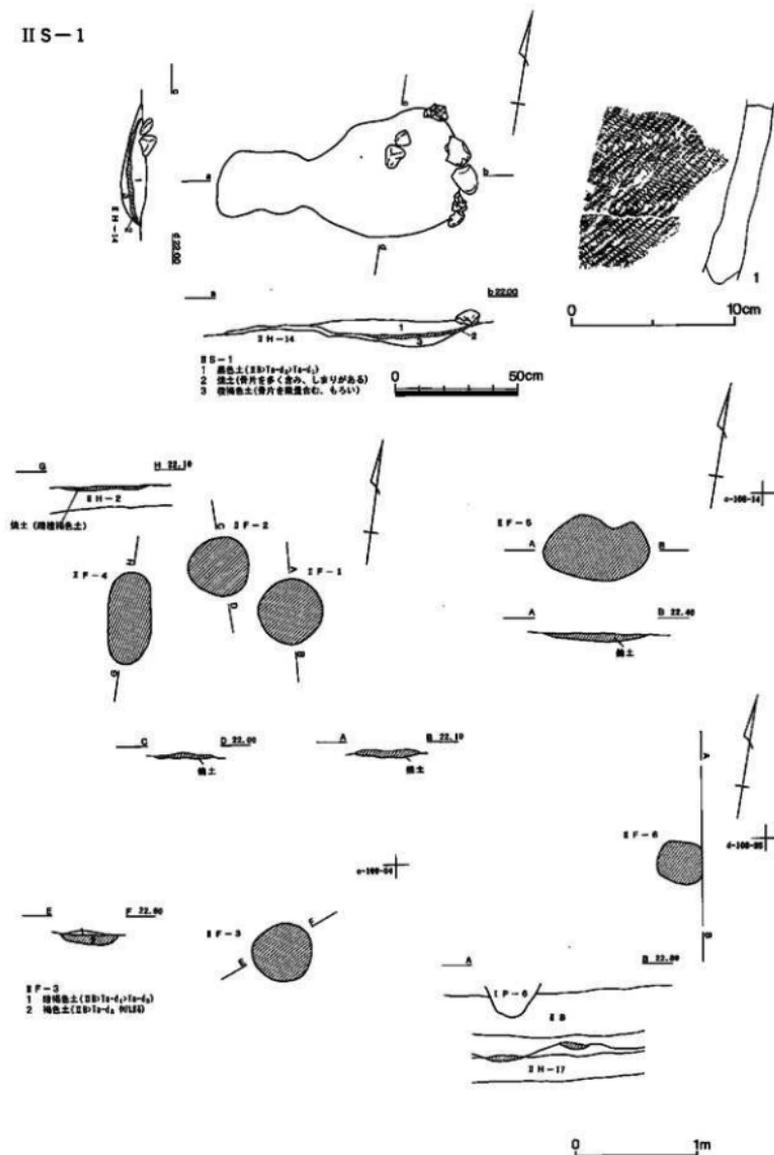
特徴 II H-28の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

II F-17 (図IV-143)

位置 c-108-17 規模 1.18×0.60m

特徴 II H-28の覆土中で確認された。焼土の厚さは約4cmである。

H S-1



図IV-138 焼土(1)

土壇・Tピットの遺物

II P-1

遺物 1・2はⅢ群b-3土器である。1は無文のミニチュア土器である。2は胎土に多量の砂粒を含む。原体はLRである。

II P-11

遺物 11はⅢ群b-3土器である。刺突文がつく。原体は0段多条LR・RLである。

II P-12

遺物 12~15はⅢ群b-3土器である。12・14は円形刺突文をもつ。口縁肥厚帯に押し引き文がつく。12は口唇と体部にも押し引き文がつく。原体はLRで内面にも縄文が施される。

II P-20

遺物 3・4はⅢ群b-2土器である。3は口縁部肥厚帯に刺突文が施されている。4は貼付帯の上下が調整により無文になる。

II P-19

遺物 5・6はⅢ群b-3土器である。5は口唇が平坦になるもので突起がつく。口唇と口縁に押し引き文がつく。縦位の厚い貼付帯上には刺突文がつく。内面にも縄文が施される。原体はである。6は口縁肥厚帯に沈線が施されている7・8は石鏝である。

II P-21

遺物 9はⅢ群b-2土器、10はⅢ群b-3土器である。9は口縁に縄線文がつく。12は口縁肥厚帯に押し引き文がつく。口唇と内面に縄文が施されている。

II P-24

16は石鏝である。17はポイントまたはナイフである。

II P-25

遺物 18はⅢ群b-3土器の底部である。

II P-27

遺物 19・20はⅢ群b-3土器である。口縁が肥厚し、19は刺突文がつく。

II P-29

遺物 21はⅢ群b-2土器である。口唇に貼付帯がつき、口唇直下は無文になる。

II P-31

遺物 31はⅢ群b-3土器の胴部破片である23は頁岩製の石鏝である。

II P-33

遺物 24・25はⅢ群b-3類土器である。26はポイントまたはナイフである。

II P-38

遺物 27はⅢ群b-2類土器、28はⅢ群b-3類土器である。

II P-39

遺物 29は砥石である。

II P-42

遺物 33はⅢ群b類土器、30~32はⅢ群b-3類土器である。

II P-43

遺物 34・35はⅢ群b-3類土器である。

II P-45

遺物 36はIII群b-3類土器である。

II P-50

遺物 40~42はIII群b-2類土器、43~46はIII群b-3類土器である。47はポイントまたはナイフである。

II P-51

遺物 48~56はIII群b-3類土器である。57・58は黒曜石製の石鏃である。

II P-52

遺物 59~61はスクレイパーである。

II P-53

遺物 7・8は石鏃である。

II P-58

遺物 62~64はIII群b-3土器である。62は口縁肥厚帯に突起がつき、浅い押し文が施される。地文はLR原体の結節斜行縄文で、外面は横回転、内面は縦回転の施文である。63は口縁肥厚帯の断面が四角いもので、口唇に突起が口縁に貼瘤がつく。それらには刺突文が施されている。64は底部である。65は石鏃である。

II P-59

遺物 67はIII群b-2土器である。口縁肥厚帯に縦の刻目がつく。体部には半載竹管状工具による沈線で文様帯が区画される。文様帯の中には山形文がある。

II P-60

遺物 68~70はIII群b-3土器である。68・69は胴部破片である。69は下部が丸く整形されており、土製品の可能性がある。70は口縁貼付帯に刺突文がつく。66は土器片製の円盤状土製品である。

TP-1

遺物 71はIII群b-2土器である。口縁に細い沈線がつく。

TP-2

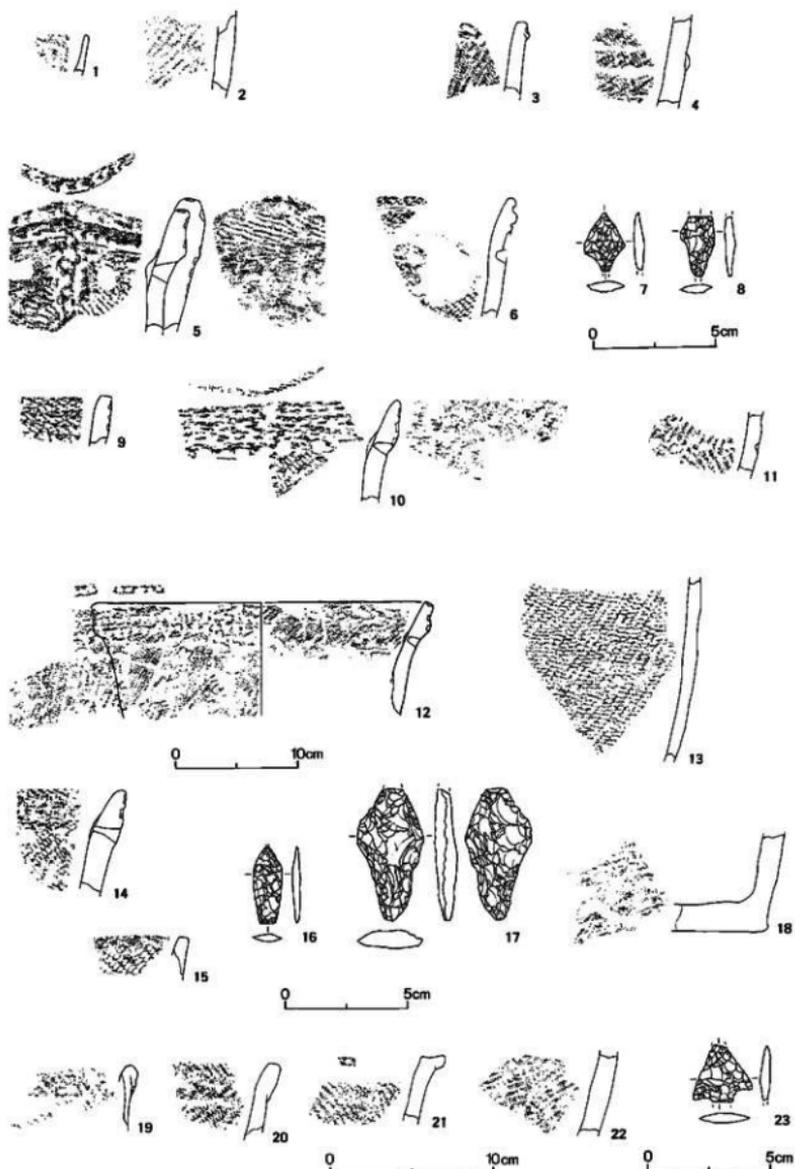
遺物 72はIII群b-3土器である。口縁に幅広で薄い貼付帯がつく。73は珪質頁岩製の石鏃である。74はスクレイパーである。

TP-3

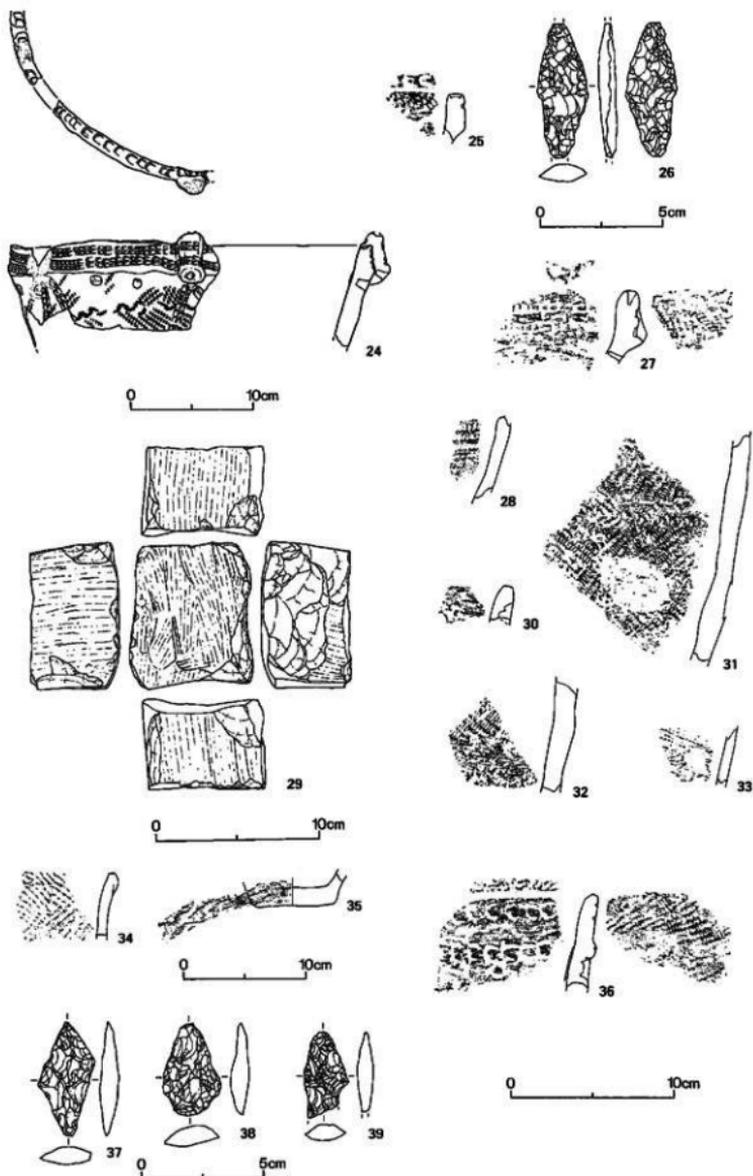
遺物 75はIII群b-3土器である。LR原体の斜行縄文が施されている。76は石鏃である。

S-1

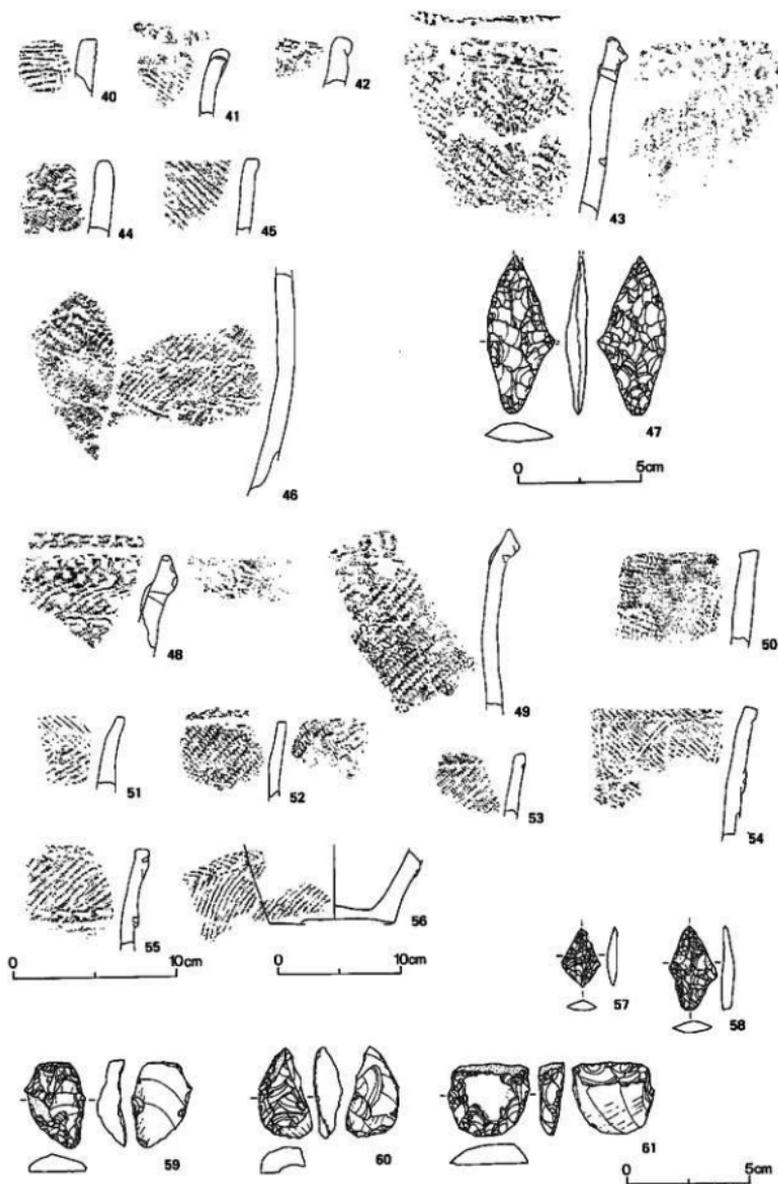
遺物 1はIII群b-3類土器である。厚みのある土器で、LR原体の結束第一種斜行縄文が施される。



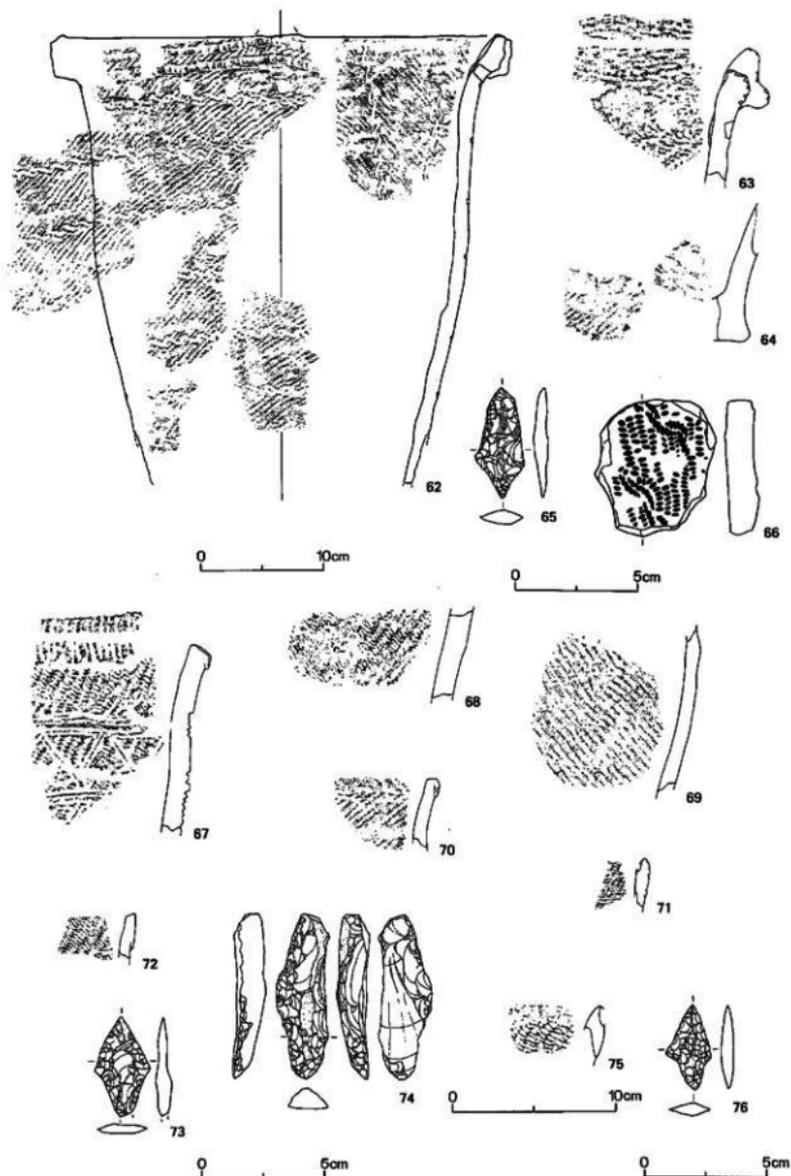
図IV-140 土壌・Tビット出土の遺物(1)



図IV-141 土壌・Tピット出土の遺物(2)



図IV-142 土壌・Tピット出土の遺物(3)



図IV-143 土壙・Tピット出土の遺物(4)

3 遺物

(1) 土器 (図IV-144~147・図版IV-57~65)

I群b-4類土器 出土点数: 点 (図1-10・図版IV-57)

1~5は綾絡文が施されているものである。口唇断面は四角いもの(1・5)、丸みをもつもの(3)、先細りになるもの(2・4)がある。5は口唇に縄の圧痕がつく。

6~8は自縄自巻・捺糸文のみのもの。口唇断面は四角いもの(7)、丸みをもつもの(9)、やや先細りになるもの(6・8)がある。

9は縄線文が施されているものである。口唇断面は丸みをもち、口縁は内湾する。

10は短縄文が施されているものである。波状口縁を呈し、細い条による羽状縄文が施されている。

III群a-1類土器 出土点数: 点 (図IV-11)

条の太い縄文が施されている。胎土に繊維と小石を含む。縄文式に相当する。

III群b-1類土器 出土点数: 点 (図IV-12~15・図版IV-58)

12は口唇に山形突起をもつ。口唇には地文がつく。貼付帯上半載竹管状工具による押しき文が施される。原体はLRである。13は口縁肥厚帯に細かな刻みがつく。貼付帯が重なる部分は貼瘤がつく。貼付帯上半載竹管状工具による押しき文が施される。14は口唇に縄の圧痕がつく。口縁には貼付帯がつき。貼付帯上半載竹管状工具による押しき文が施される。内面に縄文が施される。15は口唇に刻目が、口縁肥厚帯には沈線が施される。肥厚帯直下に貼付帯がつき、その上には刻目が施される。内面は凹凸があるが調整されている。

III群b-2類土器 出土点数: 点 (図IV-16~44・図版IV-58・59)

文様からA類: 貼付帯・貼瘤のつくもの。B類: 沈線が施されるもの。C類: 刺突文が施されるもの。D類: 縄線文がつかもの。E類: その他のもの。

A類 (図IV-16~30・図版IV-58) 16~27は貼付帯、28~30は貼瘤がつく。

B類 (図IV-31~34・図版IV-58・59) 32は口唇に縄文がつく。31・33・34は口唇に刺突文がつく。

C類 (図IV-35~37・図版IV-59) 35~37は竹管状工具による円形の刺突文がつく。

D類 (図IV-38~40・図版IV-59) 39は口唇に縄端による刺突がつく。40は口唇に半載竹管状工具による刺突がつく。

E類 (図IV-41~44・図版IV-59) 42は口唇・口縁に半載竹管状工具による刺突がつく。43は口唇に刺突文がつく。44は口唇に縄による刻みがつく。

III群b-3類土器 出土点数: 点 (図IV-45~75・図版IV-59~64)

ここでの分類は平成元年報告「美沢川流域の遺跡群VIII、II章 II黒層出土の土器」に従った。北筒式は文様から6類に分類される。A類: 器面に貼付帯がつくもの。B類: 体部に押しき文がつくもの。C類: 口唇・口縁に施文されるもの。D類: 口唇に施文されるもの。E類: 口縁に施文されるもの。F類: 縄文のみのものである。ノグップⅡ式、煉瓦台式はH類、無文のものをG類とする。

A類 包含層からは出土していない。IIH-7・12・13・IIP-5で出土例がある。

B類 (図IV-47~48・図版IV-60)

C類 (図IV-49~57・図版IV-60)

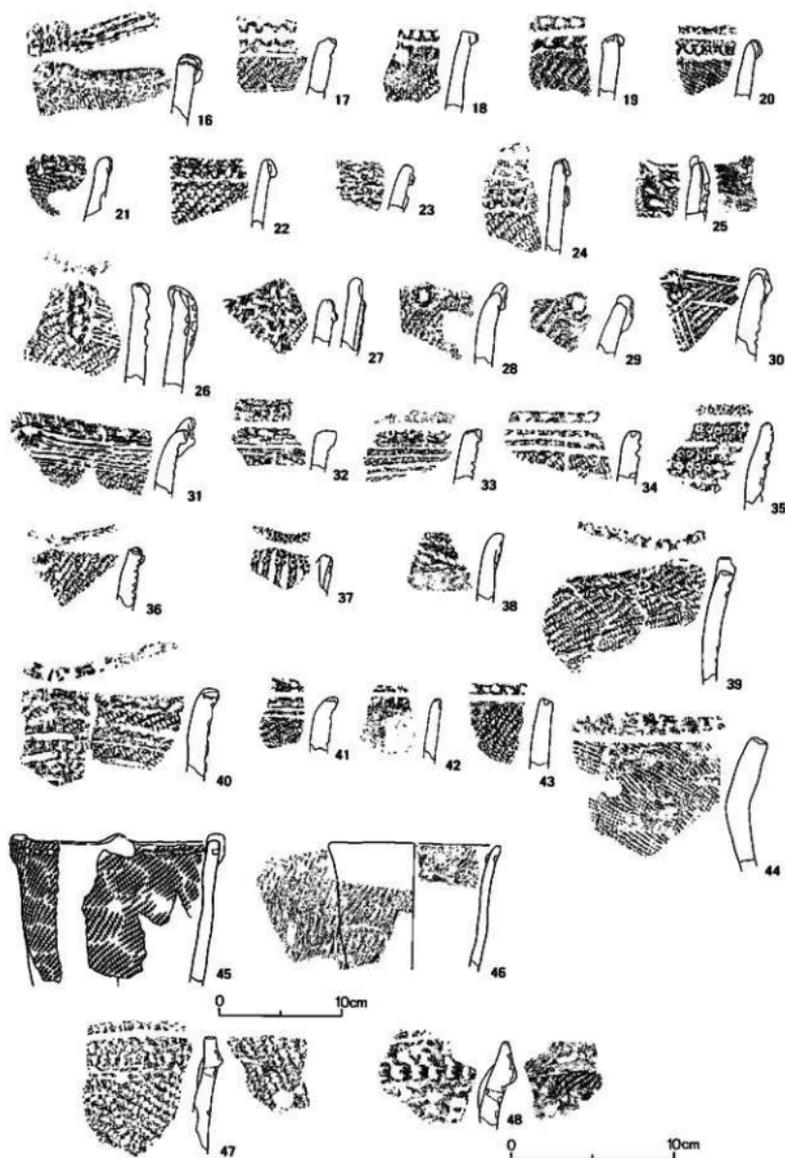
D類 (図IV-58・59・図版IV-60)

E類 (図IV-45・図版IV-59~61)

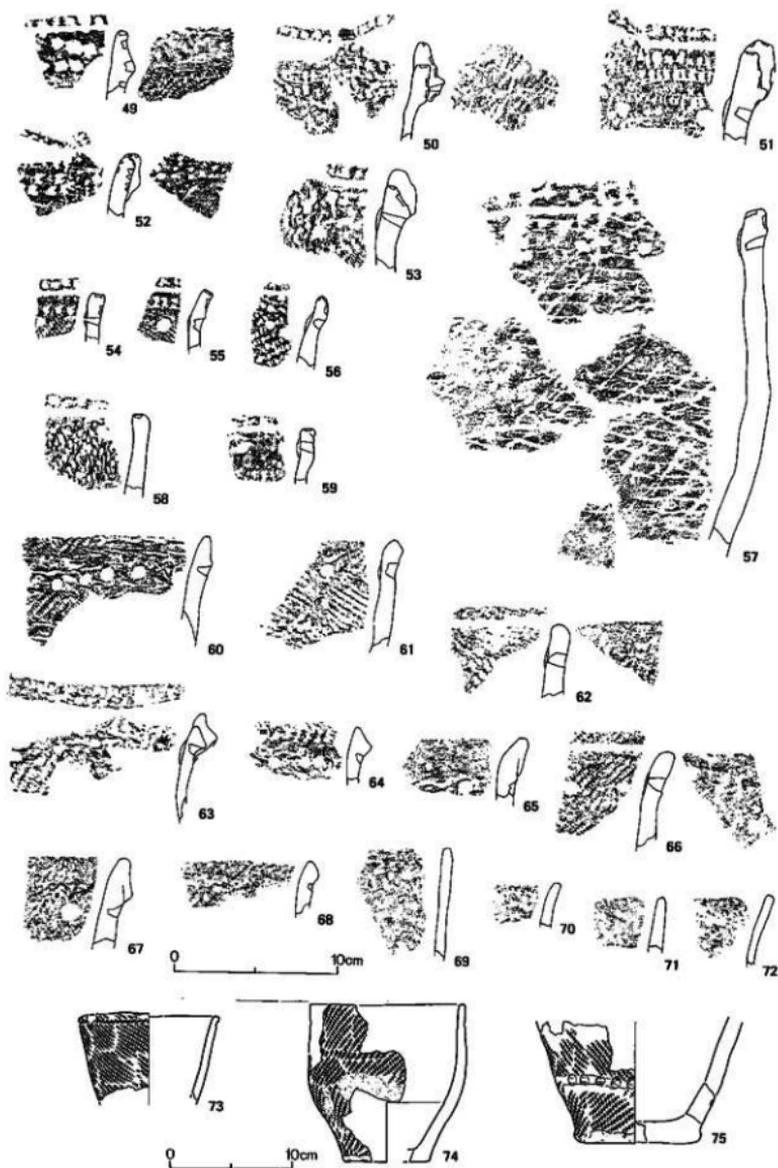
F類 (図IV-60~68・図版IV-61)



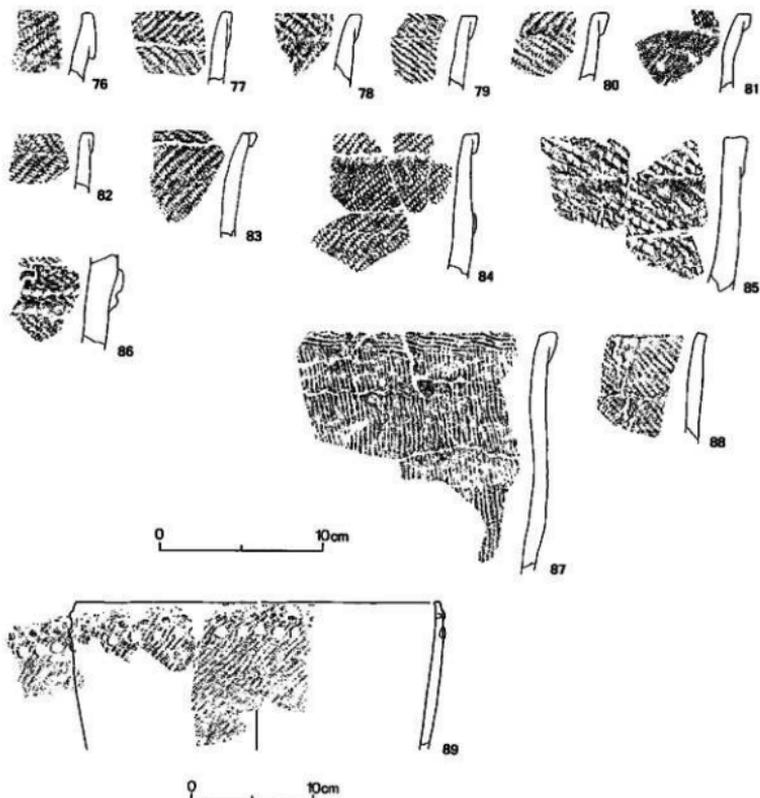
0 10cm
 図IV-14 包含層の土器(1)



図IV-145 包含層の土器(2)



図IV-146 包含層の土器(3)



図IV-147 包含層の土器(4)

H類 (図IV-73~75・図版IV-62~64)

G類 (図IV-69~72・図版IV-62)

IV群a類土器 出土点数: 点 (図IV-76~88・図版IV-65)

76・77は口縁部の貼付帯が幅広である。84は体部にも貼付帯がつく。85・86は器壁が厚く、胎土に小石を含む。86は貼付帯に縄線文がつく。87は口縁貼付帯に横位の、体部に縦位の撫糸文が施される。頸部には綾絡文が付けられている。88は口唇の断面が四角い。地文は結節のあるLR原体による斜行縄文で、縦に施文される。口唇・内面とも良く研磨されている。76~84は余市式、85・86はタブコブ式、87・88は涌元I式に相当する。

IV群c類土器 出土点数: 点 (図IV-89・図版IV-62)

89は口縁がやや内湾する。内面からの刺突によって器面に突瘤文を施している。突瘤文の下には爪形文風の刺突がつく。堂林式に相当する。

(2) 石器 (図IV-148~160-1~169)

石鏃 (1~60)

1~3は柳葉形のものである。4~7は無茎のもので、凹基部である。8~60は有茎のものである。

ポイントまたはナイフ (61~75・80~82・84~89)

72・80・86・88・89は頁岩製、82・84は珪岩製、他は黒曜石製である。

ナイフ (76~79・83・90~93)

76~79は黒曜石製で、83・90~93は頁岩製である。

つまみ付きナイフ (94~108)

94・95・108は両面加工のものである。94・98・100は珪質頁岩製、95・97・99・101・102・105・107・108は頁岩製、103・104は黒曜石製、96はメノウ製である。

石錐 (109・110)

2点とも棒状のものである。109は黒曜石製で、110は頁岩製である。

スクレイパー (111~140)

111~118はエンドスクレイパーである。111~117・119・122~124・127・129~133・135・137~140は黒曜石製、118・121・26は珪質頁岩製、120・128・134・136は頁岩製、125は珪岩製である。

コア (141~143)

141と143は原石面を残すものである。

石斧 (144・146~150・152)

152は両側面にこう打が施されている。144・147・148・152は緑色泥岩製、146は泥岩製、149・150は片岩製である。

石斧片 (145)

石材は蛇紋岩?である。

石斧未製品 (151)

石材は緑色泥岩である。

石斧素材 (153)

石材は緑色泥岩である。

石のみ (154~156)

いずれも刃部は片刃で、周辺に軽い研磨が施されている。154・155は片岩製、156は泥岩製である。

くぼみ石 (157・158)

158は表面に一箇所、裏面に二箇所のたたき痕がある。いずれも石材は安山岩である。

砥石 (159~165)

砥面は159~161が4面、163・165が3面、165が2面、162が1面である。形状は159~161が棒状で、162~165が板状である。いずれも石材は砂岩である。

石錘 (166・167)

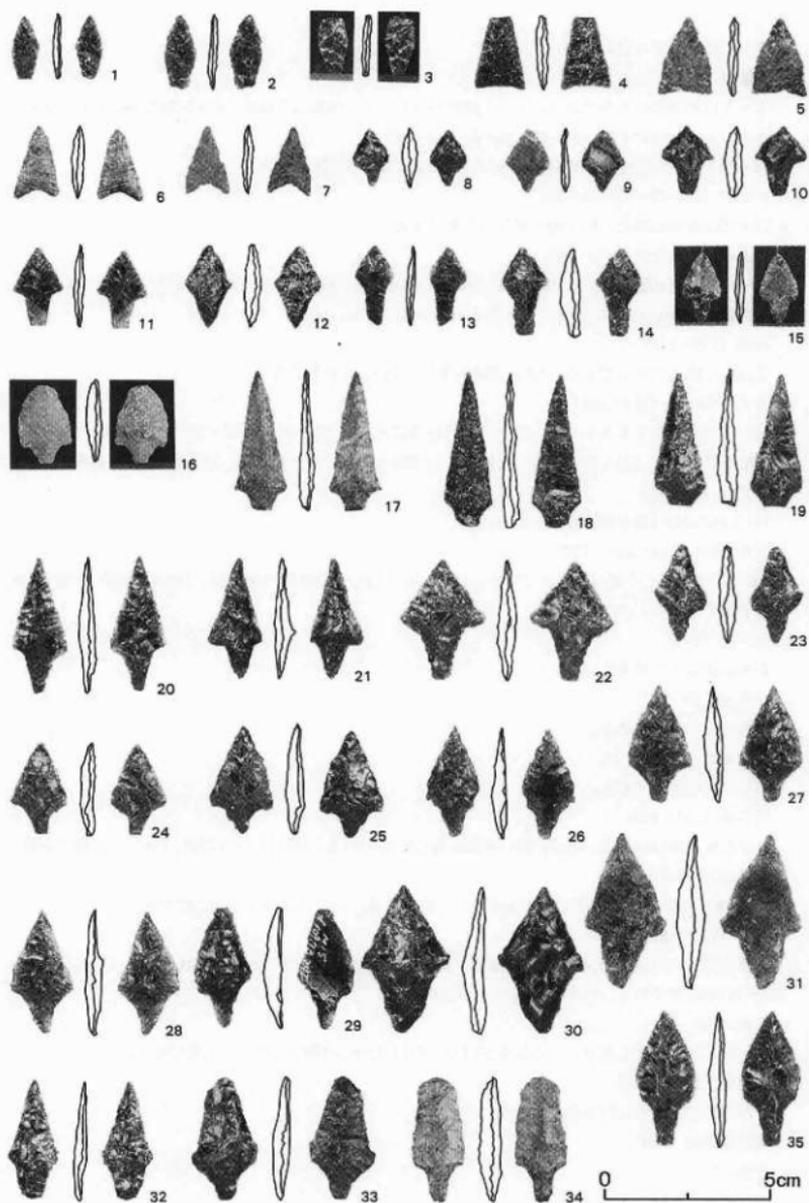
いずれも両端を打ち欠きによる抉りが付く。石材は166が砂岩、167が安山岩である。

三角形土製品 (168)

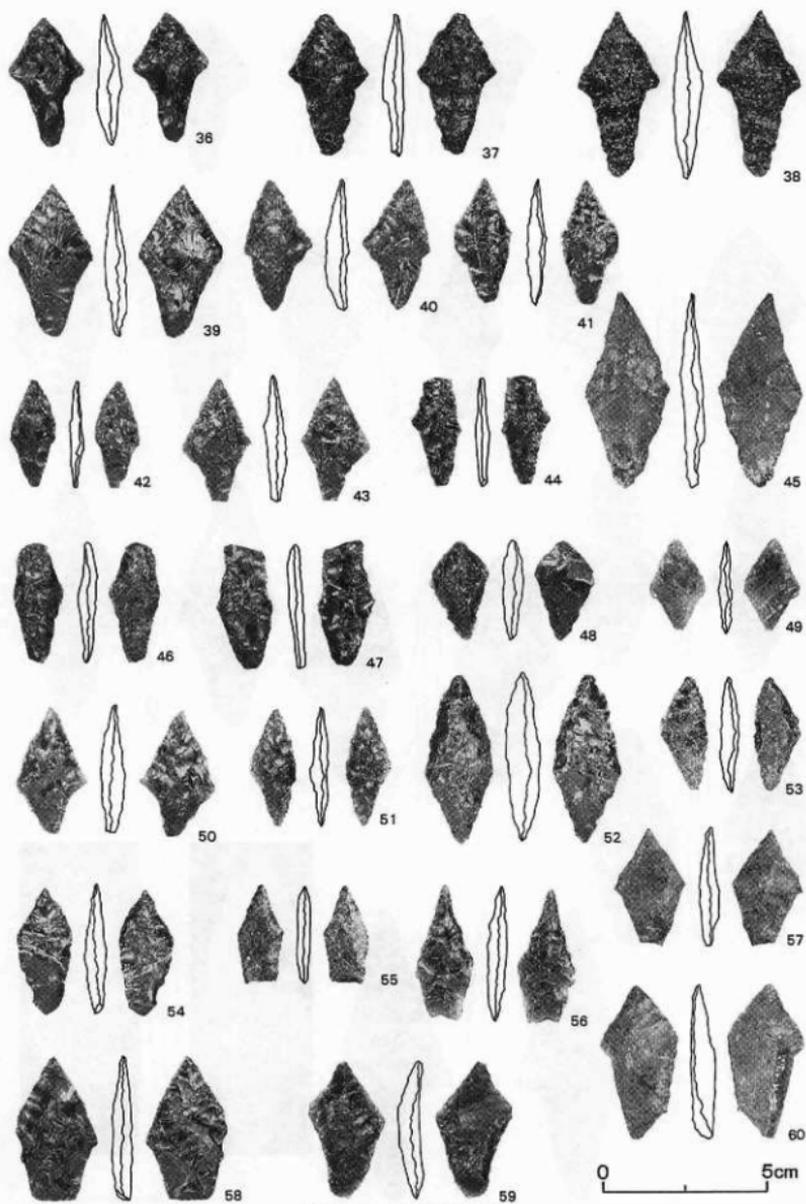
土器片製で、周辺に打ち欠きが見られる。

垂飾未製品 (169)

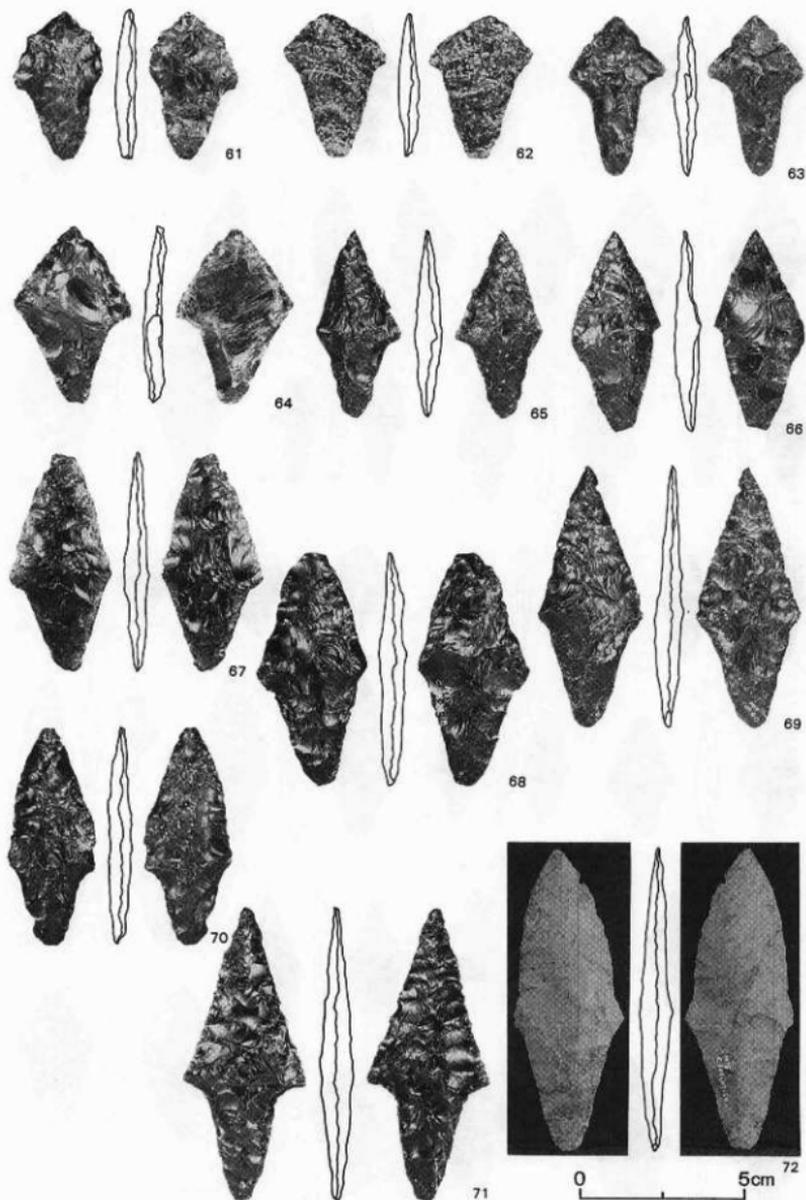
橄欖岩製である。



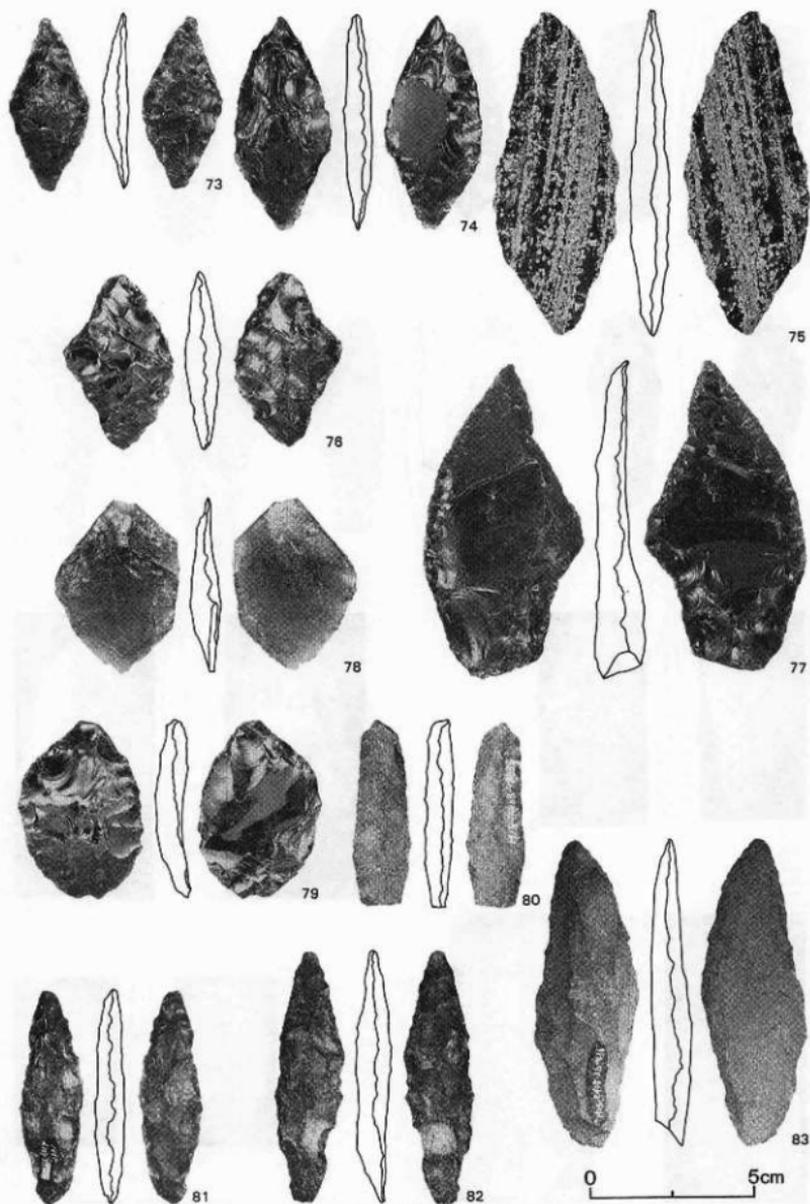
図IV-148 包含層の石器(1)



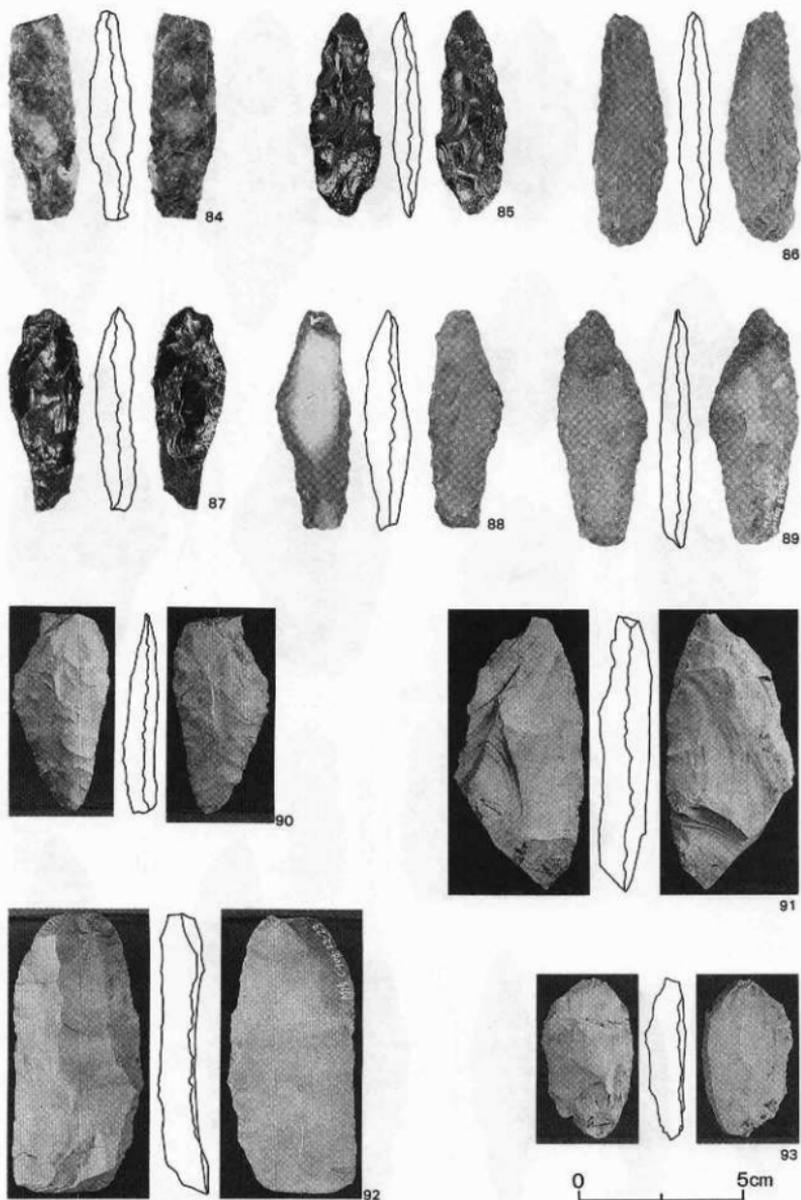
図IV-149 包含層の石器(2)



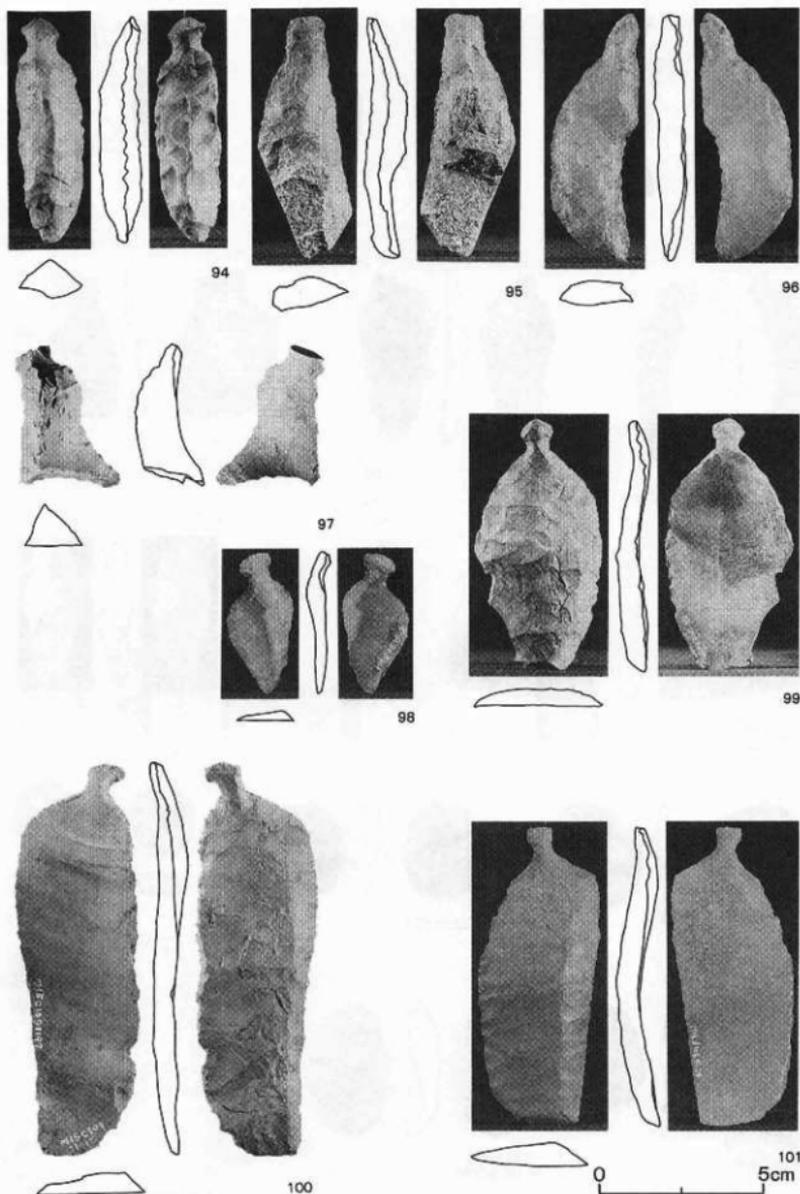
図IV-150 包含層の石器(3)



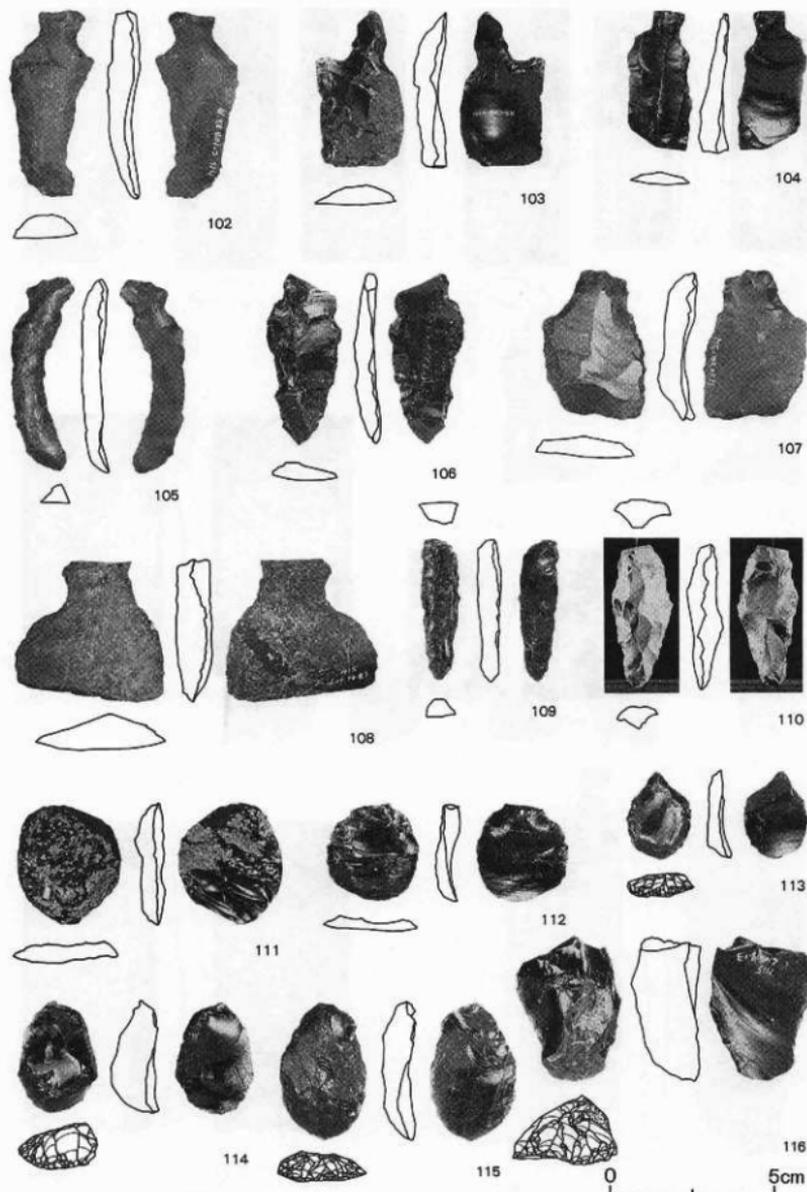
図IV-151 包含層の石器(4)



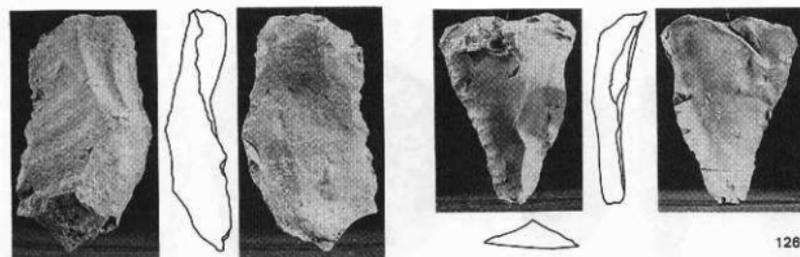
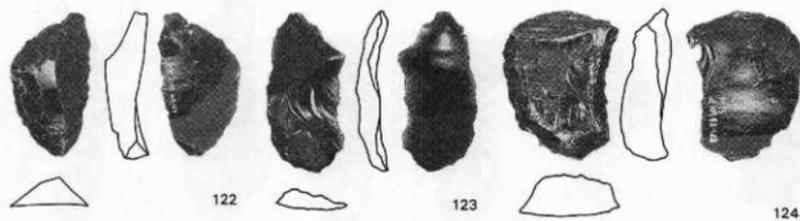
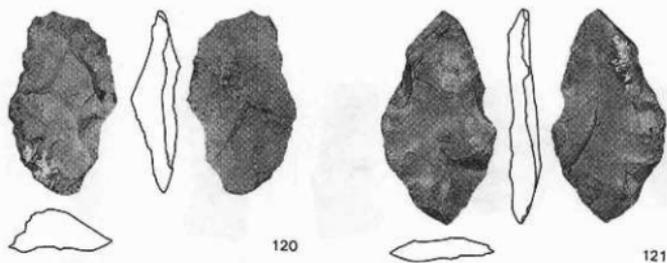
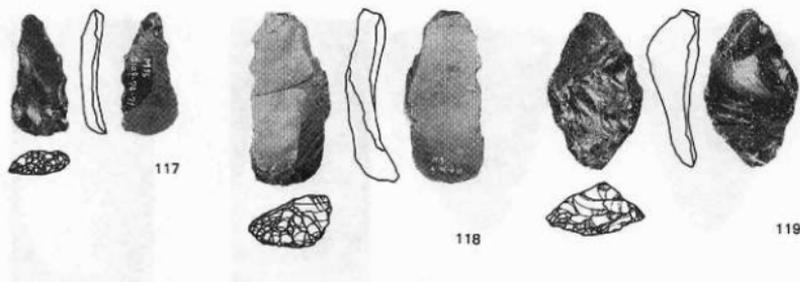
図IV-152 包含層の石器(5)



図IV-153 包含層の石器(6)

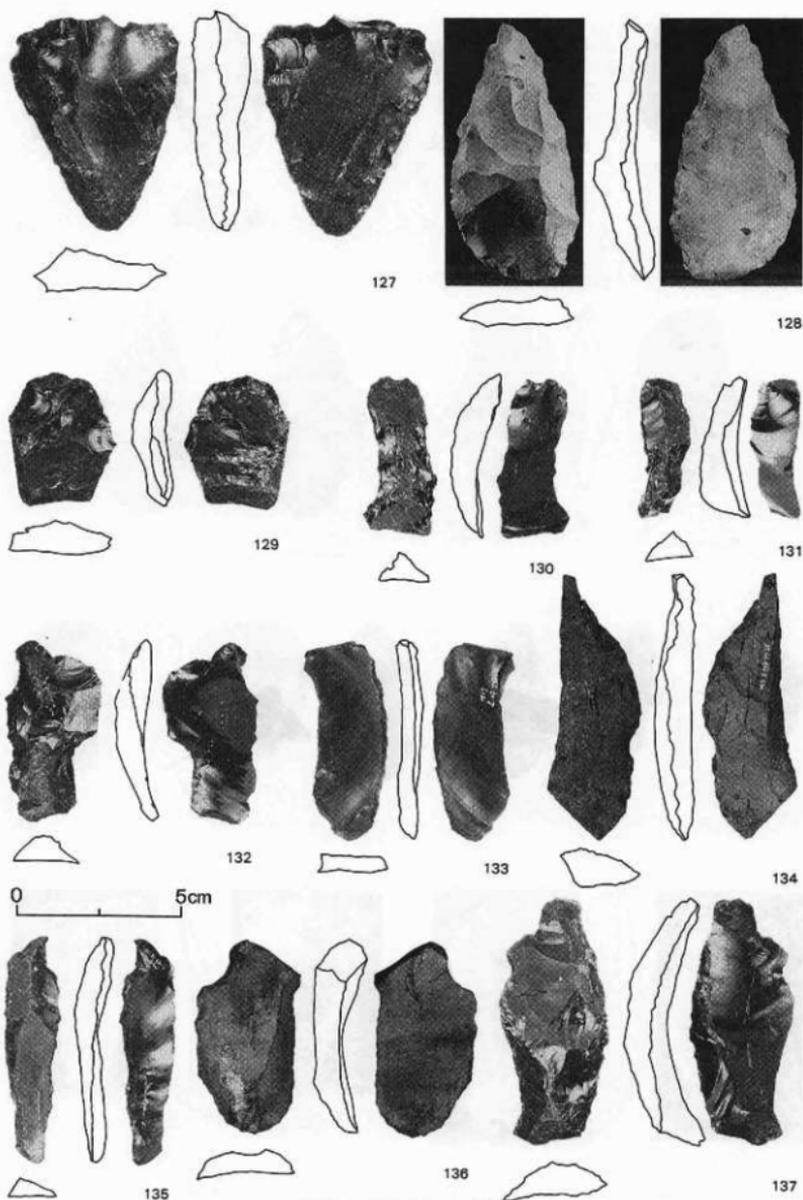


図IV-154 包含層の石器(7)

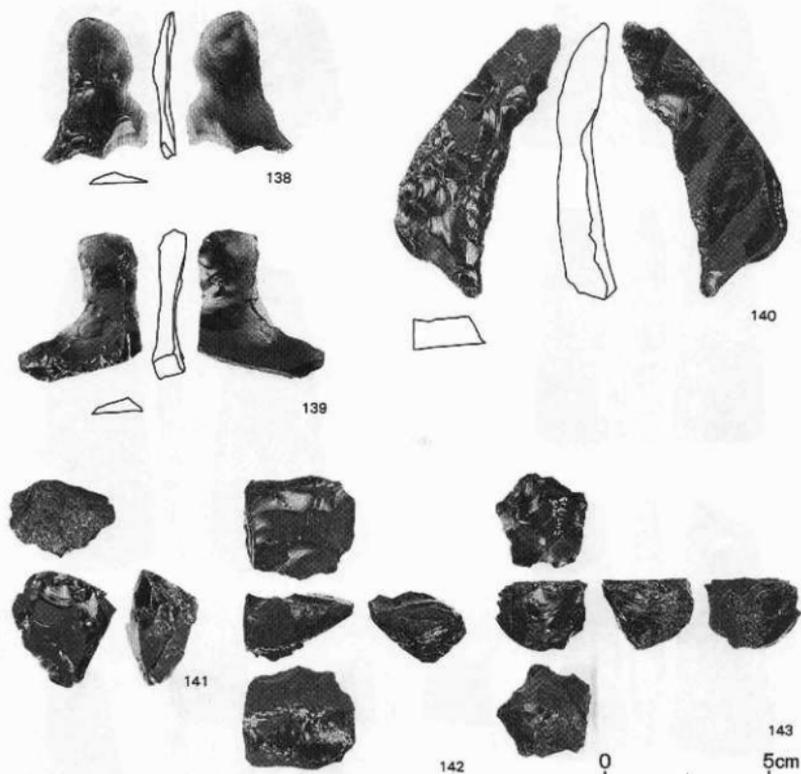


0 5cm

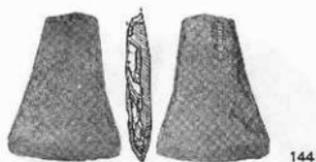
125
 図IV-155 包含層の石器(8)



図IV-156 包含層の石器(9)



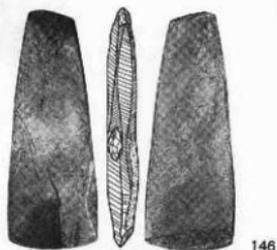
図IV-157 包含層の石器(0)



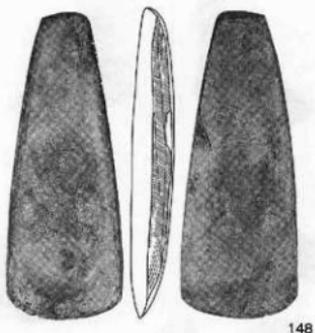
144



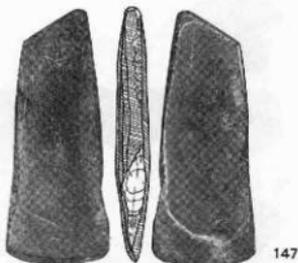
145



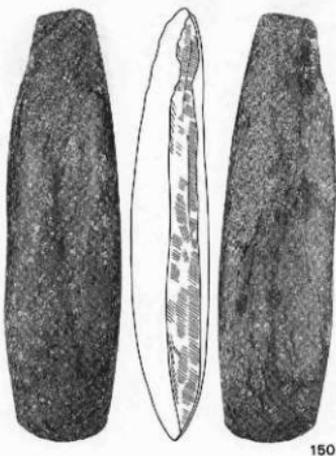
146



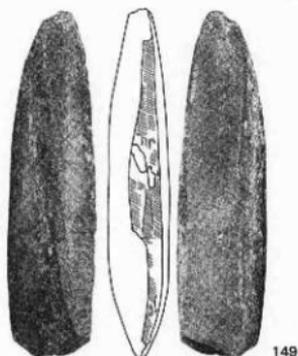
148



147



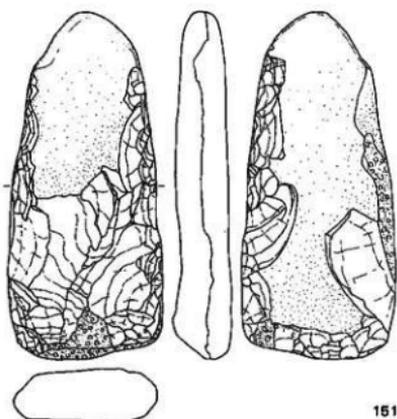
150



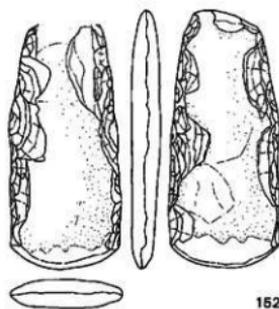
149

0 10cm

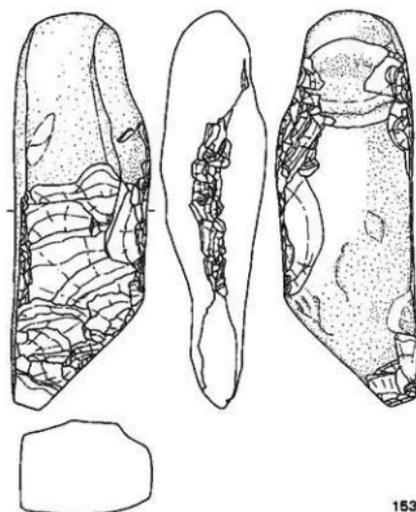
図IV-158 包含層の石器(II)



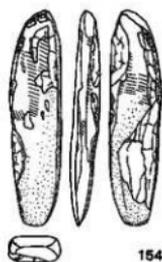
151



152



153



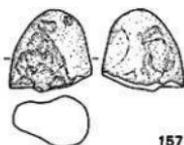
154



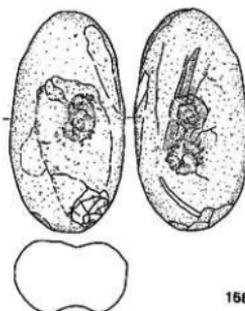
155



156



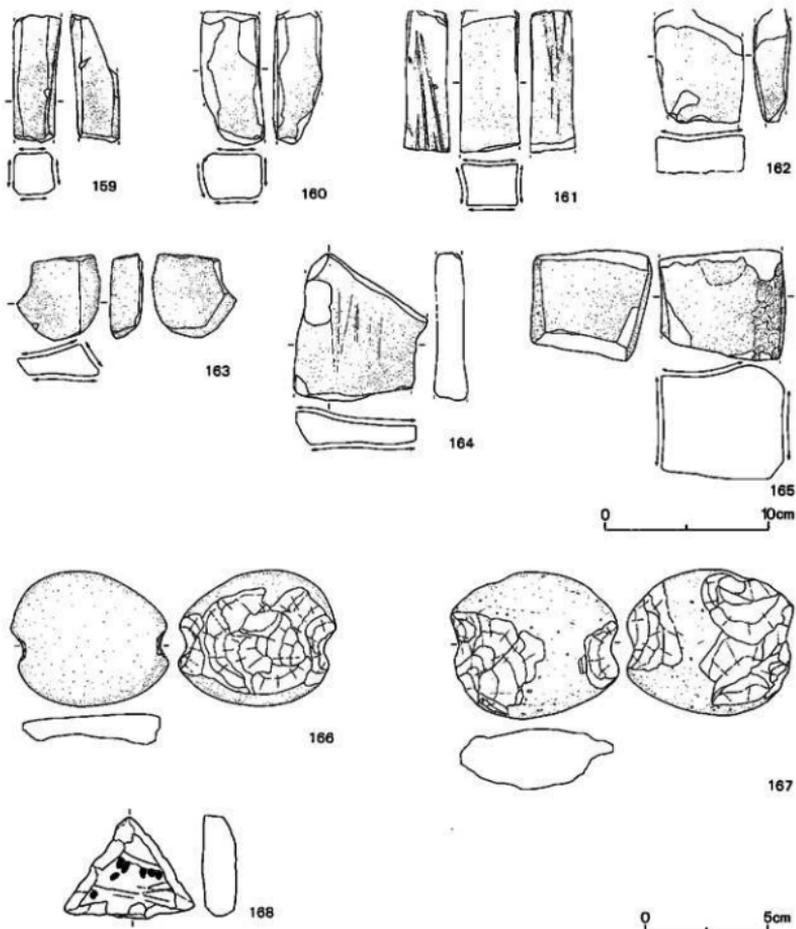
157



158

0 5cm

図IV-159 包含層の石器(2)



図IV-160 包舎層の石器(3)

表IV-1 II層層の遺構一覧(1)

遺構名	グ リ ッ プ	確認面における		底面における		最大深 (m)
		長軸長 (m)	短軸長 (m)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	
IIH-1	d-109-62,63,71,72,73,81,82	13.40	7.80	12.80	7.20	0.82
IIH-2	d-109-93,94 c-109-04,05	8.20	6.48	7.80	6.20	0.79
IIH-3	d-109-93,94 c-109-03,04	8.40	(5.04)	7.40	(4.0)	0.52
IIH-4	c-109-00,01,02	6.40	4.40	5.68	3.60	0.48
IIH-5	d-109-91,92 c-109-01,02	6.00	5.20	5.60	4.60	0.52
IIH-6	d-109-93,94,95 c-109-03,04,05	11.28	8.00	10.72	7.60	0.36
IIH-7	d-109-82,92	4.52	2.92	4.00	2.56	0.52
IIH-9	d-109-52,62	3.68	(2.00)	3.12	(1.80)	0.44
IIH-10	c-108-05,06,07	4.56	3.32	(4.32)	2.88	0.40
IIH-11	d-108-95,96 c-108-05,06,07	9.52	6.08	8.72	5.20	0.48
IIH-12	d-108-93,94	4.06	3.77	3.65	3.48	0.50
IIH-13	c-108-14,15	8.40	5.12	7.60	4.52	0.48
IIH-14	d-108-91,92 c-108-02,03,12,13	9.12	6.80	8.40	6.20	0.64
IIH-15	c-108-90,91	3.80	3.40	3.44	3.12	0.36
IIH-16	c-108-16,26	(3.65)	3.60	(3.50)	3.28	0.63
IIH-17	d-108-94,95	(3.20)	2.58	(3.07)	2.48	0.73
IIH-18	d-108-96 c-108-06	4.80	3.52	4.60	3.12	0.72
IIH-19	d-108-90,91 c-108-00,01	9.36	7.00	8.80	6.60	0.56
IIH-20	c-108-26,27	(2.00)	(1.73)	(1.84)	(1.46)	0.49
IIH-21	c-108-14,15	3.36	2.80	2.96	2.40	0.64
IIH-22	d-108-25	(2.94)	-	(2.73)	-	0.57
IIH-23	d-108-94,95	(3.68)	(2.78)	(3.42)	(2.56)	0.57
IIH-24	d-108-93,94	-	-	-	-	0.48
IIH-25	c-108-05	3.60	3.12	3.08	2.40	0.72
IIH-26	c-108-06,16	2.96	2.60	2.00	1.60	0.88
IIH-27	c-108-07,08,17,18	8.00	6.60	7.20	6.20	0.72
IIH-28	c-108-17,18,27,28	6.60	5.20	5.92	4.60	0.60
IIH-29	d-108-97,98	5.60	4.80	3.00	2.60	0.48
IIH-30	c-108-09	3.40	2.80	3.20	2.50	0.56
IIH-31	c-108-18,19,29	4.16	3.20	3.40	2.40	0.80
IIH-32	c-109-14	-	-	-	-	0.32
IIH-33	c-108-11,12	7.00	4.60	6.60	4.30	0.42
IIH-34	c-108-18,28	3.20	2.70	2.90	2.30	0.72
IIH-35	c-108-21,22	4.12	(1.80)	3.70	(1.50)	0.70
IIH-36	c-108-08 d-108-98	4.00	2.70	-	-	-
IIH-37	c-108-04,05,14,15	6.30	5.40	5.60	4.60	0.50
IIH-38	c-108-04,05,14,15	5.70	3.40	-	-	-

表IV-2 II黒層の遺構一覧(2)

遺構名	グリッド	確認面における		底面における		最大深 (m)
		長軸長 (m)	短軸長 (m)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	
II P-1	d-109-93,94 c-109-03,04	1.13	0.64	0.29	0.20	0.53
II P-2	d-109-84	3.28	2.31	2.08	1.31	0.78
II P-3	d-109-76	1.25	1.09	0.84	0.65	0.93
II P-4	d-109-77	1.10	1.04	1.18	0.48	0.82
II P-5	d-109-77	1.23	1.00	0.90	0.65	0.92
II P-6	d-109-78	1.19	1.04	1.03	0.73	0.87
II P-7	d-109-92	1.36	1.17	0.25	0.20	0.46
II P-8	d-109-78,88	0.91	0.84	0.70	0.51	0.87
II P-9	d-109-77,87	1.56	1.41	1.28	1.05	1.14
II P-10	d-109-87	1.32	1.08	1.05	0.86	0.88
II P-11	d-109-97	1.01	0.92	0.41	0.26	0.63
II P-12	d-109-96	0.80	0.80	0.42	0.36	0.68
II P-13	d-109-96	1.10	1.02	0.83	0.69	0.83
II P-14	d-109-85,86	1.14	0.97	0.77	0.73	0.76
II P-15	d-109-96	1.35	1.24	1.15	0.98	0.85
II P-16	d-109-96 c-109-06	1.53	1.33	1.12	0.79	0.76
II P-17	d-109-94	0.68	0.56	0.51	0.42	0.1
II P-18	d-109-88	1.04 (0.40)	0.50	(0.31)	0.44	
II P-19	c-109-12	2.42	2.22	1.95	1.71	0.56
II P-20	c-109-14	1.88	1.18	1.21	0.74	0.43
II P-21	d-109-94	1.93	1.48	1.36	1.01	0.61
II P-22	d-109-94	1.33	0.99	0.87	0.64	0.54
II P-23	d-109-69	1.58	1.27	1.11	0.94	0.22
II P-24	d-109-51,52 61,61	0.36	0.28	0.28	0.21	0.42
II P-25	c-109-05	1.18 (0.33)	0.50	0.40	0.63	
II P-27	d-109-81	1.35	1.11	0.90	0.69	0.42
II P-28	d-109-61,62	1.20 (0.81)	1.03 (0.50)	0.51		
II P-29	d-109-80,81	1.60	1.43	1.17	0.94	0.60
II P-30	d-109-61,62	1.41	1.06	0.89	0.86	0.58
II P-33	c-109-12	1.60	1.22	1.35	0.92	0.48
II P-36	c-109-12	0.86	0.69	0.35	0.32	0.48
II P-37	c-109-12	0.98	0.90	0.27	0.22	0.47
II P-38	d-109-93	1.23	0.44	0.95	0.31	0.50
II P-39	d-109-92,93	1.88 (0.87)	0.27	0.22	0.57	
II P-40	c-109-04	(0.77)	(0.33)	0.36	0.45	0.46
II P-41	d-109-93,94	0.92	0.61	0.64	0.40	0.61
II P-42	c-108-03	(0.97)	(0.21)	(0.22)	0.83	0.44
II P-43	c-108-14,24	1.54	1.42	0.77	0.69	0.52
II P-44	c-108-04	0.15	0.12	---	---	---
II P-45	c-108-15,16	0.80	0.79	0.59	0.47	0.48
II P-48	c-108-14	1.05	0.69	0.89	0.55	0.16
II P-49	c-108-14	1.14 (0.49)	1.00 (0.32)	0.18		
II P-50	c-108-13,14	1.60	1.36	1.38	1.08	0.62
II P-51	c-108-05,06	2.61	2.19	0.65	0.59	0.57
II P-52	c-108-02,12	1.06	0.76	0.65	0.42	0.44
II P-53	c-108-02,12	1.74	0.98	1.45	0.69	0.41
II P-55	c-108-02,12	1.56	1.04	1.20	0.76	0.23
II P-56	c-108-22,23	1.08	0.85	0.79	0.65	0.46
II P-57	c-109-05,15	1.07	0.92	0.66	0.49	0.32
II P-58	d-108-92,93	2.26	1.42	1.08	0.66	0.33
II P-59	c-108-09	1.59	1.07	1.06	0.60	0.90
II P-60	c-108-17 (1.84)	(1.01)	(0.99)	0.84	0.49	
II P-61	c-108-17 (1.63)	(0.75)	(0.35)	(0.32)	0.42	
II P-62	c-108-07,08	1.81	1.41	0.89	0.46	0.20
II P-63	c-108-27	1.32	1.09	1.17	0.92	0.16
TP-1	d-108-95 c-108-05	2.22	0.78	2.11	0.60	1.16
TP-2	c-108-23	2.62	1.01	2.48	0.16	1.18
TP-3	c-108-28,29	2.24 (1.05)	1.54 (0.47)	1.18		
HS-1	d-108-95					
HF-1	c-109-03	5.20	5.10	---	---	---
HF-2	c-109-03	4.90	4.79	---	---	---
HF-3	c-108-95	4.84	4.70	---	---	---
HF-4	c-108-95	7.30	3.50	---	---	---
HF-5	c-108-14	8.62	5.10	---	---	---
HF-6	d-108-95 (4.00)	3.30	---	---	---	---
HF-7	c-108-08	5.88	4.70	---	---	---
HF-8	c-108-08	6.80	5.70	---	---	---
HF-9	c-108-19	5.87	3.62	---	---	---
HF-10	d-108-90	6.20	4.75	---	---	---
HF-11	c-108-22	9.60	7.31	---	---	---
HF-12	c-108-17	6.25	5.40	---	---	---
HF-13	c-108-17	3.80	3.40	---	---	---
HF-14	c-108-17	7.00	4.60	---	---	---
HF-15	c-108-18	4.40	3.80	---	---	---
HF-16	c-108-17	6.30	5.70	---	---	---
HF-17	c-108-17	1.18	6.00	---	---	---

表N-3 出土遺物一覧

分 類	I 黒遺構	I 黒包含層	II 黒遺構	II 黒掘上土	II 黒包含層	その他	計
I 群 a 類							0
I 群 b-1 類							0
I 群 b-2 類							0
I 群 b-3 類						3	3
I 群 b-4 類			62	19	466		547
II 群 a 類			6		1		7
II 群 b 類							0
III 群 a 類			14		11		25
III 群 b-1 類			12	4	9		25
III 群 b-2 類			164	22	212	2	400
III 群 b-3 類	3		13,410	5,204	16,402	344	35,363
IV 群 a 類	3		499	19	213		734
IV 群 b 類			4		6		10
IV 群 c 類			15		48		63
V 群 a 類		2	8	4	26		40
VI 群		2				1	3
VII 群	20						20
計	26	4	14,194	5,272	17,397	347	37,240
石鏃	2		186	71	226	11	496
ポイントまたはナイフ			93	19	96	2	210
石鏃			16	1	3		20
つまみ付きナイフ			18	3	22		43
ナイフ			7	2	9		18
スクレイパー	2		79	24	62		167
異形石器			2	1	1		4
U フレイク	1		118	26	78	1	224
R フレイク			42	9	31		82
コア			2		4		6
フレイク・チップ	21	537	3,894	3,534	5,026	285	13,297
原石			5	1	2	1	9
石斧			65	10	90		165
石のみ			3	2	3		8
石斧片			114	67	300	2	483
石斧素材			14	10	21		45
すり石			1	2			3
石鏃			1				1
北海道式石冠			1				1
たたき石			13	1	3	1	18
くぼみ石			1	1	3		5
石鏃					2		2
砥石			194	23	63		280
石皿			2		1		3
台石			2	1	5		8
砥石	37		48		43		128
礫片 (石斧削片含む)	22		1,492	1,498	2,777	105	5,894
礫	26		152	19	225	1	423
メノウ			1		1		2
雨垂れ石			4				4
小玉				1			1
蛸飾			5		1		6
土製品			16		2		18
計	111	537	6,591	5,324	9,102	409	22,074
合 計	137	541	20,785	10,596	26,499	756	59,314

表IV-4 遺構埋藏土器一覧(1)

遺構番号	器番号	分類	層位	遺構番号	器番号	分類	層位	
IIH-1	器IV-8-1	III b-3	灰 甕土 (IIH-6)	器IV-10-57	IV a	III b-3	甕上げ土4(d-109-73)	
			2 (c-108-13)				甕上げ土4(d-109-73)	
	器IV-8-2	III b-3	1 灰 甕土	器IV-10-58	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)
			1 3 (d-109-72)					甕上げ土4(d-109-73)
			1 (d-109-64)					甕上げ土4(d-109-73)
			2 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)
	器IV-8-3	III b-3	2, 3 (d-109-64)	器IV-10-59	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)
			2 (d-109-92)					甕上げ土4(d-109-73)
	器IV-8-4	III b-3	甕土 (IIH-9)	器IV-10-60	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)
			甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)
器IV-8-5	III b-3	甕上げ土2 (IIH-6)	器IV-10-61	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕土 (IIH-2, 6)					甕上げ土4(d-109-73)	
		B1 (C-109-13)					甕上げ土4(d-109-73)	
		2, 4 (c-109-64)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-6	III b-3	2 (d-109-70)	器IV-10-62	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-75)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-7	III b-3	甕上げ土6	器IV-10-63	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-8	III b-3	甕上げ土5 (IIH-6)	器IV-10-64	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕土 (IIH-24)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-9	III b-3	2 (d-109-32)	器IV-10-65	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土4					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-10	III b-3	甕上げ土4	器IV-10-66	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土7					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-11	III b-3	甕土 (IIH-6)	器IV-10-67	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-12	III b-3	甕上げ土7	器IV-10-68	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-13	III b-3	甕上げ土1	器IV-10-69	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土5 (IIH-6)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-14	III b-3	3 (d-109-73)	器IV-10-70	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-70)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-15	III b-3	2 (d-109-75)	器IV-10-71	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土6					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-16	III b-3	甕上げ土1	器IV-10-72	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土5 (IIH-6)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-17	III b-3	甕土 (IIH-24)	器IV-10-73	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-32)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-18	III b-3	甕上げ土4	器IV-10-74	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土7					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-19	III b-3	甕土 (IIH-6)	器IV-10-75	III b-2	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-20	III b-3	甕上げ土4	器IV-10-76	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土7					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-21	III b-3	甕上げ土1	器IV-10-77	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土5 (IIH-6)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-22	III b-3	甕土 (IIH-24)	器IV-10-78	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-32)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-23	III b-3	甕上げ土4	器IV-10-79	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土7					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-24	III b-3	甕土 (IIH-6)	器IV-10-80	IV a	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-25	III b-3	甕上げ土7	器IV-10-81	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-26	III b-3	甕上げ土1	器IV-10-82	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土5 (IIH-6)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-27	III b-3	3 (d-109-73)	器IV-10-83	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-75)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-28	III b-3	甕上げ土6	器IV-10-84	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-29	III b-3	甕上げ土5 (IIH-6)	器IV-10-85	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕土 (IIH-24)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-30	III b-3	2 (d-109-81)	器IV-10-86	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		5 (d-109-61)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-31	III b-3	3 (d-109-61)	器IV-10-87	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		甕上げ土1					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-32	III b-2	甕上げ土1 (d-109-63)	器IV-10-88	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		4 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-33	III b-3	甕上げ土1 (d-109-83)	器IV-10-89	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-83)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-34	III b-3	# 1 (d-109-61)	器IV-10-90	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-81)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-35	III b-3	# 1 (d-109-81)	器IV-10-91	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-81)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-36	III b-3	# 1 (d-109-81)	器IV-10-92	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-81)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-37	III b-3	甕上げ土1 (d-109-63)	器IV-10-93	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-74)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-38	III b-3	# 1 (d-109-73)	器IV-10-94	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-83)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-39	III b-3	# 1 (d-109-71)	器IV-10-95	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-40	III b-3	# 2 (d-109-63)	器IV-10-96	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 2 (d-109-81)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-41	III b-2	# 1 (d-109-63)	器IV-10-97	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-42	III b-2	# 1 (d-109-63)	器IV-10-98	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-43	III b-2	# 1 (d-109-63)	器IV-10-99	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-44	III b-2	# 1 (d-109-63)	器IV-10-100	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-45	III b-2	# 1 (d-109-63)	器IV-10-101	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-46	III b-2	# 1 (d-109-63)	器IV-10-102	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 1 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-47	III b-3	4 (d-109-63)	器IV-10-103	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-83)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-48	III b-3	甕上げ土2 (d-109-83)	器IV-10-104	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-81)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-49	III b-3	# 2 (d-109-74)	器IV-10-105	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 2 (d-109-74)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-50	III b-3	4 (d-109-64)	器IV-10-106	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		2 (d-109-64)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-51	III b-3	甕上げ土1 (d-109-74)	器IV-10-107	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 3 (d-109-61)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-52	III b-3	# 3 (d-109-61)	器IV-10-108	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 3 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-53	III b-3	# 3 (d-109-61)	器IV-10-109	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 3 (d-109-81)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-54	III b-3	# 4 (d-109-73)	器IV-10-110	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 4 (d-109-73)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-55	III b-3	# 4 (d-109-63)	器IV-10-111	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 4 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	
器IV-8-56	III b-3	# 4 (d-109-63)	器IV-10-112	III b-3	#	#	甕上げ土4(d-109-73)	
		# 4 (d-109-63)					甕上げ土4(d-109-73)	

表IV-5 遺物掲載土器一覽(2)

遺構番号	図番号	分類	層位	遺構番号	図番号	分類	層位	
IIH-4	80IV-25-7	III b-3	覆土	IIH-10	80IV-43-10	III b-3	覆土 6	
	80IV-25-8	III b-3	覆土		80IV-43-11	III b-3	覆土 9	
	80IV-25-9	III b-3	覆土		80IV-43-12	III b-3	覆土 5	
	80IV-25-10	III b-2	掘上砂土 1 (c-109-12)		80IV-43-13	III b-3	覆土 4	
	80IV-25-11	III b-3	覆土		80IV-43-14	III b-3	覆土 1	
	80IV-25-12	III b-2	覆土		80IV-43-15	III b-3	床土	
	80IV-25-13	III b-3	覆土		80IV-43-16	III b-3	覆土	
	80IV-25-14	III b-3	覆土		80IV-43-17	IV a	覆土	
	80IV-25-15	III b-3	覆土		80IV-43-18	IV a	覆土 7	
	80IV-25-16	III b-3	覆土		80IV-43-19	IV a	覆土	
	80IV-25-17	III b-3	覆土		80IV-43-20	IV a	覆土 5	
	80IV-25-18	IV a	覆土					
	IIH-5	80IV-29-1	III b-2		覆土 (IIH-34) 覆土 (IIH-7) 覆土 (II P-39) B 3 (d-109-92) 覆土 (IIH-34)	IIH-11	80IV-45-1	III b-3
80IV-29-2		III b-2	覆土 1 (IIH-5)	80IV-45-2	III b-3		覆土	
80IV-29-3		III b-2	掘上砂土 1 (d-109-92)	80IV-45-3	III b-2		覆土	
80IV-29-4		III b-2	B 2 (c-109-02)	80IV-45-4	III b-2		覆土	
80IV-29-5		III b-3	覆土 (HP46)	80IV-45-5	III b-3		覆土	
80IV-29-6		III b-3	B 2 (c-109-02)	80IV-45-6	III b-3		覆土	
80IV-29-7		III b-3	覆土 1	80IV-45-7	III b-3		覆土	
80IV-29-8		III b-3	覆土 1	80IV-45-8	III b-3		覆土	
80IV-29-9		III b-3	覆土 1	80IV-45-9	III b-3		覆土	
80IV-29-10		III b-3	覆土 1	80IV-45-10	III b-2		覆土	
80IV-29-11		IV a	覆土 1	80IV-45-11	III b-2		覆土	
80IV-29-12		IV a	B 3 (c-109-02) B 3 (d-109-92)	80IV-45-12	III b-3		覆土	
80IV-29-13		III b-3	B 3 (d-109-92)	80IV-45-13	III b-3		覆土	
			80IV-45-14	III b-3	覆土			
IIH-6	80IV-33-1	III b-3	掘上砂土 (d-109-84)	IIH-12	80IV-45-15	III b-3	覆土 (IIH-25) 1 (c-108-06) 2 (c-108-06)	
	80IV-33-2	IV a	床土		80IV-45-16	III b-3	覆土	
	80IV-33-3	III b-3	床土		80IV-45-17	III b-3	覆土	
	80IV-33-4	III b-3	覆土 (IIH-2)		80IV-45-18	III b-3	覆土	
	80IV-33-5	III b-3	覆土 (II P25)		80IV-45-19	IV a	覆土	
	80IV-33-6	III b-3	掘上砂土 (d-109-92)		80IV-45-20	III b-3	覆土 (IIH-10)	
	80IV-33-7	III b-3	覆土		80IV-45-21	III b-3	覆土	
	80IV-33-8	III b-3	覆土		80IV-45-22	III b-3	覆土	
	80IV-33-9	III b-3	覆土		80IV-45-23	III b-3	覆土	
	80IV-34-10	III b-2	掘上砂土 1 (c-109-95)		IIH-13	80IV-52-1	III b-3	覆土 3
	80IV-34-11	III b-3	掘上砂土 1 (c-109-90)			80IV-52-2	III b-2	床直
	80IV-34-12	III b-3	掘上砂土 1 (c-109-94)			80IV-52-3	III b-3	覆土
	80IV-34-13	III b-2	掘上砂土 2 (c-109-13)			80IV-52-4	III b-3	3 (c-108-14)
80IV-34-14	III b-3	掘上砂土 2 (d-109-05)	80IV-52-5	III b-3		覆土 5		
80IV-34-15	III b-3	掘上砂土 2 (c-109-05)	80IV-52-6	III b-3		床直		
80IV-34-16	IV a	掘上砂土 2 (d-109-93)	80IV-52-7	III b-3		床直		
80IV-34-17	III b-3	掘上砂土 4 (c-109-06)	80IV-52-8	III b-3		覆土 5		
80IV-34-18	III b-3	掘上砂土 4 (d-109-05)	80IV-52-9	III b-3		覆土 7		
80IV-34-19	III b-3	掘上砂土 6 (c-109-06)	80IV-52-10	III b-3		覆土 6		
80IV-34-20	III b-3	掘上砂土 6 (c-109-05)	80IV-52-11	III b-3		覆土 4		
80IV-34-21	III b-2	掘上砂土 6 (c-109-05)	80IV-52-12	III b-3		3 (c-108-15)		
80IV-34-22	III b-3	掘上砂土 6 (c-109-05)	80IV-52-13	III b-3		覆土 4		
IIH-7	80IV-38-1	III b-3	床 覆土 (IIH-1, 2, 3, 4, 13, 27) 覆土 (II P-7, 19, 39)	80IV-52-14	III b-3	覆土 4		
	80IV-38-2a	III b-3	床	80IV-52-15	III b-3	覆土 4		
	80IV-38-2b	III b-3	床	80IV-52-16	III b-3	覆土 4		
	80IV-38-3	III b-2	掘上砂土 (d-109-92)	80IV-52-17	III b-3	覆土 4		
	80IV-38-4	III b-3	覆土	80IV-52-18	III b-3	床直		
	80IV-38-5	III b-3	覆土 3 (c-109-11)	80IV-52-19	III b-3	床直		
80IV-38-6	III b-3	掘上砂土 4 (c-109-12)	80IV-52-20	III b-3	床直			
IIH-9	80IV-40-1	III b-3	覆土	80IV-52-21	III b-3	床直		
	2	IV a	覆土	80IV-52-22	III b-3	床直		
	3	IV a	覆土	80IV-52-23	III b-3	床直		
IIH-10	80IV-43-1	IV a	床	80IV-52-24	III b-3	床直		
	80IV-43-2	III b-2	覆土	80IV-52-25	III b-3	床直		
	80IV-43-3	III b-2	床 (IIH-16)					
	80IV-43-4	III b-2	覆土					
	80IV-43-5	III b-2	覆土					
	80IV-43-6	III b-3	6					
	80IV-43-7	III b-3	覆土					
	80IV-43-8	III b-3	覆土					
	80IV-43-9	III b-3	床					
	80IV-43-9	III b-3	床					

表IV-6 遺構埋藏土器一覽(3)

遺構番号	図番号	分類	層	位	遺構番号	図番号	分類	層	位		
IIH-13	図IV-52-26	III b-3	床	Ⅲ b-3	IIH-20	図IV-78-4	III b-3	覆土			
	図IV-52-27	III b-3	床	Ⅲ b-3			Ⅲ b-3	覆土			
	図IV-52-28	III b-3	床	Ⅲ b-3			Ⅲ b-3	伊羅土			
	図IV-52-29	III b-3	床	Ⅲ b-3		IIH-21	図IV-81-1	III b-3	覆土		
	図IV-52-30	III b-3	床	Ⅲ b-3				2	Ⅲ b-3	覆土	
	図IV-52-31	III b-3	床	Ⅲ b-3				3	Ⅲ b-3	法	1
	図IV-53-32	III b-3	床	Ⅲ b-3				4	Ⅲ b-3	覆土	4
	図IV-53-33	III b-3	床	Ⅲ b-3				5	Ⅲ b-3	法	4
	図IV-53-34	III b-3	床	Ⅲ b-3				6	III b-2	覆土	1
	図IV-53-35	III b-3	床	Ⅲ b-3				7	III b-3	覆土	4
	図IV-53-36	III b-3	床	Ⅲ b-3				8	土製品	覆土	
	図IV-53-37	III b-3	床	Ⅲ b-3							
	図IV-53-38	III b-3	覆土	Ⅲ b-3							
	図IV-53-39	III b-3	覆土	Ⅲ b-3							
	図IV-53-40	III b-3	覆土	Ⅲ b-3							
	図IV-53-41	III b-3	覆土	Ⅲ b-3							
	図IV-53-42	III b-3	覆土	Ⅲ b-3							
IIH-14	図IV-59-1	III b-2	床	Ⅲ b-2	IIH-22	図IV-84-1	III b-3	床	Ⅲ b-3		
	図IV-59-2	III b-3	床	Ⅲ b-3			Ⅲ b-3	床	Ⅲ b-3		
	図IV-59-3	III b-3	床	Ⅲ b-3			Ⅲ b-3	床	Ⅲ b-3		
	図IV-59-4	III b-3	床	Ⅲ b-3			Ⅲ b-3	床	Ⅲ b-3		
	図IV-59-5	III b-3	床	Ⅲ b-3			Ⅲ b-3	床	Ⅲ b-3		
	図IV-59-6	III b-3	床	Ⅲ b-3	IIH-23	図IV-85-1	III b-2	覆土			
	図IV-59-7	III b-3	床	Ⅲ b-3			IIH-25	図IV-88-1	III b-2	床	Ⅲ b-2
	図IV-59-8	III b-3	床	Ⅲ b-3					III b-2	床	Ⅲ b-2
	図IV-59-9	III b-3	床	Ⅲ b-3					III b-2	床	Ⅲ b-2
	図IV-59-10	III b-2	覆土	III b-2					III b-2	床	Ⅲ b-2
	図IV-59-11	III b-2	覆土	III b-2					III b-2	床	Ⅲ b-2
	図IV-59-12	III b-3	覆土	III b-3			III b-2	床	Ⅲ b-2		
	図IV-59-13	III b-3	覆土	III b-3			III b-2	床	Ⅲ b-2		
	図IV-59-14	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	IIIB			
	図IV-59-15	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	IIIB			
	図IV-59-16	III b-3	覆土	III b-3	III b-3	IIIB					
	図IV-59-17	III b-3	覆土	III b-3	III b-3	IIIB					
	図IV-59-18	III b-3	覆土	III b-3	III b-3	IIIB					
	図IV-59-19	III b-3	覆土	III b-3	III b-3	IIIB					
	図IV-59-20	IV a	覆土	IV a	III b-3	IIIB					
IIH-15	図IV-63-1	III b-3	覆土	III b-3	IIH-26	図IV-91-1a	III b-2	覆土			
	2	III b-3	覆土	III b-2			III b-2	覆土			
	3	III b-2	覆土	III b-2			III b-2	覆土			
	4	III b-2	覆土	III b-2			III b-2	覆土			
	5	III b-2	覆土	III b-2			III b-2	覆土			
	6	III b-2	覆土	III b-2			III b-3	覆土			
	7	III b-2	覆土	III b-2			III b-3	覆土			
	8	III b-2	覆土	III b-2			III b-3	覆土			
	9	III b-2	覆土	III b-2			III b-3	覆土			
	10	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	覆土			
	11	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	覆土			
	12	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	覆土			
	13	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	覆土			
	14	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	覆土			
IIH-16	図IV-69-1	III b-2	床	III b-2	IIH-27	図IV-95-1	III b-3	床	III b-3		
	2	III b-2	床	III b-3			III b-3	覆土			
	3	III b-2	床	III b-3			III b-3	覆土			
	4	III b-2	床	III b-3			III b-3	覆土			
	5	III b-2	床	III b-3			III b-3	覆土			
	6	IV a	覆土	IV a			III b-3	3 (d-109-73)			
	7	III b-2	覆土	III b-2			III b-3	B (d-109-61)			
IIH-17	図IV-72-1	III b-2	床	III b-2	III b-3	II B (c-108-17)					
	2	III b-2	床	III b-2	III b-3	II B (d-109-91)					
	3	III b-3	床	III b-3	III b-3	2 (d-109-54)					
	4	III b-3	床	III b-3	III b-3	1 (d-109-54)					
	5	III b-3	床	III b-3	III b-3	1 (d-109-74)					
	6	III b-3	床	III b-3	III b-3	覆土 2					
	7	IV a	覆土	IV a	III b-3	覆土 3 (IIH-28)					
	8	IV a	覆土	IV a	III b-3	II B (c-108-67)					
IIH-18	図IV-74-1	III b-2	床	III b-2	IIH-19	図IV-75-1	III b-2	覆土			
	2	III b-2	床	III b-2			III b-2	覆土			
	3	III b-2	床	III b-2			III b-2	覆土			
	4	III b-2	床	III b-2			III b-2	覆土			
	5	III b-2	床	III b-2			III b-2	覆土			
	6	III b-3	床	III b-3			III b-2	覆土			
	7	III b-3	床	III b-3			III b-2	覆土			
	8	IV a	覆土	IV a			III b-3	覆土			
IIH-19	図IV-75-1	III b-2	覆土	III b-2	IIH-20	図IV-78-1	III b-2	覆土			
	2	III b-3	覆土	III b-3			III b-3	覆土			
IIH-20	図IV-78-1	III b-2	覆土	III b-2	2	III b-3	覆土				
	2	III b-3	覆土	III b-3	3	III b-3	覆土				
	3	III b-3	覆土	III b-3	4	III b-3	覆土				

表IV-8 II黒層褐戦土器一覽

図番号	分類	発掘区	層位(回目)	図番号	分類	発掘区	層位(回目)
IV-144-1	I b-4	d-109-45	4	IV-145-40	III b-2	c-108-23	2
		63	B3	41	II	c-108-13	1
2	II	d-108-99	4	42	II	c-108-16	2
		d-109-84		43	II	c-108-16	
3 a	II	c-109-05	B2	44	II	c-109-10	3
		d-109-52	1	45	III b-3	c-108-07	
		83	B2			08	4
		II H-6	覆土	46	II	c-108-99	2
		II H-2	覆土			d-108-99	3
3 b	II	c-109-05	1・2・3	47	III b-3B	d-109-64	2
		d-109-42	4・5・B2	48	II	c-109-15	B1
		d-109-53		IV-146-49	III b3 c	c-108-13	3
		d-109-92		50	II	d-109-50	1
4	II	d-109-61	B1			80	2
		91	4	51	II	c-109-12	掘り上げ土
5	II	c-108-15	4	52	II	c-108-08	2
6	II	d-109-44	4	53	II	d-109-95	1
		54	3	54	III b-3	c-109-12	2
		55		55	II	c-108-05	3
7	II	d-109-65	3	56	II	c-108-13	3
8	II	d-109-32	3	57	II	d-108-97	
9	II	d-109-42	4	58	II	d-109-53	1
10 a	II	c-108-19	3・トレンチ	59	II	d-108-99	4
		d-109-61	B1	60	II	c-108-05	3
10 b	II	d-109-90	3			06	
11	III a	d-107-95	1	61	II	c-108-12	3
12	III b-1	d-108-99	2	62	II	d-108-93	3
13 a	II	c-108-06	1	63	II	d-108-93	5
13 b	II	c-109-12	掘り上げ土	64	II	c-108-15	1
14	II	d-108-99	3	65	II	c-108-13	2
15	II	c-109-22	掘り上げ土	66	II	d-108-95	5
		23	B-1	67	II	d-108-93	2
IV-145-16	III b-2	c-108-09	5	68	II	c-108-13	3
17	II	d-108-97	1	69	II	c-108-15	5
18	II	c-108-14		70	II	d-109-92	3
19	II	c-108-16		IV-147-71	III B-3	c-109-94	3
20	II	c-108-23	3	72	II	d-109-64	2
21	II	c-108-23	2	73	II	d-108-97	
22	II	c-108-25		74	II	c-108-13	1・4
23	II	c-108-15	5			17	
24	II	c-108-15				18	
25	II	c-108-23	5	75	II	c-108-23	2・5
26	II	d-109-63	トレンチ	76	IV a	d-108-90	2
27	II	d-109-93	2	77	II	d-109-13	1
28	II	d-108-90	2	78	II	c-108-18	
29	II	c-108-13		79	II	c-108-06	
IV-145-30	II	c-108-23	4	80	II	c-109-06	3
31	II	c-108-17	4	81	II	c-108-23	3
32	II	c-108-24	3	82	II	c-108-94	1
33	II	c-108-04	4	83	II	c-109-93	
34	II	c-109-02	1	84	II	c-108-98	3・4
			B4	85	II	c-108-29	1
35	II	c-109-00		86	II	d-108-99	2
36	II	c-109-00		87	II	c-109-05	B1
37	II	c-108-27	1	88	II	c-109-82	B2
38	II	c-108-13	4			d-109-82	
39	II	c-108-13	4	89	IV c	c-108-15	2

表IV-12 遺構別出土石器一覧(2)

		数 量			
名	種	床	壁	土層上げ土	計
石		3			3
破片(石斧削片含む)		31			31
石		4			4
ノ	ウ	1			1
石		1			1
計		0	330	0	330
IH-11					
石		17			17
ポイントまたはナイフ		4			4
石		1			1
つまみ付きナイフ		1			1
スクレイパー		8			8
Uフレイタ		13			13
Rフレイタ		3			3
フレイタ・チップ		254			254
原 石		1			1
石 斧		7			7
石 斧		11			11
石 斧		1			1
北海道式石		1			1
た た き		2			2
破 石		4			4
破片(石斧削片含む)		123			123
破 石		9			9
計		0	460	0	460
IH-12					
石		2			2
ポイントまたはナイフ		1			1
スクレイパー		2			2
Uフレイタ		3			3
Rフレイタ		2			2
フレイタ・チップ		32			32
石 斧		1			1
破片(石斧削片含む)		2	15		17
破 石		1			1
計		2	59	0	61
IH-13					
石		1	22		23
ポイントまたはナイフ			20		20
石		5			5
つまみ付きナイフ		1	5		4
スクレイパー		2	9		11
異形石器		1			1
Uフレイタ		1	11		12
Rフレイタ		5	5		5
フレイタ・チップ		12	267		279
原 石		2			2
石 斧		2			4
石 斧		1			1
石 斧		1	5		6
破 石		21			21
破片(石斧削片含む)		1	72		73
破 石		22	15		37
計		43	461	0	504
IH-14					
石		5			5
ポイントまたはナイフ		3			3
スクレイパー		1			1
石		3			3
Uフレイタ		3			3
フレイタ・チップ		14	69		83
石 斧		5			5
た た き		1			1
破 石		1			1
破片(石斧削片含む)		9	25		34
破 石		2	12		14
原 石		1			1
計		33	130	0	163
IH-15					
石		2			2
スクレイパー		2			2
Rフレイタ		1			1
フレイタ・チップ		164			164
石 斧		5			5
石 斧		5			5
破 石		154			154
破片(石斧削片含む)		37			37
破 石		2			2
計		0	370	0	370
IH-16					
石		1			1
ポイントまたはナイフ		2			2
スクレイパー		1			1
フレイタ・チップ		11	30		41
破 石		1			1
破片(石斧削片含む)		5	1		6
計		20	32	0	52
IH-17					
石		4			4
つまみ付きナイフ		1			1
スクレイパー		1	4		5
フレイタ・チップ		3	23		26
石 斧		1			1
破片(石斧削片含む)		3			3
破 石		2			2
計		5	29	0	44
IH-18					
石		4			4
フレイタ・チップ		1	14		15
石 斧		1			1
破片(石斧削片含む)		6			6
破 石		2			2
計		1	27	0	28
IH-19					
フレイタ・チップ		16			16
石 斧		1			1
破片(石斧削片含む)		4			4
計		0	21	0	21
IH-20					
Uフレイタ		1			1
Rフレイタ		1			1
フレイタ・チップ		12			12
破片(石斧削片含む)		2			2
計		0	16	0	16
IH-21					
石		1			1
フレイタ・チップ		4	5		9
石 斧		1	1		2
石 斧		1			1
破片(石斧削片含む)		1			1
計		5	9	0	14
IH-22					
石		1			1
ポイントまたはナイフ		1			2
つまみ付きナイフ		2			2
スクレイパー		1			1
フレイタ・チップ		7			7
石 斧		1			1
破片(石斧削片含む)		1	4		5
破 石		1			1
計		5	16	0	21
IH-23					
石		3			3
ポイントまたはナイフ		2			2
Rフレイタ		2			2
フレイタ・チップ		74			74
石 斧		1			1
石 斧		4			4
た た き		1			2
破 石		1			1
破片(石斧削片含む)		1	75		76
破 石		1			1
計		3	164	0	167
IH-24					
つまみ付きナイフ		1			1
フレイタ・チップ		1			1
石 斧		1			1
石 斧		2			2
破片(石斧削片含む)		16			16
計		0	30	0	30
IH-25					
石		11			11
ポイントまたはナイフ		4			4
つまみ付きナイフ		1			1
ナイフ		1			1
スクレイパー		1			8

表IV-13 遺構別出土石器一覧(3)

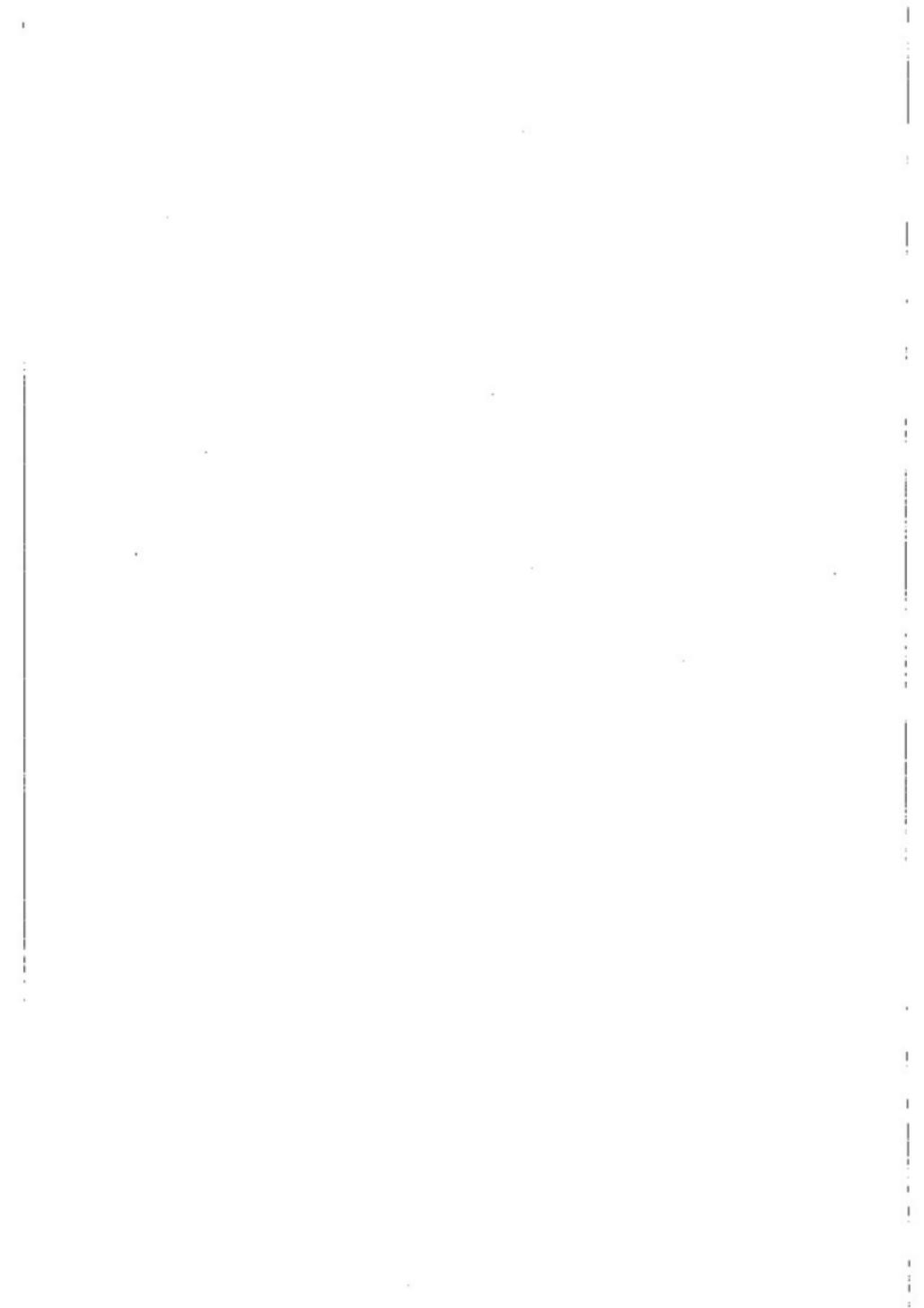
名	種	数 量			
		床	覆	土	計
U フレ イ タ		1			1
フレイク・チップ		6	204		210
石 斧 片		1	4		5
石 斧 葉 柄			12		12
砥 石			3		3
礧 石			14		14
礧片 (石斧削片含む)		3	43		46
礧		1	18		19
蓋 駒			1		1
計		12	326	0	338
IH-28					
石 礧		1	8		9
ポイントまたはナイフ		1	3		4
スタレイバー		1	2		3
U フレ イ タ		2			2
R フレ イ タ		6	6		6
フレイク・チップ		3	94		97
原 石			1		1
石 斧 片			1		1
石 斧 葉 柄			2		2
砥 石			1		1
礧 石		1	2		3
礧片 (石斧削片含む)		2	93		95
礧			4		4
計		9	221	0	230
IH-29					
石 礧			4		4
ポイントまたはナイフ			2		2
スタレイバー			1		1
U フレ イ タ			1		1
フレイク・チップ			16		16
石 斧 片			1		1
石 斧 葉 柄			1		1
礧片 (石斧削片含む)			17		17
計		0	43	0	43
IH-30					
石 礧			1		1
ポイントまたはナイフ			6		6
U フレ イ タ			1		1
R フレ イ タ			1		1
フレイク・チップ			51		51
石 斧 片			2		2
石 斧 葉 柄			6		6
砥 石			3		3
礧片 (石斧削片含む)			22		22
計		0	93	0	93
IH-31					
石 礧			6		6
ポイントまたはナイフ			2		2
スタレイバー			2		2
U フレ イ タ			1		1
フレイク・チップ			69		69
石 斧 葉 柄			3		3
石 斧 片			1		1
砥 石			1		1
礧片 (石斧削片含む)			27		27
礧			2		2
計		0	114	0	114
IH-32					
フレイク・チップ			18		18
礧片 (石斧削片含む)		1	4		5
礧			1		1
計		1	23	0	24
IH-33					
石 礧		4	1		5
ポイントまたはナイフ			2		2
フレイク・チップ		7	22		29
礧片 (石斧削片含む)		8	6		14
計		19	31	0	50
IH-34					
石 礧			1		1
石 礧			1		1
スタレイバー			1		1
フレイク・チップ			6		6
礧片 (石斧削片含む)		3	9		12
礧			1		1
計		3	19	0	22
IH-36					
フレイク・チップ			1		1
礧 石		1			1
礧片 (石斧削片含む)			1		1
計		2	1	0	3
IH-38					
フレイク・チップ			3		3
礧 石			3		3
計		0	6	0	6
IP-1					
フレイク・チップ			1		1
石 斧 片			1		1
計		0	2	0	2
IP-2					
U フレ イ タ			1		1
フレイク・チップ			27		27
石 斧 片			2		2
石 斧 葉 柄			1		1
た た き 石			1		1
礧片 (石斧削片含む)			21		21
礧			3		3
計		0	56	0	56
IP-7					
U フレ イ タ			3		3
フレイク・チップ			4		4
礧片 (石斧削片含む)			5		5
礧			1		1
計		0	13	0	13
IP-15					
フレイク・チップ			1		1
計		0	1	0	1
IP-16					
U フレ イ タ			1		1
フレイク・チップ			17		17
計		0	18	0	18
IP-19					
石 礧			2		2
U フレ イ タ			3		3
フレイク・チップ			3		3
石 斧 片			2		2
礧片 (石斧削片含む)			6		6
計		0	16	0	16
IP-20					
フレイク・チップ			1		1
石 斧 片			1		1
礧片 (石斧削片含む)			1		1
計		0	3	0	3
IP-21					
石 礧			1		1
礧片 (石斧削片含む)			6		6
礧			1		1
計		0	8	0	8
IP-22					
フレイク・チップ			1		1
石 斧 片			1		1
計		0	2	0	2
IP-24					
石 礧			1		1
ポイントまたはナイフ			1		1
U フレ イ タ			1		1
フレイク・チップ			23		23
石 斧 片			1		1
石 斧 葉 柄			1		1
石 斧 葉 柄			1		1
礧片 (石斧削片含む)			16		16
礧			1		1
計		0	46	0	46
IP-25					
石 斧 片			1		1
礧片 (石斧削片含む)			1		1
計		0	2	0	2
IP-27					
フレイク・チップ			2		2
礧片 (石斧削片含む)			4		4
計		0	6	0	6
IP-28					
ポイントまたはナイフ			1		1
フレイク・チップ			1		1
石 斧 葉 柄			1		1

表IV-14 遺構別出土石器一覧(4)

名	種	数			計	名	種	数			計	
		床	壁	土層上げ土				床	壁	土層上げ土		
礫片(石斧削片含む)			4		4	IP-29	フリート・チップ		3		3	
計		0	7	0	7			礫片(石斧削片含む)		4		4
IP-31						計		0	7	0	7	
石	礫		1		1	IP-33	ポイントまたはナイフ		1		1	
フリート・チップ			2		2			U フレイト		1		1
計		0	3	0	3	フリート・チップ		23		23		
IP-35						礫片(石斧削片含む)		6		6		
ポイントまたはナイフ			1		1	計		0	31	0	31	
U フレイト			1		1	IP-34	石	礫		1	1	
フリート・チップ			23		23			計		0	1	0
礫片(石斧削片含む)			6		6	IP-35	礫片(石斧削片含む)		1		1	
計			31	0	31			計		0	1	0
IP-36						IP-38	フリート・チップ		1		1	
石	礫		1		1			石		1		1
計			0	1	1	礫片(石斧削片含む)		1		1		
IP-38						計		0	4	0	4	
ポイントまたはナイフ			1		1	IP-39	ポイントまたはナイフ		1		1	
計			0	1	1			スクレイパー		1		1
IP-39						フリート・チップ		13		13		
ポイントまたはナイフ			1		1	石		1		1		
スクレイパー			1		1	礫石		1		1		
U フレイト			13		13	礫片(石斧削片含む)		14		14		
フリート・チップ			1		1	計		0	31	0	31	
石	斧		1		1	IP-40	U フレイト		1		1	
礫石			1		1			礫片(石斧削片含む)		2		2
礫片(石斧削片含む)			14		14	計		0	3	0	3	
計			31	0	31	IP-41	フリート・チップ		2		2	
IP-40								礫片(石斧削片含む)		1		1
U フレイト			1		1	計		0	3	0	3	
礫片(石斧削片含む)			2		2	IP-42	フリート・チップ		1		1	
計			3	0	3			計		0	1	0
IP-41						IP-43	フリート・チップ		3		3	
フリート・チップ			2		2			石		1		1
礫片(石斧削片含む)			1		1	礫片(石斧削片含む)		2		2		
計			3	0	3	計		0	6	0	6	
IP-42						IP-44	フリート・チップ		4		4	
フリート・チップ			1		1			礫片(石斧削片含む)		1		1
計			0	1	1	計		0	5	0	5	
IP-43						IP-45	フリート・チップ		1		1	
フリート・チップ			3		3			礫片(石斧削片含む)		3		3
石	斧		1		1	計		0	4	0	4	
礫片(石斧削片含む)			2		2	IP-47	礫		1		1	
計			6	0	6			礫片(石斧削片含む)		2		2
IP-44						計		0	3	0	3	
フリート・チップ			4		4	IP-48	U フレイト		1		1	
礫片(石斧削片含む)			1		1			フリート・チップ		6		6
計			5	0	5	計		0	7	0	7	
IP-45						IP-50	石	礫		1	1	
フリート・チップ			1		1			ポイントまたはナイフ		1		1
礫片(石斧削片含む)			3		3	U フレイト		2		2		
計			4	0	4	フリート・チップ		18		18		
IP-47						礫		1		1		
礫			1		1	礫石		1		1		
礫片(石斧削片含む)			2		2	計		5		5		
計			3	0	3	礫片(石斧削片含む)		9		9		
IP-48						IP-51	計		0	7	0	7
U フレイト			1		1			IP-52	スクレイパー		3	
フリート・チップ			6		6	フリート・チップ				2		2
計			7	0	7	石		1		1		
IP-50						計		0	6	0	6	
石	礫		1		1	IP-53	礫		2		2	
ポイントまたはナイフ			1		1			フリート・チップ		5		5
U フレイト			2		2	礫片(石斧削片含む)		1		1		
フリート・チップ			18		18	計		0	8	0	8	
礫	石		1		1	IP-55	礫		1		1	
礫石			5		5			計		0	1	0
礫片(石斧削片含む)			9		9	IP-56	フリート・チップ		6		6	
								礫片(石斧削片含む)		1		1
						計		0	7	0	7	
						IP-58	石	礫		2	2	
								ポイントまたはナイフ		1		1
						R フレイト		1		1		
						フリート・チップ		107		107		
						石		2		2		
						礫片(石斧削片含む)		89		89		
						計		0	202	0	202	
						IP-59	R フレイト		1		1	
								フリート・チップ		12		12
						礫		3		3		
						礫片(石斧削片含む)		3		3		
						計		0	19	0	19	
						IP-60	フリート・チップ		12		12	
								石		1		1
						礫片(石斧削片含む)		3		3		
						計		0	16	0	16	
						IP-61	フリート・チップ		2		2	
								礫		9		9
						計		0	11	0	11	
						IP-62	U フレイト		1		1	
								フリート・チップ		6		6
						計		0	7	0	7	
						TP-1	石	礫		1	1	
								計		0	1	0
						TP-2	石	礫		1	1	
								ポイントまたはナイフ		1		1
						石		1		1		
						スクレイパー		1		1		
						フリート・チップ		14		14		
						石		1		1		
						礫片(石斧削片含む)		4		4		
						計		0	23	0	23	
						TP-3	石	礫		1	1	
								フリート・チップ		19		19
						礫片(石斧削片含む)		9		9		
						計		0	29	0	29	
						S-1	礫片(石斧削片含む)		7		7	
								計		0	7	0

引用参考文献

- 恵庭市教育委員会 (1989) 「ユカンボシE 8 遺跡」
 恵庭市教育委員会 (1990) 「柏木川11遺跡」
 大沼忠春 (1981) 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』66-4
 大沼忠春 (1989) 「北前武士居様式」『縄文土器大観 1』
 苫小牧市教育委員会 (1984) 「タブコブ」
 苫小牧市教育委員会 (1993) 「美沢11遺跡」
 登別市教育委員会 (1982) 「札幌台地の縄文時代集落址」
 釧北海道埋蔵文化財センター (1986) 「美沢川流域の遺跡群」IX 北埋調報24
 釧北海道埋蔵文化財センター (1987) 「美沢川流域の遺跡群」X 北埋調報35
 釧北海道埋蔵文化財センター (1987) 「ベンケナイ川流域の遺跡群」I 北埋調報35
 釧北海道埋蔵文化財センター (1988) 「ベンケナイ川流域の遺跡群」II 北埋調報44
 釧北海道埋蔵文化財センター (1990) 「美沢川流域の遺跡群」XIII 北埋調報62
 釧北海道埋蔵文化財センター (1991) 「美沢川流域の遺跡群」XIV 北埋調報69



付篇 1 美沢15遺跡出土の動物遺存体

千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 高 橋 理

はじめに

平成6年度の北海道埋蔵文化財センターによる美沢15遺跡の事前発掘調査によって、縄文時代中期後半から後期初頭にかけての集落跡が確認された。この集落を形成する竪穴住居跡の床面および覆土よりサケ科魚類やシカ（エゾシカ）を中心とする動物遺存体が多量に検出された。また集落に伴う土坑、Tピット、焼土などの遺構からも同様の動物遺存体が回収された。これらの遺物は、土壌ごとの採取、およびその水洗選別作業によって回収されたものである。

動物遺存体はどれも小片化しており、完形を保っていた例は非常に少ない。主体となるのはサケ科魚類、シカ（エゾシカ *Cervus nippon yesoensis*）と考えられる。これにコイ科魚類、カエル類、ウサギ科、イヌ科哺乳類が少量ずつ加わる。サケ科魚類の歯は産卵期に特有の変形をきたしている例が多い。また、ごく少量ではあるが海産のカサゴ科魚類が検出されている。これらは遺構毎に、出土遺物より判断された時期別に記載した。また時期不明の遺構については遺構の末尾に、包含層出土の遺物は最後に記載した。

種（あるいは科）および部位が判明している場合は破片の大小にかかわらず点数表記法を採り、部位の明確でない種不明遺物については点数記載法とともに重量記載法を併用した。なお重量測定は0.1gまでとした。

また他の記号は以下の意味をもつ。

fr.	破片	per.	完形
p.e.	近位端	d.e.	遠位端
		st.	骨幹

なお、学名は阿部（1981）、長澤・鳥澤（1991）、中村（1982）、関口ほか（1974）、小田島（1987）、林（1982）によった。

出土動物遺存体

出土した動物遺存体は次のとおりである。

脊椎動物門 Vertebrata

硬骨魚綱 Osteichthyes

サケ科 Salmonidae gen. et sp. indet.

サケ? *Oncorhynchus keta* (Walbaum)?

コイ科 Cyprinidae gen. et sp. indet.

ウグイ? *Tribolodon hakonenis* (Günther)

カサゴ科 Scropaenidae gen. et sp. indet.

両生綱 Amphibia

カエル目 Salientia fam. indet.

哺乳類 Mammalia

齧歯目 Rodentia fam. indet.

ネズミ科? Muridae?

ウサギ科 Leporidae gen. et sp. indet.

イヌ科 Canidae gen. et sp. indet.

シカ科 Cervidae

シカ (エゾシカ) *Cervus nippon yosoensis*

表 美沢15遺跡出土動物遺存体

1. 竪穴住居跡

柏木川式期

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
14号	覆土	シカ	中手・中足骨	fr.	1		
		哺乳類			75	5.5g	
	床面	哺乳類			12	0.8g	
16号	13号覆土	サケ科	椎骨	fr.	7		
		他魚類			3	0.3g	
	F-1	サケ科	歯		76		
		椎骨	fr.	865			
	他魚類			3507	10.3g	含サケ	
	哺乳類			1	0.1g		
25号	覆土	シカ	中手・中足骨	fr.	1		
		哺乳類			53	12.1g	
	床面	哺乳類			1	0.2g	
26号	覆土	サケ科	歯		15		
		椎骨	fr.	152			
		他魚類				11.8g	含サケ

レンガ台式期

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
10号	覆土	サケ科	歯		15		
		椎骨	fr.	90			
		他魚類			197	0.6g	含サケ
	コイ科	椎骨	fr.	6			

		カサゴ科	前上顎骨(1)	fr.	1				
			前上顎骨(1.f)	fr.	1				
		カエル類	腕・尺骨	st.	1				
			仙骨		1				
		ネズミ類	尾椎	fr.	1				
		ウサギ科	中手・中足骨	d.e.	1				
		イヌ科	指(趾)骨基節骨	per.	1				
			指(趾)骨中節骨	d.e.	1				
			指(趾)骨末節骨	per.	1				
			指(趾)骨末節骨	p.e.	1				
		シカ	歯	fr.	4				
			中手・中足骨	fr.	3				
			指(趾)骨基節骨	p.e.	1				
			指(趾)骨末節骨	p.e.一部	1				
			種子骨		1				
		哺乳類	椎間板		1				
		哺乳類			1962	154.0g			
		不明				17.5g			
20号	覆土	哺乳類			1	0.2g			
21号	覆土	サケ科	歯		7				
			椎骨	fr.	70				
		他魚類			96	0.8g	含サケ		
		哺乳類			1	0.1g			
	床面直上	サケ科	歯		12				
			椎骨	fr.	208				
		他魚類			160	1.2g			
		哺乳類			7	0.3g			
27号	覆土	哺乳類			31	3.3g			
28号	覆土	シカ?	指(趾)骨	p.e.一部	1				
		哺乳類			17	3.3g			
北麓式期									
遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考		
11号	覆土	哺乳類				2.1g			
13号	覆土2	イヌ科?	頸椎?	前関節突起?	1				
		シカ	角	fr.	1				
			指(趾)骨末節骨	d.e.	1				
		哺乳類	中手・中足骨	d.e.	1				
		哺乳類			122	10.2g			
	覆土2-4	シカ	指(趾)骨末節骨	fr.	3				
		シカ?	第一手根骨?(1?)	fr.	1				
		哺乳類			234	10.2g			
	床面直上	シカ	指(趾)骨中節骨	fr.	3				
		哺乳類			17	2.8g			

22号	覆土	哺乳類			5	0.2g	
	F-4	サケ科	歯		103		
			椎骨	fr.	1132		
		他魚類			2249	15.2g	合サケ
		哺乳類			27	0.6g	
30号	覆土	シカ	指(趾)骨基・中節骨一部		1		
		哺乳類			11	2.9g	

時期不明

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
37号	覆土2、3	哺乳類			30	4.2g	
	床面直上	シカ	指(趾)骨末節骨	d.e.	1		
		哺乳類			11	0.9g	

2. 土坑

柏木川式期

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
59号	覆土	哺乳類			15	0.3g	

レンガ台式期

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
60号	覆土	哺乳類			9	1.9g	

北筒式期

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
45号	覆土	哺乳類			7	0.4g	

3. Tピット

時期不明

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
1号	覆土	哺乳類			19	2.5g	
2号	II B-1	哺乳類			1	0.5g	

4. 焼土

北筒式期?

遺構名	サンプル個所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考
5号		哺乳類			70	5.3g	合シカ?
7号		シカ	中手・中足骨	fr.	1		
			指(趾)骨基節骨	fr.	1		
			指(趾)骨中節骨	fr.	1		
			指(趾)骨基・中節骨	d.e.一部	1		
			種子骨		2		
		哺乳類			306	37.4g	
8号		哺乳類			304	37.3g	

5. 包含層

層位	サンプル箇所	動物遺存体	部 位	遺存部位	数量	重量	備 考	
I B	d-109-96-2	哺乳類			293	14.0g		
II B	c-108-03	哺乳類			5	2.2g		
			c-108-04	シカ	大腿骨	d.e.一部?	1	
				踵骨(I)	距骨関節面一部	1		
				指(趾)骨末節骨		4		幼体
				指(趾)骨	p.e.一部	1		
				種子骨		3		
			哺乳類			77	15.0g	
	c-108-05	サケ科	歯			2		
				シカ	中手・中足骨	fr.	1	
				種子骨		1		
			哺乳類			244	54.9g	
	c-108-07		哺乳類			12	0.4g	
	c-108-16		哺乳類			13	2.4g	
	(II B-3)							
c-108-17		哺乳類			7	1.5g		
c-108-18		哺乳類			39	2.5g		
c-108-23		哺乳類			17	4.2g	風化著しい	
c-108-24		哺乳類			1	0.1g		
	(II B-5)							
c-108-25		哺乳類			21	1.6g		
c-108-27		哺乳類			1	0.1g		
	(II B-2)							
d-108-95	シカ	中手・中足骨		d.e.滑車一部	1			
	(II B-3)	哺乳類			13	3.7g		
s-1		哺乳類			36	1.3g		
	(覆土)							

まとめ

以上、柏木川式期からレンガ台、北筒式期にいたる美沢15遺跡の集落から検出された動物遺存体を報告してきた。各時期、あるいは遺構ごとの分析は、覆土出土の遺物が多いことから適切ではない。しかし、これらの時期をとおして美沢15遺跡の集落の生業活動の一端を考えてみるならば、そこには明らかに内陸河川および後背する平野部、山地に大きく依存した形態がみてとれる。鹹水産資源の利用を示す痕跡はほとんどみられない。集落そのものの性格も考慮されなければならないが、石狩低地内陸部における生業活動の把握に向けての重要な資料というべきであろう。その意味から、今後とも内陸部に立地する遺跡におけるこの種の資料の蓄積は大きな意味をもってくる。

参考・引用文献

- 阿部 宗明 1981 『原色魚類検索図鑑』 9版 北隆館
小田島 賢 1987 『北海道の野生動物』 2版 北海道新聞社
関口晃一ほか 1974 『アニマルライフ 動物分類表』 No.152
長澤和也・島澤 雅編 1991 『漁業生物図鑑 北のさかなたち』 北日本海洋センター
中村 守純 1982 『原色淡水魚類検索図鑑』 7版 北隆館
林 壽郎 1982 『動物 II』 『標準原色図鑑全集』 20 19刷 保育社

付篇 2 美沢15遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析

京都大学原子炉実験所 薬科 哲男・東村 武信

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行っている^{1,2,3)}。

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができ、かつ、試料調整が単純、測定の手続きも簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。

今回分析を行なった試料は、北海道苫小牧市美沢185に位置する美沢15遺跡出土の縄文時代中期末の10個の黒曜石製遺物で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊状試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/k、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると表1に示すように96個の原石群に分かれる。

ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また辺留加峠の北東方向約1.5kmに位置する白土沢などより転搬として黒曜石が採取できる。この露頭からの黒曜石原石は白滝第一群にまともり、白土沢の転搬は梨肌で白滝第二群にまともる。幌加沢よりの転搬には梨肌のものはなく、元素組成で区別すると70%は幌加沢群にまともり、この群は白滝第二群と組成が似ていて両群を区別できなく、残りの30%は白滝第一群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成は置戸群にまともる。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取

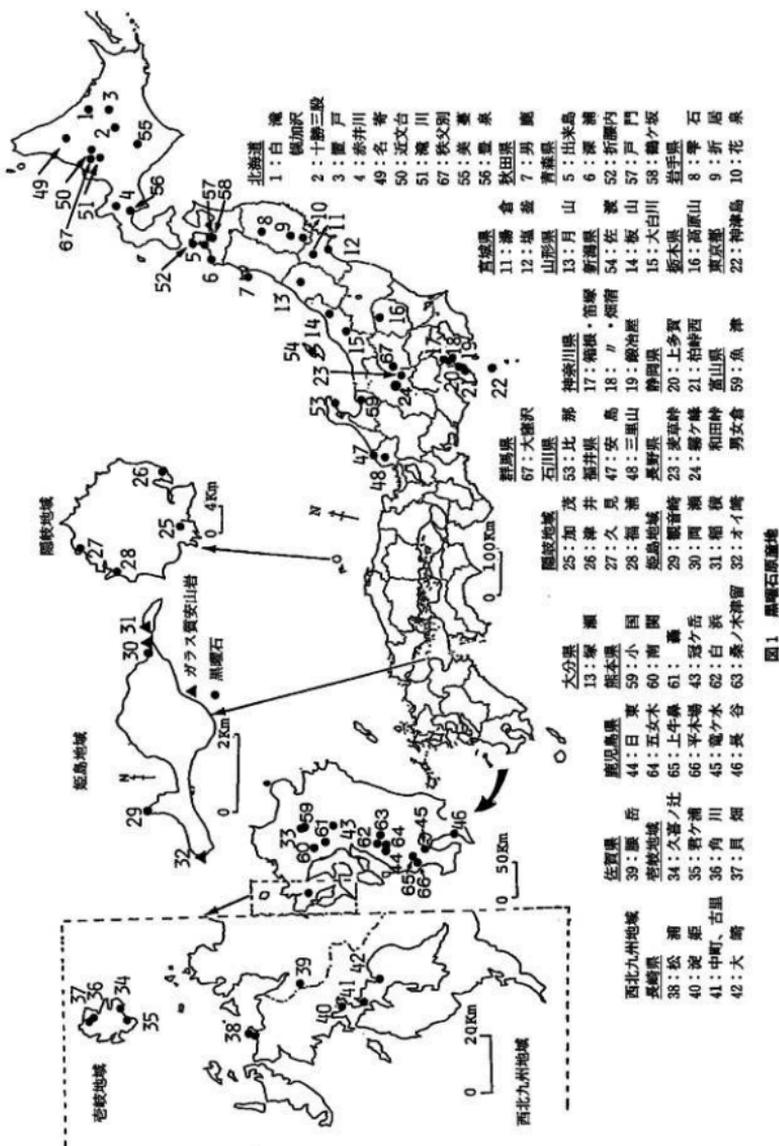


図1 黒曜石原産地

表1-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値 (X̄) と標準偏差値 (σ)

原産地	産地名	分析回数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
			$\bar{X} \pm \sigma$										
北海道	名寄第一	114	0.478±0.011	0.121±0.006	0.035±0.007	1.011±0.063	0.514±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.431±0.030	
		12	0.315±0.011	0.136±0.003	0.023±0.005	1.796±0.070	0.692±0.043	0.764±0.017	0.203±0.018	0.039±0.030	0.029±0.002	0.411±0.030	
	白滝第一	130	0.173±0.014	0.051±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.036	0.028±0.002	0.374±0.019	
		25	0.139±0.009	0.053±0.001	0.069±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.164±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.007±0.002	0.306±0.007	
	磯田第一	27	0.138±0.004	0.051±0.002	0.102±0.015	3.649±0.181	1.855±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.308±0.005	
		20	0.813±0.013	0.165±0.006	0.061±0.010	3.266±0.117	0.694±0.031	0.341±0.030	0.165±0.020	0.209±0.016	0.029±0.002	0.457±0.028	
	近文台第一	107	0.517±0.011	0.069±0.005	0.067±0.009	2.773±0.097	0.812±0.037	0.518±0.034	0.197±0.024	0.341±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009	
		17	0.514±0.012	0.068±0.005	0.065±0.014	2.785±0.126	0.814±0.030	0.515±0.042	0.199±0.039	0.370±0.008	0.034±0.002	0.443±0.011	
	狭文宮第一	51	0.149±0.017	0.122±0.005	0.078±0.011	1.614±0.098	0.996±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.323±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013	
		25	0.506±0.016	0.076±0.005	0.079±0.011	2.759±0.099	0.895±0.042	0.866±0.032	0.197±0.025	0.327±0.016	0.027±0.003	0.371±0.018	
	高川第一	31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.089	1.107±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.308±0.018	0.025±0.003	0.379±0.023	
		15	0.519±0.015	0.068±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.512±0.019	0.192±0.026	0.322±0.023	0.028±0.004	0.393±0.011	
	鹿戸	66	0.206±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.082	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.344±0.020	0.030±0.002	0.412±0.018	
		60	0.206±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.056	0.434±0.023	0.334±0.029	0.304±0.025	0.029±0.003	0.353±0.013	
	渡瀬第一	41	0.409±0.020	0.124±0.007	0.022±0.010	2.635±0.181	0.802±0.041	0.707±0.044	0.199±0.029	0.309±0.028	0.023±0.002	0.442±0.015	
		28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.025	0.308±0.022	0.024±0.002	0.448±0.029	
	赤井川	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.066±0.010	2.213±0.104	0.989±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.308±0.023	0.027±0.002	0.371±0.029	
		75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.069±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.507±0.028	0.157±0.020	0.325±0.017	0.032±0.002	0.409±0.013	
	青森県	新野内	35	0.390±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.675±0.096	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.075±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
			27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.166±0.036	0.399±0.038	0.179±0.011	0.038±0.003	0.409±0.013
出雲島		36	0.909±0.008	0.071±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.607±0.003	0.064±0.007	0.025±0.004	0.028±0.002	0.379±0.010	
		28	0.259±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.258±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.005	0.076±0.026	0.026±0.002	0.362±0.015	
戸門第一		28	0.864±0.026	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.602±0.003	0.069±0.010	0.033±0.025	0.025±0.002	0.399±0.007	
		33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.222±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.061±0.060	0.300±0.029	0.160±0.016	0.027±0.002	0.464±0.018	
秋田県		雄物	43	0.289±0.017	0.067±0.004	0.223±0.015	1.637±0.072	1.512±0.062	0.529±0.054	0.207±0.042	0.125±0.011	0.027±0.002	0.385±0.008
岩手県	摩石	25	0.626±0.013	0.187±0.012	0.032±0.007	1.764±0.061	0.365±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.536±0.014	
		22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.082	0.366±0.053	0.421±0.015	0.228±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.534±0.055	
	花巻	38	0.526±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.429±0.025	0.209±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030	
宮城県	鶴ヶ島	21	2.178±0.068	0.349±0.017	0.052±0.006	2.544±0.149	0.118±0.009	0.628±0.024	0.138±0.015	0.039±0.013	0.073±0.003	0.958±0.040	
	塩釜	27	4.828±0.295	1.638±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.023	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.729±0.032	
山形県	月山	44	0.285±0.021	0.122±0.007	0.182±0.016	1.966±0.096	0.968±0.069	1.022±0.017	0.276±0.026	0.119±0.023	0.028±0.002	0.443±0.014	
新潟県	佐渡第一	34	0.228±0.013	0.079±0.006	0.030±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.298±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013	
		12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.050±0.006	1.581±0.083	0.717±0.106	0.356±0.029	0.101±0.022	0.046±0.015	0.030±0.002	0.320±0.030	
	飯山	44	0.232±0.011	0.088±0.003	0.149±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.024	0.027±0.002	0.359±0.009	
		22	0.569±0.022	0.142±0.007	0.033±0.005	1.688±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.026±0.003	0.491±0.014	
栃木県	高野山	40	0.728±0.057	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.026±0.002	0.516±0.012	
	東武野	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.162±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.038±0.003	0.504±0.012	
神奈川県	横浜・青草	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.089	0.615±0.039	0.656±0.056	0.303±0.034	0.107±0.026	0.023±0.002	0.471±0.009	
		30	0.780±0.204	0.210±0.007	0.228±0.019	0.282±0.029	0.948±0.017	1.757±0.061	0.282±0.017	0.305±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046	
	鎌倉	41	2.056±0.164	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.082±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.311±0.010	0.080±0.005	1.126±0.021	
静岡県	御油	31	1.083±0.071	0.281±0.013	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.311±0.009	0.047±0.003	0.964±0.020	
	上野原	31	1.229±0.076	0.294±0.018	0.041±0.005	1.697±0.060	0.087±0.009	0.551±0.025	0.138±0.011	0.310±0.009	0.029±0.004	0.856±0.018	
富山県	妙高	25	1.212±0.104	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.089±0.009	0.047±0.004	0.653±0.030	
	黒部	12	0.279±0.013	0.065±0.004	0.054±0.008	2.084±0.095	0.596±0.057	0.641±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009	
石川県	比呂	17	0.379±0.014	0.097±0.004	0.069±0.009	2.099±0.167	0.630±0.028	0.534±0.023	0.172±0.009	0.052±0.018	0.022±0.002	0.366±0.017	
	井筒	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.008	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010	
福井県	安島	21	0.539±0.028	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.606±0.031	0.798±0.030	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008	
	三夏山	21											

表1-2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比平均値 (X̄) と標準偏差値 (σ)

原産地	原産地名	分析標本数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/Zr	Si/K	
			X̄±σ										
群馬県	大泉沢	42	1.68±0.117	0.66±0.021	0.02±0.006	2.95±0.135	0.16±0.011	0.81±0.044	0.15±0.019	0.69±0.039	0.63±0.035	0.69±0.017	
		171	0.128±0.009	0.06±0.003	0.30±0.011	1.39±0.067	1.89±0.067	0.369±0.023	0.275±0.030	0.13±0.023	0.69±0.002	0.36±0.016	
		143	0.167±0.028	0.06±0.020	0.17±0.011	1.36±0.085	1.83±0.124	0.11±0.056	0.429±0.046	0.139±0.026	0.62±0.002	0.35±0.013	
		# 第二	17	0.146±0.048	0.02±0.028	0.151±0.019	1.46±0.029	2.449±0.135	0.676±0.032	0.517±0.044	0.196±0.025	0.67±0.002	0.368±0.007
		# 第三	42	0.348±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.162	1.673±0.149	0.27±0.104	0.374±0.046	0.122±0.024	0.65±0.002	0.348±0.017
		# 第四	37	0.144±0.017	0.06±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.236±0.020	0.363±0.028	0.090±0.022	0.62±0.002	0.31±0.015
		# 第五	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1.392±0.086	1.653±0.136	0.375±0.058	0.184±0.043	0.066±0.023	0.61±0.002	0.366±0.013
		# 第六	53	0.156±0.011	0.055±0.005	0.095±0.012	1.333±0.064	1.523±0.093	0.136±0.021	0.279±0.039	0.018±0.017	0.61±0.002	0.366±0.010
		西山・和田	55	0.132±0.004	0.042±0.002	0.123±0.019	1.359±0.041	1.978±0.067	0.046±0.018	0.442±0.029	0.142±0.022	0.66±0.002	0.366±0.010
		男女倉	119	0.223±0.025	0.162±0.019	0.069±0.008	1.169±0.061	0.701±0.139	0.489±0.052	0.138±0.024	0.053±0.017	0.69±0.002	0.354±0.008
		茨城	68	0.263±0.020	0.138±0.011	0.049±0.008	1.453±0.069	0.532±0.048	0.764±0.021	0.381±0.031	0.064±0.016	0.69±0.002	0.401±0.017
		島根県	加茂	29	0.154±0.008	0.06±0.003	0.018±0.003	0.947±0.029	0.399±0.036	0.066±0.003	0.047±0.010	0.114±0.015	0.62±0.002
津井	30			0.150±0.008	0.100±0.003	0.015±0.002	0.919±0.033	0.396±0.030	0.613±0.003	0.046±0.013	0.132±0.007	0.62±0.002	0.258±0.005
久美	31			0.142±0.004	0.061±0.002	0.029±0.003	0.911±0.046	0.398±0.013	0.091±0.020	0.092±0.015	0.229±0.010	0.62±0.002	0.317±0.009
大分	41			0.216±0.017	0.06±0.003	0.428±0.057	0.897±0.036	1.029±0.220	1.157±0.180	0.202±0.038	0.622±0.009	0.61±0.002	0.418±0.011
阿蘇第一	33			0.221±0.021	0.045±0.003	0.439±0.051	1.248±0.050	1.917±0.134	1.688±0.173	0.355±0.037	0.669±0.305	0.61±0.002	0.419±0.009
# 第二	32			0.624±0.047	0.140±0.013	0.154±0.026	4.399±0.232	6.614±0.077	7.182±0.129	0.144±0.021	0.240±0.041	0.68±0.002	0.453±0.011
# 第三	10			1.033±0.100	0.211±0.028	0.126±0.016	3.491±0.231	3.386±0.067	4.686±0.147	0.149±0.010	0.139±0.028	0.66±0.004	0.471±0.017
# オイ	29			1.074±0.110	0.234±0.024	0.122±0.012	2.469±0.201	0.396±0.048	4.618±0.137	0.161±0.022	0.133±0.025	0.66±0.003	0.469±0.014
# 鶴	25			0.653±0.065	0.141±0.016	0.189±0.020	4.388±0.425	6.665±0.956	7.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.67±0.002	0.448±0.015
輝	30			0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.690±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.182±0.020	0.62±0.002	0.371±0.009
佐賀	28			0.214±0.015	0.079±0.001	0.076±0.012	2.694±0.130	1.686±0.085	4.441±0.028	0.203±0.029	0.257±0.029	0.62±0.002	0.356±0.008
長崎県	久喜ノ辻			37	0.165±0.012	0.066±0.002	0.034±0.003	1.197±0.039	0.403±0.012	0.995±0.004	0.114±0.012	0.206±0.008	0.64±0.002
		達	26	0.161±0.011	0.064±0.002	0.034±0.003	1.209±0.032	0.405±0.008	0.980±0.004	0.119±0.016	0.202±0.010	0.65±0.002	0.294±0.006
		角川	29	0.138±0.010	0.027±0.002	0.056±0.007	1.741±0.083	1.889±0.076	0.612±0.012	0.363±0.038	0.682±0.008	0.62±0.002	0.358±0.010
		萩第一	25	0.216±0.010	0.029±0.002	0.085±0.013	2.692±0.125	1.674±0.064	4.939±0.027	0.284±0.047	0.266±0.028	0.67±0.002	0.359±0.012
		# 第二	17	0.176±0.016	0.030±0.004	0.062±0.022	2.364±0.209	1.607±0.245	0.300±0.074	0.277±0.056	0.019±0.005	0.66±0.002	0.361±0.010
		# 第三	16	0.245±0.019	0.060±0.005	0.045±0.012	1.975±0.230	0.718±0.039	0.421±0.081	0.120±0.039	0.145±0.023	0.65±0.002	0.358±0.013
		# 第四	22	0.207±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.908±0.126	0.765±0.074	0.484±0.034	0.115±0.023	0.117±0.018	0.68±0.001	0.367±0.007
		渡船	44	0.202±0.014	0.060±0.003	0.042±0.007	1.804±0.085	0.539±0.022	0.526±0.035	0.077±0.018	0.117±0.014	0.69±0.002	0.344±0.009
		中町第一	25	0.248±0.017	0.050±0.005	0.057±0.007	1.894±0.085	0.822±0.022	0.493±0.026	0.112±0.021	0.152±0.017	0.68±0.002	0.363±0.012
		# 第二	17	0.227±0.020	0.060±0.017	0.045±0.007	1.832±0.074	0.653±0.088	0.498±0.030	0.090±0.030	0.093±0.023	0.67±0.002	0.358±0.012
		古里第一	40	0.192±0.020	0.027±0.003	0.089±0.016	2.689±0.215	1.780±0.154	4.413±0.065	0.312±0.056	0.209±0.046	0.67±0.002	0.358±0.008
		# 第二	22	0.414±0.012	0.073±0.005	0.102±0.015	2.899±0.204	1.221±0.024	1.951±0.124	0.138±0.047	0.163±0.024	0.63±0.002	0.363±0.010
# 第三	19	0.257±0.025	0.042±0.009	0.054±0.009	1.939±0.131	0.812±0.113	0.436±0.032	0.161±0.029	0.145±0.017	0.68±0.002	0.364±0.011		
大崎	25	0.184±0.011	0.051±0.002	0.037±0.006	1.718±0.056	0.948±0.039	0.179±0.018	0.181±0.026	0.137±0.013	0.64±0.002	0.346±0.006		
熊本県	小国	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.614±0.022	0.733±0.044	0.175±0.023	0.097±0.017	0.62±0.002	0.326±0.010	
		30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.023	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.008	0.61±0.002	0.243±0.008	
		44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.079	0.329±0.017	0.275±0.019	0.066±0.011	0.033±0.009	0.60±0.002	0.243±0.009	
		阿ヶ岳	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.62±0.002	0.271±0.009
		白ノ木津	40	0.197±0.020	0.104±0.006	0.025±0.006	1.485±0.073	1.648±0.067	0.348±0.028	0.163±0.023	0.033±0.017	0.619±0.001	0.273±0.007
		# 第一	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	0.899±0.048	0.418±0.020	0.268±0.024	0.083±0.024	0.62±0.002	0.314±0.011
# 第二	37	0.251±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.085	1.242±0.069	0.732±0.039	0.225±0.029	0.049±0.026	0.62±0.002	0.322±0.013		
鹿児島	出水(旧)	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.426±0.025	0.129±0.018	0.087±0.013	0.619±0.001	0.275±0.006	
		五女大	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.005	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.082±0.013	0.619±0.001	0.275±0.006
		上午島	41	1.629±0.098	0.884±0.027	0.057±0.005	3.542±0.215	0.188±0.013	0.115±0.056	0.067±0.020	0.022±0.009	0.636±0.002	0.391±0.011
		平水場	34	1.944±0.054	0.912±0.029	0.042±0.005	3.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.603±0.010	0.021±0.010	0.638±0.001	0.466±0.010
		鏡ヶ水	38	0.314±0.032	0.167±0.006	0.063±0.009	1.524±0.079	0.619±0.038	0.719±0.054	0.115±0.019	0.082±0.016	0.627±0.002	0.323±0.012
		長谷	39	0.553±0.032	0.137±0.006	0.055±0.010	1.815±0.082	0.644±0.028	0.543±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.637±0.003	0.324±0.012
JG-1*	127	0.755±0.019	0.382±0.005	0.076±0.011	3.799±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.155±0.017	0.618±0.002	0.342±0.004		

* : ガラス質安山岩 a) : Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochimical Journal, 8, 175-192.

され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三ノ沢から音更川さらには十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から2個の美瑛原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江部乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川増本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下ろす丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原料として良質とはいえないものが多く、稀に球果の見られない、またあっても非常に少ない握り拳半分大の良質な原石が少数みられた。これら原石の元素組成は赤井川群にまとまる。豊泉産原石は豊浦町から産出し使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。

出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鮎ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。深浦群は青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で作られた群である。深浦群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群は赤井川産原石と弁別は可能であるが両産地の原石の組成は比較的似ている。戸門産黒曜石の産出量は非常に少なく、また大きさも石縁が作れる程度である。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗いするだけで完全な非破壊分析が可能であるとえられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かず産地分析を行なった場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した美沢15遺跡の黒曜石製石器の分析結果を表2に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。

表2 美沢15遺跡出土の黒曜石製遺物分析結果

試料 番号	元 素 比										
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
38552	.260	.069	.084	2.009	.932	.446	.321	.047	.019	.287	
38553	.260	.073	.079	2.104	1.014	.456	.280	.064	.017	.287	
38554	.261	.074	.083	2.107	1.021	.473	.221	.073	.018	.283	
38555	.257	.071	.081	2.171	1.017	.452	.300	.058	.016	.278	
38556	.252	.073	.090	2.192	.983	.418	.279	.048	.019	.282	
38557	.245	.073	.078	2.250	1.005	.444	.236	.032	.020	.280	
38558	.263	.073	.071	2.197	.974	.437	.241	.044	.017	.273	
38559	.260	.070	.078	2.116	.988	.424	.262	.036	.018	.282	
38560	.259	.072	.058	2.135	.988	.419	.258	.018	.019	.290	
38561	.263	.072	.098	2.340	.934	.445	.223	.000	.019	.283	

分析番号38552番を例にして説明すると、説明を簡単にするためRb/Zrの一変数だけを考慮して遺物のRb/Zrの値が0.932であったとすると、赤井川群の[平均値]±[標準偏差値]は、 0.969 ± 0.060 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.6σ 離れている。ところで赤井川群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.6\sigma$ のずれより大きいものが54個ある。すなわち、この遺物が、赤井川群の原石から作られていたと仮定しても、 0.6σ 以上離れる確率は54%であると言える。だから、赤井川群の平均値から 0.6σ しか離れていないときには、この遺物が赤井川群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を白滝第一群と比較すると、平均値からの隔たりは、約 6σ である。これを確率の言葉で表現すると、白滝第一群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 6σ 以上離れている確率は、100万分の1であると言える。このように、100万個に1個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、白滝産原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤井川群に54%、白滝第一群に1万分の1%の確率でそれぞれ帰属される」。各遺物の遺物について、この判断を表1のすべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原産地を消していくと残るのは、赤井川群の原産地だけとなり、赤井川産地の石材が使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一の変数だけでなく、前述した8ヶの変数で取り扱うので変数間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量が少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変数統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁴⁹⁾。

美沢15遺跡より出土した黒曜石製石器の産地推定の結果を表3に示す。原産地は確率の高い産地のものだけを選んで記した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のパラッキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったとき、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D²の値を記した。この遺物については、記入された

表3 美沢15遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地推定結果(北海道苫小牧市美沢185)

分析 番号	試料 番号	遺物 出土区 層位	時代(伴出土器)	原 石 産 地 (確率)	判 定	遺物品名 (備考)
38552	1	IIH-1 床直上	縄文時代中期末 (北簡式)	赤井川(3%), 戸門第1群(3%)	赤井川	剥片
38553	2	〃 〃	〃	〃 (36%), 十勝三股(14%), 戸門第1群(23%)	〃	〃
38554	3	〃 〃	〃	〃 (6%), 戸門第1群(8%)	〃	〃
38555	4	〃 〃	〃	〃 (51%), 十勝三股(30%), 戸門第1群(33%)	〃	〃
38556	5	〃 〃	〃	〃 (93%), 〃 (3%), 〃 (7%)	〃	〃
38557	6	IIH-13 〃	〃	〃 (61%), 戸門第1群(11%)	〃	〃
38558	7	IIH-14 〃	〃	〃 (62%), 十勝三股(5%), 戸門第1群(5%)	〃	〃
38559	8	〃 〃	〃	〃 (81%), 〃 (5%), 〃 (7%)	〃	〃
38560	9	〃 〃	〃	〃 (9%), 〃 (6%), 〃 (5%)	〃	〃
38561	10	IIH-15 〃	〃	〃 (3%)	〃	〃

D²の値が原石群の中で最も小さなD²値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そのこの原産地と考えてはほぼ間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門地区より産出する黒曜石の組成は、青森県の深浦群に似る戸門第二群と北海道の赤井川および十勝三股群に似る組成の戸門第1群で構成されているために、統計処理により同定される原石群が戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3カ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群(50%)と第2群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。分析した美沢15遺跡の縄文時代中期末の10個は全て高確率で赤井川群に帰属され、戸門第2群に帰属された遺物がないことから、赤井川産原石が使用されていると推定された。

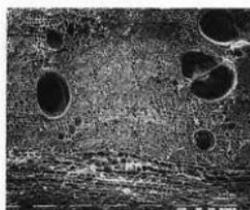
参考文献

- 1) 葛科哲男・東村武信(1975)、蛍光X線分析法によるサマサイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学、8: 61-69
- 2) 葛科哲男・東村武信・藤木義昌(1977)、(1978)、蛍光X線分析法によるサマサイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学、10, 11: 53-81: 33-47
- 3) 葛科哲男・東村武信(1983)、石器原料の産地分析。考古学と自然科学、16: 59-89
- 4) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、9: 77-90
- 5) 東村武信(1990)、考古学と物理化学。学生社

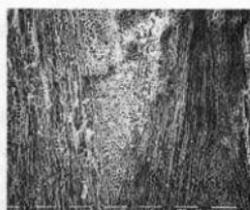
樹種同定 (IIH-5)

IIH-5の床面において出土した炭化材から、保存状態の良いものをサンプルとして5点取り上げ、樹種同定を行なった。結果を以下の表に記す。

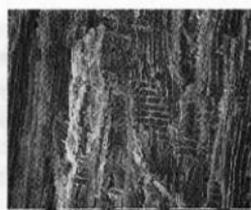
No	広葉樹				針・広葉樹		推定属名	備考
	道管配列	放射組織	放射組織幅	せん孔	らせん肥厚			
1	環	同	1	単	無	クリ		
2	環	同	1・広	単	無	コナラ	チロース	
3	環	同	1	単	無	クリ		
4	環	同	1~4	単	有	ニレ		
5	環	同	1・広	単	無	コナラ		



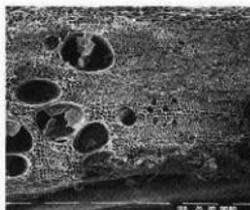
1 コナラ属 木口面×50



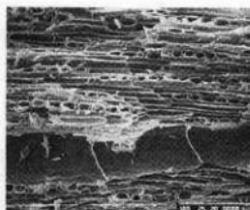
板目面×50



柁目面×100



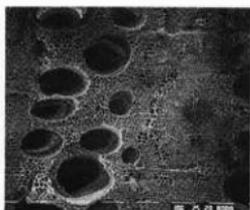
2 クリ属 木口面×80



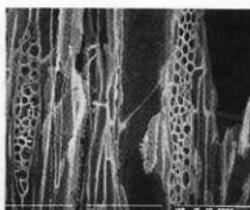
板目面×170



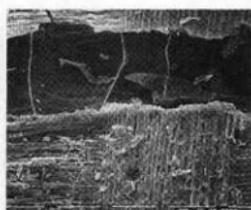
柁目面×100



木口面×50



板目面×170

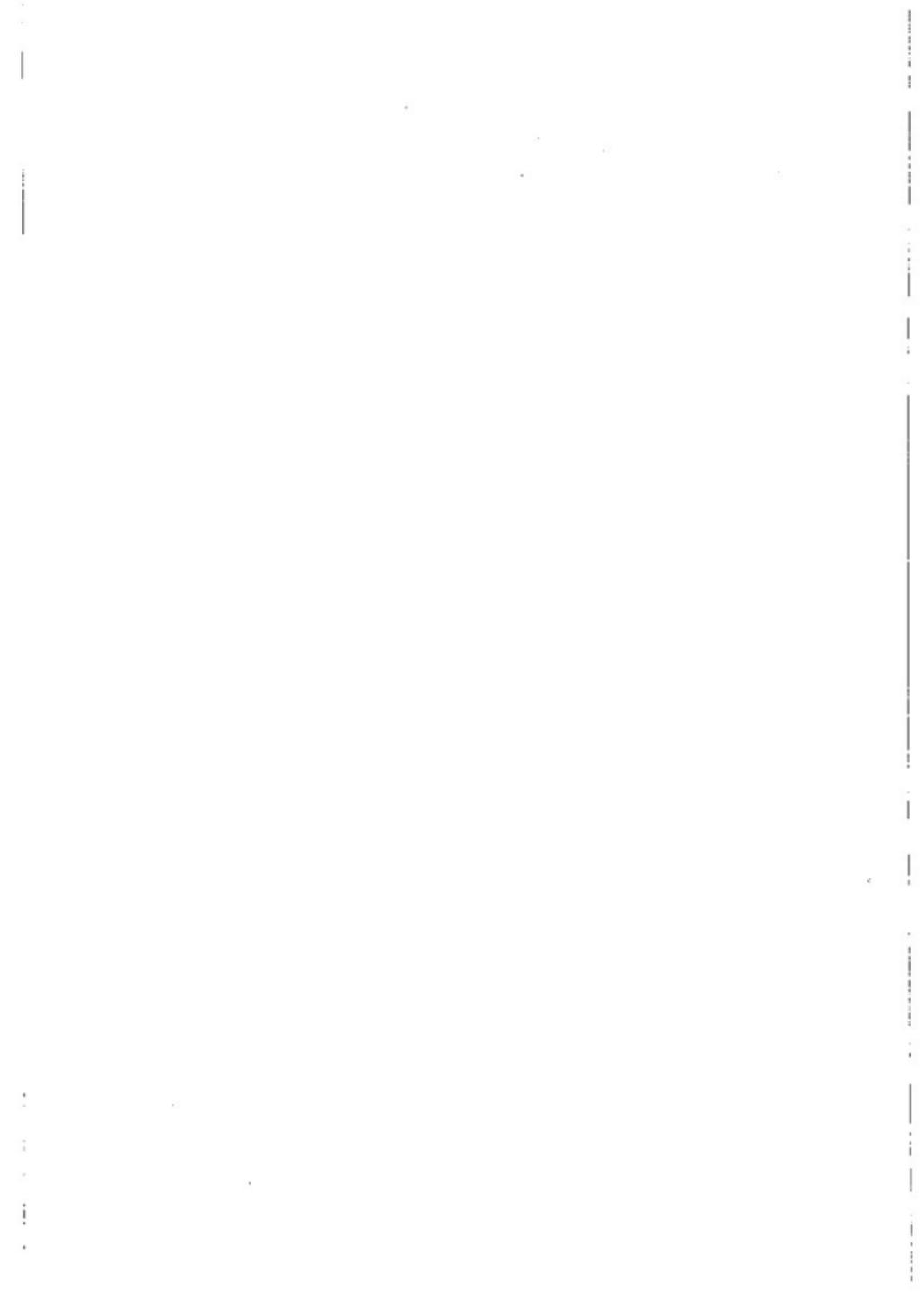


柁目面×100

IIH-5 樹種顕微鏡写真

報告書抄録

ふりがな	ベムケナイがわりあういせいのいせきぐん							
書名	ベンケナイ川流域の遺跡群III 美沢15遺跡							
副書名	新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第95集							
編著者名	佐藤 和雄・田口 尚・越田 雅司・藤井 浩							
編集機関	北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 Tel 011-561-3131							
発行年月日	西暦1995年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東緯	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
みさわじゅうごいせき 美沢15遺跡	みさわじゅうごいせき 苫小牧市美沢 185-4	01213	203	42度 45分 08秒	141度 42分 05秒	1994年 05月06日 ～ 1994年 10月29日	3,600㎡	新千歳空 港建設に 伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
美沢15遺跡	墓	縄文時代	墓墳	縄文式土器 刀子 フレイクチップ 礫				
		アイヌ文化期	墓墳	刀子 礫				
	集落	縄文時代中期 末	竪穴住居跡 38軒 土壇 59基 Tピット 3基 焼土 6箇所	土器 (柏木川、北 筒、レンガ 台) 石器 (石鎌、石槍 つまみ付ナイフ スクレイパー 石斧、砥石、玉 垂飾)		北筒式土器を伴う 大型住居 (長軸13 m) を初めて検出。		



北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第95集
ベンケナイ川流域の遺跡群 III
—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成7年3月24日 発行

編集 財団法人北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

TEL (011) 561-3131

印刷 三陽印刷株式会社

〒063 札幌市西区西町北15丁目1番12号

TEL (011) 661-2311

